

涌谷町文化財調査報告書第6集

# ツナギの沢貝塚

～県道河南築館線道路改良工事に係る

ツナギの沢貝塚発掘調査報告～

平成 16 年 3 月

涌谷町教育委員会  
宮城県古川土木事務所

涌谷町文化財調査報告書第6集

# ツナギの沢貝塚

～県道河南築館線道路改良工事に係る

ツナギの沢貝塚発掘調査報告～

平成 16 年 3 月

涌谷町教育委員会  
宮城県古川土木事務所



調査区近景(一番奥の丘陵部が長根丘陵)



竪穴住居跡検出状況(SI-07～SI-11)

## 序 文

21世紀を迎え、情報技術の進展に伴い、情報の多元化が及ぼす社会の変動はめざましく、私たちの生活や環境も日々変化しています。

こうした中、文化財は、連綿と続く地域の歴史の中で残されてきたものとして、その文化財の所在する地域の歴史を語る確固たる証であり、今後の地域づくりの指標の1つともなりうるものです。

涌谷町にはこのような文化財が数多く残されており、原始・古代より、豊かな自然と長い伝統の中で培われてきた先人達の文化・生活の営みの証しとして受けとめ、次代へと引き継いでゆくべく、適切な保護と活用に努めているところであります。

本書は、県道河南築館線道路改良工事に伴い宮城県古川土木事務所から委託をうけ実施しました、小里地区に所在するツナギの沢貝塚についての発掘調査報告書です。近隣には、国史跡である長根貝塚や中沢目貝塚など数多くの同時代の貝塚が分布しており、人々の生活が盛んに営まれていた地域であります。本書が研究者のみならず多くの方々にも広く活用されますと共に、地域の皆様にとっても、より深い地域理解の一助となれば幸いに存じます。

最後に、遺跡調査にあたってご指導・ご協力いただきました宮城県教育庁文化財保護課をはじめ、なにかとご協力を下さいました宮城県古川土木事務所、関係者の皆様方に、心より感謝とお礼を申し上げます。

平成16年3月31日

涌谷町教育委員会

教育長 木村 達夫

# 例 言

1. 本書は、宮城県古川土木事務所が担当する県道河南築館線改良工事に伴うツナギの沢貝塚発掘調査成果をまとめたものである。
2. 本書の編集・執筆は、涌谷町教育委員会生涯学習課の協議のもと、主に福山宗志が編集・執筆し大橋和子・西條延江・野田文正が編集を補佐した。
3. 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の機関・方々に指導・助言を賜りました。記して感謝を申し上げます。(敬称略)  
相原淳一、阿部博志、大友透、加藤道男、須田良平、高橋栄一、藤沼邦彦、三好秀樹、村田晃一、柳澤和明、山田晃弘、東北歴史資料館(博物館)、涌谷町文化財保護委員各位
4. 本遺跡の調査成果は、涌谷町文化財調査報告書第3集、宮城県遺跡調査成果発表会等でその内容の一部を報告しているが、これらと本書の記載内容が異なる場合は、本書が優先する。
5. 本報告書中の土色については、「新版標準土色帳」(小山・竹原：1973)を使用し、肉眼により観察行ったものである。
6. 本書で使用した地図は、以下の地図を複製・改変して使用した。  
図版3：大日本帝國陸地測量部、大正元年測量、大正4年12月28日発行  
図版4：国土地理院発行の1:25,000(承認番号平八、東復第41号)  
図版5：宮城県遠田郡涌谷町図1(1/10,000)昭和46年6月、49年10月補正
7. 石器の材質は、東北大学教授 蟹沢 聰史 氏に鑑定していただいたサンプルをもとに、編集者が肉眼観察したものである。
8. 本報告書における遺構・遺物のトレースは、実測図面をスキャナーでデジタル画像として取り込み、それを下図としてドロー系ソフトウェアを用いてトレースしたものである。
9. 図中・本文中使用の方位北(N)は、すべて真北である。
10. 観察表内における法量で使用する( )は推定、△は残存範囲の計測、-は破損などにより計測できなかったものを表す。又、数量は基本的にcm単位、g単位である。
11. 調査の測量は、調査1区内の任意の基準点1( $X=-156691.757\text{km}$ ・ $Y=+26881.101\text{km}$ )、基準点2( $X=-156679.268\text{km}$ ・ $Y=+26851.302\text{km}$ )を結ぶ直線を基準とした平面直角座標によって位置関係を記録した。この東西軸に直交する南北軸は国家座標第X系に対して約 $30^\circ$  東に偏している。
12. 本調査の諸記録・出土遺物等の調査資料は、涌谷町教育委員会が一括して保管している。
13. 遺構実測図および遺物実測図の用例は、右記のとおり  
である。その他遺構分布図などにおいては、適宜カラーを使用した。また、遺物のアスファルト痕跡等については、図版中で示している。図版の縮尺については各図版内で明記している。

遺構図版内での用例	遺物図版内での用例
 石・礎石	 礎石
 無土面	
 経緯や読み間違いなど	
 柱礎跡	

# 本文目次

第1章 調査に至る経緯と調査要領 .....	1
1. 調査にいたる経緯 .....	1
2. 調査要領 .....	2
第2章 遺跡の位置と環境 .....	3
1. 遺跡の立地と地理的環境 .....	3
2. 歴史的環境 .....	9
第3章 ツナギの沢貝塚と調査区域 .....	12
1. ツナギの沢貝塚について .....	12
2. 調査対象区域のようす .....	13
第4章 野外調査の方法と経過 .....	14
1. 第一次調査の方法と経過 .....	14
2. 第二次調査の方法と経過 .....	15
3. 第三次調査の方法と経過 .....	16
第5章 調査の成果 .....	17
1. 調査区内の状況と基本層序 .....	17
2. 発見した遺構と遺物 .....	23
竪穴住居跡 .....	24
土壇 .....	49
PIT .....	65
炉 .....	68
その他の遺構 .....	70
遺物包含層 .....	74
土器 .....	80
焼土出土遺物 .....	120
土製品 .....	122
石器・石製品 .....	129
第6章 考察 .....	144
1. 遺物について .....	144
2. 遺構について .....	152
第7章 まとめ .....	155

# 挿 図 目 次

第1図	涌谷町の位置	3	第43図	遺物包含層1層分布図	81
第2図	涌谷町の地形分類図と 縄文時代の遺跡分布	4	第44図	遺物包含層1層出土土器1	82
第3図	鹿飼沼のようす	5	第45図	遺物包含層1層出土土器2	83
第4図	ツナギの沢貝塚周辺の遺跡	7	第46図	遺物包含層1層出土土器3	84
第5図	調査対象区域	12	第47図	遺物包含層1層出土土器4	85
第6図	調査区域図	13	第48図	遺物包含層1層出土土器5	86
第7図	調査対象区域図1	18	第49図	遺物包含層1層出土土器6	87
第8図	調査対象区域図2	19	第50図	遺物包含層1層出土土器7	88
第9図	基本層序模式図	20	第51図	遺物包含層1層出土土器8	89
第10図	遺構配置図	21	第52図	遺物包含層2層分布図	90
第11図	SI-01と出土遺物	25	第53図	遺物包含層2層出土土器1	93
第12図	SI-02と出土遺物	27	第54図	遺物包含層2層出土土器2	94
第13図	SI-03と出土遺物	29	第55図	遺物包含層2層出土土器3	95
第14図	SI-04と出土遺物	31	第56図	遺物包含層2層出土土器4	96
第15図	SI-05と出土遺物	33	第57図	遺物包含層2層出土土器5	97
第16図	SI-06と出土遺物	35	第58図	遺物包含層2層出土土器6	98
第17図	SI-07と出土遺物	37	第59図	遺物包含層2層出土土器7	99
第18図	SI-08と出土遺物	39	第60図	遺物包含層3層分布図	100
第19図	SI-09,SI-10	42	第61図	遺物包含層3層出土土器1	103
第20図	SI-09,SI-10出土遺物	43	第62図	遺物包含層3層出土土器2	104
第21図	SI-11	44	第63図	遺物包含層3層出土土器3	105
第22図	SI-12と出土遺物	46	第64図	遺物包含層3層出土土器4	106
第23図	SI-13と出土遺物	48	第65図	遺物包含層3層出土土器5	107
第24図	SK-01,02,03	49	第66図	遺物包含層3層出土土器6	108
第25図	SK-04,05,06	50	第67図	遺物包含層3層出土土器7	109
第26図	SK-07,08と出土遺物	52	第68図	遺物包含層3層出土土器8	110
第27図	SK-09,10,11	53	第69図	遺物包含層3層出土土器9	111
第28図	SK-12,13,14と出土遺物	55	第70図	遺物包含層3層出土土器10	112
第29図	SK-12,13出土遺物	56	第71図	遺物包含層3層出土土器11	113
第30図	SK-15,16と出土遺物	58	第72図	遺物包含層3層出土土器12	114
第31図	SK-17,18と出土遺物	59	第73図	遺物包含層3層出土土器13	115
第32図	SK-19,20と出土遺物	60	第74図	遺物包含層4層出土土器1	117
第33図	SK-21,22と出土遺物	62	第75図	遺物包含層4層出土土器2	118
第34図	SK-23,24,25と出土遺物	63	第76図	遺物包含層4層出土土器3	119
第35図	SK-26と出土遺物	64	第77図	遺物包含層内焼土出土遺物	121
第36図	PIT66と出土遺物	66	第78図	遺物包含層出土土製品1	123
第37図	PIT出土遺物	67	第79図	遺物包含層出土土製品2	124
第38図	石囲炉と出土遺物	69	第80図	遺物包含層出土土製品3	125
第39図	SX-01と出土遺物	71	第81図	遺物包含層出土土製品4	126
第40図	SX-02,03と出土遺物	73	第82図	遺物包含層出土土製品5	128
第41図	遺物包含層と石囲炉分布図	75	第83図	遺物包含層出土石器・石製品1	132
第42図	遺物包含層セクション図	77	第84図	遺物包含層出土石器・石製品2	133
			第85図	遺物包含層出土石器・石製品3	134

第86図	遺物包含層出土石器・石製品4	135	第91図	遺物包含層出土石器・石製品9	140
第87図	遺物包含層出土石器・石製品5	136	第92図	遺物包含層出土石器・石製品10	141
第88図	遺物包含層出土石器・石製品6	137	第93図	遺物包含層出土石器・石製品11	142
第89図	遺物包含層出土石器・石製品7	138	第94図	遺物包含層出土石器・石製品12	143
第90図	遺物包含層出土石器・石製品8	139			

## 挿 表 目 次

第1表	遺跡地名表	8
第2表	出土遺物数量表	23
第3表	検出層位別PIT一覧	65
第4表	遺物包含層セクション観察表	79
第5表	遺物包含層焼上検出状況	120
第6表	円盤状土製品出土集計表	127
	遺物包含層出土遺物観察表(土器)	158
	遺物包含層出土遺物観察表(土製品)	169
	遺物包含層出土遺物観察表(円盤状土製品)	170
	遺物包含層出土遺物観察表(石器・石製品)	171

## 写 真 目 次

巻頭写真	調査区近景	写真22	SI-13セクション状況	写真40	SX-03セクション状況
巻頭写真	堅穴住居跡検出状況	写真23	SK-07検出状況	写真41	SX-03セクション状況
写真1	調査区近景	写真24	SK-12,13確認状況	写真42	調査1区遺物包含層確認状況
写真2	住居跡検出状況	写真25	SK-12,13検出状況	写真43	調査2区西地区遺物包含層確認状況
写真3	SI-01,02検出状況	写真26	SK-12遺物出土状況	写真44	遺物包含層SPA-A' 状況
写真4	SI-01セクション状況	写真27	SK-21遺物出土状況	写真45	遺物包含層SPA-A' 状況
写真5	SI-02検出状況	写真28	SK-21セクション状況	写真46	遺物包含層SPB-B' 状況
写真6	SI-02セクション状況	写真29	調査2区中央地区ピット確認状況	写真47	遺物包含層SPC-C' 状況
写真7	SI-03,04検出状況	写真30	調査2区中央地区ピット検出状況	写真48	遺物包含層SPE-E' 状況
写真8	SI-06検出状況	写真31	調査2区東地区ピット等確認状況	写真49	遺物包含層SPG-G' 状況
写真9	SI-06石添炉検出状況	写真32	調査2区東地区ピット等検出状況	写真50	遺物包含層SPH-H' 状況
写真10	SI-06セクション状況	写真33	石囲炉検出状況	写真51	遺物包含層SPM-M' 状況
写真11	SI-05検出状況	写真34	石囲炉検出状況	写真52	遺物包含層遺物出土状況
写真12	SI-07検出状況	写真35	石囲炉セクション状況	写真53	遺物包含層遺物出土状況
写真13	SI-07セクション状況	写真36	SX-01検出状況	写真54	住居跡・土壇出土遺物
写真14	SI-08検出状況	写真37	SX-01セクション状況	写真55	PIT・遺物包含層1層土器
写真15	SI-10,11検出状況	写真38	SX-01焼土面セクション状況	写真56	遺物包含層2層出土土器
写真16	SI-09,10セクション状況	写真39	SX-03検出状況	写真57	遺物包含層3層出土土器
写真17	SI-08,09セクション状況			写真58	遺物包含層3層出土土器
写真18	SI-11検出状況			写真59	遺物包含層4層出土土器
写真19	SI-12検出状況			写真60	遺物包含層出土土製品
写真20	SI-12セクション状況			写真61	遺物包含層出土石製品
写真21	SI-13検出状況				

# 第1章 調査に至る経緯と調査要領

## 1. 調査にいたる経緯

ツナギの沢貝塚は、昭和30年代に行われた興野義一氏の迫川流域の貝塚群の研究(興野：1958)や、涌谷町史の編纂(涌谷町：1965)によって、その存在が広く知られるようになり、縄文時代(中期～晩期)、古代の遺物が散布する遺跡として周知されている。

平成8年度に宮城県古川土木事務所長より、ツナギの沢貝塚内に予定している県道河南築館線道路改良工事計画と文化財とのかわりについての協議書が、涌谷町教育委員会経由で宮城県教育委員会に提出された。その結果、そのままの計画では、遺物包含地域の主体と推定される区域が工事対象区域にかかるため、県文化財保護課、県古川土木事務所、町教育委員会の三者による協議の結果、工事区域をできるだけ包含地域の端に変更していただくこととなった。そして、その変更区域での遺跡の内容を把握するため、遺構確認調査が必要との県教育委員会からの回答を受け、三者による協議の結果、県文化財保護課の協力のもと町教育委員会が遺構確認調査を実施することとなった。

平成8年12月に遺構確認調査を行った結果、調査区西側より多量の遺物(縄文土器、石器等)を含む遺物包含層が検出され、再び、三者により遺跡の取り扱い及び今後の対応について協議を行い、事前調査を県文化財保護課の指導・協力を得ながら、町教育委員会の主体で行うこととなった。

その後、具体的な条件の整備、協議等の打ち合わせを経て、宮城県古川土木事務所の委託業務事業として涌谷町が調査を担当・実施した。

平成9年度に第一次事前調査を実施した所、検出した遺構・包含層が予定した調査区域より広がる事が確認された。そのため、平成12年度に第二次調査を、平成13年度に第二次調査で終了できなかった調査区域について第三次調査を実施し、工事計画区域内の埋蔵文化財包蔵地調査を終了した。

## 2. 調査要領

遺 跡 名 ツナギの沢貝塚(遺跡番号37003)

所 在 地 宮城県遠田郡涌谷町小里字大平地内

調 査 原 因 県道河南築館線道路改良工事に伴う事前調査

調 査 期 間 第一次調査 野外調査 平成9年8月18日～9月30日

室内調査 平成9年10月1日～平成10年3月31日

第二次調査 野外調査 平成12年10月2日～平成12年12月14日

室内調査 平成12年12月15日～平成13年3月19日

第三次調査 野外調査 平成13年7月16日～平成13年9月25日

室内調査 平成13年7月16日～平成14年3月12日

調 査 面 積 調査対象面積 約5,000m<sup>2</sup>

実質調査面積 約2,500m<sup>2</sup>

第一次調査：1,900m<sup>2</sup>、第二次調査：500m<sup>2</sup>、第三次調査：100m<sup>2</sup>

調査指導・協力 宮城県教育庁文化財保護課

第一次調査 佐藤則之、佐藤憲幸、八嶋神明

第二次調査 高橋栄一、引地弘行

調 査 主 体 涌谷町教育委員会

調 査 担 当 涌谷町教育委員会生涯学習課文化財保護係 学芸員 福山宗志

調 査 協 力 (株)吉田産業、仙北測量、第一合成株式会社

野外調査参加者

浅野勝子、青木かつ子、青野圭一、遠藤みつ子、大井千恵子、大友千代子、大友マリ、大沼智恵美、大沼剛、木村サエ子、桜田ツル子、佐々木愛子、佐藤美恵子、佐藤幸代、佐藤良子、鈴木愛子、平忠一、平伸子、平のり子、戸澤功、畑岡初子、堀部和義、練生川寛子、野村貞子、松岡ちや子、松下勝子、松村昇、松本咲子、三神ふみえ

室内調査参加者

青野圭一、大井千恵子、大沼智恵美、菊池美恵子、佐藤幸代、佐藤美恵子、畑岡初子、練生川寛子、練生川敬子、松本咲子

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 1. 遺跡の立地と地理的環境

ツナギの沢貝塚は、宮城県遠田郡涌谷町小里字大平地内に所在し、涌谷町の中央に位置する笈岳山の北麓を国道346号線より、北西約2km程の地点に位置する。

涌谷町は、宮城県北部の奥羽山脈と北上山地の間の低地帯である大崎低地と呼ばれる広い内陸平野の東部に位置し、北は田尻町と米山町、西は田尻町と小牛田町、南は南郷町と河南町、東は桃生町と豊里町に接する。

町城の中央部には、標高236mの笈岳丘陵が位置して北東から西南に連なり、周辺の低地から見ると独立した地塊の様相を呈していて、笈岳山塊とも呼ばれている。丘陵地の基盤は、新第三系・第四系によって構成され、中新世の追戸層と呼ばれる地層からは、凝灰岩の層中に貝類化石が出土することが知られている(涌谷町：1965)。

丘陵の隆起の中心は、東方の笈岳山(涌谷町)と西方の加護坊山(田尻町)を結ぶやや北よりの西北西—東南東を軸としており、背斜構造を形作っている。丘陵北側では、ほぼ直線状の急斜面を作って平野に面しており、ツナギの沢貝塚は、この丘陵のほぼ中央の北斜面端部に位置する。現在、丘陵の大部分は宮城県自然保護地域となり、山林地もしくは放牧地などとして利用されている。

涌谷町付近の水系は、広義の北上川水系に属し、笈岳丘陵の北側には迫川、南側には江合川が流れており、町の西部で旧北上川と合流して南下し石巻湾に注いでいる。

丘陵の南部では、広い湿地と江合川によって形成された自然堤防が分布する。江合川は本来は独立した河川で、笈岳丘陵南部を流路とした後、河南町にあった広瀬沼に注いでから、矢本町を流れる定川となり石巻湾へと注いでいたが、近世に改修されて旧北上川へと流れるようになった(涌谷町：1965)。湿地帯となっている地域は、排水条件が悪く、近代以前には多くの沼が点在していた。特に南東部では、名瀬沼と呼ばれる広大な沼地が形成されていて、江合川と隣接する出来川の河川の氾濫源となっていたが、江戸時代から河川の改良・排水事業が進められ、特に明治時代以降は沼地の干拓・水利事業が積極的に進められた。近世における伊達騒動(寛文事件)の谷地騒動の舞台としても知られている。現在は主に、水田地として利用されている。江合川の周辺にみられる自然堤防上では、両川岸に沿って市街地が形成されており、涌谷町の中心区域となっている。この自然堤防上の集落形成は中世に始まり、近世に入って整備され、現在の形を形成したと考えられる(福山：2002)。現在は、国道バ

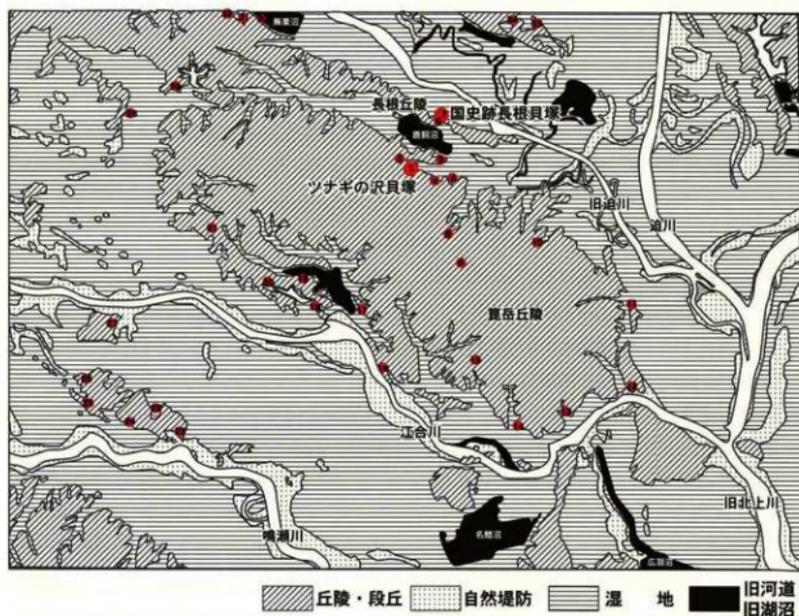


第1図 涌谷町の位置

イバスの開通などにより、主に宅地等の区画整理・造成が進められ、自然堤防上に隣接する低湿地区域にまで集落地が広がってきている。

丘陵の北部でも、近年まで、北上川の支流である旧迫川が、低湿な迫川沿岸平野を著しく曲流して、その周囲に広大な低湿地や沼地を形成していた。この曲流の痕跡は、現在も浦谷町北東部の太田地区などで三日月湖状に沼地が点在しており確認することができる。ツナギの沢貝塚の北側に広がる水田地域も近年まで、鹿飼沼と呼ばれる沼地となっていたことが知られている。またその低湿地の北側には、箕岳丘陵の支丘である大貫台地から伸びた長根丘陵などのごく低い丘陵が東西に分布し、国史跡長根貝塚をはじめとする縄文時代の遺跡の分布があり、現在も長根地区の集落区域となっている。

本地域の地理的な特徴としては、東西に伸び独立した様相を呈する箕岳丘陵とその周囲に広大に広がって河川氾濫原となる低湿地・湖沼環境が大きな特徴としてあげられる。現在の浦谷町域の集落の形成には、こうした河川や低湿地の影響が極めて大きく影響しており、丘陵の縁辺や自然堤防などの微高地は、そのほとんどが市街地もしくは集落地となり、宅地の形成が集中して見られる。



第2図 浦谷町の地形分類図と縄文時代の遺跡分布(宮城県：1987を改変して作成)

寛岳丘陵の周囲で確認されるこれらの沼湖・低湿地帯の形成は、最終的に縄文時代に形成されたと考えられる。松本秀明氏の研究によって、縄文時代の気候温暖化に起因する海水面の上昇に伴って海岸線が陸地へと侵入する縄文海進の海水準変動と、地域の河川が供給する土砂供給量との関わりを通して、宮城県域における沖積平野の形成過程が明らかにされている。(松本：1984、1998、1999)

それによれば、寛岳丘陵周囲においては海水準が-20mとなる約8,500年前頃に海岸線の侵入が始まり、7,800年前頃には海水準-10mで現在の小牛田町牛飼地区付近まで海岸線が侵入して最内陸地点に到達し、7,200年前頃になると河川上流からの土砂供給量が海水準上昇速度を上まわり陸地が広がってゆくようになる。海水準-2.5mとなる約6,500年前頃には、さらに陸地が拡大し、石巻平野では現在の石巻西部、矢本町と河南町の一部、鳴瀬川流域では品井沼付近までが海となっていた。(註1)

しかし、このような海岸線の変動の後にも、迫川流域や江合川周辺域は、河床の勾配が緩くて土砂供給量が少なく、さらに排水困難な低地であったため、河川の氾濫原などとして沼湖地や低湿地が形成されたと考えられている。



第3図 鹿飼沼のようす(大正元年測図、部分) Scal=1/50,000

菟岳丘陵周辺における縄文時代の遺跡分布は、そうした背景をもとに立地しており、国史跡長根貝塚(蒲谷町)、国史跡中沢目貝塚(田尻町)、国史跡新山前貝塚(小牛田町)をはじめとして、菟岳丘陵やその支丘の台地の縁辺、低平な丘陵上に貝塚として数多く分布する。

これらの貝塚群は、北上川中・下流域もしくは仙北湖沼地帯の貝塚群などとして位置付けられており、全国でも屈指の貝塚密集地域として、80ヶ所以上の貝塚が集中している地域であるとされている(須藤：1984)。また、これらの貝塚群は水系や湖沼別に小群に分類することができ(藤沼・小井川：1989)、ツナギの沢貝塚が位置する地域は、迫川水系の貝塚群のうち、旧鹿沼川周辺に集中する貝塚群として位置付けられる。

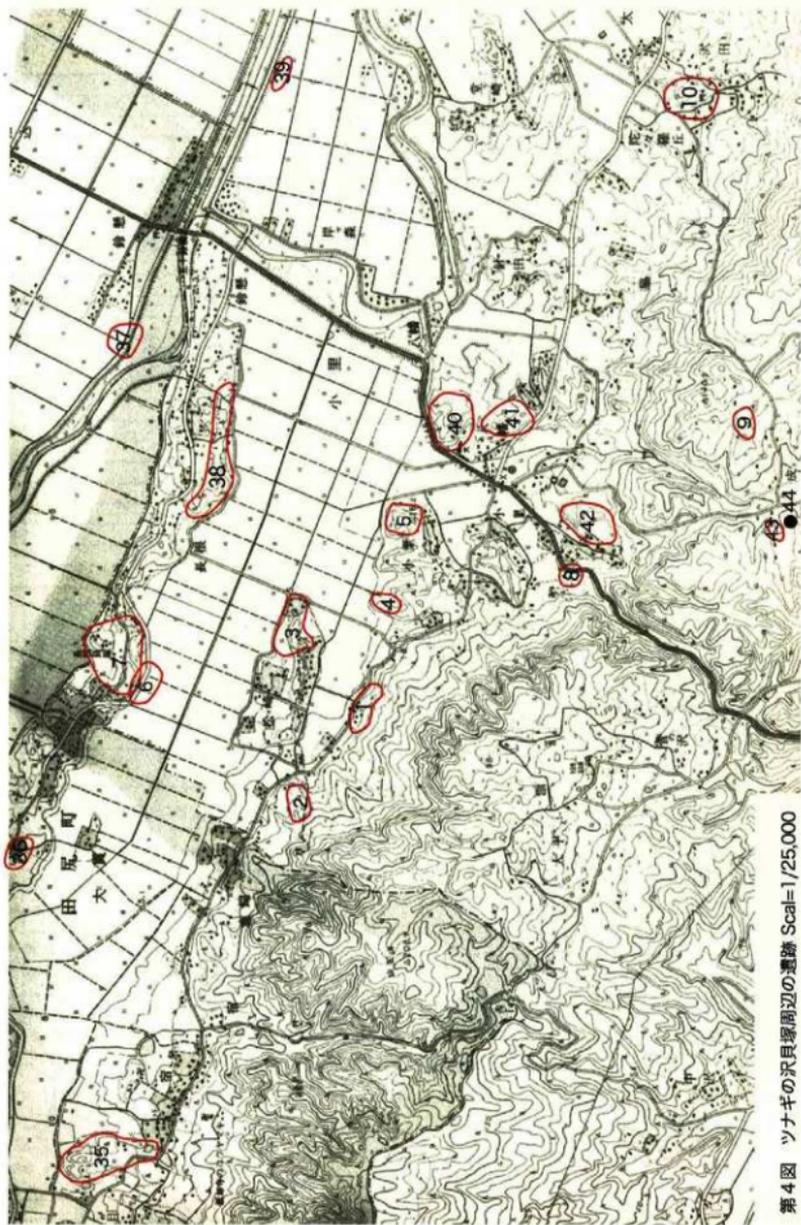
菟岳丘陵北部(迫川流域)では、長根貝塚において早期の貝層がカキ・ハマグリ・アカニシ等の鹹水産で構成され、前期末から中期初頭には、ヤマトシジミが主体となり汽水産の貝層を形成している。縄文時代中～後・晩期には、今回の対象遺跡であるツナギの沢貝塚をはじめとして、長根貝塚、中沢目貝塚、大天馬貝塚など多数の貝塚の貝層がタニシ、イシガイ、ヌマガイなど淡水産の貝層で構成される(藤沼・小井川：1989)。

菟岳丘陵南部(江合川流域)では、境沢貝塚、貝坂貝塚、笠石貝塚、小牛田町新山前貝塚、素山貝塚など、多数の縄文時代早期～前期の貝塚が形成されており、長根貝塚と同様に貝層が鹹水産貝類で貝塚が構成される(藤沼・小井川：1989)。その後、縄文時代の中～晩期にかけては、小牛田町船入遺跡、牛飼遺跡、峯山遺跡の存在が知られているが、貝塚の形成については特に確認がされておらず、菟岳丘陵南部(江合川流域)での状況は把握されていない。

こうしたことから、縄文時代における菟岳丘陵周辺の貝塚は、縄文時代早期から晩期に至るまで貝塚が形成され続ける長根貝塚を除き、縄文海進を背景とし、主として縄文時代早～前期に鹹水産貝類によって形成された貝塚および集落群と、縄文海退後に生じた湖沼および低湿地地帯を背景として、主として縄文時代後・晩期に淡水産貝類によって形成された貝塚および集落群とに、大きく二分することができ、現在の遺跡分布状況からは、菟岳丘陵南部では前者の分布が、北部では後者の分布が多くなる傾向が伺える。

いずれにしてもこれらの貝塚・集落形成には、本地域の特徴である丘陵地とその周囲に広大に広がる低地帯の環境変化が、その成因として密接に影響を及ぼしていると考えられ、今後、当地域における古環境の変化が、縄文時代の人々の生活環境や集落形成活動をどのように変化させていったのかについて注目される。

註1) 松本：1999によれば、仙台平野の海岸線変動については、海水準-20mは約8,200年前、-10mは約7,500年前、-5mは約6,700年前として位置付けられている。



第4図 ツナギの沢貝塚周辺の遺跡 Scale=1/25,000

番号	遺跡名称	所在地	時代
1	ツナギの沢貝塚	蒲谷町小里字大平	縄文/大木9,10,南境,金剛寺,大洞BC,C1,C2 古代/土師器、須恵器
2	山王沢貝塚	蒲谷町小里字山王沢、大平	縄文/大木9,10,南境,宝ヶ峯,大洞BC,C1,C2,A
3	松崎貝塚	蒲谷町小里字松崎	縄文/大木10,南境,大洞,弥生/折形甕
4	道祖神開貝塚	蒲谷町小里字道祖神開	縄文/大木7,10,大洞A,A'
5	小里表遺跡	蒲谷町小里字表	縄文、古代
6	長根新田遺跡	蒲谷町小里字長根北	縄文/晩期
7	長根貝塚	蒲谷町小里字長根北	縄文/素山,上川名,大木3,4,5,6,7,8,9,10, 宝ヶ峯、金剛寺,大洞A,大泉
8	小里子守開遺跡	蒲谷町小里字小森	縄文、古代
9	成沢金流水遺跡	蒲谷町小里字成沢立場	縄文/大木10,南境,宝ヶ峯,金剛寺,大洞C1,C2, A
10	大天馬貝塚	蒲谷町太田字大天馬・沢田	縄文/金剛寺,大洞B,C1,A'
11	丸山遺跡	蒲谷町猪岡短台字丸山	縄文、弥生,古代
12	御殿場貝塚	蒲谷町猪岡短台字桑畑	縄文/大木1
13	笠石貝塚	蒲谷町猪岡短台字笠石	縄文/早期末~前期初頭・畿羅土器
14	貝坂貝塚(小塚貝塚)	蒲谷町小塚字貝坂	縄文/素山上層,船入島下層,大木1,2b
15	道戸沢A遺跡	蒲谷町小塚字道戸沢	縄文、古代
16	蒲谷塚跡	蒲谷町蒲谷字下町	縄文、中世~近世城跡
17	境沢貝塚	蒲谷町蒲谷字境沢	縄文/船入島下層,上川名,大木1,2a
18	相野沼A遺跡	蒲谷町上郡字長根	縄文、古代
19	相野沼B遺跡	蒲谷町上郡字長根	縄文、古代
20	相野沼貝塚	蒲谷町上郡字相野沼	縄文
21	山合A遺跡	蒲谷町上郡字山合	縄文、古代
22	舟入貝塚	小牛田町北浦字舟入	縄文/後期
23	素山貝塚	小牛田町素山町・桜木町	縄文/素山下層,素山上層
24	山前遺跡	小牛田町北浦字新山前・山下り・清水谷地	縄文/素山上層,大木2a,9
25	新山前貝塚	小牛田町北浦字新山前	縄文/早期
26	形堂遺跡	小牛田町北浦字清水谷地	縄文/大木7
27	牛飼遺跡	小牛田町牛飼清水新西原	縄文/後期
28	上高野遺跡	田尻町酒部字二階堂組	縄文/大木8,9,南境
29	北小塚遺跡	田尻町北小塚字栗生崎	縄文/大木2,大洞BC,C1,A,大泉
30	中沢目貝塚群	田尻町無栗字無野堂	縄文/宝ヶ峯,金剛寺,大洞B,BC,C1,A
31	仲萌中遺跡	田尻町無栗字仲萌中	縄文/南境,宝ヶ峯
32	恵比須田遺跡	田尻町無栗字恵比須田	縄文/船入島下層,大木1,2,3,4,5,6,7a,7b,8a, 宝ヶ峯,金剛寺,大洞B,BC,C1,A
33	上妻寄遺跡	米山町中津山城内	縄文/後期
34	網場遺跡	米山町中津山網場	縄文/南境,宝ヶ峯,金剛寺,大洞B,BC,C1,C2
35	大貫館山館跡	田尻町大貫字下山厩	中世
36	大貫四砲遺跡	田尻町大貫字西橋	弥生、古墳後/弥生土器、土師器
37	猪込遺跡	米山町中津山字猪込	弥生/弥生土器
38	長根窯跡群	蒲谷町小里字長根	古代/須恵器
39	大蛇森遺跡	蒲谷町小里字大蛇森	古墳前/土師器(埴釜)
40	八幡館跡	蒲谷町小里字八幡	中世
41	八幡遺跡	蒲谷町小里字八幡	古代/土師器、須恵器
42	天神館跡	蒲谷町小里字守	中世
43	館ヶ森遺跡	蒲谷町成沢字館ヶ森	中世、近世/鉄洋、櫛羽口
44	行人塚跡	蒲谷町成沢字館ヶ森	中世

第1表 遺跡地名表(第2図と第4図のもの)

## 2. 歴史的環境

ここでは、ツナギの沢貝塚が立地する寛岳丘陵周辺が、どのような経過を経てきているのかについて、周囲の縄文時代遺跡の主な調査状況と併せて概観してみる。

### 縄文時代

寛岳丘陵周辺における縄文時代の遺跡分布は、前述のとおり、国史跡長根貝塚(涌谷町)、国史跡中沢貝塚(田尻町)、国史跡新山前貝塚(小牛田町)をはじめとして、寛岳丘陵やその支丘の台地の縁辺、低平な丘陵上に貝塚として数多く分布し、縄文時代の早～晩期にいたる総べての時期の遺跡を見ることが出来る。各時期における代表的な遺跡は、以下ようになる。

小牛田町の素山貝塚では昭和13年に伊東信雄氏によって調査が行われ、縄文時代早期末の標識資料として素山上層式・素山下層式が命名されている。中期の遺跡としては、昭和43年に行われた長根貝塚の発掘調査により、シジミを主体とする馬蹄形の貝層が分布するとともに、複式炉をもつ完全な形の竪穴住居跡2棟が県内で初めて検出され(伊東：1969)、その後の同時期の集落研究に画期的な成果をもたらしている。特にこの長根貝塚は、本地域において、早期から晩期にいたるまで、すべての時期の貝層が形成されることも特徴である。後期の遺跡としては、河南町の宝ヶ峯遺跡があり、齋藤善右衛門氏・坪井正五郎氏が主体となり、明治43年から昭和2年にいたるまでの調査によって、豊富な資料の収集が行われたことは広く知られている(志間・桑月：1991)。このうち、縄文時代後期中葉の標識資料として宝ヶ峯式が命名されている。晩期の遺跡としては田尻町中沢貝塚がある。中沢貝塚は、昭和49～59年に東北大学文学部考古学研究会により、貝層の詳細な調査が実施され、縄文時代晩期における資料変遷を行うとともに、貝層や動物遺存体、骨角器等の分析により、当地域における漁労・狩猟活動の内容が明らかにされ、遺跡の豊富な内容が報告されている。(須藤：1984、ほか)

ツナギの沢貝塚の周辺においては、道祖神田貝塚、松崎貝塚、山王沢貝塚など大規模ではないが、貝塚が半径500mの円内に集中して形成されている。いずれも縄文時代中期～後期の土器が採集できる遺跡として周知されているが、今回調査を実施したツナギの沢貝塚を除いて、現況が山林であったり、開田であったりするため、近年、遺跡の場所自体の確認が困難となっており、どのような性格をもつ遺跡であるのか等不明瞭な点が多い。

しかし、同時期の遺跡が近接して立地する関係と旧鹿飼沼を挟んで対岸に立地する長根貝塚の存在から、縄文時代中～後期における集落の移動(興野：1958)や本村と季節別もしくは機能別の分村とといったような関係(林：1984)について指摘がなされている。

### 弥生時代

本地域周辺では、縄文時代後～晩期の集落遺跡分布が多数見られるのに対して、後続するこの時代の遺跡の分布がほとんど確認されておらず、不明な点が多い。

ツナギの沢貝塚周辺では、いくつかの遺跡から弥生土器破片資料の存在が確認されている(興野：1984)。ツナギの沢貝塚に隣接する松崎貝塚では柃形罌式の甕形土器破片資料が採集され、国史跡長根貝

塚から西方約1kmに位置する四嶋遺跡では、初痕のある蓋形土器破片が採集されている。米山町では、鈴懸地区で出土したとされている壺形土器が付近の五穀神社に奉納されている。近年、低地性集落などの研究も大きく進展を見せており、今後の分布調査などに大きく期待される。

## 古墳時代

前期から中期前半にかけて大崎平野にも古川市青塚古墳、宮崎町夷森古墳、小牛田町京銭塚古墳など古墳が築造され、小牛田町山前遺跡は豪族の居館跡として知られている。中期後半～後期には、色麻町念南寺古墳とその周辺の円墳群などにみられるように埴輪の樹立や中小の円墳群などが築造される。終末期になると、新たに横穴式石室(色麻町色麻古墳群など)や横穴墓群が築造され始める。多数の横穴墓群が築造され始める時期は明確ではないが、松山町亀井田横穴墓群や古川市朽木橋横穴墓群からの出土品などは7世紀前半代に比定されている。涌谷町内においては、追戸・中野横穴墓群や竜淵寺下横穴墓群、一箕横穴墓群など、箕岳丘陵南辺に横穴墓群が築造される。追戸・中野横穴墓群では、出土品などから7世紀後半からの築造開始の位置付けがなされるとともに、特に8世紀初頭に成立する長根窯跡で製産された須恵器が追戸横穴墓群B地区出土遺物と需給の関係にあったことが知られている。

ツナギの沢貝塚の周辺では、大蛇森遺跡が古墳時代前期の遺跡として位置付けられているが、内容が明らかになっていないため、不明である。

## 古 代

陸奥国の国府多賀城の創建に伴い律令制が浸透し、大崎平野においても各地域に郡が設置される。涌谷町付近は「続日本紀」天平14年(742)正月条に見える「黒川以北十郡」に含まれる「小田郡」に属していたとされている。長根窯跡や六郎館窯跡などでは、町内において窯業生産が8世紀初頭から行われていた事が知られている。国史跡黄金山産金遺跡を中心とした箕岳丘陵一体で天平21年(749)に東大寺大仏造営のための金を産出・献上がなされており、この地域が日本初の産金地として年号が「天平感宝」と改められたり、調・庸といった租税の免除がなされ、箕岳丘陵の各地で黄金洗沢遺跡や古清水みよし掘跡といった産金跡(みよし掘)や製鉄遺跡が分布することは、古代東北地方の開拓史の一端や律令制における国家経営の一端をうかがせ、本地域の歴史が大きく変換した時期とも言える。

ツナギの沢貝塚周辺には、前述の長根窯跡が立地しており、8世紀初頭にはこの地域も律令制が浸透していたと言え、さらに、大槻文彦氏が記した「日本黄金始出地碑文」(黄金山神社内建立:1908)によれば、日本後紀(弘仁三年九月)に記載される「小田郡の人意薩公離塵」の「意薩(おさと)」は、ツナギの沢貝塚の位置する地域の字名である「小里」にあたとされる。尚、ツナギの沢貝塚や隣接する松崎貝塚からも、古代の遺物として土師器や須恵器などの遺物が分布調査によって採集されており(東北学術大学考古学研究所:1987)、古代の遺構の確認が期待されている。

## 中 世

涌谷城跡、七九郎館跡、六郎館跡など、丘陵辺上に城館が多く築造される。涌谷城跡は、この付近を支配していた大崎氏の一族百々氏の分流涌谷氏の居城と伝えられる。大同2年(807)に創建されたと伝えられる天台宗「篁峯寺」は、当地を支配していた葛西・大崎氏など多くの武士や土豪の帰依・信仰をあつめた。また、大谷地区の御前姫神社板碑群を始めとして弘安元年碑や宝徳元年碑など板碑が各所に分布しており、当地方における中世社会を知るうえでの貴重な資料となっている。緑山経塚や行人塚などの塚の成立もこの頃と考えられる。館ヶ森遺跡や寺山遺跡等は、中世から近世の製鉄遺跡で寛岳丘陵に散在する。

ツナギの沢貝塚の周辺にも、八幡館跡、天神館跡などの館跡が分布する。八幡館跡の付近からは建武年号の板碑なども出土している。また、ツナギの沢貝塚周辺のお宅には、もと葛西家の家臣であったと伝わる家もあり、家の敷地入口には、葛西家の再興を願って植えたと伝えられる「さいかち」の古木がよく見られる。

## 近 世

天正19年(1591)に、亙理元宗・重宗父子が亙理より所替で涌谷に移って以後、城下町として発展していく。現在の町の多くがこの時代につくられている。3代定宗の時、伊達姓を許され伊達家一門として二万三千石を治めることとなる。4代宗重の代には、伊達藩を二分する騒動となった「寛文事件(伊達騒動)」が起こっている。13代義基・14代邦隆の時代には、郷学「月将館」の設置などにより文化や芸術なども隆盛を極めた。詩文などで全国に知られる学者・斎藤竹堂は、涌谷伊達家家中に生まれ涌谷月将館の教授を勤めている。町内にはこの時代の建造物等が多く残存し、伊達安芸宗重霊廟の「見龍院霊屋」、涌谷伊達氏の氏神を祀った「妙見宮拝殿」等は宮城県指定文化財に指定され、千石家薬医門、西光寺薬医門といった珍しい形式の門も残されている。篁峯寺の県指定文化財「正月行事・白山祭」もこの時代から行われていた。

ツナギの沢貝塚付近も、涌谷伊達氏の治さめる所となり、小里村に含まれた。遼田郡小里村風土記御用書出(宮城県：1954)には、「御林 拾ヶ銘」の中に「つなき林」の記載が見え、「伊達安藝宗重御拝領御林」となっている。

## 第3章 ツナギの沢貝塚と調査区域

調査対象となった区域は、箕岳丘陵の北斜面裾部分にあたり、県道河南築館線から約50m南にある杉を植林している標高約35m程の小山の北斜面(標高16~24m)である。今回の調査の方法と経過や、調査の成果について触れる前に、ツナギの沢貝塚と今回の調査対象区域との関わりを述べておくこととする。

### 1. ツナギの沢貝塚について

ツナギの沢貝塚は、第1章で触れたように、昭和30年代に興野義一氏によって、当地域の詳細な遺跡分布調査と遺跡内容の把握とが精力的にすすめられ、その存在が広く知られることとなった遺跡の1つである(興野:1958)。その成果をもとに、昭和40年に発行された浦谷町史(浦谷町:1965)をはじめとして、昭和43年に実施された国史跡長根貝塚の発掘調査報告書(伊東信雄:1969)など本地域の状況について記した報告書・論文等において、ツナギの沢貝塚は長根貝塚に隣接する中期~後期の貝塚群の1つとして位置付けられ紹介されている。(前章参照)。

興野氏の論文(前掲)によると、鹿飼沼周辺の遺跡として「道祖神団、ツナギ沢、天南、松崎、四島、長根新田」の六遺跡があげられており、「ツナギ沢」については、中期末~後期初頭の遺跡として表記されると共に、「鹿飼沼(現在は水田)周辺の加護坊山塊の高所に営まれた」遺跡として記述されている。

その後、昭和62年度に東北学院大学考古学研究所によって実施された分布調査の報告(東北学院大学考古学研究所:1987、註1)によれば、「遺跡は2つに分かれており、丘陵中腹斜面に貝塚が位置し、丘陵の裾には包含地が形成されている。」と記載されている。(但し、この際、貝層は確認されていない)また、昭和63年度には東北歴史資料館によって実施された分布調査(藤沼・小井川:1989)では、「標高30~40mの小丘陵上に立地」と記述され、中期末の縄文土器片と共に淡水産の貝殻の破片が少量含まれていることが記載されている。さらに、今回の調査に参加していただいた地元の方によると、調査区域のある小山南側の丘陵中腹斜面部分で、以前はかなり土器を拾うことができたが、現在は、杉林で中々見る事がほとんど出来ないと言う事であった。

こうしたことから、ツナギの沢貝塚は、縄文時代中期末の土器と共に若干の淡水産貝殻を含む貝塚が分布する丘陵の中腹(標高約40~50m)の区域と、丘陵裾部に位置する土器の包含地との2ヶ所に区域に分かれる可能性が高い。今回調査対象となった区域は、後者の丘陵裾部で確認された包含地に該



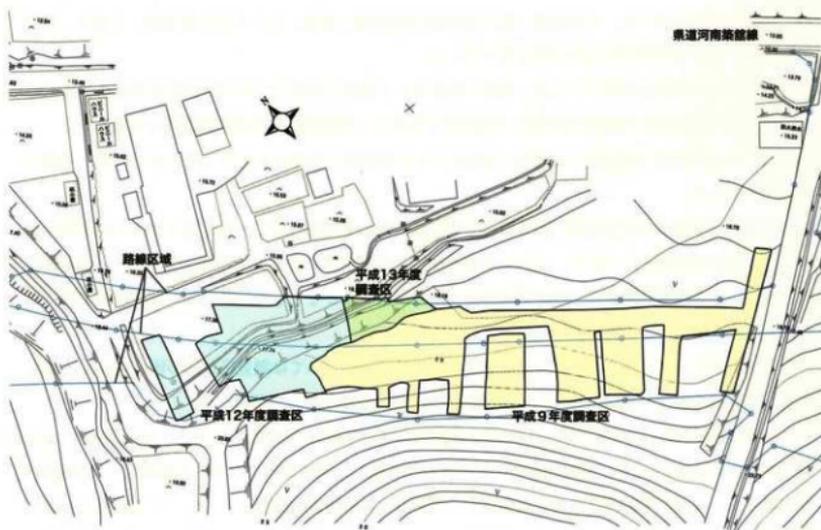
第5図 調査対象区域 Scal=1/10,000

当すると考えられる。また、この今回調査対象とした包含地は、興野氏が報告された六遺跡の内、「天南」(後期～晩期の遺跡として表記される)にあたる区域ではないかとも推測される。「天南」は、本調査区の北約50mに位置する県道河南築館線を境とした北側の小字地名であり、開田前はこの地域からも縄文土器が出土したと言われるが、現在の遺跡登録の中には「天南」はなく、今回の調査対象となった区域と地域的にも1まとまりの遺跡である可能性が高いと見られるためである。

註1)昭和62年度に東北学院大学考古学研究所(第24代)によって実施された寛岳丘陵の遺跡踏査記録である。報告書等として刊行されたものではないが、ガリ版刷による記録がまとめられている。

## 2. 調査対象区域のようす

調査区域における調査実施前の状況は、東西約250m・南北約20mの東西に長い区域で、区域内では、標高約20m付近を境に急斜面から緩斜面に変化し、調査区域の東西部分で谷地状になる。特に調査区西端では、山から流れる沢地となり、扇状地の地形を呈する。調査前には、この調査区の西半分で、標高約20mで平坦地が見られ、その北側が法面と簡易な水路、扇状地状に開けた部分は畑地(元は水田と思われる)となっていた。この標高約20mで見られた平坦地は、地元の方によると、以前に採草地とするために重機により盛土造成を行った場所であると言うことであった。また、調査前もしくは調査中においては、今回調査対象となった区域と県道河南築館線の間にもみられる畑地等にも、遺物が散布することを確認している。



第6図 調査区域図(Scal=1/1,000)

## 第4章 野外調査の方法と経過

今回の調査は、第6図に示したとおり、第一次から第三次の計3回にわたって野外調査を実施している。以下、各次の調査における方法と経過について述べる。

### 1. 第一次調査(平成9年度調査)の方法と経過

調査区が丘陵の斜面に位置し、土砂を搬出する場所がないため、調査区内の西から東に向かって、南北にトレンチを空けながら遺構の有無の確認を行い、遺構が検出されるとその部分を全面発掘調査を実施し、遺構等の存在しない部分を土捨て場とする形で調査を行った。

調査は、8月18日から開始し、遺構確認面まで重機、人力で掘り下げた後、遺構の平面プランの確認作業を行った。その結果、遺物包含層が1ヶ所あり、その東端と南端部分が確認されたため、調査区全体を含め1/200の平面図を作成し、包含層の範囲を記入した。平行して、包含層の区域を任意で東西に区分し、南北に1ヶ所・東西に2ヶ所の試掘トレンチを設けて、包含層内の層序について確認を行った。その後、層位毎に範囲の確認を行いながら精査を行い、出土遺物を取り上げた。また、特に必要と考えられる遺物が出土した際は、出土状況の写真撮影を行った後、仮遺物番号を付した後に取り上げを行った。

精査を進めていくうちに包含層下より、住居跡と思われるプランを検出したため、その他の遺構の確認を行うと共に、包含層と各遺構毎の関係が判るよう適宜セクションベルト等を設けながら包含層・遺構の精査を行った。その結果、竪穴住居跡12棟の他、土壁、ピットなどを検出しており、個別の番号を付加して遺物の取り上げ等を行っている。

全ての遺構の精査がほぼ終了した後、遺構の検出された範囲に任意で3m単位方眼の測量基準点を設定し、1/20で遺構等の実測図(平面図・断面図)を作成し、調査区の全体写真撮影等を実施した。

その後、今回の調査で確認された遺構・遺物について諸記録の再検討を行い、9月30日に第一次野外調査を終了した。

第一次調査で確認された遺構は、盛土層の下で確認された遺物包含層と、包含層に覆土される竪穴住居跡等の遺構が検出されており、それらの分布が第一次調査区の西および北側に広がることが確認されたため、その区域の調査は、再度協議を経てから実施することとした。尚、第一次調査終了後、この調査区域は重機により排土の埋め戻しを行っている。

第一次調査における調査の記録は、実測図のレベル記入については調査区付近の固定点(15.155m)より、仮レベル杭(24.380m)にレベル移動を行い、それを基準として測定した。

また、基準点1(W=0=E、N=0=S)を起点として、基準点2(W32、N=0=S)と結び、3m間隔で南北方向をN3~S6、東西方向をW0~W33で表記し、調査区内における各遺構などの位置関係を把握した。なお、平面図グリッド基準点1、基準点2の平面直角座標系Xにおける座標値を計測し遺跡内の正確な位置を把握している。(基準点1: X=-156691.757km Y=+26881.101km 基準点2:

X=-156679.268km Y=+26851.302km)

写真記録については、必要と思われる箇所では35mm判カラーリバーサルとモノクロを適宜使用した。

## 2. 第二次調査(平成12年度調査)の方法と経過

第二～三次調査区域は、第一次調査区域の北および西側にあたる。

第二次調査は10月2日より開始した。第一次調査と同様に、調査区の南北方向にトレンチを大きく3ヶ所設定し、重機により表土および盛土層の除去を行いながら遺構の確認を行った。調査区の西トレンチ西端部では、表土を除去すると、グライ化した粘土層と湧水が確認された。このトレンチよりも西側は現在も沢地となっており、扇状地状の地形となっていることから、調査区西側はこの沢地の流路内となっていることが推定され、遺物包含層や遺構が分布しないことを確認した。また、湧水量が多いため、その調査区内の北側に重機で深掘区域を設け、湧き出た水を一度溜めた後、排水ポンプで排水処理を行った。

調査区の中央および東側トレンチでは、第一次調査で検出した遺物包含層とその西端を確認したが、調査区北側では近年に設けられたと思われる掘(内部に石が多く含まれるため暗渠的な排水掘と思われる)により遺物包含層が失われていることを確認した。しかし、一部では遺物包含層が調査対象区域の北側へも分布していることが判った。

その後、この調査区北で確認された掘状の攪乱層の除去を人力で行い、遺構等の分布が確認されなかった調査区西側の沢地部分や第一次調査区域内を土捨て場として、人力で検出した遺物包含層等の精査を行うこととした。遺物包含層の精査は、調査開始時に重機で設けたトレンチに基づいて南北方向に2ヶ所、第一次調査と第二～三次調査区の境となる第一次調査区域北端の東西方向に2ヶ所、合計4ヶ所に試掘トレンチを設定し遺物包含層の層序の確認を行いながら実施した。その際、遺物包含層が第一次調査で確認した層よりも細分化できることが確認されたため、第一次調査で使用した層序を大別として対比し、新たに層序名称等を付加することとした。その後、それぞれのトレンチを西から順に、層位毎に範囲の確認を行いながら精査を行い、出土遺物を取り上げた。

第一次調査と同様に、精査を進めていくうちに遺物包含層下より、堅穴住居跡等のプランを検出したため、その他の遺構の確認を行うと共に、包含層と各遺構毎の関係が判るようセクションベルト等を設けながら包含層・遺構の精査を行った。その結果、堅穴住居跡1棟の他、土坑、ピット、性格不明遺構などを検出しており、個別の番号を付加して遺物の取り上げ等を行った。また、ピット等については、おおむね直径が約20cmを越えるものについては、半截の上セクション図の作成等を行った。また、第一次調査で使用したものと別に、遺構の検出された範囲に新たに任意で3m単位方眼の測量基準点を設定し、1/20で遺構等の実測図(平面図・断面図)を作成し、調査区の全体写真撮影等を実施した。

しかし、天候や予想以上の遺物包含層の出土遺物量などから、一番東側のトレンチを次年度以降の調査として実施することとし、今回の調査で確認された遺構・遺物の再検討を行った後、未調査とな

った東側トレンチを土嚢やブルーシートなどで養生し、12月14日に第二次野外調査を終了した。

第二次調査における調査の記録は、基本的に第一次調査と同様の形で行っている。調査区全体図・遺物包含層分布図を1/100、各遺構の平面図・断面図を1/20で作成した。

実測図中には道路改良工事計画時に作成された付近の測量基準点(KBM4:8.083m)より調査区内基準点1(16.709m)、基準点2(19.798m)にレベル移動を行い、各標高の基準とした。

また、第1次調査とは別に新たに、2区基準点1(W=0=E、N=0=S)を起点として、基準点2(W=0=E、S9)と結び、3m間隔で南北方向をN9~S9、東西方向をW15~E27で表記し、調査区内における各遺構などの位置関係を把握した。さらに第一次調査区との関わりは、第一次調査区域の確認と工事計画の計画区域杭等によって把握している。写真記録については、必要と思われる箇所では35mm判カラー・白黒・カラーリバーサルフィルムを適宜使用した。

### 3. 第三次調査(平成13年度調査)の方法と経過

第三次調査区域は、前述のとおり諸事情により、第二次調査区域で未調査となっていた東側トレンチである。

調査は7月16日より開始し、養生していたブルーシート・土嚢等を撤去、溜まっていた湧水の排水を行ってから、第二次調査で確認した遺物包含層序の再確認等を行い、層位毎に範囲の確認を行いながら精査を行い、出土遺物を取り上げた。

包含層を精査中、層内より焼土面を伴う簡易な石組炉が検出されたため、新たに南北のセクションベルトを1本設け、1/20で遺構等の実測図(平面図・断面図)を作成しながら精査を行った。

また、遺物包含包含層下からは、土坑、ピット、性格不明遺構等のプランを確認したため、個別の番号を付加して精査、遺物の取り上げ等を行った。

その後、今回の調査で確認された遺構・遺物について諸記録の再検討を行い、9月25日に調査対象杭着内の全ての野外調査を終了した。第三次調査における調査記録の方法は第二次調査と同様である。

## 第5章 調査の成果

### 1. 調査区内の状況と基本層序

#### 調査区内の状況

第一～三次調査により得られた調査区域内の地形の状況は、地山上面で標高約16～23mの北斜面を形成しており、概ね標高18～19mの間で斜面の傾斜が変換し、それより標高が高くなるにつれて急傾斜となっている。(第7図)

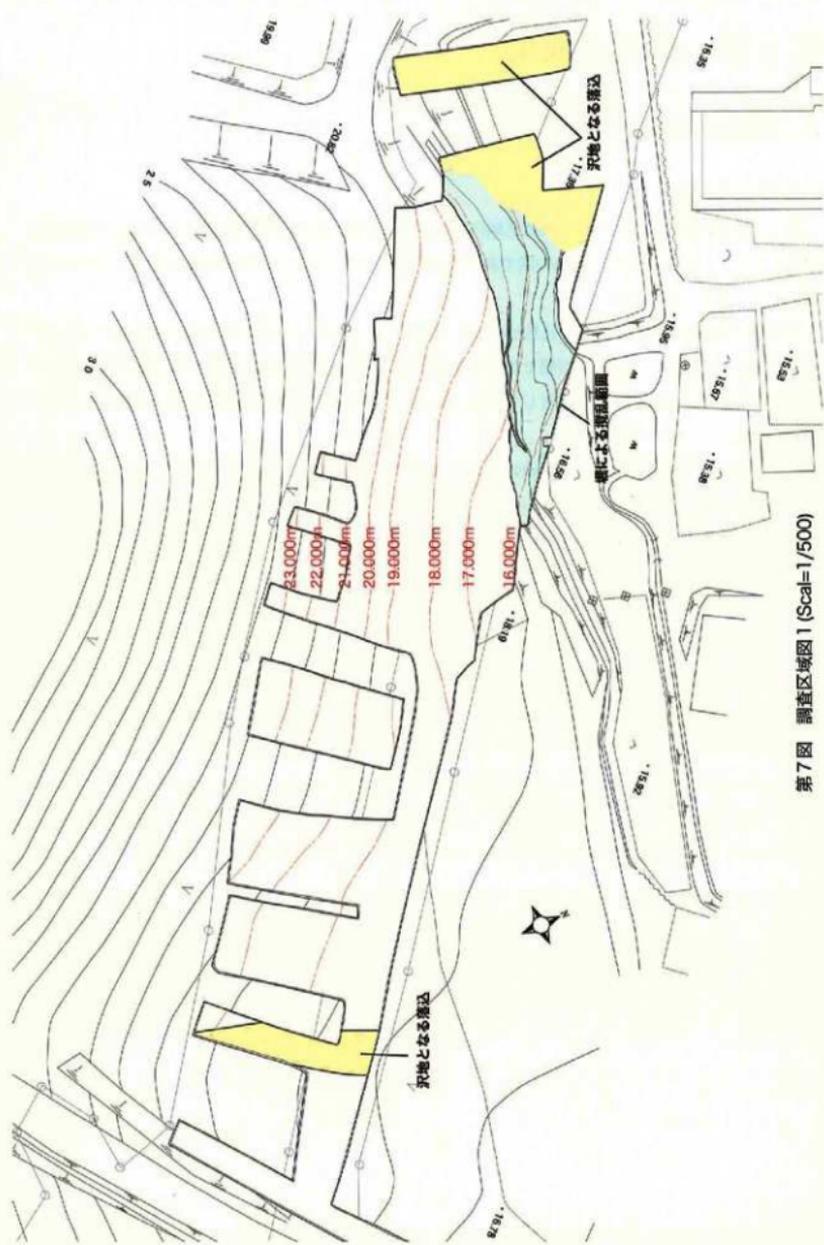
調査区の中央～東側では平坦で比較的緩やかな北斜面となるが、調査区域の西半は緩やかな谷地状の地形となっており、その谷の西側で若干張り出した後、調査区域西端部で見られる扇状地を形成する沢地に落ち込んでおり、常時湧水している。また、調査区域の東側にも常時湧水し沢地となる箇所が見られた。

調査においては、主に調査区西半域の緩やかな谷地状となる部分で、縄文土器をはじめとする多量の遺物を含む遺物包含層とその下部から竪穴住居跡をはじめとする遺構を検出し、精査を実施した。

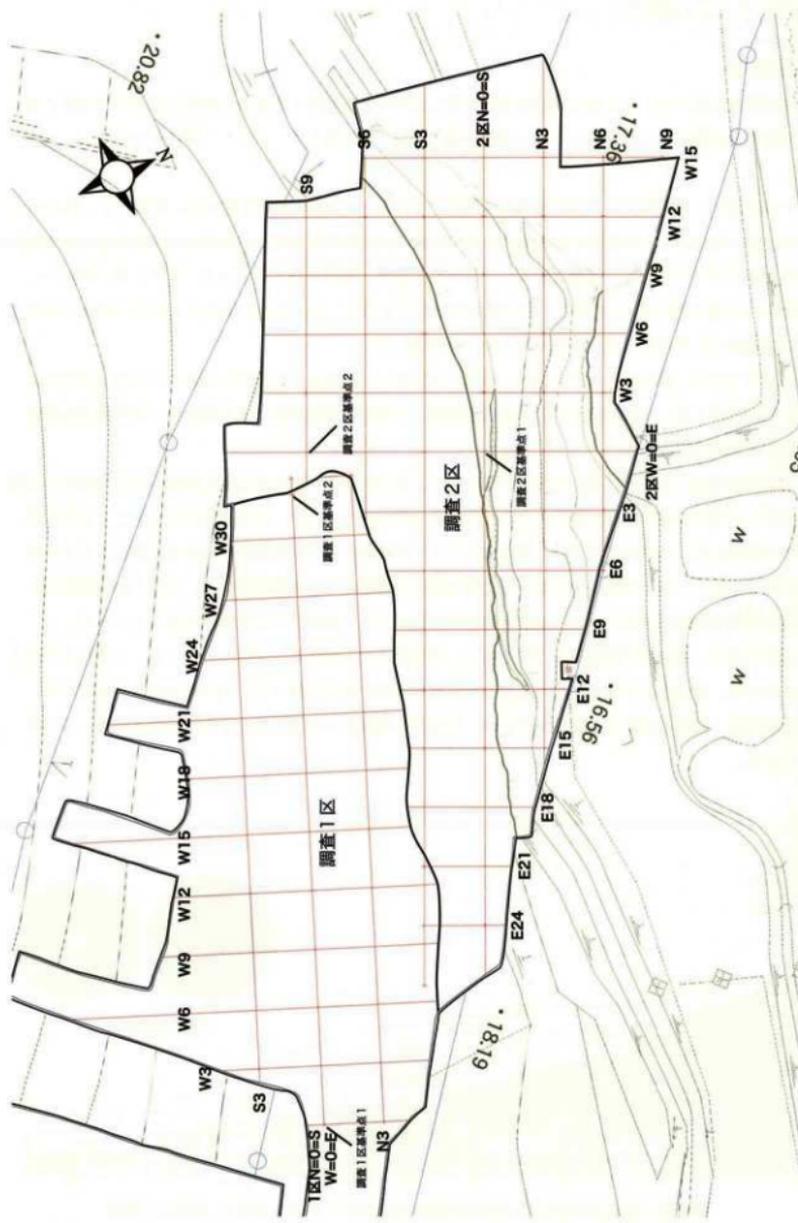
また、遺物包含層分布域の北側では、幅6m程の堀跡(以下「堀状カクラン」として記述する)が東西方向に分布し、検出した遺物包含層などの遺構が一部失われている状況にあった。堀状カクランの層内には、多量の礫、縄文土器片、石器とともに、寛永通宝などの古銭や釘、陶器片などが含まれており、近年に設けた暗渠排水的な堀跡と考えられる。

その他、調査区域の東側で見られた沢地の周囲でも、若干の縄文土器片の散布が見られた。

竪穴住居跡等の遺構の精査では、前章で述べたとおり、第一次と第二～三次調査で使用した3m間隔のグリット配置がそれぞれ任意のもので、異なっている。グリットの名称等も特に区別していないため、本書においては、混同してしまう可能性が高い。(例えば、グリットW3・N3は、第一次調査のもの第二次調査のものと2ヶ所存在している。)このため、本書において以降では、第一次調査区域を調査1区、第二～三次調査区域を調査2区と呼称し、区別するものとする。(第8図)



第7図 調査区域図1 (Scale=1/500)



第8図 調査区域図(Scal=1/250)

## 基本層序

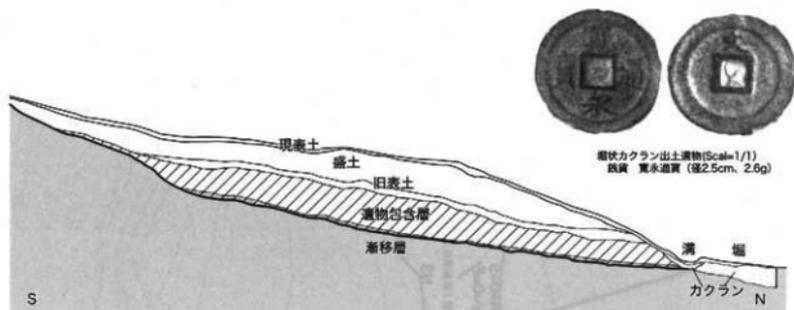
調査区域において、主となる遺物包含層や竪穴住居跡等の遺構を検出した調査区西半の谷地状となる部分の基本層序について述べると、南から北へ傾斜する斜面上で、大きく5層に区分できる。(第9図)

一番上層が、黒色のシルトで構成される現表土で、厚10～15cmで調査区全域に堆積する。現表土の下は、礫・地山ブロック混じりの暗褐色土が最高約1mの厚さで調査区内の南から北にかけて谷地地形全体を覆うように分布し、平坦な面をつくり出しており、前述の盛土層となる。その下層(3層目)に黒色シルト層が20～30cmの厚さで調査区全域を覆っており、盛土以前の旧表土となる。調査区北端ではこの旧表土を切る形で溝・掘状のカクランを確認した。

旧表土下面は、礫とともに縄文土器、石器、土製品、石製品などを多量に包含する黒褐～暗褐色シルト層が堆積する。この旧表土下面を遺構確認面、下層を遺物包含層として取扱い、包含層内を細分しながら精査を実施した。

遺物包含層は、調査区南端から堆積がはじまり、約1mの厚さをもちながら北側へむけて緩やかに堆積する。調査区北側では溝・掘状のカクランにより失われているが、調査区北側にも伸びて分布することを確認した。遺物包含層内は、暗褐色シルトと黒褐色シルトが交互に堆積する4層に大きくわけることができ、一番下の遺物包含層4層上面で竪穴住居跡などの遺構を確認し、4層下面で地山面との境に漸移層が形成されている。遺物包含層の詳細については第5～2章で述べることにする。

遺物包含層、漸移層下面が地山上面となる。黄橙色土(7.5YR7/8～6/8)のシルトもしくは粘土で構成されている。調査区北半では、地山上面や漸移層を掘削するのに伴って、数カ所で湧水を確認した。この湧水は、降雨の後等に特に多く見られ、雨水等の浸透水の水道が地山上面で形成されていると考えられる。



第9図 基本層序模式図(遺物包含層断面図SPA・SPGを改変)と掘状出土遺物



第10図 遺構配置図(Scal=1/150)

## 2. 発見した遺構と遺物

調査では、主に調査区西半の緩やかな谷地状となる部分から、竪穴住居跡13棟、土壇26基、多数のピット、石囲炉、その他性格不明遺構・遺物包含層1ヶ所を検出した。(第10、41図)

検出したこれらの遺構は、ほとんどすべてが遺物包含層に置われる形で、遺物包含層4層もしくは地山、地山漸移層の上面で確認している。

竪穴住居跡は、包含層除去後の標高約18～20mの斜面で、谷地状の地形に沿う形で比較的まとまって検出している。そのすべてが覆われる包含層により削平されたと見られ、北半分を欠いた状態で遺存している。

土壇やピット等の遺構は、竪穴住居跡が検出された斜面下となる標高16～18mの緩やかな斜面で多く確認した。いずれも浅くしか残存せず、状況の不明なものが多い。

遺物包含層は、同じく谷地状の地形に沿う形で分布し、標高約21m付近を南端として、標高17～19m付近で東西幅約45m、厚さ約1mとなり、調査区北側で堀状の攪乱を受けているものの、さらに調査区北側へ伸びて分布している。層内は暗褐色～黒褐色シルトで構成される遺物包含層1～3層と、黒色の砂質シルトで構成される遺物包含層4層の4枚の層に大別される。それぞれの遺物包含層は10～15mほどのまとまりをもつ3～4の細層にさらに細分でき、おおきく遺物包含層分布域の西・中央・東側で堆積している。

これらの遺構・包含層からの出土遺物は、遺物収納箱で173箱におよんでいる(第2表)。その殆どが縄文土器であり、その他には土製品、石器、石製品などがある。また性格不明遺構とその周囲より若干の上師器片が出土している。

以下、竪穴住居跡、土壇、PIT、炉、その他の遺構、遺物包含層の順に内容を述べる。

調査年次	縄文土器	石製品	土製品その他	合計
第一次調査	42	2	1	45
第二次調査	70	3	2	75
第三次調査	50	2	1	53
合計	162	7	4	173

箱：540×336×200mm

第2表 出土遺物数量表

## 竪穴住居跡

### 【SI-01】(第11図)

〔位置〕 調査1区(W1～5 S1～N1)

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、地山上面

〔遺存状況〕 北半部分は攪乱、遺物包含層等により削平され、南側の約1/3のみ残存する。

〔重複関係〕 SI-02と住居跡西側で重複しており、切り合い関係からSI-02より新しい。

〔包含層との関係〕 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われており、これより古い。また、この遺物包含層3層によって住居跡北半が削平を受けたと見られ失われており、北に傾斜する斜面となる。

〔平面形・規模〕 残存部分の平面形から円形を呈すると推定する。規模は南北1.2m以上、東西3.3m以上となる。

〔堆積土〕 堆積土1層は、住居跡中央で検出されたカクランの堆積土で、層の下半に焼土ブロックが混じる。堆積土2～4層は、遺物包含層1A、2A、3B層に対比できる。堆積土5層は地山ブロックを多く含んでおり、住居壁の崩落土を主体とした自然堆積土と考えられる。このため、住居跡の大半は、直接遺物包含層で覆われている。

〔壁の状況〕 残存部分では、地山面、一部SI-02の堆積土を壁面として、壁高は残存最大高20.5cmで、外傾する。

〔床面の状況〕 地山面を床面とする。床面は概ね平坦となるが、南北約10cm、東西約3～4cmの落差があり、北西北にやや傾斜している。

〔炉〕 特に確認できなかった。ただし、住居跡中央で検出されたカクランの堆積土下方(堆積土1層)に、焼土ブロックが含まれるため、この住居跡中央付近に炉があったと推測している。

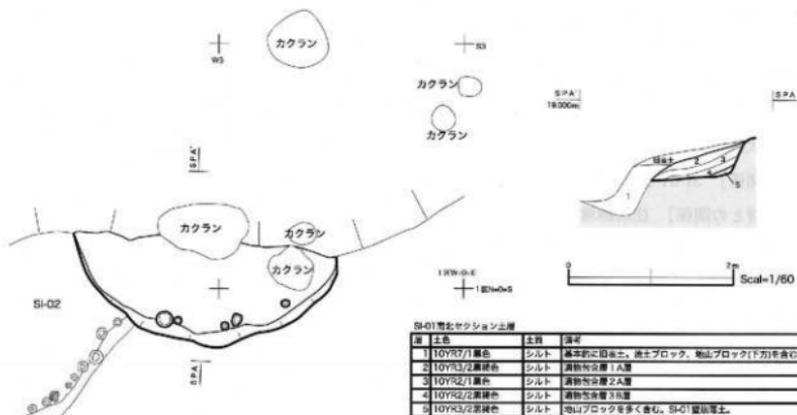
〔柱穴〕 壁際の床面で、小ビットを5基確認した。これらは、径10～15cm、深さ5～10cmで不整な円形となるもので、地山ブロックを含む褐色の砂質シルトが堆積し、約50cmの間隔を置いて1～2個のビットが配されており、壁柱穴と考えられる。主柱穴となりうるビットは確認されなかった。

〔周溝〕 特に確認できなかった。

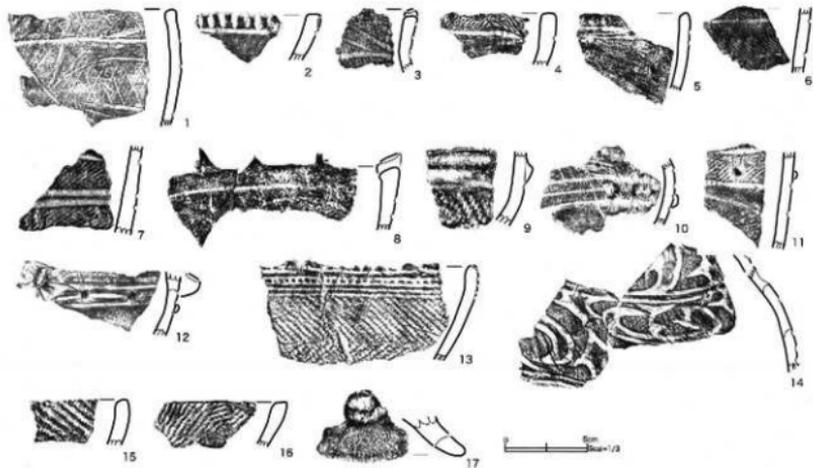
〔その他の住居内施設〕 特に確認できなかった。

### 〔出土遺物〕

床面直上からの出土はなく、主に遺物包含層に対比される堆積土中から縄文土器破片が出土している。1～7はI線部外面の沈線区画内に、縄文、刻み目、斜線沈線などが施文される。8は二又となる大小山形突起が、9は横位隆帯が、10～12は粘土粒貼付けが見られる。13は平行沈線間に刻み目をもつ深鉢形土器、14は半肉彫的な雲形文が施文される壺形土器である。17は透かしと推定される部分が一部残存しており、台部破片と考えられる。



層	土色	備考
1	10YR7/1 黒色	基岩の上に自然土、粘土ブロック、地山ブロック(10方を占む)。
2	10YR3/2 黒緑色	遺物を含む層-A層
3	10YR2/1 黒赤	遺物を含む層-B層
4	10YR2/2 黒緑赤	遺物を含む層-C層
5	10YR3/2 黒緑色	地山ブロックが多く含む、SI-01 壁土層。



SI-01 出土土器観察表

調査番号	出土地区・層位	口徑	底径	高	幅	外面	内面	備考	写真図版
II-1	SI-01 層位土2層	-	-	△(7.1)	大形欠文や内底子状沈澱	ナギ	深緑・赤		
II-2	SI-01 層位土	-	-	△(3.5)	沈澱区面内層のみ目	ミガキ	深緑・赤		54-1
II-3	SI-01 層位土2層	-	-	△(3.5)	沈澱区面内層の花種	ナギ	深緑・赤		
II-4	SI-01 層位土	-	-	△(3.2)	沈澱区面内粗点文	ナギ	深緑・赤		
II-5	SI-01 層位土	-	-	△(5.8)	平行沈澱	厚緑	深緑・赤		
II-6	SI-01 層位土	-	-	△(4.0)	平行沈澱 粗点文(粗点文)	ナギ	深緑・赤?		
II-7	SI-01 層位土	-	-	△(5.3)	LR+平行沈澱	ミガキ	深緑・赤?		
II-8	SI-01 層位土2層	-	-	△(3.5)	山形突起(大形)、平行沈澱、まめつ	ナギ	深緑?		
II-9	SI-01 層位土	-	-	△(4.5)	横段隆帯、用	ナギ?	深緑・赤?		
II-10	SI-01 層位土	-	-	△(4.5)	沈澱区面内層のみ目、粘土船形	ミガキ	深緑・赤?		
II-11	SI-01 層位土2層	-	-	△(6.4)	沈澱区面内粗点文、粘土船形	ミガキ	深緑・赤?		54-2
II-12	SI-01 層位土2層	-	-	△(3.8)	平行沈澱、ミガキ、粘土船形	ナギ?	深緑・赤?		
II-13	SI-01 層位土2層	-	-	△(6.3)	右下粗文、平行沈澱粗点のみ目、糸状(ORL+LR)	ミガキ	深緑・赤?		
II-14	SI-01 層位土2層	-	-	△(9.2)	半円形の粗点文、LR	粗ナギ	赤?		54-3
II-15	SI-01 層位土	-	-	△(2.8)	用	厚緑	深緑・赤		
II-16	SI-01 層位土	-	-	△(3.0)	用	ナギ?	深緑・赤		
II-17	SI-01 層位土	-	-	△(2.7)	用(L)、厚緑	厚緑	青部黄赤		

第11図 SI-01と出土遺物

## 【SI-02】(第12図)

【位置】 調査1区(W4～9 S3～N1)

【確認面】 遺物包含層1A層下、地山上面

【遺存状況】 北半部分は遺物包含層等により削平され、南半の約1/2のみ残存する。

【重複関係】 SI-01と住居跡の東側で重複し、切り合い関係からSI-01より古い。

【包含層との関係】 住居跡堆積土が遺物包含層1A層に覆われており、これより古い。また、重複関係にあるSI-01が、遺物包含層3B層に覆われるため、このSI-02は遺物包含層3B層よりも古いものである。この遺物包含層によって住居跡北半が削平を受けたと見られ失われており、住居跡北側は北に傾斜する斜面となる。

【平面形・規模】 残存部分の平面形から、やや隅丸方形ぎみの凹形を呈すると推定され、規模は南北2.7m以上、東西4.0m以上となる。

【堆積土】 壁際に炭化物と遺物を含む堆積土4層のみが堆積する。堆積の状況等から自然堆積と考えられる。この4層とそれ以外の住居跡床面は、遺物包含層1A層(堆積土1層)で覆われる。堆積土2～3層としたものは、遺物包含層2A～3B層に対比できる。

【壁の状況】 残存部分では、地山面を壁面とする。壁高は残存最大高45cmで、外傾して立ち上がる。

【床面の状況】 地山面を床面とする。床面は概ね平坦となるが、南北約10cm、東西約2～3cmの落差があり、北西北にやや傾斜している。

【炉】 住居跡ほぼ中央と推定される部分の地山床面で、焼土面を1ヶ所検出した。南北40cm×東西40cmの不整な半円状を呈しており、南半分だけ残存している。焼上とともに床面が赤く赤変色しており、地床炉と考えられる。

【柱穴】 壁際の床面に小ピットを20基確認した。径10～20cm、深さ3～10cmの円形もしくは楕円形となるもので、地山ブロックを含む褐色～暗褐色のシルトが堆積する。これらの小ピット群は、住居跡の壁際床面で、約15～45cm間隔でほぼ連続して並んでおり、壁柱穴となると考えられる。また、小柱穴間に石を検出したが、これは地山内のものであり柱穴との関係は特に見ることができなかった。そのほか、主柱穴となりうるピットは確認できなかった。

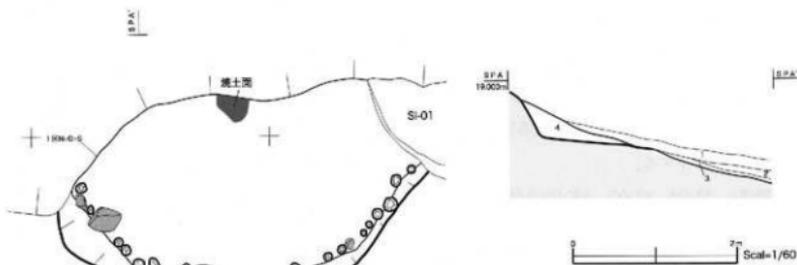
【周溝】 特に確認できなかった。

【その他の住居内施設】 特に確認できなかった。

## 【出土遺物】

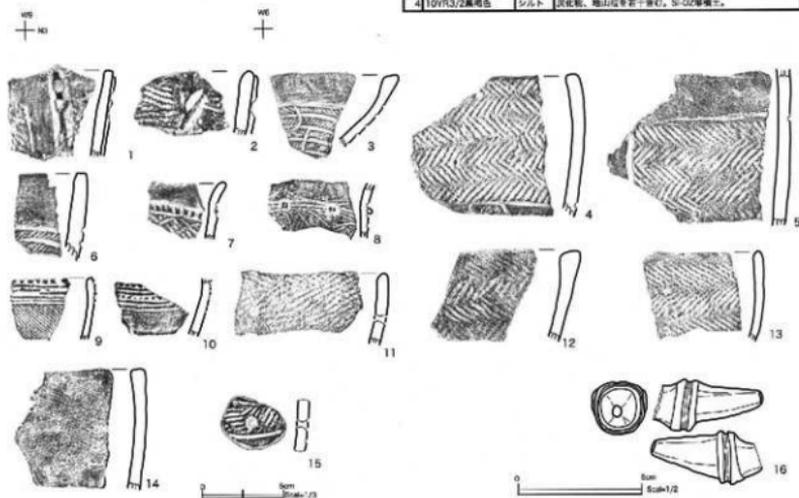
床面直上からの出土はなく、堆積土4層中から縄文土器片、土製品が出土している。

1～2は粘土組縦位隆帯上に刺突を施すものである。3は反転する平行沈線文が施される浅鉢形土器である。4～6は沈線区画内に磨消縄文が施される。7～8は平行沈線間に刻み目、粘土粒貼付が見られる。9は細い平行沈線間に、直線的な羊歯状文が施される。15は円盤状土製品で、中央に穿孔がある。16は突起状となる土製品で、種別・部位等不明である。



SI-01の構造セクション主要

層	土色	土層	説明
1	10YR3/2灰褐色	シルト	遺物層(層1)土層
2	10YR2/1黒色	シルト	遺物層(層2)土層
3	10YR2/2黒褐色	シルト	遺物層(層3)土層
4	10YR3/2黒褐色	シルト	沢北靴、地山(中平若千等)C、SI-02等出土



SI-02出土遺物一覧表

図版番号	出土地区・層位	口徑	底径	高さ	外面	内面	備考	写真図版
12-1	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)5.3	縦紋等、貫列、LR?	ヒガキ	縦線・鉢	
12-2	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)3.8	縦紋等、貫列、LR	ヒガキ	縦線・鉢	
12-3	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)4.0	LR、反転平行波線文	ヒガキ	縦線・皿	54-4
12-4	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)8.0	沈黙区画内斜波線文(LR、RL)	ヒガキ	縦線・鉢	
12-5	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)9.5	沈黙区画内斜波線文(LR、RL)	ヒガキ	縦線・鉢	
12-6	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)5.4	LR→平行波線	ヒガキ	縦線・鉢	
12-7	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)3.4	平行波線(縦列のみ)、HL?	チヂ?	縦線・鉢?	
12-8	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)3.4	平行波線、LR、底上段透り	ヒガキ	縦線・鉢?	
12-9	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)3.5	口部透りのみ、底部的半波線文、RL	ヒガキ	縦線・鉢	
12-10	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)3.5	平行波線(縦列のみ)	ヒガキ	縦線・鉢?	
12-11	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)4.2	LR、穿孔	チヂ	縦線・鉢	
12-12	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)5.2	斜波線文(LR、RL)	チヂ	縦線・鉢	
12-13	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)5.2	斜波線文(LR、RL)	チヂ	縦線・鉢	
12-14	SI-02層(土4層)	—	—	(Δ)7.5	扇状波線(9本一組?)	チヂのちヒガキ	縦線・鉢	
12-15	SI-02層(土4層)	径3.0×幅3.0×厚0.6			扇状波線LR、中央部穿孔	ヒガキ?	円盤状土製品	54-5
12-16	SI-02層(土4層)	径2.1×幅4.5×厚2.3			波線、ヒガキ		扇状土製品	54-6

第12図 SI-02と出土遺物

### 【SI-03】(第13図)

〔位置〕 調査1区(W9～14 SI～N2)

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、地山上面

〔遺存状況〕 小ピット群で構成される壁柱穴と壁際にまわっていたと思われる周溝、床面、ピットが部分的に若干残存する。

〔重複関係〕 SI-04、SI-05、SK-03と住居跡の西・南側で重複関係にある。SI-05床面の一部が住居跡の周溝・ピット堆積土上面でとらえられており、SI-05よりも古い。SK-03は、SI-05との層序の関係からSI-05よりも新しいものであるため、本住居跡はSK-03よりも古い。SI-04との関係は不明である。

〔包含層との関係〕 住居跡全体が直接遺物包含層3B層に覆われており、これより古く、全体的に削平を受けたと見られ北に傾斜する斜面となる。

〔平面形・規模〕 残存する周溝および小ピット群のプランから、ほぼ円形を呈していたと推定され、規模は南北2.2m以上、東西3.9m以上となる。

〔堆積上〕 住居跡全体が、遺物包含層3B層で覆われており、壁面なども残存していないため、住居跡の堆積土は確認できなかった。

〔壁の状況〕 輪郭なども残存しておらず、確認できなかった。遺物包含層等により削平されたものと考えられる。

〔床面の状況〕 壁面と同様に殆どが遺物包含層により削平されているが、地山面を床面として、住居跡北側で一部分だけ残存している。残存する部分は概ね平坦となるが、南北約8cm、東西約4cmの落差があり、大きく北に傾斜している。

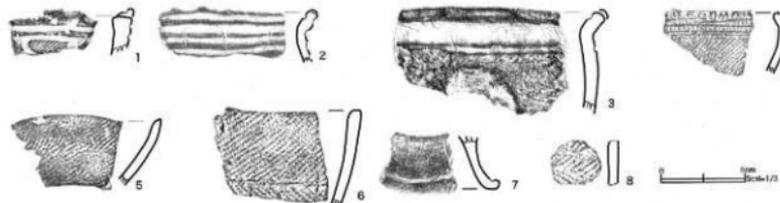
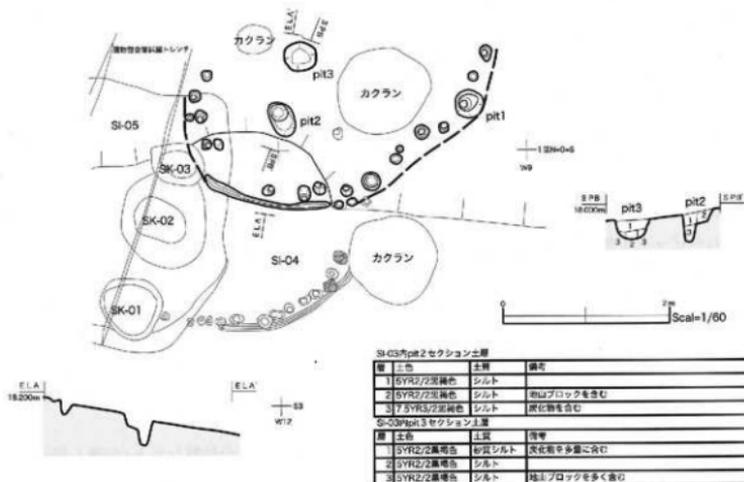
〔炉〕 特に確認できなかったが、住居跡ほぼ中央でpit3(径40cmの円形・深さ25cm)を確認した。堆積土には、多量の炭化物が含まれており、炉の可能性も考えられたが、特定にまで至らなかった。

〔柱穴〕 壁際床面に廻っていたと思われる周溝の内側に沿う形で、小ピットを19基確認した。径10～15cm、深さ7～12cmで円形となるもので、約15～40cmの間隔で、まばらに並んでいる。地山ブロックをばけた状態で含む黒褐色シルトが堆積するとともに、うち9基のピットで平面形円形・径8～10cm程度となる柱痕跡(黒色シルト)を確認した。このためこの小ピット群は、壁柱穴となると考えられる。

また、この小ピット群の間にpit1、住居跡床面残存範囲のすぐ北でpit2を確認した。pit1は小ピット群と同様の堆積土が堆積しており、径約40cm、深さ約20cmで円形となる。pit2は黒褐色のシルト3層が堆積しており、下層では炭化物を含む、長軸約40cm、深さ約45cmの楕円形となる。共に柱穴となると考えられる。

〔周溝〕 住居跡南隅で若干弧状となる溝が一部残存しており、本来は住居の壁際床面にまわっていたものと推測している。幅約10cm、深さ5～7cmで断面「U」字形となる。隣接する小ピット群と同じ堆積土が堆積する。

〔その他の住居内施設〕特に確認できなかった。



SI-03出土遺物観察表

図版番号	出土状況・層位	口径	底径	高さ	外面	内面	備考	写真添付
13-1	SI-03pit3層土	-	-	(△3.0)	雲形文? (磨消縄文LR)	ミガキ	沈線・皿?	547
13-2	SI-03pit3層土	-	-	(△3.1)	小波状口縁、平行沈線4条	ミガキ、沈線	沈線・鉢	
13-3	SI-03pit3層土	-	-	(△6.4)	小波状口縁、沈線	ミガキ、沈線	沈線・鉢	
13-4	SI-03pit3層土	-	-	(△3.5)	口唇部刻み目、雲形の半波状文、LR	ミガキ	沈線・鉢	
13-5	SI-03pit3層土	-	-	(△2.7)	LR	ミガキ	沈線・鉢	
13-6	SI-03pit3層土	-	-	(△3.9)	羽状縄文(LR、RL)	磨消いミガキ	沈線・鉢	
13-7	SI-03pit3層土	-	-	(△3.8)	沈線、オサ	オサ	有彩資料	
13-8	SI-03pit3層土	径2.7×径3.0×厚0.5			羽状縄文(LR、RL)	オサ	円盤状土製品	548

第13図 SI-03と出土遺物

[出土遺物]

pit 3の堆積土中より縄文土器片、円盤状土製品が出土している。

1は磨消縄文(雲形文?)が施文される。2～3は頸部に平行沈線が施される。4は直線的な羊歯状文が施される。5、6は、地紋のみとなるもので、5は鉢形土器と考えられる。7は、沈線が1条施されており、台部破片と考えられる。8は羽状縄文が施される円盤状土製品である。

#### 【SI-04】(第14図)

〔位置〕 調査1区(W11~13 S3~N1)

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、地山上面

〔遺存状況〕 小ピット群で構成される礎柱穴と壁際にまわっていたと思われる周溝が、部分的に残存する。

〔重複関係〕 SI-03、SI-05、SK-01、SK-02、SK-03と住居跡の北・西側で重複関係にある。住居跡の南西の小ピット1基が、SI-05の壁面により切られているようであったが、ピットが小さいため関係を把握できなかった。その他の遺構とも関係は不明である。

〔包含層との関係〕 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古く、全体的に削平を受けたと見られ北に傾斜する斜面となる。

〔平面形・規模〕 残存する周溝および小ピット群のプランから、ほぼ円形を呈していたと推定され、規模は南北1.6m以上、東西1.5m以上となる。

〔堆積土〕 住居跡の北東側を中心に、堆積土1層(黒褐色10YR2/3の砂質シルト)が薄く部分的に自然堆積する。その上面は遺物包含層3B層で覆われる。

〔壁の状況〕 輪郭なども残存しておらず、確認できなかった。遺物包含層等により削平されたものと考えている。

〔床面の状況〕 小ピット群や周溝が地山面で確認されるため、地山面を床面としていたと考えられるが、範囲として確認できるまでに至らなかった。

〔炉〕 特に確認できなかった。

〔柱穴〕 壁際床面にまわっていたと思われる周溝の内側に沿う形で、小ピットを12基確認した。径10~15cm、深さ約3~15cmのやや不整な円形となるもので、約10~20cmの間隔で連続して並んでいる。全体に浅く、上面は遺物包含層等により削平されている可能性がある。地山ブロックを多く含む黒褐色砂質シルト(住居跡堆積土と同様のもの)が堆積するとともに、うち4基のピットで平面形円形・径5~8cm程度の柱痕跡(黒色シルト)を確認した。このためこの小ピット群は、壁柱穴となると考えている。主柱穴となりうるピットは確認できなかった。

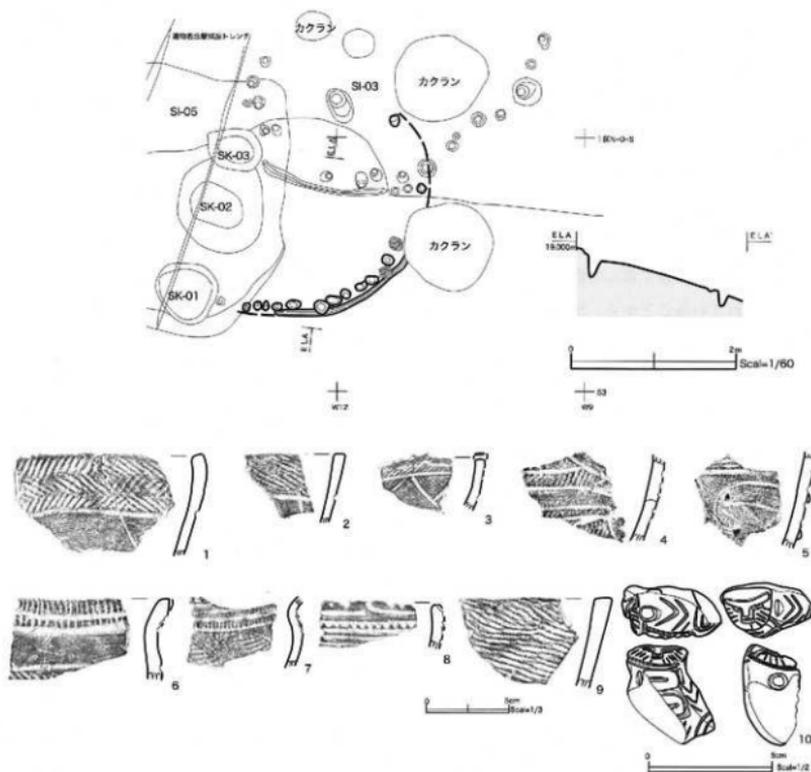
〔周溝〕 住居跡南隅に若干弧状となる溝が一部残存しており、本来は住居の壁際床面にまわっていたものと考えている。幅約10cmで、深さ8~10cmの断面「U」字形となる。隣接する小ピット群と同じ堆積土が堆積する。

〔その他の住居内施設〕 特に確認できなかった。

〔出土遺物〕

住居跡の上に薄く堆積する埋土中から、縄文土器片と岩偶が出土している。

1~5は沈線区画内に縄文施文するもので、5は粘土粒貼付が見られる。6、7は口縁部外面や頸部の沈線区画内に刻み目が充填されるものである。8は平行沈線間に刻み目が施される。9は地紋のみ施文される。10は砂岩系の石製品で逆三角形の人面をもつ。頸部に穿孔がなされることから、ペンダント様の装飾品と推定される。一部に砥理面がみられる。



SI-04 出土遺物整理表

図記番号	出土地区・層位	口径	底径	胎厚	外面	内面	備考	写真図版
14-1	SI-04埋藏土	-	-	(23.0)	花線区画内斜交縄文(LR, RL) 貼束	ミガキ	埋跡・跡	
14-2	SI-04埋藏土	-	-	(24.3)	花線区画内斜交	空のつ	埋跡・跡	
14-3	SI-04埋藏土	-	-	(25.3)	斜交縄文(LR, RL) 貼束	まのつ	埋跡・跡	
14-4	SI-04埋藏土	-	-	(25.5)	斜交縄文(LR, RL) 貼束	ミガキ	埋跡・跡	
14-5	SI-04埋藏土	-	-	(25.5)	斜交縄文(LR, RL) 貼束	ミガキ	埋跡・跡	54-9
14-6	SI-04埋藏土	-	-	(25.1)	花線区画内斜交	ミガキ	埋跡・跡	
14-7	SI-04埋藏土	-	-	(24.3)	平行花線区画内斜交	ミガキ	埋跡・跡	54-10
14-8	SI-04埋藏土	-	-	(25.8)	花線区画内斜交	ミガキ	埋跡・跡	
14-9	SI-04埋藏土	-	-	(25.6)	花線区画内斜交	ミガキ	埋跡・跡	
14-10	SI-04埋藏土	縦3.5×横2.0×厚2.5、19.6g			丸皿、胎部分平肌、胎面に上下600μm浮彫削門文	石母：ダイオキスト質頁岩	胎面付石製製品	54-29

第14図 SI-04と出土遺物

### [SI-05] (第15図)

[位置] 調査1区(W12~16, S3~N1)

[確認面] 遺物包含層3B層下、地山上面

[遺存状況] 北側と東側を遺物包含層等により削平され、約2/3のみ残存する。

[重複関係] 住居跡の東側でSI-03、SI-04、SK-01、SK-02、SK-03と、住居跡の西側でSI-06と重複関係にある。住居跡は、SI-03、SK-01、SK-02の堆積土上面を床面としており、これらより新しい。SK-

03とは、堆積土の層序関係からこれより古い。SI-06とは、堆積土の状況からこれより古い。SI-04との関係は不明である。

[包含層との関係] 住居跡の堆積土5層および上面に構築されるSI-06の床面が、遺物包含層3B層により覆われるため、これより古く、住居跡北側は削平を受けたと見られ北に傾斜する斜面となる。

[平面形・規模] 残存部分の平面形から、ほぼ円形を呈すると推定され、規模は南北3.1m以上、東西3.8m以上となる。

[堆積上] 堆積土3～6層の4層が堆積する。堆積土3～4層は、黒褐色粘土質シルトで、特に4層で地山ブロックを多く含んで固くしまっている状況が見られ、さらに4層上面でSI-06の床面および炉がつくられていることから、SI-06構築の際に人為的に整地した層と考えられる。堆積土5～6層は、地山ブロックを多く含む黒褐色シルトである。SI-06の平面プラン外と推定されるSPC-SPC'でも5層が確認でき、住居の壁崩落土を主体とした自然堆積土と考えられる。このため、SI-05は、住居壁の崩壊に伴う自然堆積がある期間すんだ後、人為的に整地が行われ、SI-06が構築されたものと考えられる。

[壁の状況] 残存部分では、地山面を壁とする。残存壁高は最大約60cmで、外傾して立ち上がる。

[床面の状況] ほとんどが地山面を床面とするが、住居跡北側では堆積土10層(遺物包含層4B層)上面、SI-03、SK-01、SK-02の堆積土上面を床面とする。地山面では、踏み締まり等は特に見られなかったが、この堆積土4B層の上面では、地山ブロックを多く含みしまりのある暗褐色シルト(堆積土7層)が部分的に薄くみられ貼り床が残存していたが、平面として確認できるまでには至らなかった。SI-03、SK-01、SK-02については、基本的に各遺構の堆積土の上面でしまりがみられたため、この上面を床面としてとらえた。床面は概ね平坦となるが、南北約14cm、東西約5cmの落差があり、北にやや傾斜している。

[戸] 特に確認できなかった。

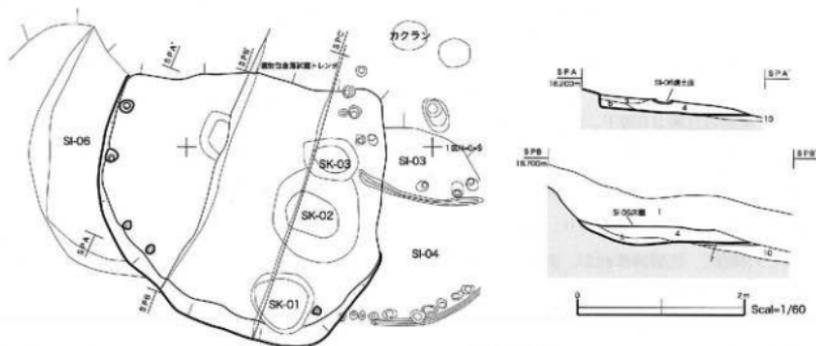
[柱穴] 壁際床面に小ピットを5基確認した。堆積土は、黒褐色シルトに地山ブロックをばけた状態で若干含んでおり、径10cm、深さ約3～10cmの円形となるもので、約20～40cmの間隔でまばらに並んでいる。壁柱穴となると考えられる。主柱穴となりうるピットは確認できなかった。

[周溝] 特に確認できなかった。

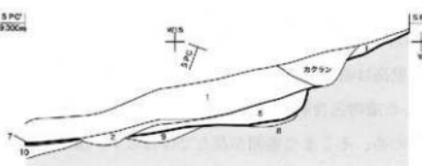
[その他の住居内施設] 特に確認できなかった。

[出土遺物]

床面からの遺物の出土はなく、主に堆積土1層下面と堆積土5層より縄文土器片が出土している。1は口縁部に渦巻き状の沈線文が施される。2～4は、口縁部または頸部の平行沈線間に刻み目を施すものである。5は地紋施文後、反転する平行沈線が描かれる。6、7は弧状の沈線区画内を羽状縄文で充填するもので、6は入組状文になると考えられる。8は口縁部に1条の平行沈線が施される。9～11は口縁～胴部上半に羊歯状文が施文されるもので、11は直線的な羊歯状文となる。12は平行沈線間に刻み目が施される。13は地紋のみ施文される。

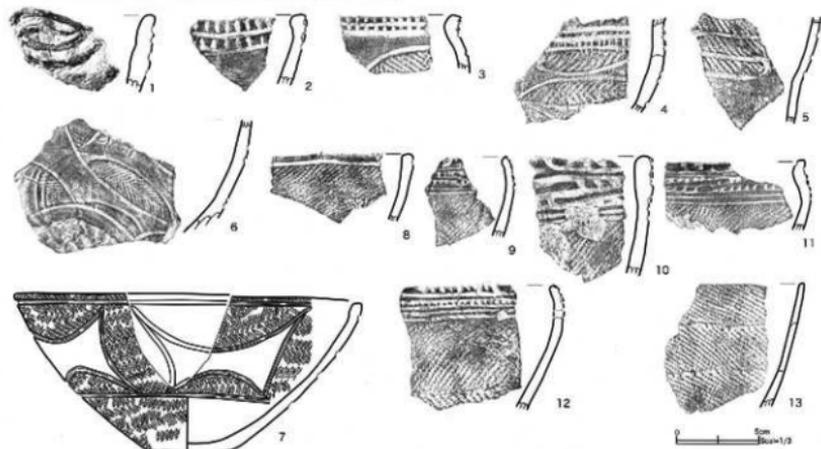


S.P.C.  
1/3300



SI-05セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR2/2黄褐色	シルト	建物台基層3区画
2	7.5YR2/3黄褐色	シルト	地土ブロック、焼土、炭の物を含む。SK-03埋積土。
3	7.5YR2/2黄褐色	粘土質シルト	焼土、炭化物を含む。SI-06の埋積土。
4	7.5YR3/2黄褐色	粘土質シルト	地土ブロックを多く含む。SI-06の埋積土。
5	10YR2/2黄褐色	シルト	地土ブロックを多く含む。
6	10YR2/2黄褐色	シルト	地土ブロックを多く含む。SI-05埋積土上。
7	10YR2/2黄褐色	シルト	地土ブロックを多く含む。かたしてま。SI-05埋積土。
8	7.5YR2/3黄褐色	シルト	地土ブロックを多く含む。SK-01埋積土。
9	7.5YR2/3黄褐色	粘土質シルト	地土ブロック、焼土、炭化物を多く含む。SK-02埋積土。
10	7.5YR3/3黄褐色	砂質シルト	建物台基層4区画



SI-05出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口径	径	高さ	外面	内面	備考	写真図版
15-1	SI-05埋積土	—	—	(△4.3)	黄褐色点状沈積文	ナシ	図録・鉢	
15-2	SI-06埋積土	—	—	(△4.4)	赤褐色内面無目	シガキ	図録・鉢	
15-3	SI-05埋積土	—	—	(△3.5)	平行沈線内面無目、充塞器前縁文(LH)	シガキ	図録・鉢	
15-4	SI-05埋積土	—	—	(△6.0)	平行沈線内面無目、充塞器前縁文(LH、RL)	シガキ	図録・鉢	
15-5	SI-05埋積土	—	—	(△5.8)	LH→反転平行沈線	シガキ	図録・鉢	
15-6	SI-05埋積土	—	—	(△4.8)	入瀬伏文、充塞器前縁文(LH、RL)	ナシ?	図録?	54-11
15-7	SI-05埋積土	26.8	5.0	9.7	赤褐色沈線文、器前縁沈線文(LH、RL)縦文	シガキ	図録・皿	54-13
15-8	SI-05埋積土	—	—	(△4.0)	LH→平行沈線	シガキ	図録・皿	
15-9	SI-05埋積土	—	—	(△5.0)	半面伏文、LH	シガキ	図録・鉢	
15-10	SI-05埋積土	—	—	(△4.2)	半面伏文、LH	シガキ	図録・鉢	
15-11	SI-05埋積土	—	—	(△4.2)	縦線約半面伏文、LH	シガキ	図録・鉢	54-12
15-12	SI-05埋積土	—	—	(△3.0)	平行沈線内面無目、赤褐色文(LH、RL)	シガキ	図録・鉢	
15-13	SI-05埋積土	—	—	(△3.0)	無	シガキ	図録・鉢	

第15図 SI-05と出土遺物

## 【SI-06】(第16図)

【位置】 調査1地区(W14~17、S2~N2)

【確認面】 遺物包含層3B層下、地山上面

【遺存状況】 北側と東側を遺物包含層等により削平され、約2/3のみ残存する。

【重複関係】 住居跡の東側でSI-05と重複関係にある。SI-05堆積土の状況から、SI-05を埋め戻して整地し、本住居跡床面を構築しており、これより新しい。

【包含層との関係】 住居跡床面が、直接遺物包含層3B層に覆われており、これより古く、住居跡北側は、削平を受けたと見られ北に傾斜する斜面となる。

【平面形・規模】 残存部分の平面形から、ほぼ円形を呈すると推定され、規模は南北1.8m以上、東西2.4m以上となる。

【堆積土】 住居跡全体が、直接遺物包含層3B層で覆われており、堆積土を確認できなかった。

【壁の状況】 残存部分では、地山面を壁とする。残存壁高は最大約40cmで、外傾して立ち上がる。

SI-05上面部分での壁面は、第一次調査開始時に実施した遺物包含層の試掘トレンチにより詳細不明である。SI-05セクション図(SPC-SPC')で確認できないため、そこまで範囲が及んではおらず、SI-05の堆積土等を壁面としていたと思われる。

【床面の状況】 地山面、SI-05堆積土3~5層上面を床面とする。特に4層では、地山ブロックを多く含んで固くしまっている状況が見られ、SI-05床面と堆積土10層上面を覆っているため、住居跡床面構築の際の整地層と考えられる。床面は、南北約6cm、東西約3cmの落差があるが、殆ど平坦に近い。

【か】 住居跡床面の中央部分やや南よりの堆積土4層上面で、簡易な石を配置した焼土面を1ヶ所確認した。径約40cm、深さ4cmの円形を呈する浅い凹みに焼け土が堆積し、その中央には炭化物が集中して見られた。礫3個が焼土面の北と西側を囲むように配置されており、石添炉もしくは簡易な石囲炉と考えられる。

【柱穴】 特に柱穴となるようなビット等は、確認できなかった。

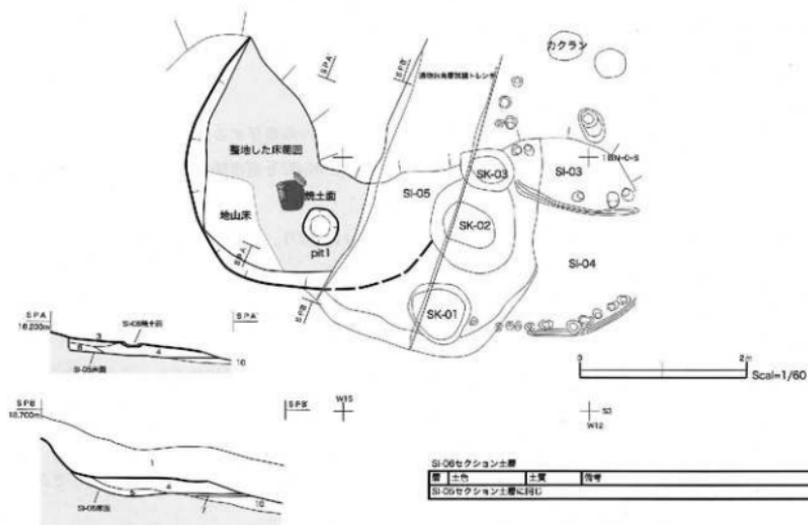
【周溝】 特に確認できなかった。

【その他の住居内施設】 炉の東南側に浅く掘り凹められた円形のpit I (径48cm、深さ約10cm)を1ヶ所確認している。地山ブロックを少量含む黒褐色シルトが堆積する。どのような性格となるのか等までは、特定に至らなかった。

### 【出土遺物】

堆積土1層の住居跡壁際、および炉内堆積土より縄文土器片が出土している。

1は沈線区画内に刻み目が施される。2は沈線区画内に縄文が施文される。3は地紋上に平行沈線を施すもので反転する平行沈線文となると考えられる。5は平行沈線間に刻み目が施される。6~7は地紋のみ施文されるもので、7はLR縄文の施文方向を変化させることで菱形文となる。8~12は炉内堆積土よりの出土である。8~11は沈線区画内を磨消または充填により縄文施文するもので、11には粘土粒貼付が見られる。12は地紋のみの施文となる。



SI-06 出土遺物総合表

図版番号	出土地区・層位	口径	底径	器高	外面	内面	備考	写真図版
16-1	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.6)	平行洗線刻み目	ヒガキ	深鉢・鉢	54-14
16-2	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.4)	沈線区画付	ナデ	深鉢・鉢	
16-3	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.2)	HL+平行洗線	ナデ	深鉢・鉢	
16-4	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.9)	突縁、沈線文、縦土粒施付	ヒガキ	浅鉢・皿	54-15
16-5	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.12.2)	平行洗線刻み目、LR	まめつ、炭化物付着	深鉢・鉢	54-16
16-6	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.4)	LR	ヒガキ	深鉢・鉢	
16-7	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.7)	LR (兼形文)	ヒガキ	深鉢・鉢	
16-8	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.0)	口部部粘土施付、口縁部埋積	ナデ	浅鉢・皿	
16-9	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.8)	磨面調文様	ヒガキ	深鉢・鉢	
16-10	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.7)	磨面調文様	ヒガキ	深鉢・鉢	
16-11	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.8)	沈線区画内充満磨面調文様、粘土粒施付	ナデ	深鉢・鉢	
16-12	SI-06埋部埋積土	—	—	(25.0)	LR?	ヒガキ	深鉢・鉢	

第16図 SI-06と出土遺物

## 【SI-07】(第17図)

〔位置〕 調査1区(W19~23、S2~N2)

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、地山上面

〔遺存状況〕 北側と東側を遺物包含層等により削平され、約2/3のみ残存する。

〔重複関係〕 住居跡の北側でSI-08と、東側でSI-09と、中央でSK-07と重複関係にある。いずれとも、堆積土の層序関係や切り合い状況等からこれより新しい。

〔包含層との関係〕 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われており、これより古く、住居跡北側は、削平を受けたと見られ北に傾斜する斜面となる。

〔平面形・規模〕 残存部分の平面形から、楕円形を呈すると推定され、規模は南北2.8m以上、東西3.6m以上となる。

〔堆積土〕 堆積土1~4層の4層が堆積する。全体的に炭化物を多く含む黒褐色のシルトで構成される。堆積土4層は、下方に地山ブロックを多く含むことから住居跡壁の崩落土を含んでいると考えられ、堆積の状況から自然堆積と考えられる。

〔壁の状況〕 残存部分では、地山面を壁とする。残存壁高は最大約30cmで、ゆるやかに外傾して立ち上がる。

〔床面の状況〕 地山面、遺物包含層4層(堆積土8層)、SI-08堆積土2層(第18図SPA-SPA')上面を床面とする。特に踏み跡まり等は確認できなかった。床面は概ね平坦となるが、南北約30cm、東西約6~8cmの落差があり、北に傾斜している。

〔炉〕 住居跡ほぼ中央と推定される部分の地山床面で、焼土面(堆積土5層)を1ヶ所確認した。粘土質シルトが明赤褐色に赤変化しており、60cm×40cmの不整な楕円形を呈し、約3cmの厚みをもつ。地床炉と考えられる。炉の北側では、炭化物、焼土のぼけたブロックを含む黒褐色砂質シルト(堆積土6、7層)が部分的に薄く堆積している状況が確認された。炉の構築もしくは機能時に堆積した層と考えられる。

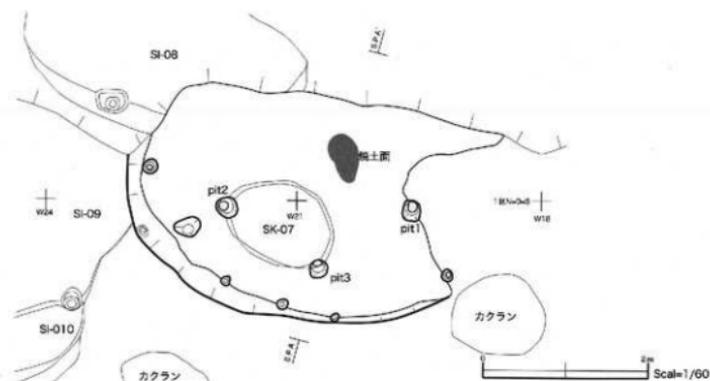
〔柱穴〕 住居跡中央やや南よりで、pit1、pit2、pit3を確認した。径約20cmの円形で、深さ8~10cmとなる。pit2、3は、SK-07と重複関係にあり、SK-07堆積土を切ってつくられている。堆積土はいずれも炭化物を含む暗褐色シルトを層方として、平面形円形となる黒褐色シルトの柱痕跡が確認でき、主柱穴と考えられる。また、住居跡壁際床面で小ピットを6基確認した。径約10cmの円形、深さ5~10cmとなるもので、うち1つだけは径30cmと大きい。堆積土は地山ブロックを多く含む褐色シルトで、約60~120cmの間隔をもってまばらにならんでおり、壁柱穴となると考えられる。

〔周溝〕 特に確認できなかった。

〔その他の住居内施設〕 特に確認できなかった。

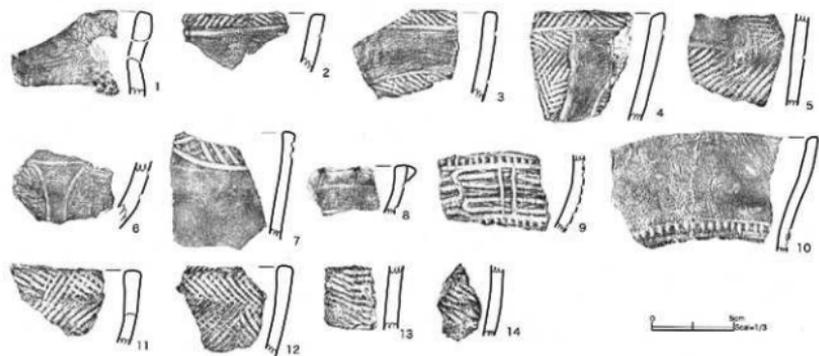
〔出土遺物〕

住居内堆積土、pit1より縄文土器片が出土している。1は突起下部に大きな穿孔が施される。2~6は沈線区画内に充填もしくは磨消縄文を施すものである。7は口縁下部の沈線区画内に縄文と斜位沈線が施される。8~10は沈線間に刻み目を施すものであるが、8は粘土粒貼付、9は反転する平行沈線が見られる。11~14は地紋のみ施文される。



SI-07セクション位置

層	土色	土質	備考
1	7.5YR3/2茶褐色	シルト	細山ブロックを多く、赤化帯をまばらに含む
2	7.5YR3/1黒褐色	シルト	赤化帯を含む
3	7.5YR3/2茶褐色	シルト	赤化帯、地土層を含む
4	10YR2/2黒褐色	シルト	細山ブロックを下方に多く含む
5	2.5YR5/0暗赤褐色	粘土質シルト	粘土
6	10Y3/1黒褐色	砂質シルト	灰化帯、粘土のばけたブロックを含む
7	7.5YR2/1黒褐色	シルト	灰化帯を含む
8	7.5YR2/1黒褐色	砂質シルト	遺物付土層4層



SI-07 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口縁	底縁	高さ	外面	内面	備考	写真版数
17-1	SI-07層位1	-	-	(△5.3)	ミガキ、穿孔	ミガキ	漆跡・跡	54-17
17-2	SI-07層位1	-	-	(△5.2)	浅窪区画内充積土	ミガキ	漆跡・跡	
17-3	SI-07層位1	-	-	(△5.1)	浅窪区画内充積土	ミガキ	赤いミガキ	
17-4	SI-07層位1	-	-	(△6.8)	充積層内朝杖織文(LR, RL)	ミガキ	漆跡・跡	
17-5	SI-07層位1	-	-	(△5.5)	朝杖織文(LR)	ナデ	漆跡・跡	
17-6	SI-07層位1 4層	-	-	(△4.2)	朝杖織文(LR?)	ナデ	漆跡・跡	
17-7	SI-07層位1 2層	-	-	(△5.7)	浅窪区画内LR、朝杖沈線	ミガキ	漆跡・跡	
17-8	SI-07層位1	-	-	(△5.2)	浅窪区画内見本品、粘土層粘付	ミガキ	沈線・目	
17-9	SI-07層位1	-	-	(△4.4)	灰胎平行沈線、縦位沈線、平行沈線間刻み目	ミガキ	漆跡・跡	54-18
17-10	SI-07層位1 4層	-	-	(△7.1)	平行沈線間刻み目	ナデ	漆跡・跡	54-19
17-11	SI-07層位1 2層	-	-	(△4.5)	LRSP?	ミガキ	漆跡・跡	
17-12	SI-07層位1 2層	-	-	(△5.2)	LRSP?	ナデ	漆跡・跡	
17-13	SI-07pit1層位1	-	-	(△4.0)	LR	ミガキ		
17-14	SI-07pit1層位1	-	-	(△4.4)	LR	ナデ		

第17図 SI-07と出土遺物

## 【SI-08】(第18図)

【位置】 調査1地区(W21~25、N1~4)

【確認面】 遺物包含層3B層下、4C層・地山上面

【遺存状況】 北側と東側を遺物包含層等により削平され、約1/2のみ残存する。

【重複関係】 住居跡南側でSI-07と重複関係にある。住居跡堆積土上面がSI-07床面となるため、これより古い。

【包含層との関係】 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われており、これより古い。

【平面形・規模】 残存部分の平面形から、隅丸方形ぎみの円形を呈すると推定され、規模は南北2.6m以上、東西3.8m以上となる。

【堆積土】 堆積土2層の1層のみ堆積する。黒褐色砂質シルトで、炭化物・焼土粒をやや多く含んでいる。堆積の状況などから自然堆積と考えられる。

【壁の状況】 残存部分では、主に堆積土5層を壁とするが、一部、5層下の地山面も壁面とする。残存壁高は最大約30cmで、外傾して立ち上がる。

【床面の状況】 主に堆積土5層(遺物包含層4C層)上面を床面とするが、一部、5層下の地山面も壁面とする。床上面では、焼土と炭化物を多く含む固くしまっている状況を確認した。床面は概ね平坦となるが、南北約20cm、東西約3~4cmの落差があり、北に傾斜している。

【炉】 住居跡ほぼ中央と推定される部分の堆積土5層上面で、焼土面(堆積土3層)を1ヶ所確認した。南北40cm×東西50cmの円形を呈する灰黄色の粘土(堆積土4層)の内側南より、明赤褐色で円形(径約30cm)となる赤変化した粘土が認められ、地床炉と考えられる。また、この堆積土4層は、下面がしまりのあまりない砂質シルト(堆積土5層)となるため、この炉に関連した貼り床等ではないかと思われる。

【柱穴】 住居跡の隙間となると考えられる部分で、径30cmほどの円形を呈するpit1~4を4基確認した。いずれも深さ5~10cmと浅いが、pit2~4で黒褐色~黒色砂質シルトの堆積土内に、柱痕跡と考えられる平面円形の黒褐色~黒色シルトが堆積するため、これら4基のピットは支柱穴と考えられる。そのほか、壁柱穴となりうる小ピット等は確認できなかった。

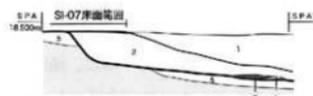
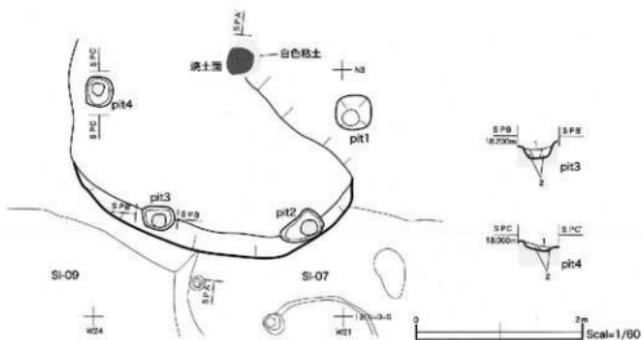
【周溝】 特に確認できなかった。

【その他の住居内施設】 特に確認できなかった。

【出土遺物】

堆積土2層中およびpit3埋土より、縄文土器片が出土している。

1は弧状の沈線区画内に充填磨消縄文が施文される。2は平行沈線間に粘土粒貼付が見られる。3~4は沈線区画内に羊歯状文や細かい刻み目が施される。5は無文の粗製土器である。外面にかいるミガキによる調整がなされる。6はpit3からの出上で、羊肉形状の雲形文が施文される。



SI-08セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR2/2灰褐色	シルト	遺物も含むS10層
2	10YR2/2灰褐色	砂質シルト	炭化物、炭土灰やややくまむ
3	2.5YR5/6暗赤褐色	粘土	雑物層4層が混入している。
4	2.5Y7/2灰黄色	粘土	白色粘土土層、地り層7
5	10YR2/7黄褐色	砂質シルト	遺物層最厚4C層

SI-08pit4セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR2/2灰褐色	砂質シルト	褐色粘土10YR4/60もブロック状の含む。雑物層
2	10YR2/1黄褐色	シルト	掘方遺土

SI-08Ppit4セクション土層

層	土色	土質	備考
1	2.5Y2/1灰色	シルト	柱頭部
2	10YR3/2黄褐色	砂質シルト	10YR3/40の砂質シルトブロックを含む。掘方遺土



SI-08 出土遺物観形表

図録番号	出土地区・調査	口徑	底径	高さ	外径	内径	備考	写真図版
18-1	SI-08塚頂土2層	-	-	(25.4.7)	宛取部消滅文LR		ナブ	図録・図
18-2	SI-08塚頂土2層	-	-	(18.3.9)	平行沈線、転写痕新付		ミガキ	図録・図
18-3	SI-08塚頂土2層	-	-	(25.4.5)	縦線約半周状文、LR		ミガキ	図録・図
18-4	SI-08塚頂土2層	-	-	(19.6.1)	平行沈線間隔不目、羽状文(LR、LR)		ミガキ	図録・図
18-5	SI-08塚頂土2層	-	-	(25.7.2)	かみいミガキ		ミガキ	図録・図
18-6	SI-08pit3地上	-	-	(19.4.12)	半周縦状線形文、LR		ミガキ	図録・図

第18図 SI-08と出土遺物

## 【SI-09】(第19,20図)

〔位置〕 調査1区(W23~29、S2~N2)

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、4C層・地山上面

〔遺存状況〕 北側と東側を遺物包含層等により削平され、約1/2のみ残存する。

〔重複関係〕 住居跡の東側でSI-07と、南側でSI-10、SK-08と重複関係にある。遺構の層序や切り合いの状況から、SI-07、SI-10より古く、SK-08より新しい。

〔包含層との関係〕 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われており、これより古い。

〔平面形・規模〕 残存部分の平面形から、楕円形を呈すると推定され、規模は南北2.8m以上、東西6.2m以上となる。

〔堆積土〕 堆積土6~7層の2層が堆積する。黒褐色シルトで炭化物粒を含み、特に堆積土6層上面は、SI-10の床面となる。堆積の状況などから自然堆積と考えられる。

〔壁の状況〕 残存部分では、地山面を壁とする。残存壁高は最大約20cmで、ほぼ直立する。

〔床面の状況〕 地山面、堆積土12層上面を床面とする。床面となる堆積土12層上面の一部に、地山ブロックが固くしめる層(堆積土9層)が、炉のまわりで薄く不整形に分布している状況が確認でき、貼り床がつくられていたと考えられる。床面は概ね平坦となるが、南北約40cm、東西約20~30cmの落差があり、北と東にやや傾斜している。

〔炉〕 住居跡のほぼ中央と推定される部分の貼り床(堆積土9層)上面で、焼土面(堆積土8層)を1ヶ所確認した。南北60cm×東西40cmで円形に粘上質シルトが明赤褐色に赤変化しており、地床炉と考えられる。

〔柱穴〕 住居跡の<sup>が</sup>と壁面の中間の床面で、径30~40cmほどのピットを4基確認した。pit1~3では、黒褐色シルト堆積内に平面円形の黒褐色シルトもしくは砂質シルトが見られ、柱痕跡をもつ柱穴と考えられる。またpit4は、堆積層内に地山ブロックが多く見られ自然堆積となるが、深さ60cmとなり、pit1~3と同様に柱穴と考えられる。また、住居跡壁際床面で、径15cmほどの円形の小ピットを3基確認した。不定な間隔でまばらに配されるが、いずれも地山ブロックを含む黒褐色砂質シルトが堆積する。壁柱穴と考えられる。

〔周溝〕 特に確認できなかった。

〔その他の住居内施設〕 特に確認できなかった。

### 〔出土遺物〕

住居跡堆積土、pit4堆積土より縄文土器片が出土している(第20図1~10)。

1は弧状の粘土紐隆帯区画内にRL縄文を施すもので、隆帯上に刺突が施される。2、3は平行沈線区画内に刻み目を施すもので、その下部には縄文が施文される。4は沈線区画内に羽状縄文が施文される。形態から壺もしくは屈折する深鉢形土器の肩部と考えられる。5は沈線文が施される。6、7は地紋のみの施文となる。8~10はpit4からの出土である。8は横位粘土紐隆帯上に刺突が施される。9は平行沈線区画内に刻み目を施すものである。10は地紋のみとなる。

## 【SI-10】(第19,20図)

【位置】 調査1地区(W23～26、S1～3)

【確認面】 遺物包含層3B層下、地山上面

【遺存状況】 北側を遺物包含層等により削平され、約1/2のみ残存する。

【重複関係】 住居跡の北側でSI-09と、西側でSK-08と重複関係にある。遺構の層序や切り合いの状況等から、これらより新しい。

【包含層との関係】 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われており、これより古い。

【平面形・規模】 残存部分の平面形から、隅丸方形ぎみの円形を呈すると推定され、規模は南北2.6m以上、東西3.8m以上となる。

【堆積土】 堆積土3～5層の3層が堆積する。いずれも黒褐色のシルトで構成される。3～4層で焼土粒が多く見られ、5層で住居壁の崩落土と思われる地山粒が多く含まれる。堆積の状況などから自然堆積と考えられる。

【壁の状況】 残存部分では、地山面を壁とする。残存壁高は最大約30cmで、外傾して立ち上がる。特に住居跡南側で壁面が大きく崩落し、斜面となっていた。

【床面の状況】 地山面、SI-09堆積土6層上面を床面とする。特に踏みしまり等は確認できなかった。床面は概ね平坦となるが、南北約10cm、東西約3～5cmの落差があり、北東にやや傾斜している。

【炉】 特に確認できなかった。

【柱穴】 特に確認できなかった。

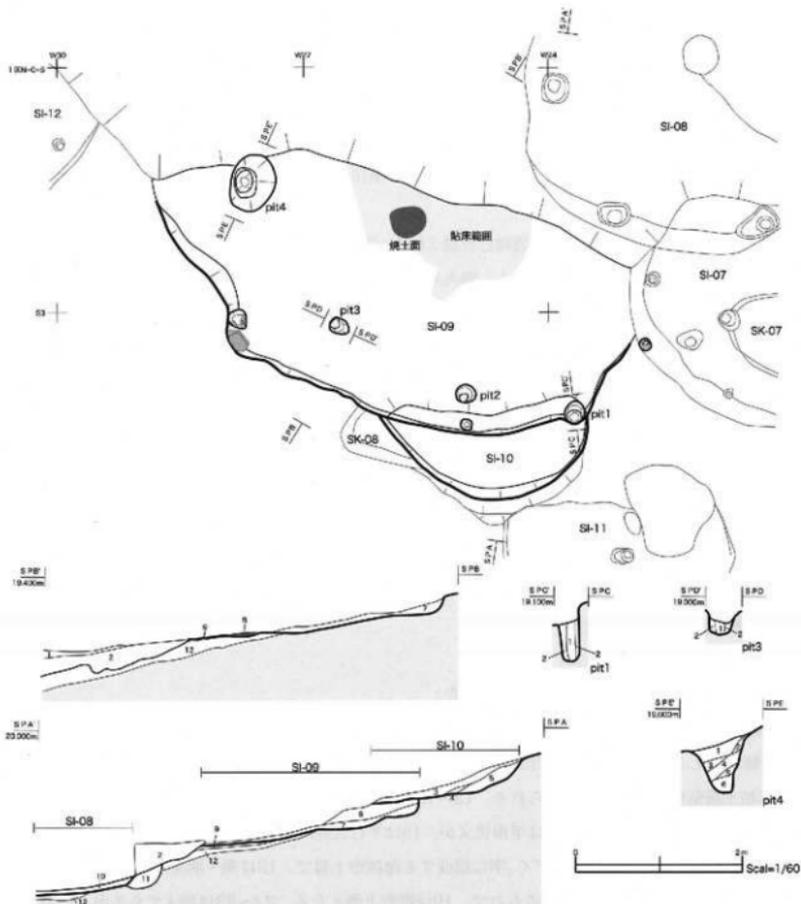
【周溝】 特に確認できなかった。

【その他の住居内施設】 特に確認できなかった。

### 【出土遺物】

住居跡堆積土より縄文土器片が出土している(第20図11～23)。

11は粘土紐貼付による隆帯が見られる。12～13は平行沈線区画内に刻み目を施すもので、13では、縦位の羽状縄文が施文される。14は半歯状文が、15は平行沈線間に刻み目が施される。16は平滑な雲形文と思われる。17、18は頸部が「く」字に屈曲する深鉢形土器で、18は頸～胴部間に平行沈線が1条巡る。19～21は地紋のみ施文されるもので、19は壺形土器となる。22～23は無文であるが、22は歯状工具による痕跡が見られる。



SI-09・SI-10セクション主要

層	土色	土質	備考
1	10YR2/1赤色	シルト	基層気合層2A層
2	10YR2/2黄褐色	シルト	基層気合層3B層
3	10YR2/3黄褐色	シルト	酸化物に、底土を若干含む。SI-10層積上
4	10YR2/3黄褐色	シルト	底土を多量に含む。SI-10層積上
5	10YR2/2黄褐色	シルト	火山灰を多く含む。SI-10層積上
6	10YR2/3黄褐色	シルト	酸化物に若干含む。SI-09層積上
7	10YR2/2黄褐色	シルト	酸化物に、底土を若干含む。SI-09層積上
8	2.5YR3/8赤褐色	粘土質シルト	粘土
9	10YR/10黄褐色	粘土質シルト	火山灰ブロック状にたたくしめる。SI-09層積上
10	10YR2/2黄褐色	砂質シルト	SI-09層積上
11	10YR2/2黄褐色	砂質シルト	1層粘土質土のブロックを含む。上層?
12	10YR3/3黄褐色	砂質シルト	塊状気合層4C層

SI-09/pit1セクション主要

層	土色	土質	備考
1	10YR2/2黄褐色	砂質シルト	しまりなし。柱状節
2	10YR2/3黄褐色	シルト	火山ブロックを多く含む。塊状粘土

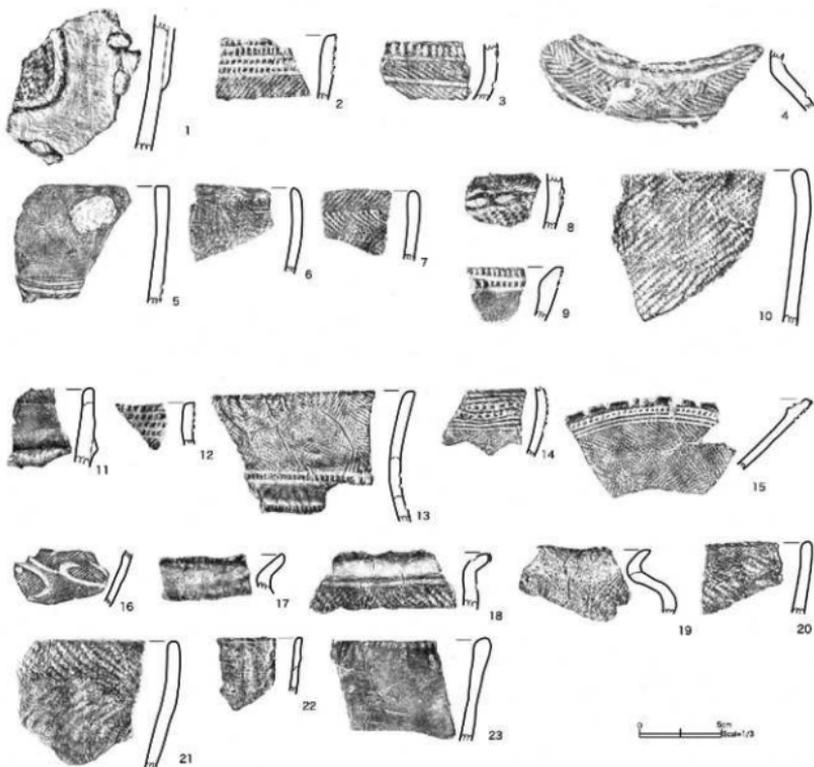
SI-09/pit3セクション主要

層	土色	土質	備考
1	7.5YR3/2黄褐色	シルト	粘土ブロックを少量含む。柱状節
2	10YR2/3黄褐色	シルト	火山ブロックを含む。塊状粘土

SI-09/pit4セクション主要

層	土色	土質	備考
1	5YR2/1黄褐色	シルト	赤褐色。縦を含む
2	5YR2/2黄褐色	シルト	火山ブロックを多く含む
3	7.5YR2/1黄褐色	シルト	赤褐色を含む
4	10YR3/2黄褐色	シルト	粘土ブロックを多量に含む
5	10YR3/2黄褐色	シルト	火山ブロックを多く含む
6	10YR2/2黄褐色	シルト	火山ブロックを多量に含む

第19図 SI-09,SI-10



SI-09 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口徑	底徑	胎高	外形	内面	備考	写真図版
20-1	SI-09層積土	-	-	△8.3	瓢状罐形、真突、RL	ナデ?	図録・鉢	54-20
20-2	SI-09層積土	-	-	△4.1	平行沈線刻目、LR	ナデ	図録・鉢	
20-3	SI-09層積土	-	-	△3.6	平行沈線、真目、RL	ミガキ	図録・鉢	
20-4	SI-09層積土	-	-	△4.2	花崗面内角状刻文(RL、LJ)	指押花痕	図録・鉢	
20-5	SI-09層積土	-	-	△7.9	平行沈線、ミガキ	ミガキ	図録・鉢	
20-6	SI-09層積土	-	-	△3.1	RL?	からいミガキ	図録・鉢	
20-7	SI-09層積土	-	-	△4.9	羽状刻文(LR、RL)	ナデ	図録・鉢	
20-8	SI-09p4層積土	-	-	△3.5	柱状刻文、側突、RL	まめつ	図録・鉢	
20-9	SI-09p4層積土	-	-	△3.9	平行沈線刻目	ミガキ	図録・鉢	
20-10	SI-09p4層積土	-	-	△9.3	LR	からいミガキ	図録・鉢	

SI-10 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口徑	底徑	胎高	外形	内面	備考	写真図版
20-11	SI-10層積土	-	-	△4.9	柱状刻文	ナデ	図録・鉢	
20-12	SI-10層積土	-	-	△2.5	平行沈線刻目	まめつ	図録・鉢	
20-13	SI-10層積土	-	-	△8.1	縦位羽状刻文(LR、RL)、平行沈線刻目	ミガキ	図録・鉢	54-21
20-14	SI-10層積土	-	-	△4.0	半線刻文、LR	ナデ	図録・鉢	54-22
20-15	SI-10層積土	-	-	△4.3	平行沈線刻目、羽状刻文(RL、LJ)	平行沈線刻目、ミガキ	図録・皿	54-23
20-16	SI-10層積土	-	-	△3.6	斜線文?、LR	ミガキ		
20-17	SI-10層積土	-	-	△2.6	ナデ?	ナデ?	図録・鉢	
20-18	SI-10層積土	-	-	△3.6	平行沈線、RL?	花崗、ミガキ	図録・鉢	
20-19	SI-10層積土	-	-	△4.0	LR?	ナデ	皿	
20-20	SI-10層積土	-	-	△4.5	RL	ミガキ	図録・鉢	
20-21	SI-10層積土	-	-	△8.0	羽状刻文(LR、RL)	ナデ	図録・鉢	
20-22	SI-10層積土	-	-	△3.4	斜線状工具による刻線	ミガキ?	図録・鉢	
20-23	SI-10層積土	-	-	△8.2	ミガキ	ミガキ?	図録・鉢	

第20図 SI-09,SI-10出土遺物

## 【SI-11】(第21図)

〔位置〕 調査1区(W22~25, S4~5)

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、地山上面

〔遺存状況〕 北側を遺物包含層等により削平され、約2/3のみ残存する。

〔重複関係〕 南側でSK-05、SK-06と重複関係にある。切合いの状況等から、これらより古い。また、SI-10南側に隣接するが、詳細は確認できなかった。

〔包含層との関係〕 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われており、これより古い。

〔平面形・規模〕 残存部分の平面形から、円形を呈すると推定され、規模は南北2.0m以上、東西2.8m以上となる。

〔堆積土〕 堆積土1~2層の2層が堆積する。いずれも暗~黒褐色のシルトで構成されており、堆積土1層は壁際に、2層は住居跡中央に薄く堆積する。堆積の状況などから自然堆積と考えられる。

〔壁の状況〕 残存部分では、地山面を壁とする。残存壁高は最大約10cmで、外傾して立ち上がる。

〔床面の状況〕 地山面を床面とする。特に踏みしまり等は確認できなかった。床面は概ね平坦となるが、南北約20cm、東西約15cmの落差があり、北東に傾斜している。

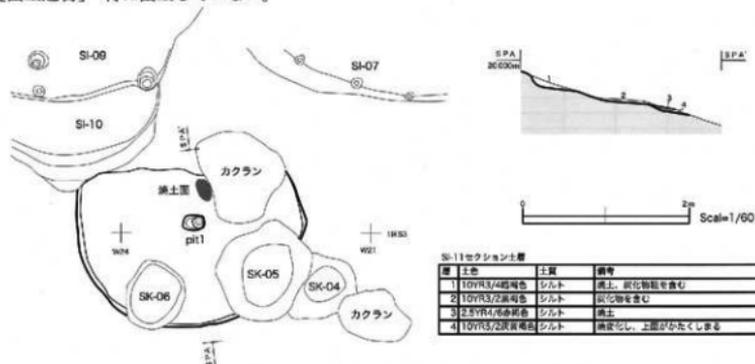
〔炉〕 住居跡の中央やや北側の地山上面で、焼土面(堆積土3層)を1ヶ所確認した。南北30cm×東西20cmで楕円形を呈する灰黄褐色シルト(堆積土4層)の上面で、赤褐色シルトがほぼ円形(径約20cm)に堆積しており、堆積土4層の上面は焼変化し固くしまる。地床炉と考えられる。

〔柱穴〕 住居跡中央と推定される部分で、pit 1を確認した。径20cm、深さ9cmの円形となるもので、地山ブロックを多く含む褐灰色シルトを堆積土として、内部に平面形円形(径約10cm)となる炭化物を若干ふくんだ黒褐色シルトを柱痕跡として確認でき、柱穴と考えられる。その他の小ピット等は特に確認できなかった。

〔周溝〕 特に確認できなかった。

〔その他の住居内施設〕 特に確認できなかった。

〔出土遺物〕 特に出土していない。



第21図 SI-11

## 【SI-12】(第22図)

〔位置〕 調査1区(W29～33、N1～3)

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、地山上面

〔遺存状況〕 北側を遺物包含層等により削平され、約1/2のみ残存する。

〔重複関係〕 特に重複関係にない。

〔包含層との関係〕 住居跡堆積土が遺物包含層3B層に覆われており、これより古い。

〔平面形・規模〕 残存部分の平面形から、円形を呈すると推定され、規模は南北2.3m以上、東西3.8m以上となる。

〔堆積土〕 堆積土1～2層の2層が堆積する。炭化物粒を含む黒褐色砂質シルトもしくはシルトで構成される。堆積の状況などから自然堆積と考えられる。

〔壁の状況〕 残存部分では地山面を壁とし、残存壁高は最大約30cmで、外傾して立ち上がる。住居跡南西側などで、地山内に比較的大きな礫が含まれている。

〔床面の状況〕 地山面、堆積土4層(遺物包含層4F層)上面を床面とする。特に踏みしまり等は確認できなかった。床面は概ね平坦となるが、南北約25cm、東西約10cmの落差があり、北東に傾斜している。

〔炉〕 住居跡のほぼ中央と推定される部分の堆積土4層(遺物包含層4層)上面で、焼土面を1ヶ所確認した。明赤褐色のシルトが、南北60cm×東西40cmで若干楕円形を呈して堆積しており、地床炉と考えられる。

〔柱穴〕 住居跡喫煙床面から約20cmほど内側で、小ピットを6基礎確認した。径10～15cm、深さ約5～10cmの円形となるもので、約20～60cmの間隔でまばらに並んでいる。炭化物を若干含む褐色のシルトが堆積しており、壁柱穴となると考えられる。その他、主柱となりうるピット等は確認できなかった。

〔周溝〕 特に確認できなかった。

〔その他の住居内施設〕 特に確認できなかった。

〔出土遺物〕

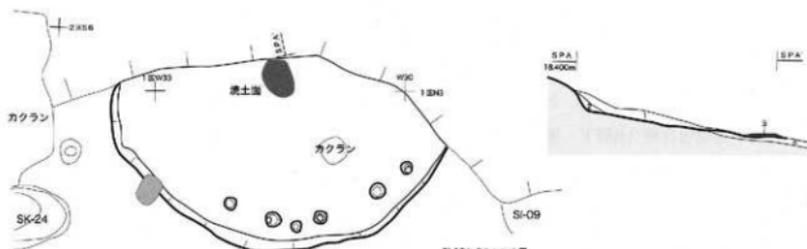
住居跡堆積土より縄文土器片が出土している。

1は、口縁部下と頸部に沈線が巡る突起をもつ壺形土器片である。2、3は沈線区画内に刻み目が施文される。4～6は沈線区画内に磨消縄文が施される。6は下部で大きく屈曲しており、壺形土器と考えられる。7は頂部を二分する大小の山形突起を配するもので、胴部には2条1組の沈線文上に粘土粒の貼付が見られる。8は平行沈線間に刻み目が、9～11は直線的な羊歯状文が施文される。12、13は地紋のみの施文となる。15は無文となる。14、16は底部破片で、16には網代痕が残る。

## 【SI-13】(第23図)

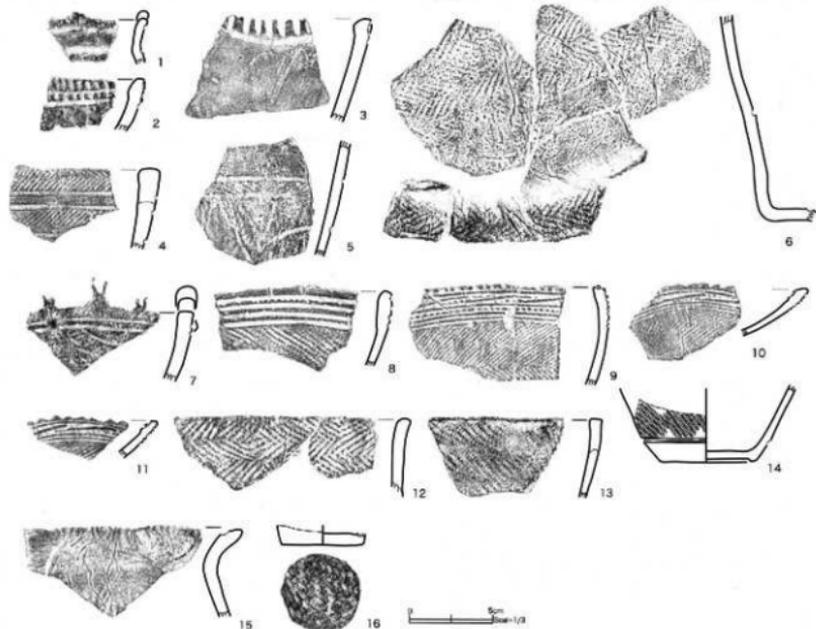
〔位置〕 調査2区(W=0=E～W6、S6～10)

〔確認面〕 遺物包含層3II層下、地山上面



SI-12セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR2/3灰褐色	砂質シルト	黄土、絞り物粒を含む
2	7.5YR3/2灰褐色	シルト	絞り物粒、結晶粒、磁石を含む
3	2.5YR5/5暗赤色	シルト	黄土
4	7.5YR3/3暗赤色	砂質シルト	遺物を含む層4F層



SI-12 出土遺物表

図録番号	出土地所・層位	口徑	底徑	高さ	外観	内面	備考	写真図版
12-1	SI-12層黄土	—	—	φ5.30	突起、平行波線	まめつ	七	
12-2	SI-12層黄土	—	—	φ5.30	波線区画内刻み目	七字等	波線・線	
12-3	SI-12層黄土	—	—	φ5.50	波線区画内刻み目	七字等	波線・線	
12-4	SI-12層黄土	—	—	φ5.00	平行波線区画内刻み目	十字	波線・線	
12-5	SI-12層黄土	—	—	φ5.70	波線区画内刻み目	十字	波線・線	
12-6	SI-12層黄土	—	—	φ5.12.60	波線区画内目状波文 (LR, RL)	十字	波線・線	
12-7	SI-12層黄土	—	—	φ5.80	山形突起二分、大小、波線文、結晶点付	十字	波線・線	54-24
12-8	SI-12層黄土	—	—	φ5.100	平行波線区画内刻み目、RL	七字等	波線・線	
12-9	SI-12層黄土	—	—	φ5.60	波線区画内目状波文、波状波文(LR, RL)	七字等	波線・線	54-25
12-10	SI-12層黄土	—	—	φ5.40	波線区画内目状波文、LR	七字等	波線・線	
12-11	SI-12層黄土	—	—	φ5.20	波線区画内目状波文、LR	七字等	波線・線	
12-12	SI-12層黄土	—	—	φ5.40	(I和)波線文?	七字等	波線・線	
12-13	SI-12層黄土	—	—	φ5.00	RL	七字等	波線・線	
12-14	SI-12層黄土	—	5.6	φ4.3	平行波線、RL	七字等	波線・線	
12-15	SI-12層黄土	—	—	φ5.30	十字	七字等?	波線・線	
12-16	SI-12層黄土	—	4.9	φ1.2	七字等	不明	波線・線	現代製

第22図 SI-12と出土遺物

[遺存状況] 北側を遺物包含層等により削平され、約1/2のみ残存する。

[重複] 特に重複関係にない。

[包含層との関係] 住居跡堆積土が遺物包含層3H層に覆われており、これより古い。

[平面形・規模] 残存部分の平面形から、楕円形を呈すると推定され、規模は南北2.5m以上、東西4.3m以上となる。

[堆積土] 堆積土2～9層の8層が堆積する。堆積土上層となる2層、住居跡全体に堆積する3層は炭化物を含む暗～黒褐色シルトで構成され、壁際での堆積土4～9層は基本的に地山ブロックを含む暗～黒褐色粘土質シルトで構成される。この4～9層は住居跡壁の崩落土等と見られ、全体に堆積の状況等から自然堆積と考えられる。また堆積土上層には、大きな礫が含まれており、転石したものと考えられる。

[壁の状況] 残存部分では、地山面を壁とする。残存壁高は最大約40cmで、基本的にほぼ直立して立ち上がるが、住居跡南東側の壁では、若干オーバーハングしている状況にあった。また、住居跡南側では壁面が大きく崩落している。

[床面の状況] 地山面、堆積土10層(遺物包含層4F層)上面を床面とする。床面は概ね平坦となるが、南北約10cm、東西約2～3cmの落差があり、北にやや傾斜している。また、炉の南側でごく浅い凹みを確認した。

[炉] 住居跡のほぼ中央となると推定される地山上面で、焼土面を1ヶ所確認した。南北60cm×東西50cmで不整な楕円形を呈し、厚さ約7cmの明赤褐色シルトが堆積しており、地床炉と考えられる。

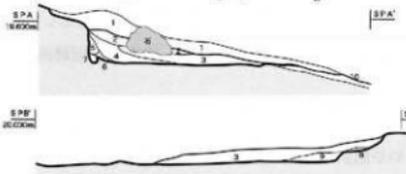
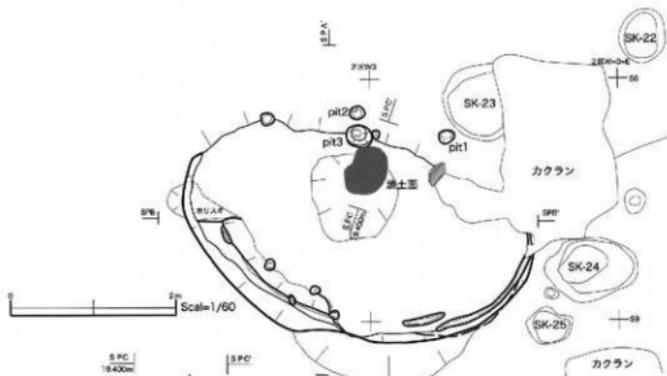
[柱穴] 炉の北側部分となる堆積土10層上面でpit1～3を、その他壁際等で径10cmほどで円形となる小ピット4基を確認した。いずれも黒褐色粘土質シルト(堆積土7層と同様のもの)が堆積しており、特にpit1～3は約15～20cmの深さをもつ。柱穴となると考えられる。

[周溝] 住居跡壁際床面の南東部分と南西部分で、部分的な溝を確認した。いずれも黒褐色粘土質シルト(堆積土7層)が堆積する。南東側の溝は幅約8cm、深さ3cmとなり、壁際床面に沿って弧状につくられている。南西側の溝は、溝というより壁際床面の内側となる地山面を山状にしたまま残し、その間に断面「V」字状の溝となることを確認した。この山状となる部分からの深さは約0～4cm、幅約8cmで、住居跡の西側になるほど浅くなり、住居西側では高さ10cmほどの台状となる。しかし、住居跡西北部分では、一部掘り過ぎてしまい詳細を確認できなかった。

[その他の住居内施設] 特に確認できなかった。

[出土遺物] 住居跡堆積土、pit1堆積土より縄文土器片、土製品、石器が出土している。

1は沈線区画内に縄文が施文され粘土粒貼付がなされる。2は捺糸文Lに沈線文が施文される。3、4は平行沈線区画内に充填または磨消縄文が施される。5は平行沈線区画内に刻み目を下→上方向で充填し、縦位の弧状沈線により反転する平行沈線を施文する。7は頸部に粘土粒貼付けがみられ、体部は細かいLR縄文が施文される壺形土器である。8はpit1からの出土で、頂部を二分する山形突起を配する。9は平行沈線区画内に刻み目を施すもので、台付浅鉢形土器と考えられ内面に赤彩痕跡が若干残る。10は下部に重円の沈線を描くもので、スタンプ状土製品と考えられる。11は有茎形の石鏃である。先端部を欠損している。

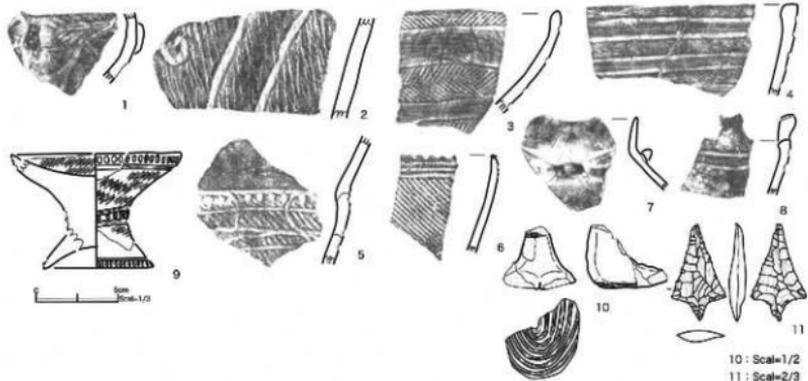


SI-13セクション土層

層	土名	土質	備考
1	0YR2/3腐褐色	シルト	遺物密集層3+4層
2	0YR3/3腐褐色	シルト	炭化物、骨片類、陶片類を多く含む
3	0YR3/1腐褐色	シルト	炭化物を多く含む
4	0YR3/3暗褐色	粘土質シルト	燧山ブロックを多く含む
5	0YR3/2暗褐色	粘土質シルト	燧山ブロックを多く含む。燧山層土
6	0YR3/1暗褐色	粘土質シルト	燧山土4層に同じだが、燧山ブロックが散見されない。
7	0YR4/4腐黄褐色	粘土質シルト	燧山土、燧山層土
8	0YR2/1暗褐色	粘土質シルト	燧山ブロックを含む
9	0YR2/3腐褐色	粘土質シルト	燧山ブロックを多く含む
10	0YR4/2腐黄褐色	砂質シルト	遺物密集層4層だが、ほぼ燧山層層位に近い

S-13Bセクション土層

層	土名	土質	備考
1	Z5YR5/6暗赤褐色	シルト	燧土。炭化物を多量に含む



SI-13 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・調査口径	形状	高さ	外径	内径	備考	写真図版	
23-1	SI-13塚内土9層	-	(△4.4)	浅羅文、RI、塚土粒附存	ナギ	浅鉢?		
23-2	SI-13塚内土9層	-	(△8.1)	浅羅文?、腹筋状施、徳水文	ミガキ	浅鉢・鉢		
23-3	SI-13塚内土	-	(△7.3)	平行浅羅周縁横筋高羽状羅文 (LR, RI)	ミガキ	浅鉢・鉢		
23-4	SI-13塚内土3層	-	(△5.6)	平行浅羅周縁消滅羅文	ミガキ	浅鉢・鉢		
23-5	SI-13塚内土9層	-	(△7.3)	平行浅羅周縁目目、反筋平行浅羅、RI	ミガキ、炭化物付着	浅鉢・鉢		
23-6	SI-13塚内土	-	(△8.0)	平行浅羅、羽状羅文 (RI, LR)	ミガキ、炭化物付着	浅鉢・鉢		
23-7	SI-13塚内土	-	(△4.1)	粗土粒・粘粉付、LR、口縁部指面さえ	ナギ	碗		
23-8	SI-13pit1	-	(△5.0)	山形突起(二分)、浅羅、まのつ	ミガキ	浅鉢・鉢		
23-9	SI-13塚内土3層	10.1	6.3	7.0	平行浅羅区画内刻目筋、LR	LR、内面赤彩	台形浅鉢	04-26
23-10	SI-13塚内土9層	縦2.5×横3.2×厚3.3				種類：スタンツク土製品?		04-27
23-11	SI-13塚内土	縦3.9×横2.2×厚0.5、2.1g				種類：石鏝、有蓋 石材：貝殻		04-28

第23図 SI-13と出土遺物

## 土壌

### 【SK-01】(第24図)

【位置】 調査1区S1～S3、W13～W15

【確認面】 SI-05堆積土下、地山上面

【重複関係】 SI-05と重複関係にある。本土壌の堆積土上面をSI-05床面としており、これより古い。

【包含層との関係】 上面のSI-05が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層との関係は不明である。

【規模・平面形・断面形】 上面径70～80cm、底面径60～70cmで、深さ3～5cmの浅い不整な円形となる土壌である。底面は北に傾斜するが平坦で、壁面は緩やかに立ちあがる。

【堆積土】 地山ブロックをばけた状態で含む黒褐色シルト(堆積土5層)が1層堆積する。堆積土の上面でしまりがみられ、この上面をSI-05床面としてとらえている。

【出土遺物】 特に出土していない。

### 【SK-02】(第24図)

【位置】 調査1区S0～S2、W12～W14

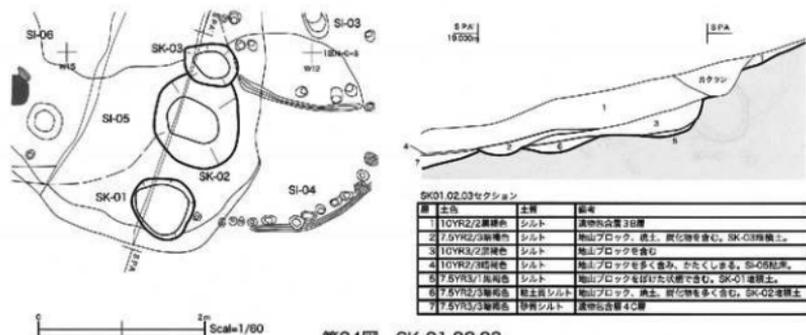
【確認面】 SI-05堆積土下、地山上面

【重複関係】 SI-05、SK-03と重複関係にある。本土壌の堆積土上面をSI-05床面としており、これより古い。SK-03は本土壌の北側を切っており、これより新しい。

【包含層との関係】 上面のSI-05が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層との関係は不明である。

【規模・平面形・断面形】 上面径110cm、底面60×50cm、深さ10cmのやや歪んだ円形となる土壌である。底面および壁面は、北に傾斜する浅い楕円状となる。

【堆積土】 地山ブロック、焼土、炭化物を多く含む暗褐色粘土質シルト(堆積土6層)が1層堆積する。堆積土の上面でしまりがみられ、この上面をSI-05床面としてとらえている。



第24図 SK-01,02,03

〔出土遺物〕 特に出土していない。

### 〔SK-03〕(第24図)

〔位置〕 調査1区N1～S1、W12～W14

〔確認面〕 遺物包含層3層下、SI-05堆積土上面

〔重複関係〕 SI-05、SK-02と重複関係にある。SI-05、SK-02の堆積土、住居跡床面もしくは土壁壁面を切って掘り込みしており、これより新しい。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層とは、重複関係にあるSI-05が4層より新しいため、これより新しい。

〔規模・平面形・断面形〕 上面70×50cm、底面45×40cm、深さ8cmの楕円形となる土壌である。

底面および壁面は、北に傾斜する浅い楕円状となる。

〔堆積土〕 地山ブロック、焼土、炭化物を含む暗褐色シルト(堆積土2層)が1層堆積する。

〔出土遺物〕 特に出土していない。

### 〔SK-04〕(第25図)

〔位置〕 調査1区S3～S5、W21～W22

〔確認面〕 遺物包含層3B層下、地山上面

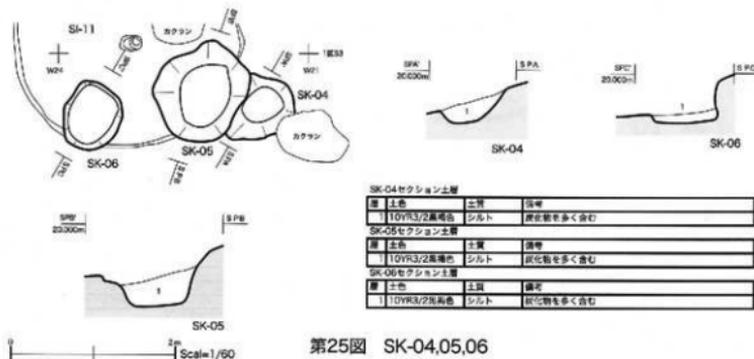
〔重複関係〕 西側でSK-05と重複関係にある。堆積土の切合いの状況等から、これより古い。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層との関係は不明である。

〔規模・平面形・断面形〕 西側をSK-05、東側を攪乱によって失われており、一部不明な部分があるが上面90×80cm、底面径45cm、深さ25cmのやや歪んだ円形となる土壌である。底面および壁面は、北に傾斜する楕円状となる。

〔堆積土〕 炭化物を多く含む黒褐色シルトが1層堆積する。

〔出土遺物〕 特に出土していない。



### 【SK-05】(第25図)

【位置】 調査1区S3～S5、W21～W22

【確認面】 遺物包含層3B層下、地山上面

【重複関係】 西側でSI-11と、東側でSK-05と重複関係にある。堆積土の切合いの状況等から、これより新しい。

【包含層との関係】 堆積土上面が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層との関係は不明である。

【規模・平面形・断面形】 上面120×110cm、底面径70×50cm、深さ50cmの不整な楕円形となる土壌である。底面は若干北に傾斜するが平坦で、壁面は外傾して立ちあがる。

【堆積土】 炭化物を多く含む黒褐色シルトが1層堆積する。

【出土遺物】 特に出土していない。

### 【SK-06】(第25図)

【位置】 調査1区S3～S5、W23～24

【確認面】 遺物包含層3B層下、地山上面

【重複関係】 SI-11と重複関係にある。堆積土の切合いの状況等から、これより新しい。

【包含層との関係】 堆積土上面が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層との関係は不明である。

【規模・平面形・断面形】 上面80×70cm、底面径65×60cm、深さ10cmの楕円形となる土壌である。底面はほぼ水平になり平坦で、壁面は北側で若干外傾し、南側では一部オーバーハングして立ちあがる。

【堆積土】 炭化物を多く含む黒褐色シルトが1層堆積する。

【出土遺物】 特に出土していない。

### 【SK-07】(第26図)

【位置】 調査1区N1～S1、W20～W22

【確認面】 SI-07床面下、地山上面

【重複関係】 SI-07と重複関係にある。SI-07に伴うpit 2、3が本土壌の堆積土・壁面を切っており、SI-07より古い。

【包含層との関係】 上面のSI-07が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層との関係は不明である。

【規模・平面形・断面形】 上面140×100cm、底面径130×95cm、深さ35cmの楕円形となる土壌である。底面は北に傾斜するが平坦で、壁面は北側で若干外傾し、南側では一部オーバーハングして立ちあがる。

【堆積土】 上層に黒褐色砂質シルト、下層に地山ブロックと炭化物を多量に含む灰黄褐色砂質シルトが2層自然堆積する。

[出土遺物] 堆積土中より縄文土器片が出土している。1～4は、沈線区画内に縄文が施されているもので、2は、縄文施文後に反転する平行沈線が施文される。5は大きな波状口縁となるもので、口縁端部の沈線区画内に刻み目が充填される。6～8は平行沈線間に刻み目が施文されるもので、特に7では平行沈線間に列点刺突が巡る。9は地紋のみ、10は櫛歯状工具による痕跡が見られる。

### [SK-08](第26図)

[位置] 調査1区S4～S5、W25～27

[確認面] 遺物包含層3B層下、地山上面

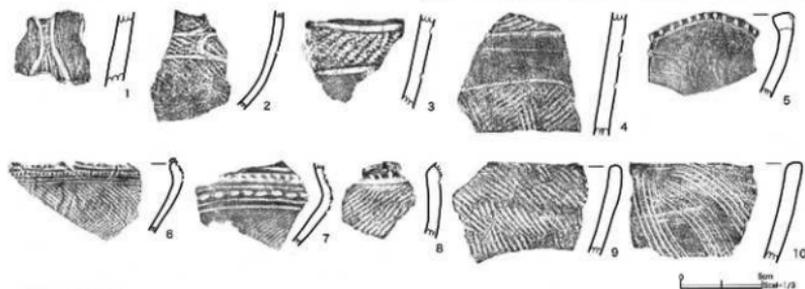
[重複関係] 北側でSI-09と、東側でSI-10と重複関係にある。遺構の層序や切り合いの状況等から、これより古い。

[包含層との関係] 堆積土上面が遺物包含層3B層に覆われるため、これより古い。遺物包含層4層との関係は不明である。

[規模・平面形・断面形] 北側をSI-09、東側をSI-10によって失われており、平面形は不明であるが、



SK-07土層		
層	土質	備考
1	10YR3/3の灰褐色	砂質シルト
2	10YR4/2の灰黄褐色	砂質シルト 炭化物、粘土ブロックを多量に含む
SK-08土層		
層	土質	備考
1	10YR2/3	シルト 炭化物を多く含む



SK-07 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口徑	底徑	高さ	外面	内面	備考	写真図版
20-1	SK-07堆積土	—	—	(△4.8)	沈線区画内光面赤文?	ミガキ	沈線・線	
20-2	SK-07堆積土	—	—	(△6.4)	内→沈線平行沈線	ナギ	沈線・線	
20-3	SK-07堆積土	—	—	(△3.3)	新直線文区	ミガキ	沈線・線	
20-4	SK-07堆積土	—	—	(△7.3)	沈線区画内丸	赤いミガキ	沈線・線	
20-5	SK-07堆積土	—	—	(△4.7)	沈線区画内直線区画	ミガキ	沈線・線	
20-6	SK-07堆積土	—	—	(△4.2)	炭化物を多く含む下層直線区画	ミガキ	沈線・線	
20-7	SK-07堆積土	—	—	(△4.7)	平行沈線間赤み目、羽状縄文(LR, RL) 結痕	ミガキ	沈線・線	
20-8	SK-07堆積土	—	—	(△3.9)	平行沈線間赤み目、縦直線刻列、LR	ミガキ	沈線・線	
20-9	SK-07堆積土	—	—	(△5.7)	平行沈線、黒み目、LR?	ミガキ	沈線・線	
20-10	SK-07堆積土	—	—	(△6.2)	櫛歯状工具による痕跡直線、5条1組	ミガキ	沈線・線	

第26図 SK-07.08と出土遺物

一部分が角張るため、方形に近いものと推定できる。残存部分から上面100×50cm以上、底面75×40cm以上、深さ23cmとなる。底面は若干北に傾斜するが平坦で、壁面は外傾して立ちあがる。

[堆積土] 炭化物粒を多く含む黒褐色シルトが1層堆積する。

[出土遺物] 特に出土していない。

### 【SK-09】(第27図)

[位置] 調査2区S2～S3、E25～E26

[確認面] 遺物包含層4D層下、漸移層上面

[重複関係] 南側でピットと重複関係にある。堆積土がピットに切られており、これより古い。

[包含層との関係] 堆積土上面が遺物包含層4D層に覆われており、これより古い。

[規模・平面形・断面形] 南側でピットと重複するため、一部不明であるが、上面60×45cm以上、底面50×40cm以上、深さ12cmの楕円形となる土壌である。底面は水平に平坦で、壁はほぼ直立して立ちあがる。

[堆積土] 黒褐色粘土質シルト(堆積土1～2層)が2層堆積する。層内もしくは地山内には、径10～15cm台の礫が多く含まれる。

[出土遺物] 特に出土していない。

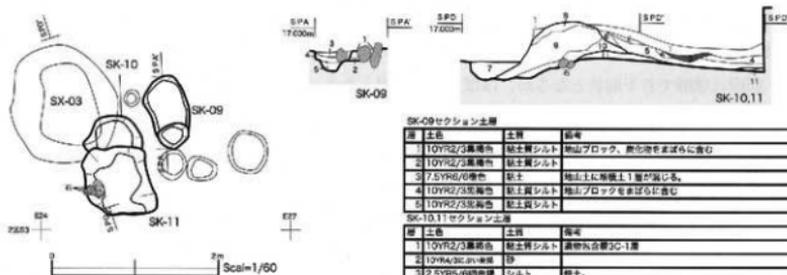
### 【SK-10】(第27図)

[位置] 調査2区S2～S3、E24～E26

[確認面] SX-03下、地山上面

[重複関係] 北側でSX-03と、南側でSK-11と重複関係にある。SX-03の堆積土9～10層が本土壌に堆積しており、これより古い。またSK-11とは、遺構の層序や切り合いの状況等から、これより古い。

[包含層との関係] 堆積土上面が遺物包含層4D層に覆われており、これより古い。



層	土色	土質	備考
1	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	地山ブロック、敷き地をまばらに含む
2	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	
3	7.5YR6/0黄土	粘土	地山に堆積土1層が混じる。
4	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	地山ブロックをまばらに含む
5	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	

層	土色	土質	備考
1	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	遺物外層2C-1層
2	10YR4/3黄褐色	砂	
3	2.5YR5/6黄褐色	シルト	粘土。
4	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	遺物外層2C-4層
5	1N1.5/0灰色	砂質シルト	遺物包含層の層
6	10YR1/2灰褐色	粘土質シルト	地山層を混在させて含む
7	1N1.5/0灰色	砂質シルト	石灰粒を含む。SK-11遺構土。
8	7.5YR5/3黄褐色	砂質シルト	遺構層に付着する。SK-03遺構土。
9	7.5YR7/8黄褐色	粘土	地山粘土。SK-03遺構土。SK-10堆積土。
10	7.5YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を若干含む。SK-03遺構土。SK-10堆積土。
11	10YR4/2灰褐色	砂質シルト	地山との重複層。

第27図 SK-09,10,11

[規模・平面形・断面形] 南側をSK-11によって失われているが、残存部分の規模から上面60×40cm以上、底面40×30cm以上、深さ7cmの不整な円形もしくは楕円形となる土壌である。底面はほぼ水平となるが凹凸が認められ、壁は緩やかに外傾する。

[堆積土] 土壌内のほとんどにSX-03の堆積土9～10層が堆積するが、それ以外の部分では黒色の砂質シルトの堆積が認められた。

[出土遺物] 特に出土していない。

### **【SK-11】(第27図)**

[位置] 調査2区S2～S3、E24～E26

[確認面] 遺物包含層4D層下

[重複関係] 北側でSK-10、SX-03と重複関係にある。遺構の層序関係や切り合いの状況等から、これより新しい。

[包含層との関係] 堆積土上面が遺物包含層4D層に覆われており、これより古い。

[規模・平面形・断面形] 上面85×80cm、底面70×55cm、深さ16cmの不整な方形となる土壌である。特に底面は不整な形状となり、凹凸も著しくみられる。壁は南側でほぼ直立し、北側でゆるやかに外傾する。

[堆積土] 炭化物を含む黒色砂質シルト(堆積土7層)が1層堆積する。

[出土遺物] 特に出土していない。

### **【SK-12】(第28、29図)**

[位置] S0～S2、E22～E24

[確認面] 遺物包含層4D層下、漸移層上面

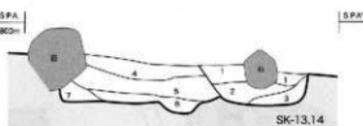
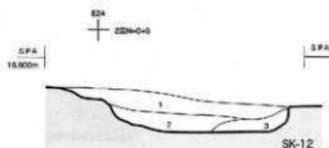
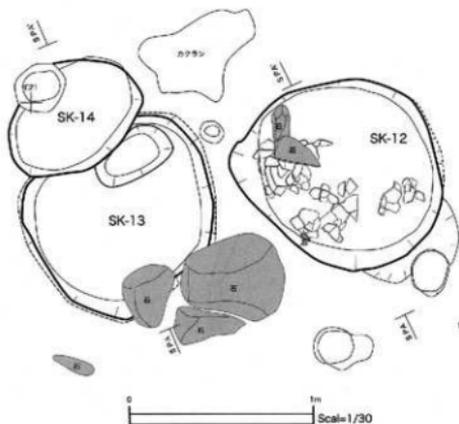
[重複関係] 南東側でピットと重複関係にある。遺構の層序や切り合いの状況等から、これより古い。

[包含層との関係] 堆積土上面が遺物包含層4D層に覆われており、これより古いと考えられるが、堆積土表面が同系色であったため、4D層上面からの掘り込みの可能性もある。

[規模・平面形・断面形] 上面110×90cm、底面95×80cm、深さ20cmのほぼ円形となる土壌である。底面は壁際で若干皿状となるが、ほぼ水平で平坦となる。壁はほぼ直立するが、東側で部分的にオーバーハングしている。また南側では壁上面で軽い落ち込みがみられた。

[堆積土] 炭化物、地山ブロックを含む黒褐色粘土質シルト(堆積土1～3層)が3層堆積する。特に堆積土1層は、重複関係にあるピット上面にまで広がって堆積する。

[出土遺物] 土壌床面から若干下ういた堆積土2層から、遺物がつぶれた形でまとまって出土している。第28図1の深鉢形土器が土壌の北側で、第29図1の深鉢形土器が南側でまとまっており、特に第28図1は、第29図6の石皿と礫によってつぶれた状態にあった。第28図1は、体部中央よりやや上半で内湾したのち頸部でゆるやかに屈曲し外傾して長く立ち上がる頸部をもつ深鉢形土器で、LR縄文のみ施文される。第29図1も同様の器形であるが、頸部と体部上半に沈線区画される。第29図1の体下部～

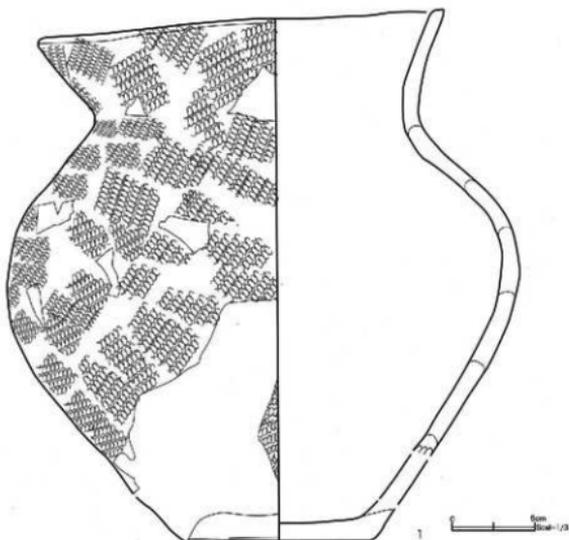


SK-12セクション土層

層	土質	説明
1	TOYR2/3灰褐色	粘土質シルト 灰化層をまばらに含む
2	TOYR2/3灰褐色	粘土質シルト 遺物を含む
3	TOYR2/3灰褐色	粘土質シルト 物にプロックを含む

SK-13,14セクション土層

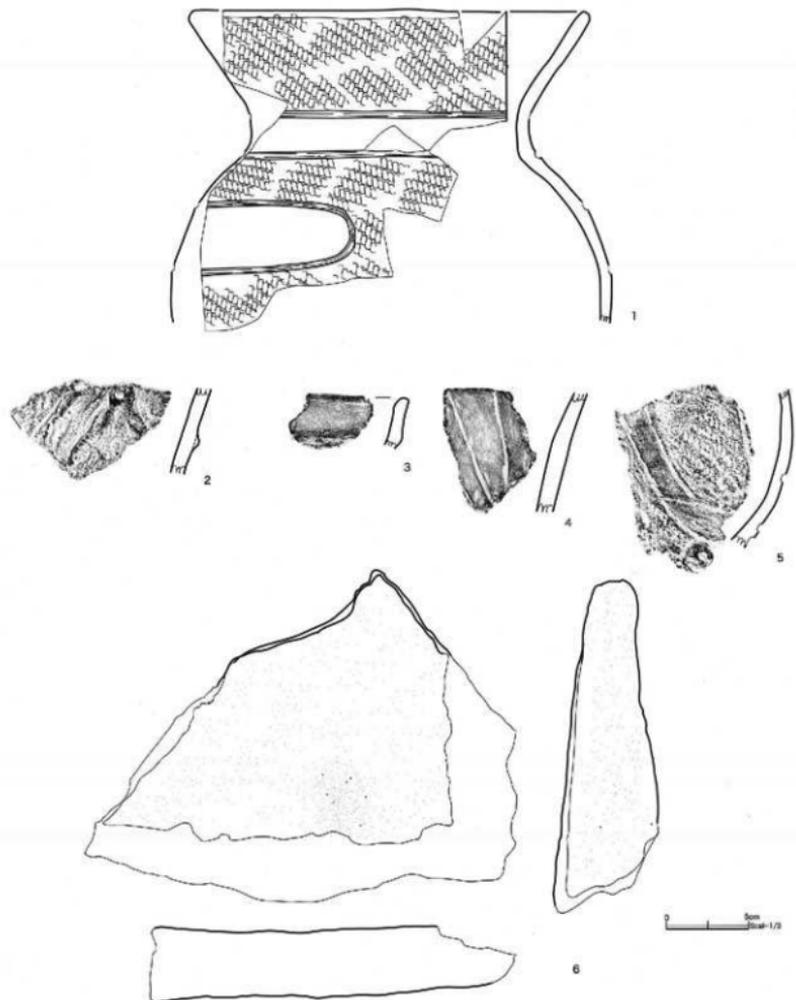
層	土質	説明
1	TOYR2/3灰褐色	粘土質シルト 灰化層を多く含む。SK-14層積上。
2	TOYR3/7黒褐色	粘土質シルト 物に灰をまばらに含む。SK-14層積上。
3	TOYR2/3灰褐色	粘土質シルト 物にプロックをまばらに含む。SK-14層積上。
4	TOYR2/3灰褐色	粘土質シルト 灰化層を多く含む。SK-13層積上。
5	TOYR3/7黒褐色	粘土質シルト 灰化層、粘土を多く含む。SK-13層積上。
6	TOYR3/7黒褐色	粘土質シルト 上部に灰化物を少量に含む。SK-13層積上。
7	TOYR3/2黒褐色	粘土質シルト 何も含まない。SK-13層積上。



SK-12 出土遺物概観表

図版番号	出土地区・調査	口徑	縦径	幅	厚	内面	外面	備考	写真図版
25-1	SK-12第1土層	24.8	11.4	39.2	LR			からいとり	54-30

第28図 SK-12,13,14と出土遺物



SK-12 出土遺物觀察圖

圖號	出土地區・層位	口徑	底徑	高	外面	內面	備考	写真回数
25-1	SK-12 繩橋土 25L6	—	—	△19.5	泥部区面の刺高麗文印。	土方片	深鉢・鉢	54-31
25-2	SK-12 繩橋土	—	—	△6.2	粘土刺高麗文刺突	土方片	深鉢・鉢	
25-6	SK-12 繩橋土 25L6	高19.3×幅25.9×厚4.8	—	—	編目：石蓋、磁製品 石穿：要石質藏灰質 25.90g			

SK-13 出土遺物觀察圖

圖號	出土地區・層位	口徑	底徑	高	外面	內面	備考	写真回数
25-3	SK-13 繩橋土	—	—	△3.2	土方片	土方片	深鉢・鉢?	
25-4	SK-13 繩橋土	—	—	△7.3	同刺高麗文	土方片	深鉢・鉢	
25-5	SK-13 繩橋土	—	—	△10.1	橫門状泥部区画、RL、刺突	土方片	深鉢・鉢	

第29圖 SK-12,13出土遺物

底部資料が出土しておらず、堆積当初から失われていたと考えられる。第29図6の石皿も、凹み部分で破損している。その他堆積土中からは、第29図2をはじめとする縄文土器片が数点出土している。第29図2は粘土紐隆帯上に刺突を施すものである。

### 【SK-13】(第28、29図)

〔位置〕 S0～S2、E21～E23

〔確認面〕 遺物包含層4D層下、漸移層上面

〔重複関係〕 北側で、SK-14と重複関係にある。遺構の層序や切り合いの状況等から、これより古い。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層4D層に覆われており、これより古いと考えられるが、堆積土表面が同色系であったため、4D層上面からの掘り込みの可能性もある。

〔規模・平面形・断面形〕 上面径100cm、底面径100cm、深さ20cmの円形となる土壌である。底面はほぼ水平だが、北東側で一段落ち込みがみられる。壁はほとんどがオーバーハングして立ち上がるもので、かるい袋状となる。また、南側の壁には、地山内に大きな礫3個が含まれており、礫表面の一部をそのまま壁としている。

〔堆積土〕 炭化物を含む黒～黒褐色の粘土質シルト(堆積土4～7層)が4層堆積する。

〔出土遺物〕 堆積土中から縄文土器片が出土している(第29図3～5)。3は無文であるが頸～体部にかけて屈曲をもつものである。4は沈線のみ描かれる。5は楕円状?となる沈線区面に縄文を施すもので、刺突が施される。

### 【SK-14】(第28図)

〔位置〕 S0～S1、E21～E22

〔確認面〕 遺物包含層4D層下、漸移層上面

〔重複関係〕 北側でピットと、南側でSK-13と重複関係にある。遺構の層序や切り合いの状況等から、SK-13より新しく、ピットより古い。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層4D層に覆われており、これより古いと考えられるが、堆積土表面が同色系であったため、4D層上面からの掘り込みの可能性もある。

〔規模・平面形・断面形〕 上面80×60cm、底面70×50cm、深さ18cmの楕円形となる土壌である。

底面はほぼ水平に平坦となり、壁は直立して立ちあがる。

〔堆積土〕 炭化物を含む黒褐色粘土質シルト(堆積土1～3層)が3層堆積する。

〔出土遺物〕 特に出土していない。

### 【SK-15】(第30図)

〔位置〕 調査2区N1～S1、E16～E18

〔確認面〕 遺物包含層4D層下、漸移層上面

〔重複関係〕 特に重複関係にない。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層4D層に覆われており、これより古いと考えられるが、堆積土表面が同系色であったため、4D層上面からの掘り込みの可能性もある。

〔規模・平面形・断面形〕 上面径105cm、底面径85cm、深さ10cmの円形となる土壇である。底面は若干北に傾斜するが平坦で、壁はかるく外傾して立ちあがる。

〔堆積土〕 炭化物を含む黒色粘土質シルトが1層堆積する。

〔出土遺物〕 特に出土していない。

### 【SK-16】(第30図)

〔位置〕 調査2区N1～N3、E17～E18

〔確認面〕 堀状カクラン堆積土下、地山上面

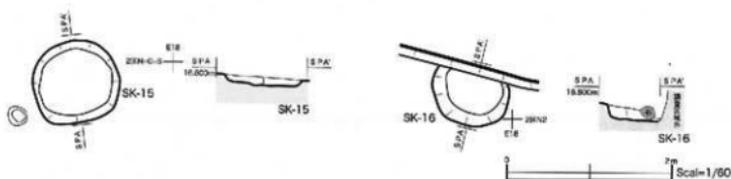
〔重複関係〕 特に重複関係にない。

〔包含層との関係〕 遺物包含層4D層が堀状カクランによって失われており、不明である。

〔規模・平面形・断面形〕 北側が調査区域外となるため詳細不明である。上面95×75cm以上、底面70×60cm以上、深さ20cmの円形となる土壇と考えられる。底面は若干北に傾斜するが平坦で、壁はほぼ直立して立ちあがる。

〔堆積土〕 炭化物を含む黒色粘土質シルトが1層堆積する。

〔出土遺物〕 堆積土中から縄文土器片が出土している。1は地紋のみ施文されるものであるが摩滅が著しい。2は、沈線区画内に縄文が施文されるものであるが、細片のため不明である。



SK-15セクション土壇

層	土質	土質	備考
1	10の×2/1黄色	粘土質シルト	炭化物を含有

SK-16セクション土壇

層	土質	土質	備考
1	10の×2/1黒色	粘土質シルト	炭化物を含有



SK-16 出土遺物観察表

採取番号	出土層/区画	口徑	底径	高さ	外面	内面	備考	写真掲載
SK-1	SK-16堆積土	—	—	(△5.5)	丸7、まめつ	ナデ	深溝・筋	
SK-2	SK-16堆積土	—	—	(△2.5)	沈線、丸	ヒダキ		

第30図 SK-15,16と出土遺物

### 【SK-17】(第31図)

〔位置〕 調査2区S3～S4、E15～E16

〔確認面〕 遺物包含層3F層下、漸移層上面

〔重複関係〕 北西と南東側でピット2基と重複関係にある。切り合いの状況等から、これらより古い。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層3F層に覆われており、これより古い。4D層との関係は把握できなかった。

〔規模・平面形・断面形〕 上面110×60cm、底面100×50cm、深さ8cmの不整な楕円形となる土坑である。底面は若干北に傾斜するが平坦で、壁はほぼ直立して立ちあがる。

〔堆積土〕 炭化物を含む黒褐色粘土質シルトが1層堆積する。

〔出土遺物〕 堆積土中より縄文土器片が出土している。1は、波状口縁となるもので、方形?の沈殿区画内に縄文が施文されるものであるが、細片のため不明である。2は地紋のみ施文される。

### 【SK-18】(第31図)

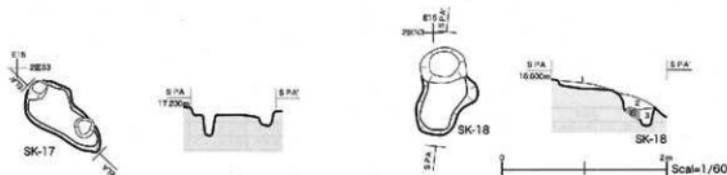
〔位置〕 調査2区N1～N3、E14～E16

〔確認面〕 堀状カクラン堆積土下、地山上面

〔重複関係〕 北側でピットと重複関係にある。切り合いの状況等から、これより古い。

〔包含層との関係〕 遺物包含層4D層が堀状カクランによって失われており、不明である。

〔規模・平面形・断面形〕 ピットとの重複と堀状の攪乱によって北半部分が失われており、全体を知



SK-18のセクション土層

層	土名	出所	備考
1	10YR2/3黄褐色	粘土質シルト	炭化物、硝を含む
2	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物、厚中けた山吹ブロックを含む
3	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物を含む



SK-17出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口徑	底径	高さ	外形	内面	備考	写真収取
31-1	SK-17層積土	—	—	(△3.0)	沈殿区画(方形?)、丸	ミガキ?	深縁・鉢	
31-2	SK-17層積土	—	—	(△4.5)	丸	ミガキ?	深縁・鉢	

SK-18出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口徑	底径	高さ	外形	内面	備考	写真収取
31-3	SK-18層積土	—	—	(△5.6)	縦長粘土器器土上開次、沈殿区画内定置用	ナデ	深縁・鉢	
31-4	SK-18層積土	—	—	(△4.1)	沈殿区画内新状縄文(LR、RL)	ミガキ	深縁・鉢	
31-5	SK-18層積土	—	—	(△4.7)	LR	ミガキ	深縁・鉢	
31-6	SK-18層積土	—	—	(△4.3)	沈殿区画内LR	ミガキ	深縁・鉢	

第31図 SK-17,18と出土遺物

り得ないが、残存部分の状況から、上面65×60cm以上、底面55×40cm以上、深さ6cm以上の不整な楕円形となる土壌である。残存部の底面はほぼ水平となり、壁面はほぼ直立する。

〔堆積土〕 炭化物と礫を含む黒褐色粘土質シルトが1層堆積する。

〔出土遺物〕 堆積土中より縄文土器片が出土している。3、4、6は沈線区画内に縄文を施文するもので、3は縦位の粘土紐隆帯上に刺突と楕円？状の沈線区画内に縄文が充填される。5は地紋のみ施文されるものである。

### 〔SK-19〕(第32図)

〔位置〕 調査2区N0～N2、E14～16

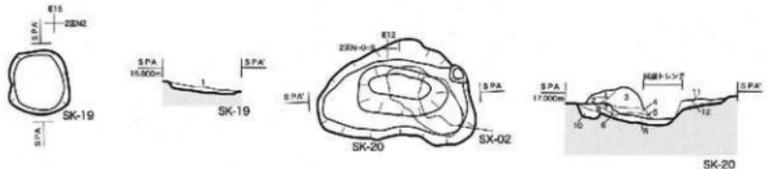
〔確認面〕 堀状カクラン堆積土下、地山上面

〔重複関係〕 特に重複関係にない。

〔包含層との関係〕 遺物包含層4D層が堀状カクランによって失われており、不明である。

〔規模・平面形・断面形〕 上面80×70cm、底面60×60cm、深さ7cmの隅丸方形となる土壌である。底面は若干北に傾斜するが平坦となり、壁面は外傾して立ちあがる。

〔堆積土〕 炭化物を含む黒色粘土質シルトが1層堆積する。

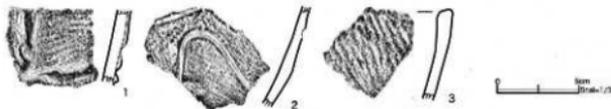


SK-19のセクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR2/7黒色	粘土質シルト	炭化物を含む

SK-20のセクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR3/2濃褐色	粘土質シルト	炭化物・地山ブロックを多量に含む。SK-02堆積土。
2	10YR3/2濃褐色	粘土質シルト	SK-02堆積土。
3	7.5YR6/0褐色	粘土	しまりのある地山粘土。SK-02堆積土。
4	10YR6/1灰色	粘土質シルト	地山ブロックを多量に含む。SK-02堆積土。
5	7.5YR6/0褐色	粘土	堆積土4層よりブロック状に含む。SK-02堆積土。
6	10YR3/2濃褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。SK-20堆積土。
7	10YR3/2濃褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。SK-20堆積土。
8	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物を含む。SK-20堆積土。
9	10YR3/2濃褐色	粘土質シルト	地山ブロックを多量に含む。SK-20堆積土。
10	10YR3/2濃褐色	粘土質シルト	炭化物・ぼやけた地山ブロックを含む。SK-20堆積土。
11	10YR3/2濃褐色	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。SK-20堆積土。
12	10YR4/2灰褐色	砂質シルト	地山との境界層。SK-20堆積土。



SK-20 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口徑	高径	断面	外面	内面	備考	写真掲載
32-1	SK-20堆積土	—	—	(△4.6)	粘土紐隆帯上裏面。RL	土片手	測詳・詳	
32-2	SK-20堆積土	—	—	(△5.5)	沈線区画。LR	土片手	測詳・詳	
32-3	SK-20堆積土	—	—	(△5.3)	RL?	まめつ	測詳・詳	

第32図 SK-19,20と出土遺物

[出土遺物] 特に出土していない。

### **[SK-20](第32図)**

[位置] 調査2区S0～S2、E11～13

[確認面] SX-02下、地山上面

[重複関係] 上面でSX-02と重複関係にある。本土壌堆積土がSX-02(堆積土1～5層)によって覆われており、これより古い。また、東側で小さいピットが本土壌を切っている。

[包含層との関係] 堆積土上面および上面のSX-02が遺物包含層4層に覆われており、これより古い。

[規模・平面形・断面形] 上面190×120cm、底面160×80cm、深さ25cmの不整な楕円形となる土壌である。底面は中央部で100×50cmほどの楕円形に一段低くなる落ち込みが見られる。壁面は外傾して立ちあがる。

[堆積土] 主に炭化物を含む黒～黒褐色粘土質シルト(堆積土6～12層)が7層堆積する。

[出土遺物] 堆積土中より縄文土器片が出土している。1は粘土紐隆帯上に刺突が施される。2は沈線区画内に縄文が施文される。3は地紋のみ施文されるものである。

### **[SK-21](第33図)**

[位置] 調査2区S3～S4、E3～E5

[確認面] 遺物包含層3F層下、漸移層上面

[重複関係] 特に重複関係にない。

[包含層との関係] 堆積土上面が遺物包含層3F層に覆われており、これより古い。遺物包含層4D層とは、4D層が薄くしか堆積しておらず、確認できなかった。

[規模・平面形・断面形] 本土壌の東および南側は浅くくぼんだ地形となる。上面80×70cm、底面60×50cm、深さ30cmの楕円形となる土壌である。底面はほぼ水平となる平坦面で、壁面はやや外傾して立ちあがる。

[堆積土] 炭化物、地山ブロックを含む黒～黒褐色粘土質シルトが2層堆積する。堆積土1層は、本土壌の東および南側でみられる浅い凹みにまで広がり堆積する。

[出土遺物] 堆積土中より縄文土器片が出土している。1、2は沈線区画内に縄文が施文されるものである。4は、堆積土上面からの出土で、細長く直立し口縁部付近で外反して開く頸部をもつ壺形土器である。頸～体部上半に平行沈線で区画する文様帯をもち、3本単位の沈線が斜行して4単位の山形状となる文様を構成する。

### **[SK-22](第33図)**

[位置] 調査2区S5～S6、W0～W1

[確認面] 遺物包含層3G層下、漸移層上面

[重複関係] 特に重複関係にない。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層3G層に覆われており、これより古い。遺物包含層4E,4F層との関係は把握できなかった。

〔規模・平面形・断面形〕 上面70×56cm、底面58×40cm、深さ18cmの楕円形となる土壇である。底面はほぼ水平で若干皿状となり、壁面は外傾して立ちあがる。

〔堆積土〕 礫を若干含む黒褐色粘土質シルトが1層堆積する。

〔出土遺物〕 堆積土中より縄文土器片が出土している。3は、縦位の沈線区画内に縄文を施すものである。

### 〔SK-23〕(第34図)

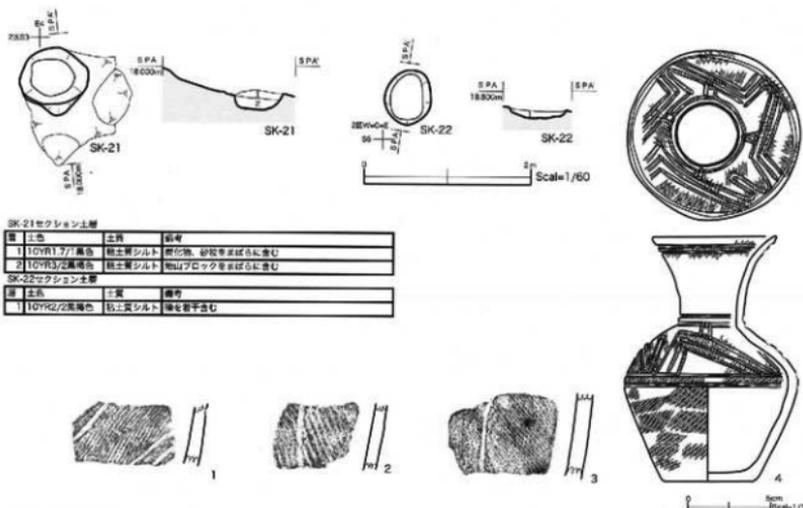
〔位置〕 調査2区S5～S7、W2～W3

〔確認面〕 遺物包含層3H層下、地山上面

〔重複関係〕 東側が攪乱によって失われている。その他は重複関係にない。

〔包含層との関係〕 堆積土上面が遺物包含層3H層に覆われており、これより古い。遺物包含層4層との関係は把握できなかった。

〔規模・平面形・断面形〕 東側が攪乱によって失われているため、全体を知り得ないが、残存部分の



SK-21セクション土層			
層	土色	土質	備考
1	10YR1.7/黒色	粘土質シルト	礫化後、砂粒をばらばらに含む
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	山アブロックをばらばらに含む
SK-22セクション土層			
層	土色	土質	備考
1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	礫を若干含む

SK-21 出土遺物観察表

調査番号	出土地区・層位	口径	底径	器高	外周	内面	備考	写真掲載
S3-1	SK-21 堆積土	-	-	(△3.8)	沈線区画内片	ミガキ	浮線・跡	
S3-2	SK-21 堆積土	-	-	(△4.1)	沈線文、器底文片?	ナシ	浮線・跡	
S3-4	SK-21 堆積土上	7.4	5.4	13.0	LR→羽行・平行沈線→真実	ナシ	器、底面：本葉線	54-32
SK-22 出土遺物観察表								
調査番号	出土地区・層位	口径	底径	器高	外周	内面	備考	写真掲載
S3-3	SK-22 堆積土	-	-	(△5.2)	沈線区画、皿	ミガキ	浮線・跡	

第33図 SK-21,22と出土遺物

状況から、上面92×68cm以上、底面75×70cm以上、深さ17cm以上の円形となる土壇と考えられる。底面は北に傾斜するが平坦となり、壁面は外傾して立ちあがる。

[堆積土] 地山ブロックを含む黒褐色シルトが2層堆積する。

[出土遺物] 堆積土中より縄文土器片が出土している。1、2は地紋のみ、3、4は平行沈線区画内に縄文が施文されるものである。5は内傾する体部をもち、口～頸部が屈折して開く徳利状の器形となる壺形土器である。平行沈線で区画された内部には平滑な雲形文が施文される。

### 【SK-24】(第34図)

[位置] 調査2区S7～S9、E1～W1

[確認面] 遺物包含層3H層下、地山上面

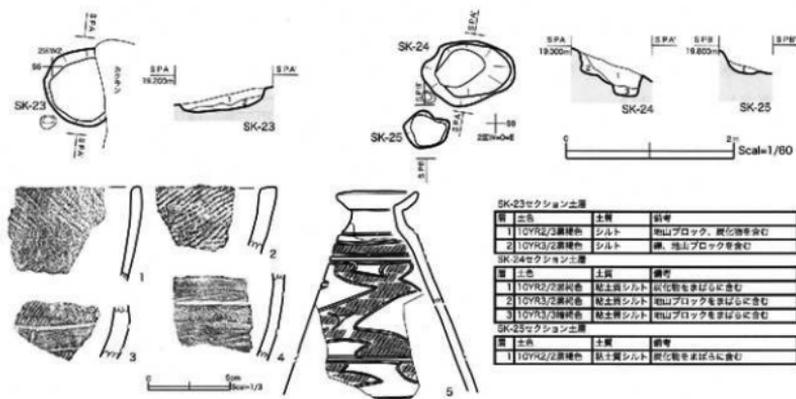
[重複関係] 特に重複関係にない。

[包含層との関係] 堆積土上面が遺物包含層3H層に覆われており、これより古い。遺物包含層4層との関係は把握できなかった。

[規模・平面形・断面形] 上面105×76cm、底面60×45cm、深さ56cmの不整な楕円形となる土壇である。底面は北に傾斜し、北側で段差がついて1段深くなる。壁面はやや外傾して立ちあがる。

[堆積土] 黒褐色の粘土質シルト(堆積土1～3層)が3層堆積する。堆積土1層に炭化物が含まれ、堆積土2～3層に地山ブロックが含まれる。

[出土遺物] 特に出土していない。



SK-23セクション土層		
層	土色	備考
1	10YR2/2黒褐色	シルト 地山ブロック、炭化物を含む
2	10YR3/2黒褐色	シルト 地山ブロックを含む
SK-24セクション土層		
層	土色	備考
1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト 炭化物をまばらに含む
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト 地山ブロックをまばらに含む
3	10YR3/3黒褐色	粘土質シルト 地山ブロックをまばらに含む
SK-25セクション土層		
層	土色	備考
1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト 炭化物をまばらに含む

SK-23 出土遺物執照表

調査番号	出土地区・層位	口径	直径	高さ	外面	内面	備考	写真記録
34-1	SK-23堆積土	—	—	△(5.7)	地	テラ	漆跡・漆	
34-2	SK-23堆積土	—	—	△(4.1)	LR3?	ヒガキ	漆跡・漆	
34-3	SK-23堆積土	—	—	△(5.2)	沈線区画内LR	ヒガキ	漆跡・漆	
34-4	SK-23堆積土	—	—	△(5.3)	沈線区画内LR、ヒガキ	ヒガキ	漆跡・漆	
34-5	SK-23堆積土 (7.6)	—	—	△12.5	平行沈線、平滑な雲形文、LR	テラ、南厚注	地	34-33

第34図 SK-23,24,25と出土遺物

### 【SK-25】(第34図)

【位置】 調査2区S8～S10、W0～W1

【確認面】 遺物包含層3H層下、地山上面

【重複関係】 特に重複関係はない。

【包含層との関係】 堆積土上面が遺物包含層3H層に覆われており、これより古い。遺物包含層4層との関係は把握できなかった。

【規模・平面形・断面形】 上面56×44cm、底面46×40cm、深さ25cmの不整な円形となる土壌である。底面は北にかかる傾斜するが平坦となり、壁面はゆるやかに外傾して立ちあがる。

【堆積土】 黒褐色の粘土質シルトが1層堆積する。

【出土遺物】 特に出土していない。

### 【SK-26】(第35図)

【位置】 調査2区S3～S4、E12～E15

【確認面】 遺物包含層2D層下、3F層上面

【重複関係】 特に重複関係はない。

【包含層との関係】 堆積土上面が遺物包含層2D層に覆われておりこれより古く、3F層を切ってつくられるためこれより新しい。

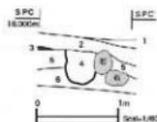
【規模・平面形・断面形】 包含層試掘トレンチによって、南半を失った形で検出したため、詳細不明であるが、上面40cm、底面20～30cm、深さ45cmの円形となる土壌である。

底面は深鉢状に丸みを帯びたものとなり、壁面はほぼ直立して立ちあがる。

【堆積土】 黒褐色の砂粒を含むシルトが1層堆積する。

【出土遺物】 堆積土中より縄文土器片が出土している。粘土貼付により複雑な形の口縁部となるもので、雑な感じで刺突や穿孔がみられる。

波状となる口縁部の一部と考えられる。



SK-26セクション土層

層	土色	土質	調査
1	15YR2/3.5黄褐色	粘土質シルト	遺物包含層1C層
2	15YR2/2.5黄褐色	粘土質シルト	遺物包含層2D層
3	2.5YR5.9/暗赤褐色	シルト	表土(TV-14)
4	15YR2/2.5黄褐色	シルト	埋かい砂粒を多く含む、SK-26堆積土
5	15YR2/2.5黄褐色	粘土質シルト	遺物包含層3層
6	10YR5/7.0黄褐色	砂質シルト	遺物包含層4層

SK-26 出土遺物観察表

図数	調査号	出土地区・層位	口径	底径	高さ	外面	内面	備考	写真図版
35-1	SK-26	塚土	—	—	(18.5, 7)	波帯、刺突、穿孔	ナデ	深鉢・鉢	

第35図 SK-26と出土遺物

## PIT(第36、37図)

主に調査2区において、多数のピットを検出し、概ね径約15cm以上となるものについてピット番号を付加して精査を行った。番号を付加したピットの総数は123基にのぼる。(第10図)

検出したピットは、大きく遺物包含層4Dまたは4E層上面、遺物包含層4層下の地山または漸移層上面、壘状のカクラン堆積土下の地山上面で確認したものなど包含層4層との関係が不明なものに分けることができる(第3表)。調査区東側で遺物包含層4層下の漸移層または地山上面のピットが、調査区西側で遺物包含層4Dまたは4E層上面検出のピットが多く分布するが、堆積土が遺物包含層4層の堆積上の土色に紛れたこともあり、確認が困難な面もあった。

また、遺物包含層4Dまたは4E層上面検出のピットは、炭化物を含む黒褐色(10YR2/3)粘土質シルトが堆積し、遺物包含層4層下の地山または漸移層上面検出のピットは、炭化物をまばらに含む黒色(10YR2/1)粘土質シルトが堆積している。(第42図SPH-SPH'記載のPIT参照)

大半のピットが径15~20cmほどで、深さ10~15cmほどの浅い円形となり、残存状況を良く留めていないため、柱穴などの機能の確認までにはいたらなかった。

ピットのうちPIT66では、口縁部を欠く粗製の深鉢形土器が、遺物包含層4D層上面から掘り込まれたピット内に埋設され、やや北側に倒れている状態で検出している。(第36図)

その他検出したピットからは小破片であるが、縄文土器片が出土している。

第37図1~10は、遺物包含層4Dまたは4E層上面検出のピットからの出土である。1~5は沈線区画内に縄文が充填施文されるもので、3~4は羽状縄文が施文される。6は口縁端部の沈線区画内に刻み目を施すもの、7~8は平行沈線間に刻み目を施すものである。9は羽状縄文が、10は櫛歯状の工具痕跡が見られる。

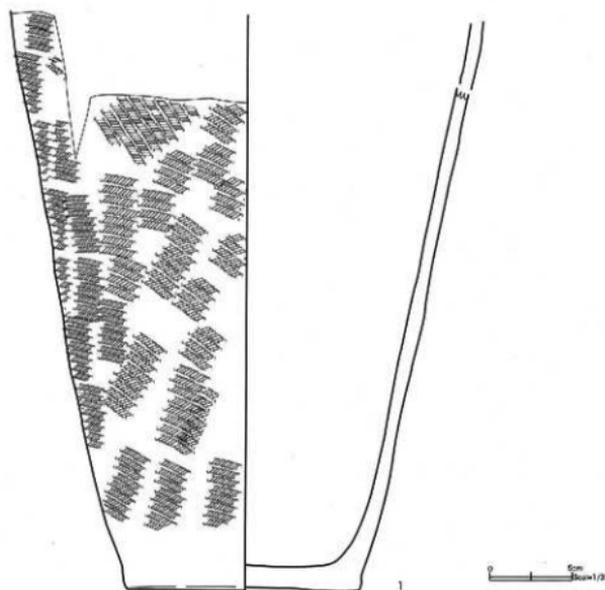
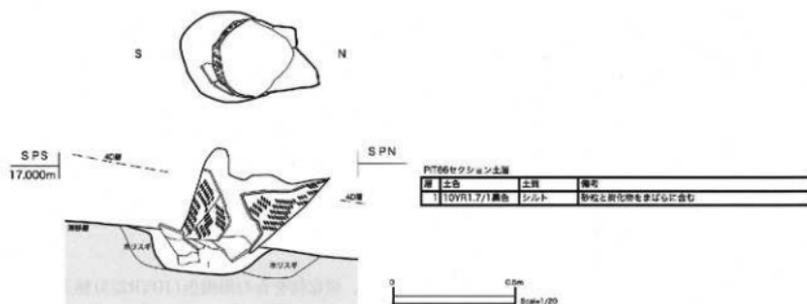
11~21は、遺物包含層4層下の漸移層または地山上面検出のピットからの出土である。11~15は粘土紐隆帯や刺突などが施されるものである。16~18は沈線間に縄文や刻み目が施されるもの、19は地紋のみの施文となるもの、20~21は櫛歯状工具の痕跡が見られるものである。

22は、PIT33からの出土であるが、堆積土が壘状のカクランに覆われており遺物包含層との関係が確認できなかった。小さな粘土粒貼付の突起をもつ鉢形土器で、3条1組の浮線状となる弧状連結文が描かれる。

検出層位別PIT一覧

種別	PIT番号
遺物包含層4層上面 検出ピット	18,19,20,29,30,31,36,44,48,51,52,54,56,57,60,61,64,65,66,67,68,72,73,79,80, .86,87,88,89,90,91,93,99,101,102,103,104,105,106,107,110,111,112, 113,116,117,118,119,120,121,123
地山・漸移層面検出 ピット	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,21,22,23,24,26,27,28,32,34,35,37, 40,41,42,43,45,46,47,49,50,53,55,58,59,62,63,69,70,71,77,81,92,94,95, 96,97,98,100,108,109,114,115
包含層4層との関係 不明なピット	33,38,39,74,75,76,78,82,83,84,85,122

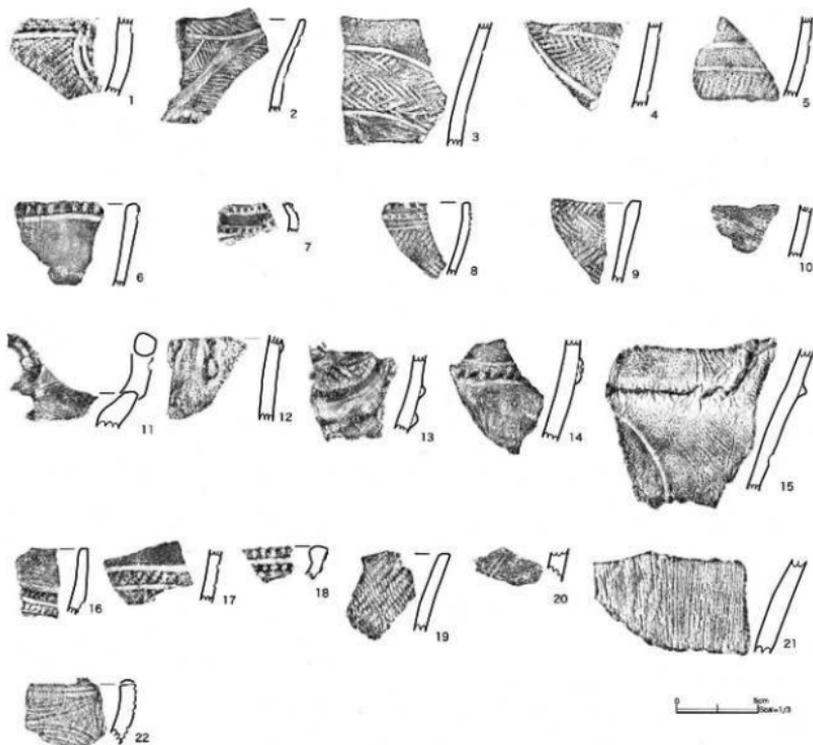
第3表 検出層位別PIT一覧



PIT66 出土遺物配置表

図数番号	出土期区・層別	口徑	底径	深さ	外周	内周	備考	等尺測線
35-1	P56層出土	—	12.7	△32.2	TRSF (方位・斜定)、下部ナブ	ミガキ、炭化物付層	包4層出土セット	35-1

第36図 PIT66と出土遺物



PIT 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位/口徑	形状	高さ	直径	外面	内面	備考	写真図取
37-1	P64 塚橋土	-	-	(△4.7)	1段→平行・直状沈線文(2条1組)	ナシ	包4層焼出ピット	
37-2	P10 塚橋土	-	-	(△6.2)	沈線区画内交錯LR	ミガキ	包4層焼出ピット	
37-3	P72 塚橋土	-	-	(△7.8)	沈線区画内LR, 光面?	ミガキ	包4層焼出ピット	
37-4	P56 塚橋土	-	-	(△5.1)	大距縦文?、光面?	ミガキ	包4層焼出ピット	
37-6	P29 塚橋土	-	-	(△5.6)	沈線区画, LR	ナシ	包4層焼出ピット	
37-8	p19 塚橋土	-	-	(△5.2)	沈線区画内斜目、ミガキ	ミガキ	包4層焼出ピット	
37-7	P117 塚橋土	-	-	(△1.8)	平行沈線間隔み目	ミガキ?	包4層焼出ピット	
37-8	P19 塚橋土	-	-	(△4.6)	平行沈線間隔み目、直状縦文(LR, RL)	ミガキ	包4層焼出ピット	
37-9	P19 塚橋土	-	-	(△5.2)	直状縦文(LR, RL)	ナシ	包4層焼出ピット	
37-10	P114 塚橋土	-	-	(△3.0)	縦線状工具による沈線	ミガキ?	包4層焼出ピット	
37-11	P11 塚橋土	-	-	(△2.7)	粘土結核等上斜突、首孔	ナシ	窯跡焼出ピット	
37-12	P50 塚橋土	-	-	(△4.3)	粘土結核等上斜突、RL?	ミガキ	窯跡焼出ピット	
37-13	P9 塚橋土	-	-	(△4.2)	粘土結核等、RL3r?	ミガキ	窯跡焼出ピット	
37-14	P27 塚橋土	-	-	(△6.4)	粘土結核等上斜突	ミガキ?	窯跡焼出ピット	
37-15	P2 塚橋土	-	-	(△8.2)	粘土結核等上斜突、直状沈線、RL?	ミガキ?	窯跡焼出ピット	
37-16	P108 塚橋土	-	-	(△4.0)	沈線区画内斜目、ミガキ	ミガキ	窯跡焼出ピット	
37-17	P90 塚橋土	-	-	(△3.2)	沈線区画内LR	ナシ	窯跡焼出ピット	
37-18	P62 塚橋土	-	-	(△2.0)	沈線、斜目	不明	窯跡焼出ピット	
37-19	P25 塚橋土	-	-	(△4.8)	LR	ナシ	窯跡焼出ピット	
37-20	P114 塚橋土	-	-	(△2.0)	縦線状工具による沈線	不明	窯跡焼出ピット	
37-21	P4 塚橋土	-	-	(△5.7)	縦線状工具による沈線(5本1組?)	ミガキ	窯跡焼出ピット	
37-22	P33 塚橋土	-	-	(△3.3)	3条1組の浮線状直状沈線、小突起(二つ)	ナシ	窯跡焼出ピット	

第37図 PIT出土遺物

## 炉

遺物包含層中で、礫で焼土面を囲んだ石囲炉を1基検出した。包含層中ではこのほかに焼土を検出し個別に取り上げているが、確実に遺構と認められるものではないため、他の焼土については、遺物包含層の中で記載するものとする。

### 【石囲炉】(第38図)

【位置】 調査2区S0～S3、E15～E18

【確認面】 遺物包含層1C層下、遺物包含層2C・2D層上面

【重複関係】 特に重複関係にない。

【包含層との関係】 炉が直接遺物包含層1C層に覆われており、これより古い。また、炉の周囲の平坦面が遺物包含層2C・2D層の上面で形成されており、これより新しい。

【規模・平面形】 北に傾斜する斜面にあつて周囲より6～8cmほど凹む円形の平坦面(南北2.3m、東西2.8m)の中に石囲炉が設置されている。この平坦面は北側でなくなって斜面となることから、遺物包含層1C層等によって失われたと考えられ、確認した以上の規模の平坦面をもっていたと推測する。

【堆積土】 炉の焼土面は直接堆積土1層(遺物包含層1C層)で覆われるが、炉周囲の平坦面南側に薄く堆積土2層が堆積しており、石囲炉の堆積土として取り上げた。この堆積土2層はほぼ堆積土1層に近似するが、ぼやけた暗赤褐色土が混じっており、薄いが自然堆積した層と考えている。

【平坦面の状況】 検出した平坦面は周囲より浅い皿状の凹みとなるもので、ほぼ水平な平坦面が形成されており、若干表面がかたくしまっている。

【炉の状況】 浅く凹んだ平坦面の残存部分ほぼ中央西よりで12個の礫を円形(90×95cm)に配し、内部に明赤褐色土を多く含む粘土質シルト(堆積土3層)が10cmほど堆積する。円形に配される礫は、何も含まない黒褐色粘土質シルト(堆積土4層)に石の上半が露出するようにほとんど隙間なく埋設されており、堆積土4層は石設置の際の堀方土と考えられる。礫はほとんどが安山岩で遺物包含層内や地山内にみられるものと同様のものであるが、1部砂岩でも構成される。

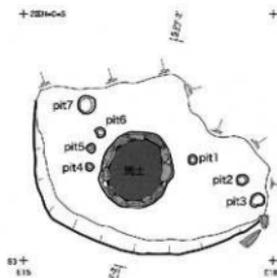
【柱穴】 石囲炉周囲の平坦面内部でピットを7基検出した。径20cmとなるpit7を除き10～15cm程の円形をとる。いずれのピットも深さが8～10cmと浅く、黒褐色シルトが堆積する。堆積土内に柱痕跡等を確認できなかったが、pit1、4、5、6は石囲炉より10～20cmほど離れた部分に等間隔で円状に並んでおり、石囲炉に関連するものと考えられる。

【その他】 検出当初、住居跡や土墳墓などの可能性も推測したが、壁の立ち上がりか確認できないこと、石囲炉の大きさに比べて平坦面の残存部分が狭く、主柱穴や壁柱穴となるピットが確認できなかったことなどから堅穴住居跡等として特定するに至らなかった。

【出土遺物】

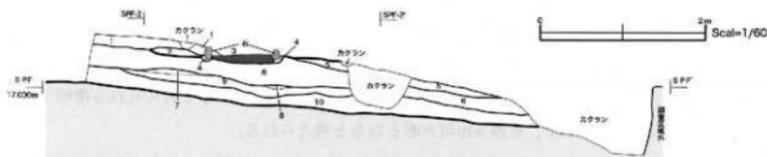
堆積土2層、堆積土3層(炉焼土内)、pit5、6、7より縄文土器片が出土している。

1は堆積土2層からの出土で、2条1組で弧状となる沈線区画内に縄文が充填施文される。2～6



石伊勢クシオン土

層	土色	土質	備考
1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	遺物付着層1C層
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	遺物付着層1C層に同じだが、2.5YR5/6程度の褐色土を伴って出ている
3	7.5YR2/1黒色	粘土質シルト	2.5YR5/6程度の褐色土を多く含む。層中に骨・炭化物の類は多く含む
4	7.5YR2/2暗褐色	粘土質シルト	特に骨も含まない。伊勢段層の層上
5	10YR2/2茶褐色	粘土質シルト	遺物付着層2C層
6	10YR3/2茶褐色	粘土質シルト	遺物付着層2C層
7	10YR3/2茶褐色	粘土質シルト	遺物付着層3C-4層に隣接する層状に含む
8	10YR3/2茶褐色	粘土質シルト	遺物付着層3C-4層に隣接する層状に含む
9	10YR3/2茶褐色	粘土質シルト	遺物付着層3C-4層
10	R1.5の褐色	砂質シルト	遺物付着層の層



石伊勢 出土遺物表

図録番号	出土地区・層位	口縁	形状	器高	外面	内面	備考	写真図版
38-1	石伊勢焼土2層	—	—	(△3.3)	沈澱区画内充填LR	ヒガキ		
38-2	石伊勢焼土3層	—	—	(△3.3)	研ぎすれた沈澱文(菱形文)	ヒガキ	跡?	
38-3	石伊勢焼土3層	—	—	(△3.3)	RL→反転平行沈澱(平行沈澱→弧状沈澱)	ヒガキ		
38-4	石伊勢焼土3層	—	—	(△5.1)	沈澱区画。羽状縄文(LR、RL)	ヒガキ		
38-5	石伊勢焼土3層	—	—	(△3.3)	同。	ナデ	沈跡・跡	
38-6	石伊勢焼土3層	—	—	(△4.2)	羽状縄文(LR、RL)	ヒガキ	沈跡・跡	
38-7	石伊勢5層焼土	—	—	(△2.7)	同。	ヒガキ	沈跡・跡	
38-8	石伊勢5層焼土	—	—	(△2.4)	同。	ヒガキ	沈跡・跡	
38-9	石伊勢7層焼土	—	—	(△3.3)	同。	ナデ	沈跡・跡	

第38図 石伊勢と出土遺物

は堆積土3層(炉焼土内)からの出土である。2は研磨され浮彫状となるもので口縁部下に平行沈澱と菱形文が施文される。3は縄文施文後に平行沈澱間を連結する縦位弧文を施文することで反転する平行沈澱となるものである。4は平行沈澱区画内に羽状縄文が施文される。5、6は地紋のみの施文となる。7～9はpitからの出土で、地紋のみの施文となる。

## その他の遺構

### 【SX-01】(第39図)

遺物包含層上面で確認された遺構で、地山や不定形な土壌？を整地してつくられている。遺構の残存状況が良好な状態になく遺構の一部が調査区域外に伸びるため内容に不明な部分が多い。また、本調査で検出している他の遺構と形態・規模などの点において、異なるものである。

【位置】 調査2区S9～S13、W3～W2

【確認面】 旧表土下、地山上面

【重複関係】 特に重複関係にないが、不定形な土壌？の上部を整地してつくられている。

【包含層との関係】 本遺構の整地層と考えている堆積土2層が、一部遺物包含層3H層を覆っており、これより新しい。遺物包含層1、2層とは重複関係にないため不明である。

【平面形・規模】 本遺構を区画すると考えられる東西の溝や床面を形成すると考えられる堆積土2層の残存範囲から、南北3.8m以上、東西5mの方形となると考えられる。

【堆積土】 旧表土下にあつて、上面に灰白色火山灰を含む黒褐色の粘土質シルトが1層堆積する。

【壁面の状況】 南・東・西側には残存しておらず、北側は調査区域外となるため確認できなかった。

【床面の状況】 地山上面、堆積土2層上面を床面とし、北側でかるく段をつくるかほぼ水平となる。堆積土2層は地山ブロックを多量に含む灰褐色粘土質シルトがかたくしまる層で、北に傾斜する地山上面と不定形な土壌？2ヶ所(堆積土3～5層で風倒木痕に近い。特に遺物を含んでいない)を覆う形で、本遺構北側に分布する。この堆積土2層上面で焼土面が見られること等から、2層上面を床面として精査を行った。

【炉】 検出した遺構のほぼ中央の堆積土2層上面で、50×30cmの不整な楕円形を呈する焼土面を確認した。焼土である1層の下に上面が若干赤変化する2層が認められ、地床炉と考えられる。

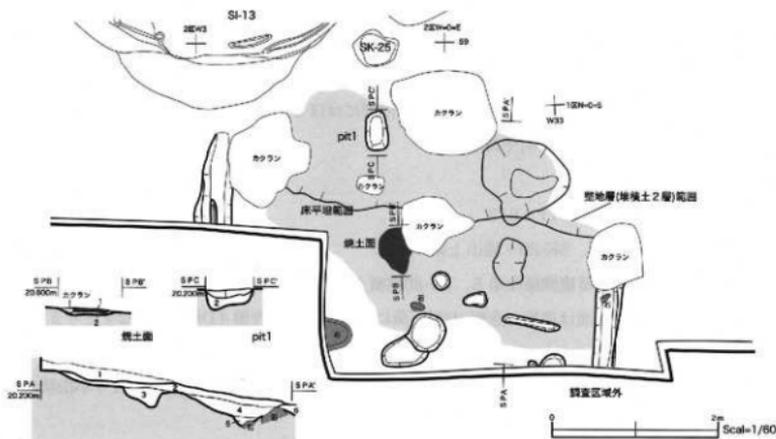
【柱穴】 床面でピットを数基確認したが、いずれも5cmほどで浅く、不定となる。炉の北側で、堆積土に灰白色の火山灰を含むpit1を確認したが、柱穴として特定に至らなかった。

【周溝】 遺構の東西部分で幅20～30cm、深さ10～15cmとなる溝が南北方向に伸びており、この溝より外側では平坦な床面の形成がなく斜面となるため、本遺構の周溝を巡る周溝と考えられる。

【出土遺物】

堆積土1層(1～3、8)、堆積土2層(4)、西側の周溝堆積土(5、6)、pit1堆積土(7)より縄文土器片と土師器片が出土している。

1は口縁部にB突起をもつもので、半肉彫的な雲形文が施文される。2は沈線1条をはさんで平行沈線間の上下に5ヶづつ刻み目が施される。3は胴部片で沈線区画内に縄文が充填される。4は平行沈線の内部に刻み目を施す。5は地紋のみ、6は無文、7は櫛歯状工具による弧状の痕跡となるものである。8は明赤褐色の色調となるロクロナデ整形された土師器壺破片である。



SX-01セクション土層

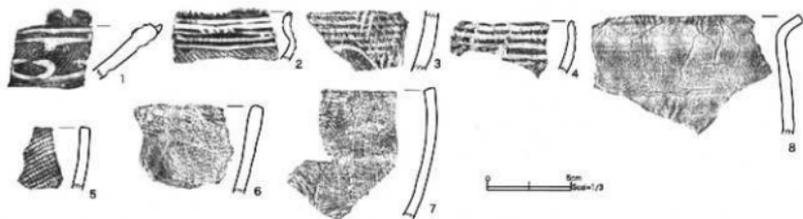
層	土色	土質	備考
1	10YR5/1黄褐色	粘土質シルト	上部に反白色の水浸痕をブロック状に含む
2	10YR5/1黄褐色	粘土質シルト	塊状ブロックを少量に含む。SX-01遺構面。
3	10YR5/2黄褐色	粘土質シルト	上部に塊状ブロック、下部に炭化物を若干含む
4	10YR5/2黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒、焼土粒を含む
5	10YR5/2黄褐色	粘土質シルト	何れも含まない
6	7.5YR3/1黄褐色	シルト	層状付着層3層

SX-01内輪土層セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR4/6赤色	シルト	焼土、塊状ブロックを多く含む。
2	10YR4/6赤色	シルト	埋没層はよこ10YR4/1シルトを含む

SX-01Ppit1セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR4/1黄褐色	シルト	灰白色のシルト状をブロック状に含む
2	10YR2/3	シルト	何れにも含まない



SX-01 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口径	底径	胎高	外面	内面	備考	写真掲載
39-1	SX-01埋積土1層	-	-	△(3.3)	出天窓、半円形約々型印文	平行沈線、罫み目、ミガキ	残跡・皿	
39-2	SX-01埋積土1層	-	-	△(2.3)	平行沈線罫み目、丸	ミガキ、炭化層付着	漆器・鉢	
39-3	SX-01埋積土1層	-	-	△(3.3)	沈線区画、丸	ミガキ?		
39-4	SX-01埋積土2層	-	-	△(3.2)	平行沈線、沈線約々み目	ミガキ	漆器・鉢	
39-5	SX-01西側周溝部	-	-	△(3.0)	丸	ミガキ	漆器・鉢	
39-6	SX-01西側周溝部	-	-	△(5.3)	ナデ	ナデ	漆器・鉢	
39-7	SX-01pit1埋土	-	-	△(7.3)	層状工具による痕跡(3本1痕)	ナデ	漆器・鉢	
39-8	SX-01埋積土1層	-	-	△(7.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	土器類・甕	

第39図 SX-01と出土遺物

## 【SX-02】(第40図)

遺物包含層4D層上面で確認されたもので、地山の大きなブロックが小山状(塚?)になっているものである。SK-20堆積土上面の東側で、土壌と分布を若干異にする形で確認した。小山の内部は大きな地山のかたまりと共に黒褐色粘土質シルト層が見られ、内部にはほとんど遺物を含んでいない。遺構として取扱うべきものであるのかも不明である。

〔位置〕 調査2区S0～S2、E11～E13

〔確認面〕 遺物包含層3E層下、SK-20・地山上面

〔重複関係〕 下面でSK-20と重複関係にある。SK-20堆積土を覆っており、これより新しい。

〔包含層との関係〕 SX-02上面は遺物包含層3H層下面にあり、遺物包含層4D層がSX-02をとりまくように堆積しているため、これらより古いと考えられる。

〔平面形・規模〕 SK-20の東半に位置し、80×50cmほど、高さ35cmの不整な楕円形となり小山状に盛り上がる。

〔堆積土〕 堆積土1～5層によって構成される。1、2、4層は黒褐色～黒色の粘土質シルト、3、5層は橙色の地山粘土で、土色が交互に層を形成している。5層より下はSK-20堆積土が堆積する。

〔出土遺物〕 特に出土していないが、SK-20堆積土中からは縄文土器片が出土している。

## 【SX-03】(第40図)

SX-02と同様のものである。SK-10の北西側に位置して確認した。

〔位置〕 調査2区S2～S3、E24～E26

〔確認面〕 遺物包含層3C-1層下、SK-10・漸移層上面

〔重複関係〕 SK-10、SK-11と重複関係にある。SK-10をほぼ直接覆っており、これより新しい。SK-11がSX-03の一部を切っており、これより古い。

〔包含層との関係〕 SX-03上面は遺物包含層3C-1層下面にあり、遺物包含層4D層がSX-03をとりまくように堆積しているため、これらより古いと考えられる。

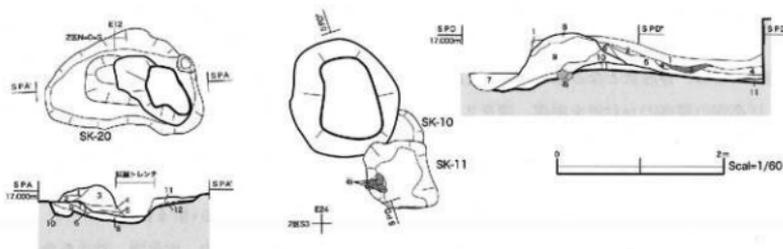
〔平面形・規模〕 SK-10の北西側に位置し、130×100cmほど、高さ50cmの楕円形となり小山状?に盛り上がる。

〔堆積土〕 堆積土8～10層によって構成され、SK-10にほぼ直接堆積する。8層はにぶい褐色の砂質シルトで漸移層に近似したものと上面に若干遺物を含む。9層は黄橙色の地山粘土の塊で遺物や混入物を全く含まない。10層は黒褐色の粘土質シルトで炭化物と共に若干の遺物を含む。

〔出土遺物〕

堆積層8層上面(1～3)、10層(4～5)から縄文土器の小片が出土している。

1は山形突起が配されるもので、沈線区画内に縄文が施文される。2は沈線文が描かれるが小片のため不明である。3は沈線区画内に縄文が充填施文され、区画外?に刻み目や粘土粒貼付が見られる。



SK-02セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物・地山ブロックを多数含む。SK-02埋藏土。
2	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	SK-02埋藏土。
3	7.5YR6/0褐色	粘土	しよりのある地山粘土。SK-02埋藏土。
4	10YR2/1白色	粘土質シルト	地山ブロックを多数含む。SK-02埋藏土。
5	7.5YR10/0白色	粘土	埋藏土を穿ちた地山ブロックを含む。SK-02埋藏土。
6	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む。SK-20埋藏土。
7	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を散らる骨を含む。SK-20埋藏土。
8	10YR2/1白色	粘土質シルト	炭化物を含む。SK-20埋藏土。
9	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	地山ブロックをまばらに含む。SK-20埋藏土。
10	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物・破やけた地山ブロックを含む。SK-20埋藏土。
11	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物をまばらに含む。SK-20埋藏土。
12	10YR4/2灰褐色	砂質シルト	粘土との混合物。SK-20埋藏土。

SK-03セクション土層

層	土色	土質	備考
1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	遺物を含む層SC-1層
2	10YR4/2灰褐色	砂	
3	2.5YR5/0暗赤褐色	シルト	埋土。
4	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	遺物を含む層SC-4層
5	7.5YR6/0褐色	砂質シルト	埋藏土を穿ちた層
6	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	埋藏土を穿ちて含む
7	7.5YR6/0褐色	砂質シルト	炭化物を含む。SK-11埋藏土。
8	7.5YR4/2灰褐色	砂質シルト	炭化物に近似する。SK-03埋藏土。
9	7.5YR7/0暗褐色	粘土	地山粘土。SK-03埋藏土。SK-10埋藏土。
10	7.5YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物を含む層。SK-03埋藏土。SK-10埋藏土。
11	10YR4/2灰褐色	砂質シルト	粘土との混合物。



SK-03 出土遺物観察表

図版番号	出土地区・層位	口径	底径	高さ	外面	内面	備考	写真図版
40-1	SK-03層位8層上	-	-	17.4(±)	山形突起、平行沈線。LR	ヒ方キ	沈線・跡	
40-2	SK-03層位8層上	-	-	12.2(±)	沈線	ヒ方キ		
40-3	SK-03層位8層上	-	-	13.3(±)	沈線区画内花裏面、区画外縦み目、粘土乾跡付	ヒ方キ		
40-4	SK-03層位10層	-	-	12.6(±)	縦線粘土層隆部上突起、RL	ヒ方キ		
40-5	SK-03層位10層	-	-	17.7(±)	沈線、用。	ヒ方キ		

第40図 SK-02,03と出土遺物

4は縦位粘土紐隆帯上に刺突が施される。5は底部付近の破片と考えられるもので、沈線区画と縄文施文が見られる。

## 遺物包含層

遺物包含層は、谷地状となる地形に沿って調査1区・調査2区のほぼ全域に分布する(第41・42図)。調査1区南端の標高21m付近を南端、調査2区西側の標高19m付近を西端として最大幅45m、厚さ1mの規模をもち、調査2区北側で掘状カクランにより一部が失われているものの、調査区外の北方と西方へさらに分布するものと考えられる。

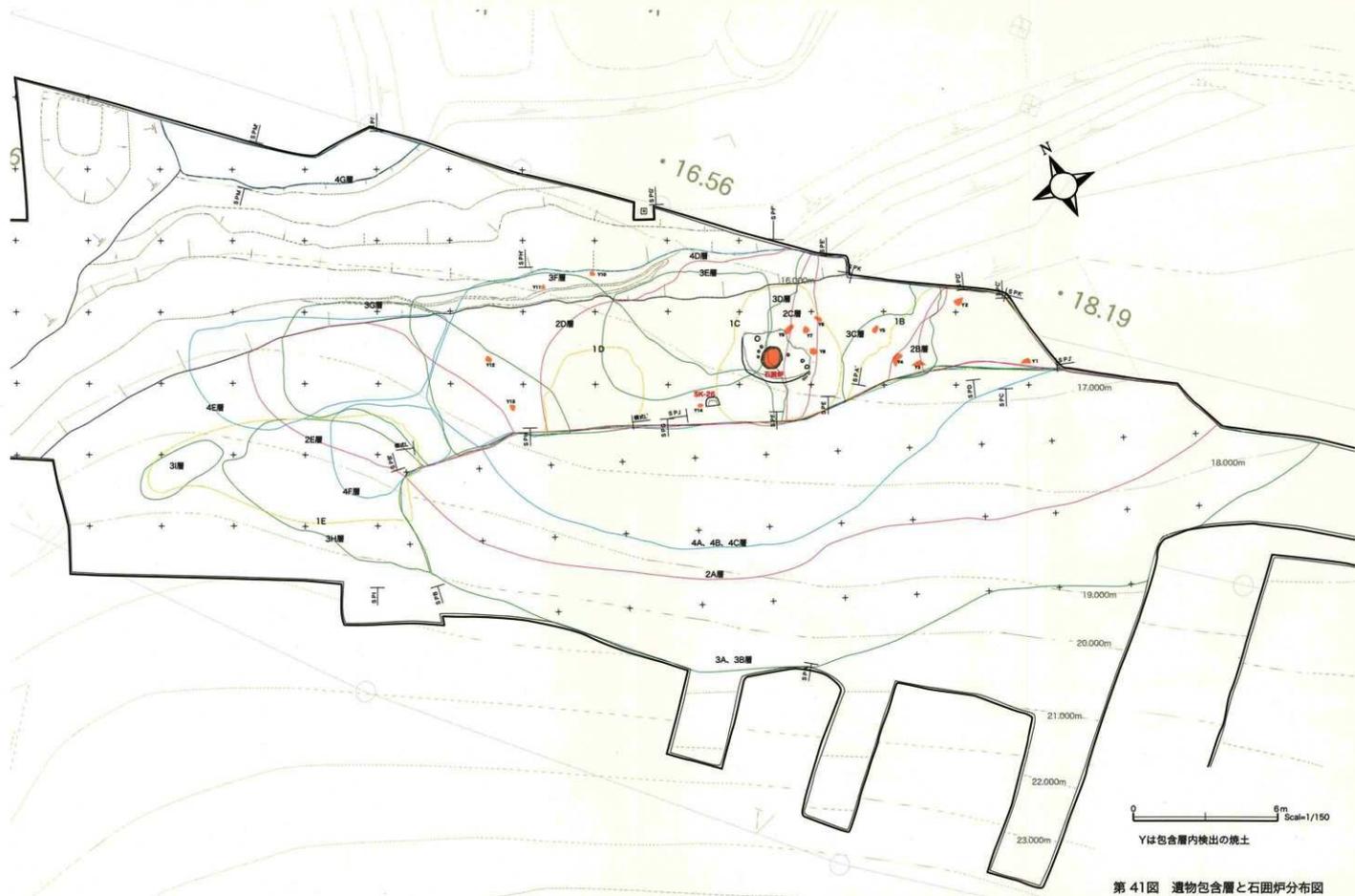
遺物包含層は、旧表土下面を確認面とし、下面は地山もしくは漸移層となる(第4表)。

層内は、暗褐色～黒褐色シルトで交互に構成され多量の礫と遺物ともに焼土、炭化物、骨片を含む遺物包含層1～3層と、黒色の砂質シルトで構成され層内に少量の遺物を含む遺物包含層4層(上面で竪穴住居跡などの遺構を確認でき下面が地山漸移層となる)の大きく4層に大別することができる。この大別される4層は、さらに10～15mほどのまとまりをもって分布する細層・細々層に細分することができ、主に遺物包含層分布区域の西・中央・東側の3～4箇所を中心として堆積する。また、層間では前述の石囲炉や土塋、焼土を検出した。

調査1区では、遺物包含層分布域を大きく東西地区に区分して大別層毎に精査を実施し、調査2区では、遺物包含層分布域を西・中央・東地区に区分して細別・細々層毎に精査を実施し、遺物の取り上げを行った。

遺物包含層から出土した遺物には、縄文土器、土製品、石器、石製品がある。いずれの遺物もまとまりをもって出土するような一括性や特定の傾向を示す出土状態ではなく、特に縄文土器は細片や破損資料がちらばった形で出土しており、ほとんどの資料で接合関係をみることができなかった。

このため出土遺物の整理では、土器資料について主に口縁部資料を中心に抽出し、図化等の作業を行った。さらに本書においては、これらの図化した口縁部資料の内、同一包含層内で内容が重複する資料や細かい資料を除き、遺存状況の良い資料をさらに抽出して取扱うこととした。また、小片が多く明確な器形分類が困難であるため、大まかな器種分類と主要な文様構成などの属性によって資料を分類し、細別した遺物包含層間では資料間の内容に特に差が見られなかったため、大別される遺物包含層毎に掲載することとする。その他、焼土出土遺物、土製品、石器、石製品については別に項目を設けて記載することとした。各資料の詳細な観察結果については観察表を参照していただきたい。



第 41 図 遺物包含層と石田炉分布図



遺物包含層土層観察表

大別	類別	土色	土質	備考	調査区	調査年度	調査層番号
遺物包含層1層	旧表土	10YR7/1黒色	シルト	礫を少量、遺物を含む			
	1A	10YR3/2黒褐色	シルト	礫・遺物を多く含む	1区	1997	1b
	1B	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	径10~20cmの礫を含む。遺物を多く含む。	2区	2000	9
	1C	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	礫粒、炭化物粒を含む。遺物を多く含む。	2区	2001	13
	1D-1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	礫・遺物を多く含む	2区	2000	7
	1D-2	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	礫・遺物を多く含む	2区	2000	7-2
	1D-3	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	礫・遺物を多く含む	2区	2000	7-1
	1E	7.5YR3/3~3/3褐色~暗褐色	シルト	径10~20cmの礫、炭化物を含む。遺物を多く含む。	2区	2000	1
	2A	10YR2/1黒色	シルト	礫を多量に、遺物を多く含む	1区	1997	2a
	2B	10YR1.7/1黒色	粘土質シルト	径5cm程度の礫をまばらに、炭化物を含む。遺物を含む	2区	2000~2001	10
遺物包含層2層	2C	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	礫粒、炭化物粒を含む。遺物を多く含む。	2区	2001	13-2
	2D	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	礫粒、炭化物粒を含む。遺物を多く含む。	2区	2000~2001	8
	2E	7.5YR3/1黒褐色	シルト	径3~5cmの礫、砂粒、遺物を含む	2区	2000	2
	3A	10YR3/3暗褐色	砂質シルト	礫を少量含み、部分的に堆積する。遺物を含む。	1区	1997	2b
	3B	10YR2/2黒褐色	シルト	礫を少量含み、遺物を多く含む。	1区	1997	2c
	3C-1	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	径2~3cmの礫、炭化物を多く含む。遺物を多く含む。	2区	2001	11
	3C-2	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物、焼土を多く含む。遺物を含む。	2区	2001	11-1
	3C-3	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	径10cm程度の礫、焼土を含む。遺物を含む。	2区	2001	11-2
	3C-4	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	径10cm程度の礫、焼土を含む。遺物を含む。	2区	2001	11-3
	3D-1	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	径2~3cmの礫を多く含む。遺物を多く含む。	2区	2001	10-1
遺物包含層3層	3D-2	7.5YR2/2黒褐色	砂質シルト	地山砂粒を含み、若干赤みを帯びる。	2区	2001	10-2
	3D-3	10YR2/3黒褐色	粘土質シルト	径2~3cmの礫を多く含む。遺物を多く含む。	2区	2001	14
	3D-4	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒を多く含む。層中で地山、礫が層状に堆積する。	2区	2001	14-2
	3E	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	径2~3cmの礫をまばらに含む。遺物を多く含む。	2区	2000~2001	8-1
	3F	10YR2/2黒褐色	粘土質シルト	径5~20cmの礫、砂粒、骨髄片、炭化物、遺物を含む	2区	2000~2001	5
	3G-1	7.5YR3/1黒褐色	シルト	径20~30cmの礫を多く、炭化物、遺物を含む	2区	2000	4
	3G-2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物、遺物を含む。	2区	2000	3-2-3
	3G-3	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物、遺物を含む。地山ブロックを多く含む。	2区	2000	3-2-1
	3H	7.5YR2/2黒褐色	シルト	径10~20cmの礫、炭化物を含む。遺物を多く含む。	2区	2000	3
	3I	7.5YR2/2黒褐色	シルト	礫粒、炭化物を含む。遺物を少量含む。	2区	2000	西塩類
遺物包含層4層	4A	7.5YR2/2黒褐色	砂質シルト	礫を少量、遺物を含む	1区	1997	5
	4B	7.5YR3/3暗褐色	砂質シルト	礫、焼土粒、遺物を少量含む。下層が漸移層となる。	1区	1997	3b
	4C	10YR3/1黒褐色	砂質シルト	遺物を少量含む。下層が漸移層となる。	1区	1997	4
	4D	N1.5/0黒色	砂質シルト	礫細粒、遺物を少量含む。下層がばやけて漸移層となる。	2区	2000~2001	6.12,12-1
	4E	10YR3/2黒褐色	砂質シルト	炭化物、遺物を含む。下層で部分的に漸移層となる。	2区	2000	3-2-2
	4F-1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	炭化物、遺物を含む。ほぼ漸移層に近い。	2区	2000	4-2-3
	4F-2	10YR2/3黒褐色	砂質シルト	炭化物、遺物を含む。	2区	2000	4-2
	4F-3	10YR2/4黒褐色	砂質シルト	礫、炭化物、遺物を含む。	2区	2000	4-2-2
	4G	10YR2/1黒色	砂質シルト	礫、炭化物、遺物を少量含む。	2区	2000	北塩類1
	漸移層	10YR4/2~10YR3/4灰黄褐色~暗褐色	砂~砂質シルト	包含層4層と同じ分布。地山との漸移層。遺物を含まない。			
地山	10YR5/4にぶい黄褐色	粘土質シルト	礫を多く含む。2区ではほぼ粘土に近い。				

第4表 遺物包含層セクション観察表

## 【遺物包含層1層出土土器】

旧表土下で確認された遺物包含層で、旧表土の黒色シルトや遺物包含層2層の黒色に比べて若干明るい黒褐色シルトとなる。層内は1A～1E層の5層に細別される。うち1A層は調査1区において大別遺物包含層で精査をおこなった層である。また、1D層は1D-1～1D-3層にさらに細分できる。

分布については1A層の分布は特に記録化しなかったが、各層は、5～10mほどのまとまりをもって包含層分布区域の東・中央(東・西)・西の4ヶ所を中心に分布している(第43図)。細別層間で特に重複関係は認められなかった。

遺物包含層1層からは、主に1A・1C層から遺物が多く出土している。出土した縄文土器は精製土器・粗製土器に区分でき、主に深鉢形・鉢形土器(第44図～第47図9)、浅鉢形・皿形土器(第47図10～第49図)、壺形土器(第50図1～9)、その他注口土器・台部資料(第50図10～14)、粗製の深鉢形・鉢形土器(第51図)がある。

### 深鉢形・鉢形土器(第44図～第47図9)

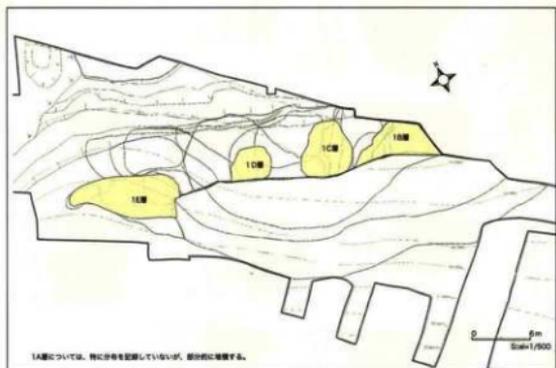
- ・粘土紐貼付等による隆帯や粘土粒貼付、刺突、盲孔等を施すもの(第44図1～10)  
粘土紐隆帯上に籠状工具で2個対の刺突を施すもの(6～9)、粘土粒貼付上に盲孔・刺突を施すもの(2、3、5、10)が見られる。
- ・口縁部等の沈線区画内部に主に充填・磨消によって縄文施文するもの。またさらに沈線文(平行沈線や反転する平行沈線)を施文するもの(第44図11～27)
- ・口縁部等の沈線区画内部に刻み目を充填するもの(第44図28～40)  
刻み目下部が無文となるもの(28～37)、縄文施文や文様が施文されるもの(38～40)がある。
- ・粘土粒貼付を施すもの(第45図1～7)  
沈線文のみものに貼付するもの(1～5)、沈線区画内の縄文施文上に貼付するもの(6～7)がみられる。
- ・山形突起をもつもの(第45図8～25)  
特徴的なものとして、大小の突起となるもの(第45図9、12)、沈線によって突起頂部を2分するもの(第45図13～17)、突起下部に三叉沈線が施文されるもの(23～25)がみられる。
- ・口～胴上部もしくは口～頸部間で平行沈線区画を施し、区画上部が文様帯・下部が地紋施文となるもの(第45図26～第47図9)  
羊歯状文や直線の羊歯状文が施文されるもの(第45図27～36)、平行沈線間に刻み目を充填するもの(第46図1～27)、平行沈線のみもしくは三叉沈線が施されるもの(第46図28～第47図9)が見られ、それぞれに内湾して立ちあがるもの、口～頸部や胴部上半で屈曲する器形となるものがある。

#### 浅鉢・皿形土器(第47図10～第49図)

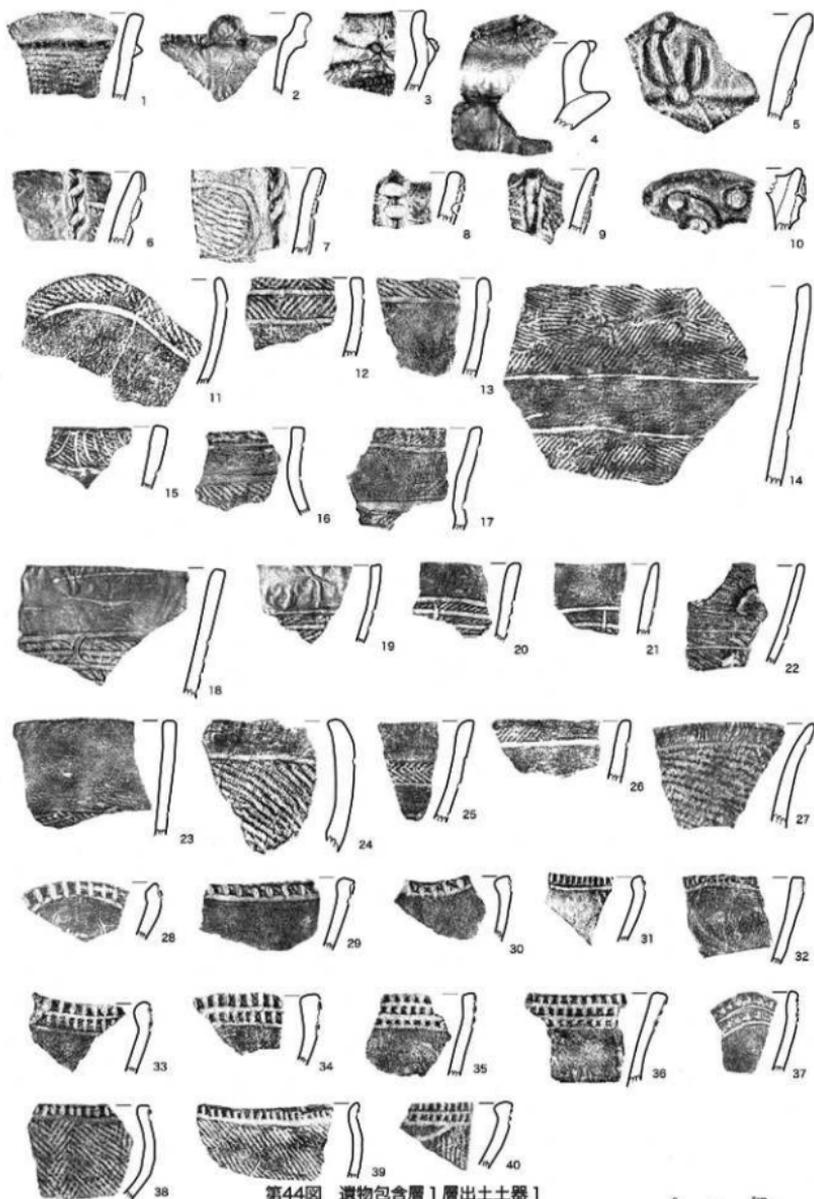
- ・沈線区画内部に入組文などの沈線文・縄文施文・刻み目等を施すもの(第47図10～19、28)  
いずれも小破片であるが、反転する平行沈線(14)、入組状文(11,19)、沈線区画脇に連続刺突を施すもの(12、17、28)がみられる。
- ・三叉文・羊歯状文などが施文されるもの(第47図20～27)  
かるく内湾して開き浅い皿形状となるもの(20、21)、胴部で屈折するもの(22、23)がみられる。
- ・雲形文が施文されるもの(第48図～第49図1)  
内湾もしくは口～頸部で屈曲する浅鉢形土器(第48図1～8)、かるく内湾もしくは外傾しながら開く皿形土器(第48図9～13)、直線的もしくは外反して大きく開く皿形土器(第48図14～第49図1)がみられる。特に直線的もしくは外反して大きく開く皿形土器は半円彫的な雲形文となる。
- ・口縁下部に平行沈線もしくは平行沈線間刻み目を施し下部が縄文施文となるもの(第49図2～8)  
いずれも外傾して大きく開くものである。
- ・工字文が施文されるもの(第49図9) 変形?工字文が施文される。

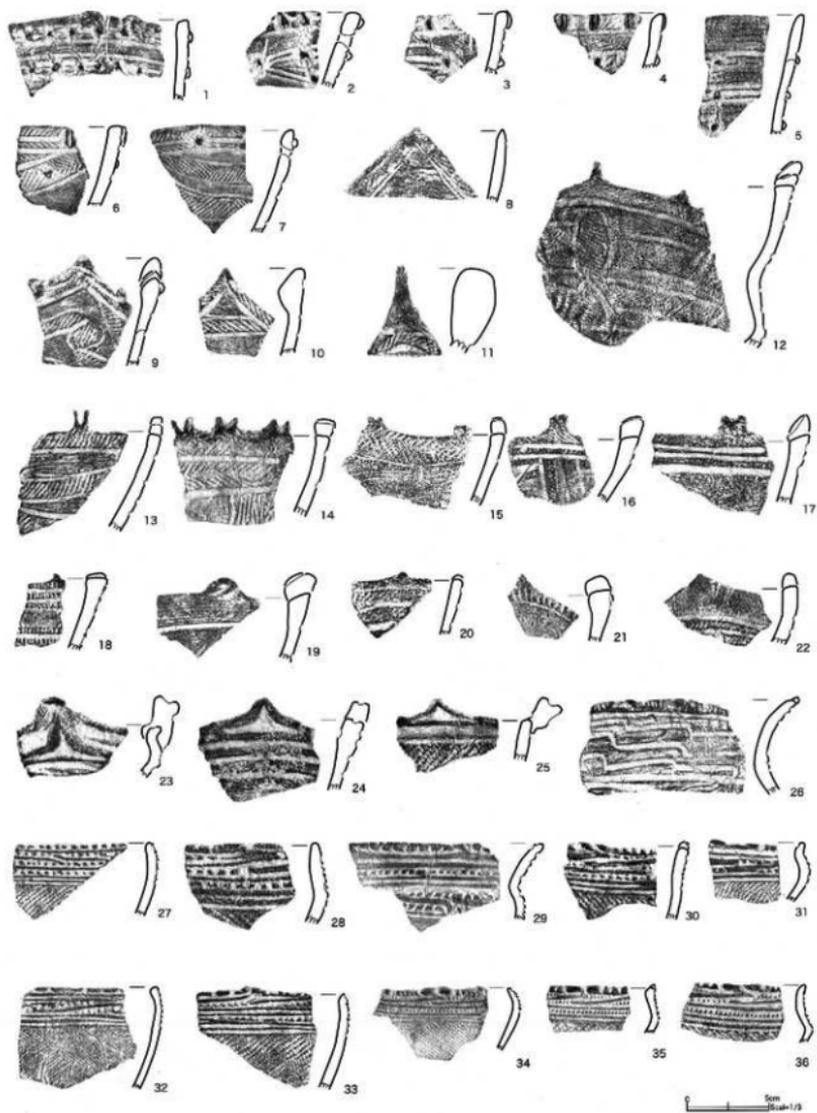
#### 壺形土器(第50図1～9)

- ・口縁部に装飾をもつもの(第50図1)  
丹念なミガキが施され、沈線と刺突により突起状の口縁部を形成する。
- ・広口の壺形土器で大きく膨らむ胴部をもち、口縁部無文、胴部縄文施文となるもの(第50図2～9)  
内傾もしくはほぼ直立して立ち上がる頸部をもつもの(2、3、5～9)と短く外反する頸部をもつもの(4、6)がある。また頸～胴部間に平行沈線を施すものと施さないものがある。

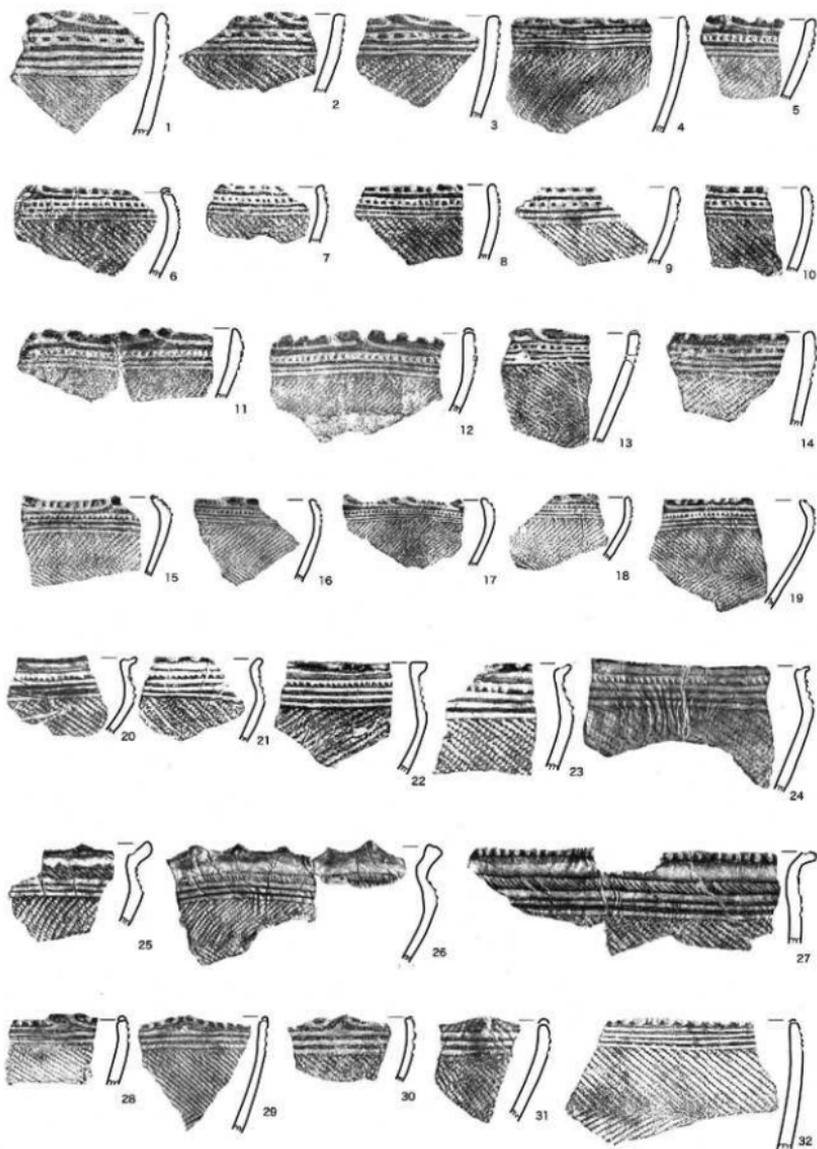


第43図 遺物包含層1層分布図



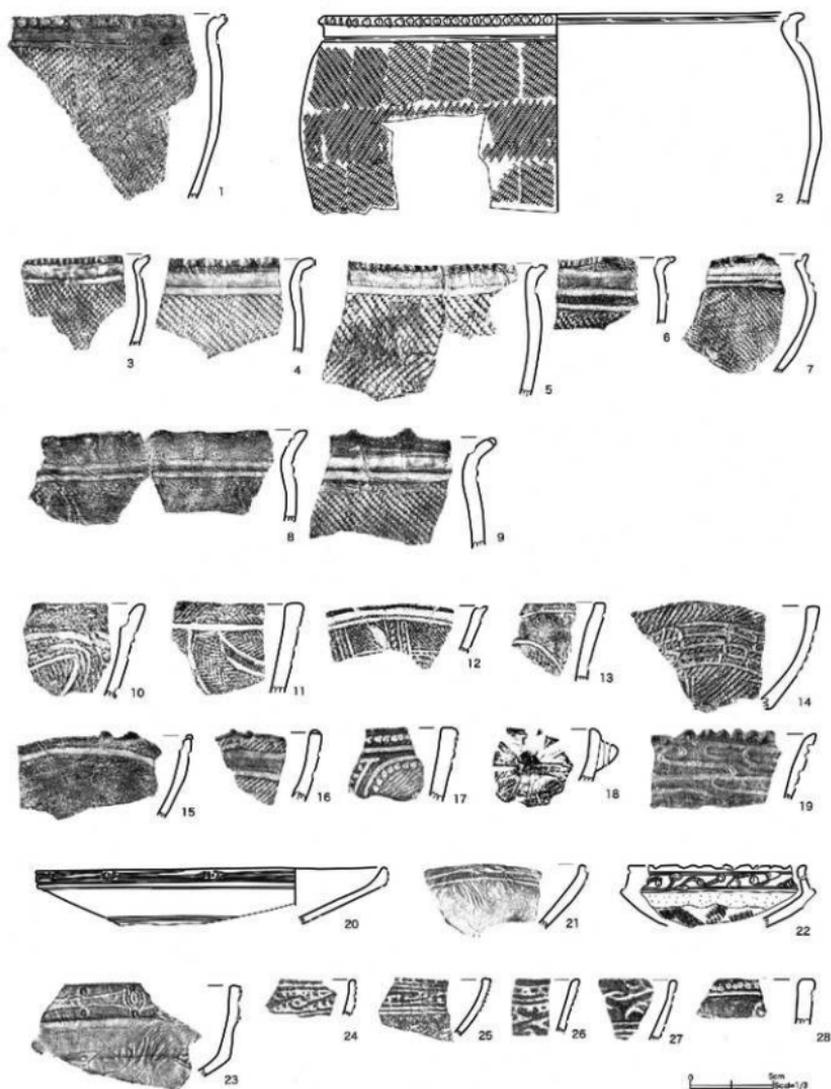


第45圖 遺物包含層1層出土土器2

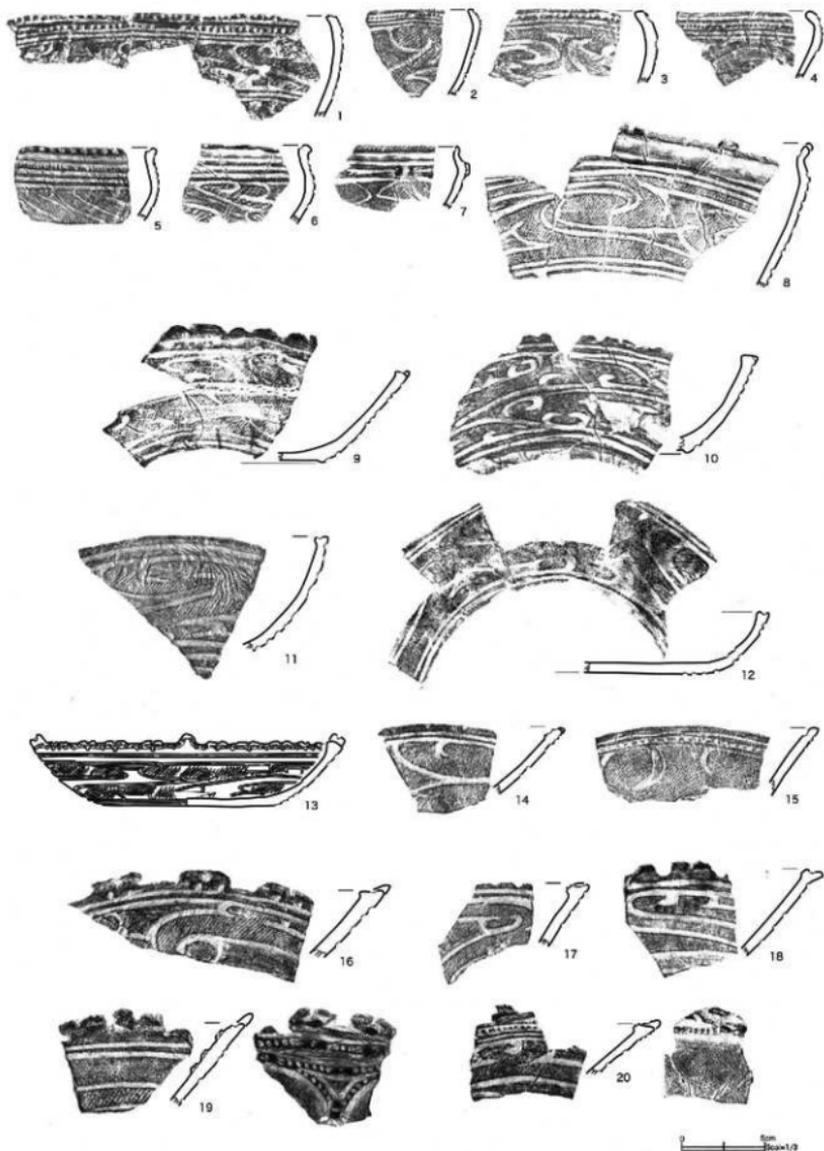


第46圖 遺物包含層1層出土土器3





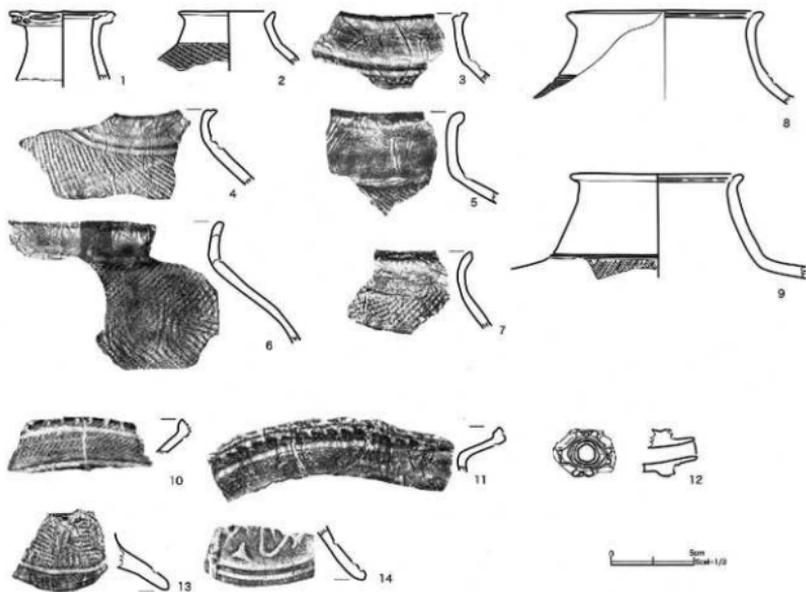
第47圖 遺物包含層1層出土土器4



第48圖 遺物包含層1層出土土器5



第49圖 遺物包含層1層出土土器6



第50図 遺物包含層1層出土土器7

その他注口土器・台部資料(第50図10~14)

・注口土器(第50図10~12)

10~11は口縁部片、12は注口部片である。いずれも小片のため器形や文様構成が不明である。

・台部破片(第50図13、14)

13はやや内湾するもので沈線区画内に縄文施文、14はやや外反するもので三叉文が施文される。

粗製の深鉢形・鉢形土器(第51図)

・地紋のみ施文される深鉢形土器(第51図1~15、22~23)

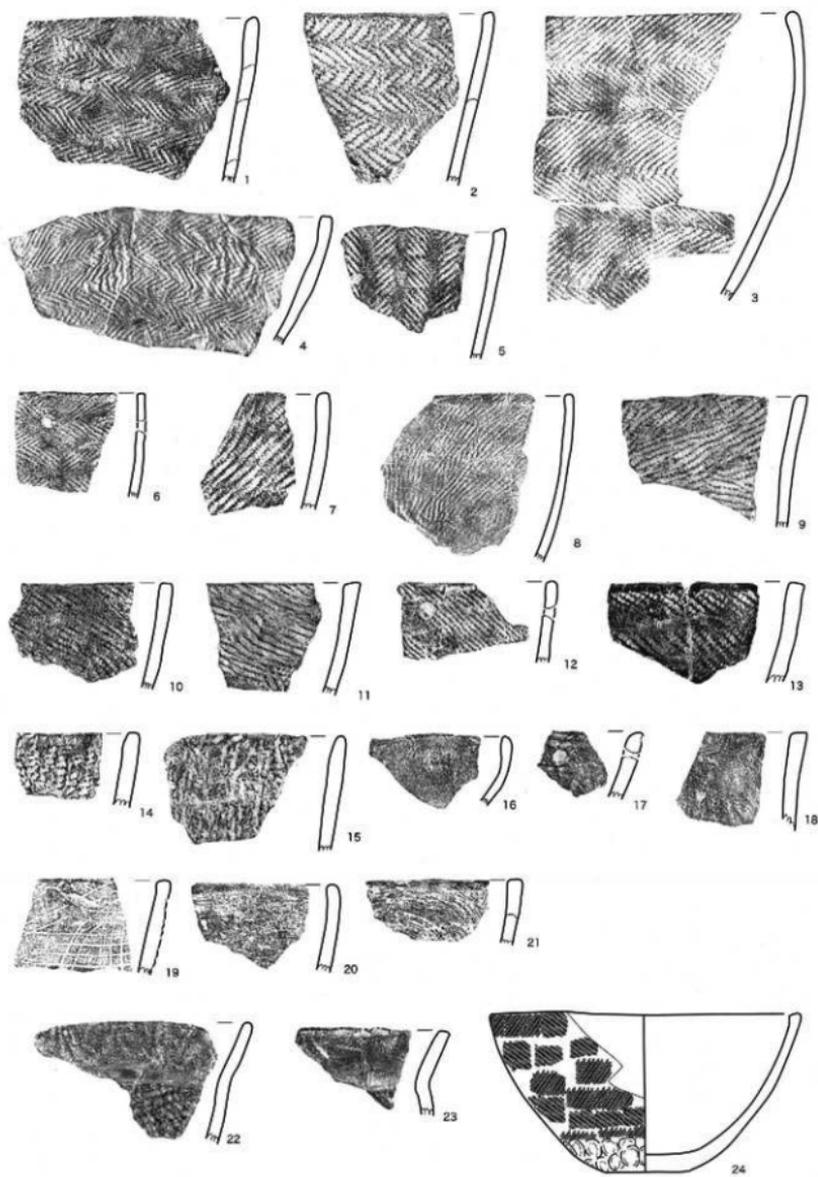
1のように直線的に外傾して立ち上がるもの、3のように口縁部付近でかるく内湾するもの、22~23のように口縁部下で屈折するものがある。特徴的なものとして縦位羽状縄文が施文されるもの(5)がある。

・櫛歯状・竹管状工具による痕跡のみとなる深鉢形土器(第51図19~21)

小破片で器形が不明である。痕跡は弧状を描くものである。

・無文の深鉢形土器(第51図16~18) 16のみ内湾するもので鉢形土器かもしれない。

・浅鉢形土器(第51図24) かるく内湾し丸みをおびて立ち上がる。



第51圖 遺物包含層1層出土土器8

## 【遺物包含層 2層出土土器】

主に遺物包含層1層下で確認した層で、遺物包含層1層の黒褐色シルトに比べて若干暗い黒色の強いシルトとなる。遺物とともに炭化物や細かい礫を含むことが多い。層内は2A～2E層の5層に細別される。うち2A層は調査1区において大別遺物包含層で精査をおこなった層である。

遺物包含層分布区域の東側を中心として堆積する2B、2C層、中央部分を中心として堆積する2D層、やや離れて西側に堆積する2E層の3ヶ所で分布し、谷地状の地形全体をほぼ覆う形となる。(第52図)。2B・2C・2D層が重複関係にあり、2C層が2B・2C層より新しい堆積となるが、各層の出土遺物等では特に新旧関係を示すような状況はみられなかった。

また、2C・2D層の上面で石田炉を検出している(第38図)。

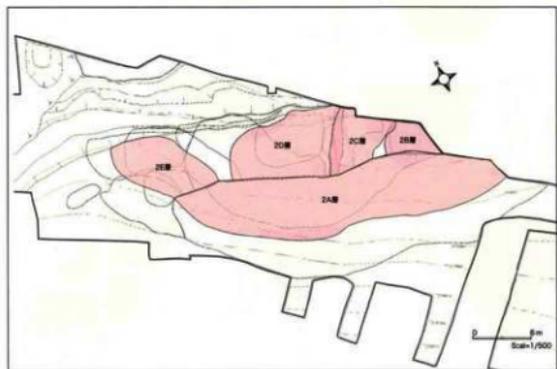
遺物包含層2層からは、主に2A・2D層で遺物が多く出土している。出土した縄文土器は精製土器・粗製土器に区分でき、主に深鉢形・鉢形土器(第53図～第57図9)、浅鉢形・皿形土器(第57図10～第58図15)、壺形土器(第58図16～21)、その他注口土器・台部資料(第58図22～26)、粗製の深鉢形・鉢形土器(第59図)がある。

### 深鉢形・鉢形土器(第53図～第57図9)

- ・粘土紐貼付等による隆帯や粘土粒貼付、刺突、盲孔等を施すもの(第53図1～15)

粘土貼付や穿孔等によって把手状などの複雑な形状の口縁部となるもの(1、8)、粘土紐貼付により横位・弧状の隆帯をつくるもの(2、3)、隆帯や粘土粒上等に刺突・盲孔を施すもの(4～7、9～15)がある。隆帯や沈線区画内に施文される縄文はRLとなる。6は粘土粒上に深く渦巻沈文を施文することで、渦巻き状の隆帯となる。

- ・円文や連鎖状、渦巻状(もしくはS字状?)の沈線文が施されるもの(第53図16～18)



第52図 遺物包含層2層分布図

・口縁部等の沈線区画内部に主に充填・磨消によって縄文施文するもの。またさらに沈線文(平行沈線や反転する平行沈線)を施文するもの(第53図19～第54図6、第55図4～5)

いずれも小破片のためよくわからないものが多いが、平坦口縁となるもの(第53図19～25、28～30)と大きな波状・山形口縁となるもの(第53図26、27、第54図1～5、第55図4～5)があり、弧状連結文?(第53図19)や入組帯状文(第53図29)、反転する平行沈線文(第53図30)が見られる。第54図4、5は波状口縁頂部に突起がつく。

・口縁部等の沈線区画内部に刻み目を充填するもの(第54図7～20、第55図6、19、21、22)

いずれも小破片のためよくわからないものが多いが、平坦口縁となるもの(第54図10～12、15～20)と大きな波状・山形口縁となるもの(第54図7～9、13～14、第55図6)があり、刻み目下部が無文となるものと縄文施文がなされるものがある。第55図19、21、22には突起が見られる。

・粘土粒貼付を施すもの(第54図21～33、第55図1、7～11、16、20、23)

平坦口縁となるもの(第54図21～33)、山形突起をもつもの(第55図1、7～11、16、20、23)に粘土粒貼付が見られる。平行沈線のみ施文されるもの(第54図21～25)や弧状連結文や入組帯状文などの磨消(充填)縄文が施文されるもの(第54図26～33)がある。

・山形突起をもつもの(第55図1～3、7～24)

先端部が尖った形となるもの(1～3)、沈線等によって突起頂部を2分するもの(7～19、24)、その他(20～23)に突起先端部に細かく刻み目を施すものや三ツ又となるものなどがある。いずれも入組帯状文などの磨消縄文を施すものや、刻み目を充填するもの、粘土粒貼付が見られるものにつく。

・口～胴上部もしくは口～頸部間で平行沈線区画を施し、区画上部が文様帯・下部が地紋施文となるもの(第56図～第57図5)

羊歯状文や直線的な羊歯状文が施文されるもの(第56図1～13)、平行沈線間に刻み目を充填するもの(第56図14～31)、平行沈線のみもしくは三又沈線が施されるもの(第56図32～第57図5)があり、それぞれに内湾して立ちあがるもの、もしくは口～頸部や胴部上半で屈曲する器形となるものがある。

・その他(第57図6～9)

6は、2条1組の沈線区画内に縄文施文がされる。7は口縁部だけに縄文施文がなされ頸部が無文となる。8は大きく外反して立ち上がる無文の頸部をもち、胴部に縄文が施文される。9は頸部に浮彫形状の縄文帯を施すものである。

#### 浅鉢形・皿形土器(第57図10～第58図15)

・沈線区画内部に入組文などの沈線文・縄文施文・刻み目等を施すもの(第57図10～12、14～17)

入組文がみられるもの(11、14、18)、反転する平行沈線が描かれるもの(15)、沈線区画内に刻み目を充填するもの(16)、粘土粒貼付がみられるもの(17)がある。

・三叉文・羊歯状文などが施文されるもの(第57図19～25)

かるく内湾して開き浅い皿形状となるもの(19、21)、口縁部で屈折する浅鉢形土器(20)、わずかに内湾しながら外傾して立ちあがる浅鉢形土器(鉢形土器かもしれない)(22～25)がある。

・雲形文が施文されるもの(第57図26～第58図8)

口縁部付近で内湾する浅鉢形土器(第57図26～29)、かるく内湾もしくは外傾しながら開く皿形土器(第58図1～5)、外反して大きく開く皿形土器(第58図6)、口～頸部で屈折する浅鉢形土器(第58図7、8)がある。

・口縁下部に平行沈線もしくは平行沈線間刻み目を施し下部が縄文施文となるもの(第58図9～11)いずれも外傾して大きく開くものである。9にはB突起がみられる。

・浮線槽円文?もしくは工字文?が施文されるもの(第57図13、18、第58図12～15)

12、13、15は工字の交点部分に粘土粒貼付がみられ、浮線槽円文状となるものである。14は沈線によって構成される。いずれも胴部上半で屈曲して内傾・内湾したのち、口頸部がさらに屈曲して短く外傾するものである。また、第57図13、18は胴部上半の沈線区画内に入組状の文様が描かれるが、器形が他の入組状文を施文するものとは異なり、18は浮線槽円文状の文様がみられ鉢形土器に近い器形となる。

#### 壺形土器(第58図16～21)

・広口の壺形土器で大きく膨らむ胴部をもち、口頸部無文、胴部縄文施文となるもの(第58図16～17)

16は直線的な口頸部となり、17は口縁部でさらに短く外反する器形となる。

・広口の壺形土器で頸部が直立して立ち上がり、胴部無文となるもの(第58図18)

・細口の壺形土器で強く外反して開く口縁部をもつもの(第58図19)

・頸～胴部で屈曲をもたずに内傾して立ち上がり、口縁部で屈曲して外傾するもの(第58図20)  
頸～胴部間に浮影状となる平行沈線区画内刻み目が施される。

・胴中央部でふくらみ球状の胴をもつもの・胴部資料(第58図21)

胴部上半の平行沈線区画内に2～3条1組の縦位・斜位沈線区画と平行沈線上に短沈線による三叉状沈線が施文される。

#### その他注口土器・台部資料(第58図22～26)

・注口土器(第58図22～25)

22は球形となるもので、沈線区画内に縄文が施文され、粘土粒が貼付されていたと見られる部分に刺突の痕跡が残る。23は胴部資料である。23～25は浮影的な文様が施文されるが小片のため構成が不明である。

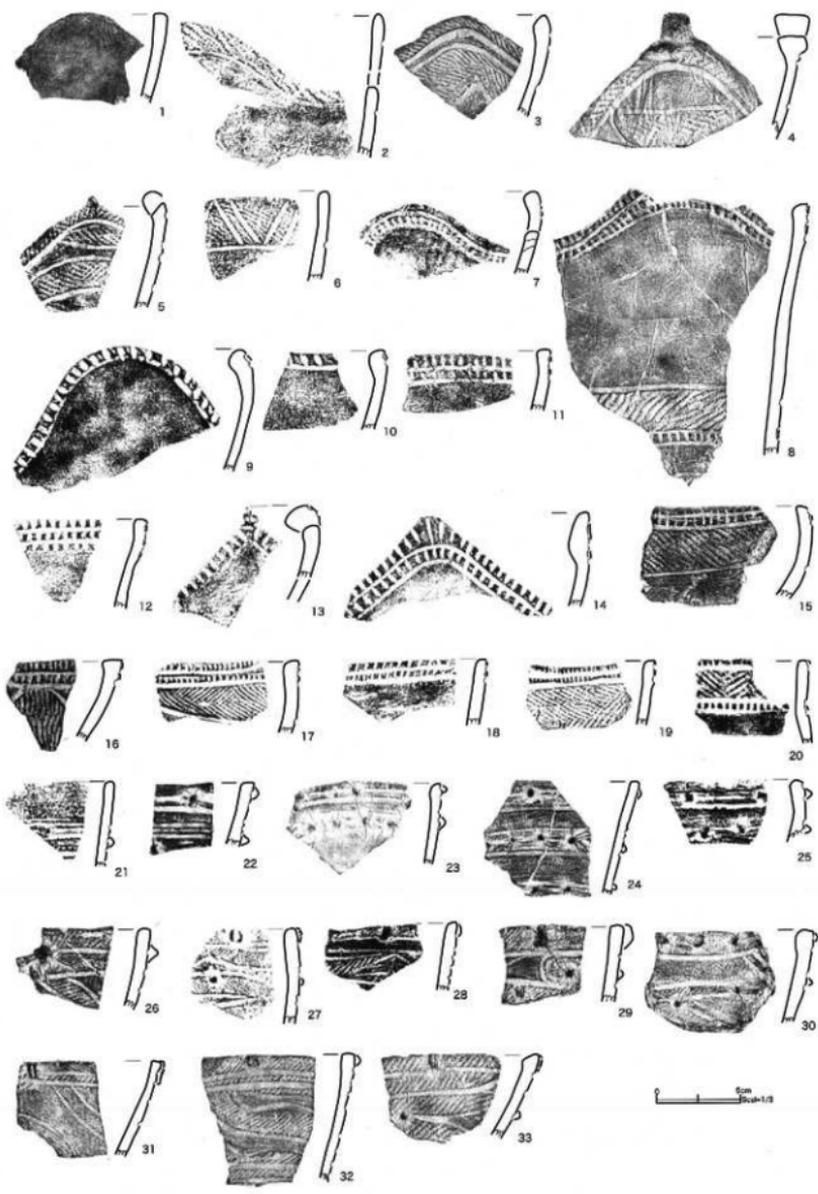
・台部破片(第58図26)

沈線区画内に刻み目と玉抱三叉文が連続して施文され、浮影状となる。

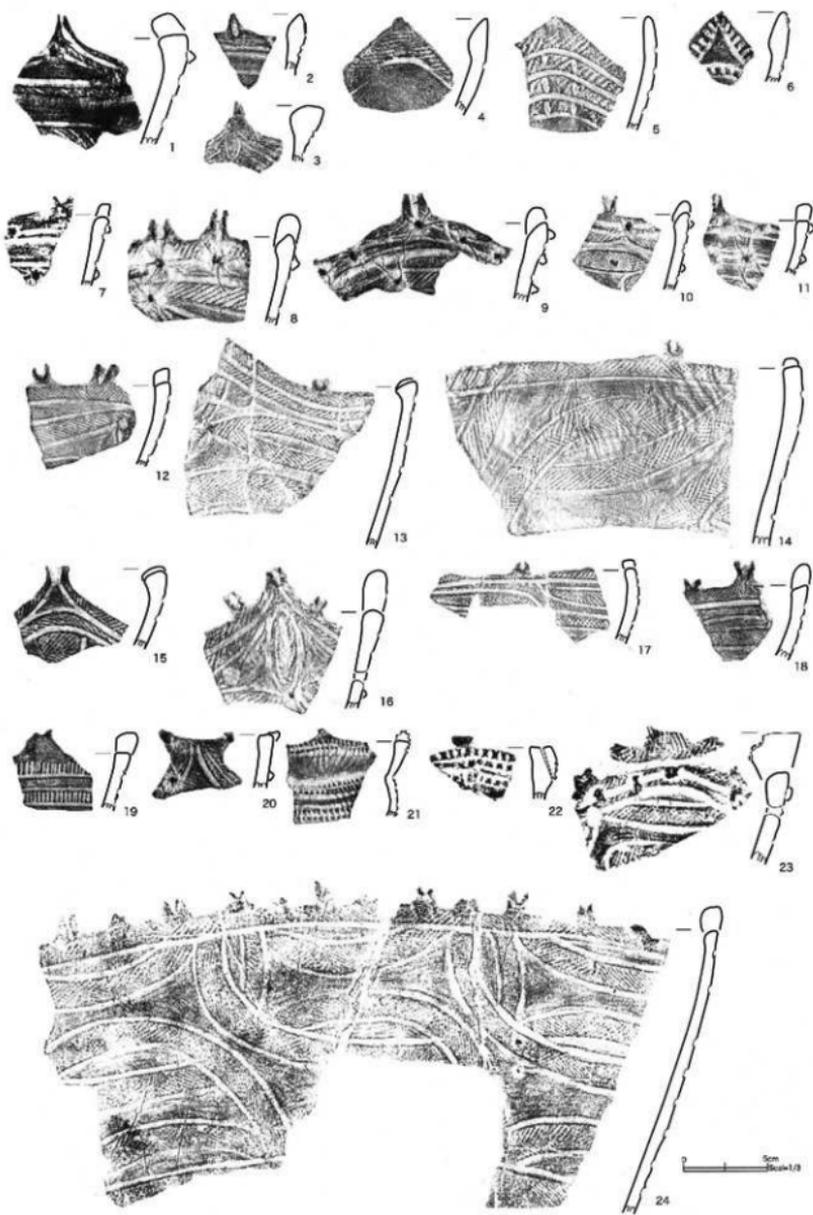


第53圖 遺物包含層2層出土土器1

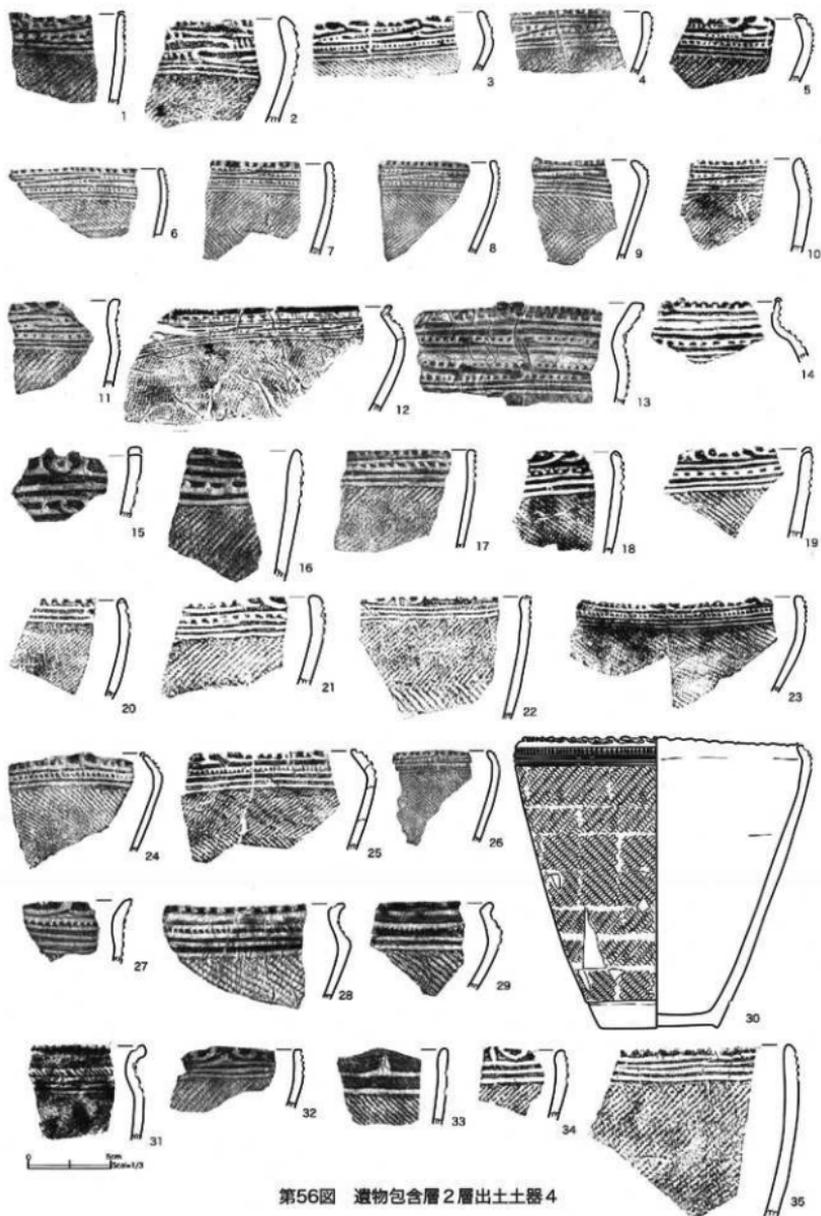
0 1/2 cm



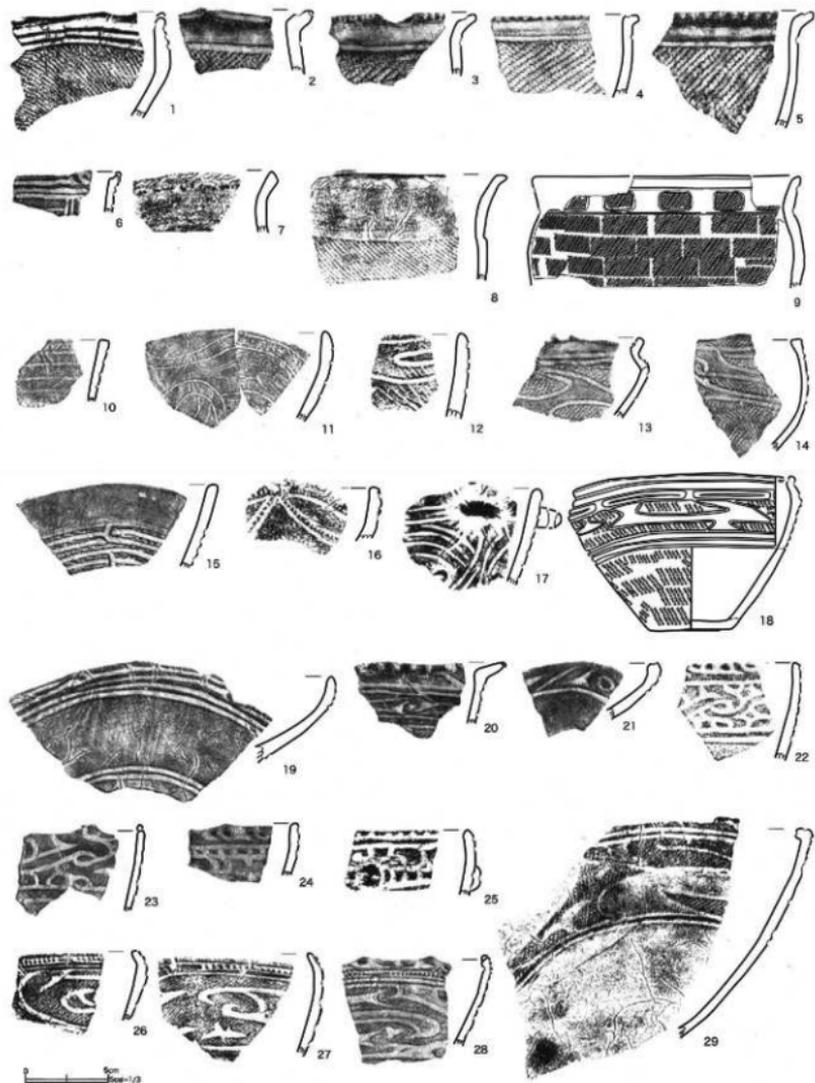
第54圖 遺物包含層2層出土土器2



第55圖 遺物包含層2層出土土器3



第56図 遺物包含層2層出土土器4



第57圖 遺物包含層2層出土土器5



第58図 遺物包含層2層出土土器6

粗製の深鉢形・鉢形土器(第59図)

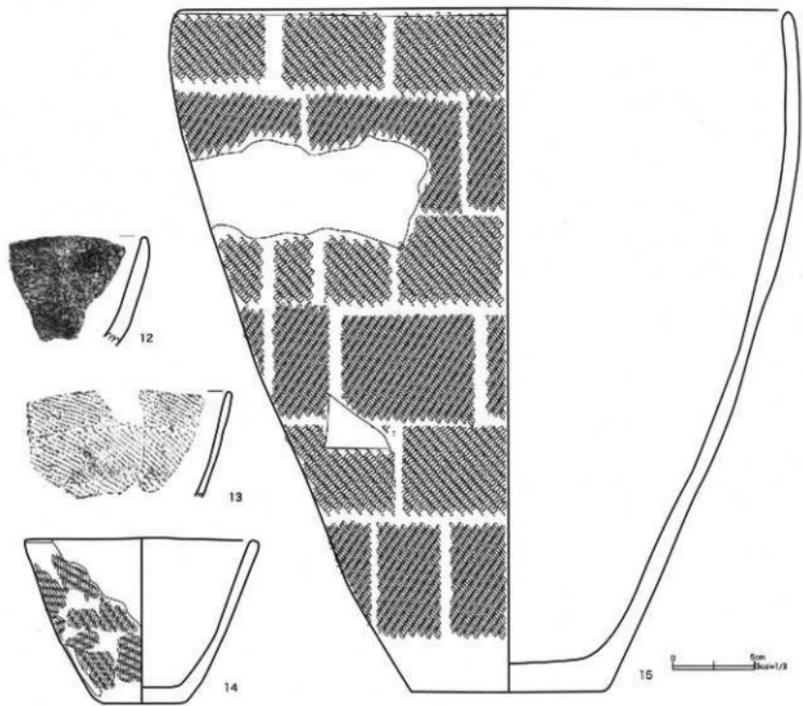
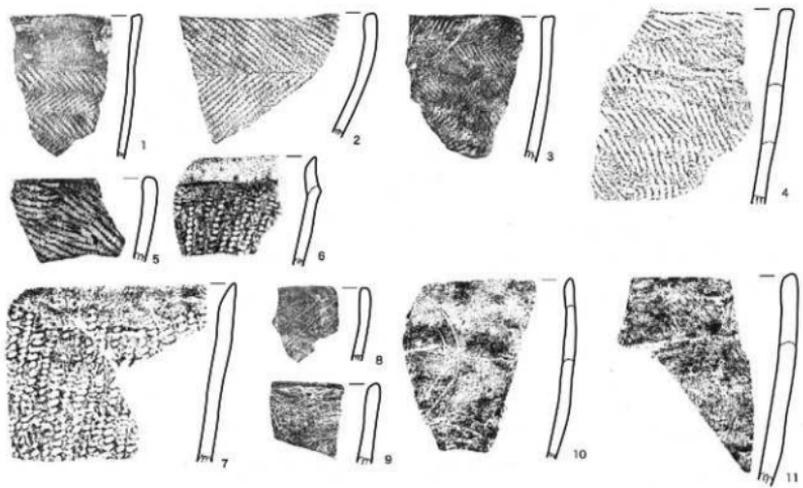
・地紋のみ施文される深鉢形土器(第59図1～7、15)

1、4、7のように直線的に外傾して立ち上がるもの、2、15のようにかるく内湾するもの、6のように口縁部下で若干屈折するものがある。

・櫛歯状・竹管状工具による痕跡のみとなる深鉢形土器(第59図8～11)

10、11はかるく内湾して立ちあがる。いずれも痕跡は弧状を描くものである。

・鉢形土器(第59図12～14) 12は無文、13～14は地紋のみ施文される。



第59図 遺物包含層2層出土土器7

### 【遺物包含層3層出土土器】

主に遺物包含層2層下で確認した層で、遺物包含層2層の黒色の強いシルトに比べ若干明るい黒褐色土となる。遺物とともに炭化物やこまかい礫を含み、層中には焼土や骨細片が見られた。層内は3A～3I層の9層に細別される。うち3B層は調査I区において大別遺物包含層で精査をおこなった層である。

遺物包含層分布区域のほぼ全域を覆う形で堆積し、分布区域の東側を中心として堆積する3C・3D層、中央部分を中心として堆積する3E・3F層、西側を中心として堆積する3G・3H層、やや離れて西端で分布する3I層の4ヶ所で大きく分布する(第60図)。3C～3G層が重複関係にあり、東側の層が古く、西側の層が新しい堆積となるが、各層の出土遺物等では特に新旧関係を示すような状況はみられなかった。また、3F層上面でSK-26を検出している(第35図)。

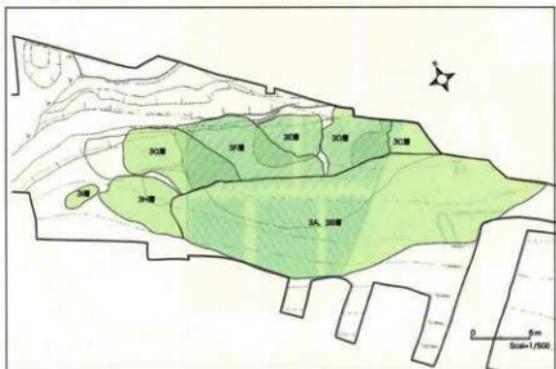
遺物包含層3層からは、主に3A・3F・3G層で遺物が多く出土している。出土した縄文土器は精製土器・粗製土器に区別でき、主に深鉢形・鉢形土器(第61図～第66図24、第66図26～第67図)、浅鉢形・皿形土器(第66図25、第68図～第70図8)、壺形土器(第70図9～第71図4)、その他注口土器・台部資料など(第71図5～17)、粗製の深鉢形・鉢形土器(第72～73図)がある。

#### 深鉢形・鉢形土器(第61図～第66図24、第66図26～第67図)

- ・粘土紐貼付等による隆帯や粘土粒貼付、刺突、盲孔等を施すもの(第61図1～31)

粘土貼付や穿孔等によって複雑な形状の注口部となるもの(1、2)、粘土紐貼付により横位・弧状の隆帯をつくるもの(3～9)、隆帯や粘土粒上等に刺突・盲孔を施すもの(10～27)、主に刺突や盲孔によって施文されるもの(28～31)がある。隆帯や沈線区画内に施文される縄文は主としてRLとなる。29は口縁部内面の穿孔部分両脇に盲孔が施される。

- ・円文や渦巻状・S字状の沈線文が施されるもの(第61図32～35)



第60図 遺物包含層3層分布図

いずれも沈線により深く施文するもので、35は内面にもS字状沈文が施される。

・口縁部等の沈線区画内部に主に充填・磨消によって縄文施文するもの。またさらに沈線文(平行沈線や反転する平行沈線)を施文するもの(第62図～第63図7、第64図23～24)

いずれも小破片のためよくわからないものが多いが、平坦口縁となるもの(第62図、第63図6)と大きな波状・山形口縁となるもの(第63図1～5、7、第64図23～24)があり、弧状連結文? (第62図20、第64図24など)や入組帯状文(第62図21～22など)、反転する平行沈線文(第62図1～4など)が見られる。第62図20は胴部資料であるが、地紋に縦位施文と斜位施文が交互に繰り返される。第62図22には山形突起が4個単位で配されている。

・口縁部等の沈線区画内部に刻み目を充填するもの(第63図8～24、第64図17～18)

いずれも小破片のためよくわからないものが多いが、平坦口縁となるもの(第63図12～13、18～24)と波状・山形口縁となるもの(第63図8～11、14～17、第64図17～18)があり、刻み目下部が無文となるものと縄文施文がなされるものがある。第63図17には突起が見られる。第64図17～18は直線的な入組帯状文の区画内部に刻み目を施し粘土粒貼付するもので、同一個体と考えられるが接合しない。

・粘土粒貼付を施すもの(第64図1～22、25～29)

平坦口縁となるもの(1～20)、山形突起をもつもの(21～22、25～29)に粘土粒貼付が見られる。沈線のみ施文されるもの(1～6、22、25)や弧状連結文や入組帯状文などに磨消(充填)縄文が施文されるもの(7～16、21、26～29)がある。また19～20にはボタン状の大きな粘土粒貼付がなされる。器形には直線的に外傾して立ちあがるもの(14)、胴部上半で屈曲するもの(15)、内湾して立ちあがるもの(16)が見られる。

・山形突起をもつもの(第64図21～22、25～29、第65図)

先端部が突った形となるもの(第64図21～22)、沈線等によって突起頂部を2分するもの(第64図25～29、第65図1～9)、その他(第65図10～14)がある。いずれも入組帯状文などの磨消縄文を施すものや、刻み目を充填するもの、粘土粒貼付が見られるものにつく。第65図10～11はゆるやかに伸びた突起下に三角文が施される。浅鉢形土器かもしれない。12は二個対で突起を形成する。13～14は二又に分かれた突起から弧状沈線が左右に下がるもので、同一個体と考えられるが接合しない。

・口～胴上部もしくは口～頸部間で平行沈線区画を施し、区画上部が文様帯・下部が地紋施文となるもの(第66図1～24、26、第67図)

羊歯状文や直線的な羊歯状文が施文されるもの(第66図1～10)、平行沈線間に刻み目を充填するもの(第66図11～24、第66図26～第67図7)、平行沈線のみもしくは三叉沈線が施されるもの(第67図8～20)があり、それぞれに内湾して立ちあがるもの、もしくは口～頸部や胴部上半で屈曲する器形となるものがある。

#### 浅鉢形・皿形土器(第66図25、第68図～第70図8)

・沈線区画内部に入組文などの沈線文・縄文施文・刻み目等を施すもの(第68図1～8)

入組状文がみられるもの(1、2、5)、S字状の沈線文により反転する平行沈線? (入組状文?)が描

かれるもの(6、7)、斜位沈線が多重に施されるもの(3)、粘土粒貼付がみられるもの(8)がある。

・三叉文・羊歯状文などが施文されるもの(第68図9～20)

かるく内湾して立ち上がる皿形土器(10)、浅く外反して開く皿形土器(16)、外傾して立ちあがる浅鉢形土器(17)、胴部上半に括れをもつ浅鉢形土器(19、20)がある。9は三叉文が矢羽根状に横位に連続して展開する。20は内面にも浮彫状の雲形文が施文される。

・雲形文が施文されるもの(第69図)

口縁部付近で内湾する浅鉢形土器(1～5)、かるく内湾もしくは外傾しながら開く皿形土器(6～7、13)、外傾して大きく開く皿形土器(8～12、16)、口～頸部で屈折する浅鉢形土器(14～15)がある。16は接合しないが、同一個体と考えられる台部がある。

・口縁下部に平行沈線もしくは平行沈線間刻み目を施し下部が地紋施文となるもの(第66図25、第70図1～7) 第66図25は口縁部付近で内湾する器形となる。第70図1～7は外傾して大きく開く皿形土器である。1はB突起が配され、直線的な羊歯状文が施文される。2～7は内面にも3と同様に平行沈線間刻み目が施文される。

・上字文が施文されるもの(第70図8) 口縁部付近でかるく内湾する浅鉢形土器と思われる。

#### 壺形土器(第70図9～第71図4)

・頸～胴部で屈折し、長く直立する頸部をもつもの(第70図9、10、14)

9、10は大形で頸部の沈線区画内に縄文が施文される。14は小形で胴部に地紋のみ施文される。

・頸～胴部で屈曲し、直立する頸部をもつもの(第70図13) 胴部に入組三叉文が施文される。

・細長の外反する頸部をもつもの(第70図11、12)

11は胴部上半に磨消縄文による文様が、12は粘土粒がみられる。

・内傾・内湾する胴部が頸部で屈折して開くもの(第70図15、16)

・広口の壺形土器で大きく膨らむ胴部をもち、口頸部無文、胴部地紋施文となるもの(第70図17～22) 比較的長い口頸部をもつもの(17～19)、短い口頸部をもつもの(20～22)がある。

・直立した頸部が口縁部で屈折して外反するもの(第71図1) 頸部に浮線状の粘土貼付がなされ、内外面に赤彩痕が残存する。

・細口の壺形土器で強く外反して開く口縁部をもつもの(第71図2) 内外面に赤彩痕が残存する。

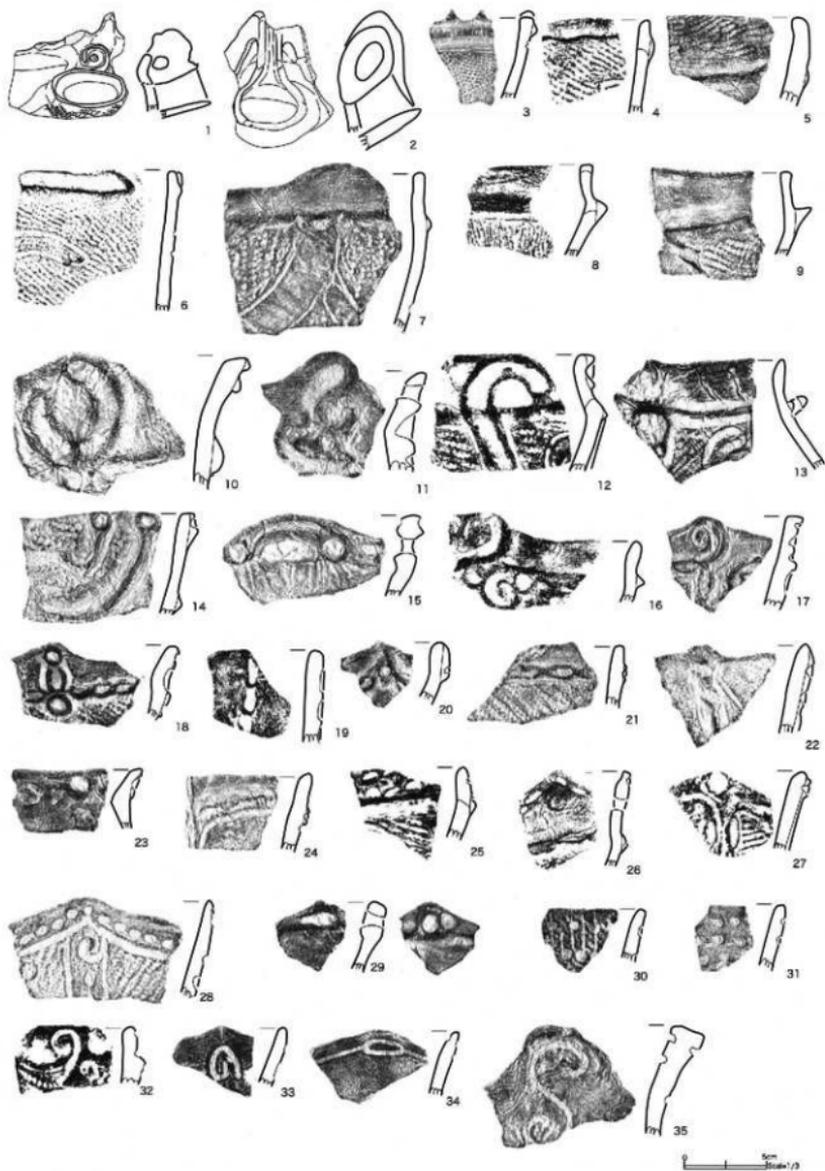
・広口の壺形土器で頸部が直立して立ち上がり、胴部無文となるもの(第71図3) 胴部が張り出た器形となる。

・広口の壺形土器で細長の胴部をもち、口縁部無文、胴部地紋施文となるもの(第71図4)

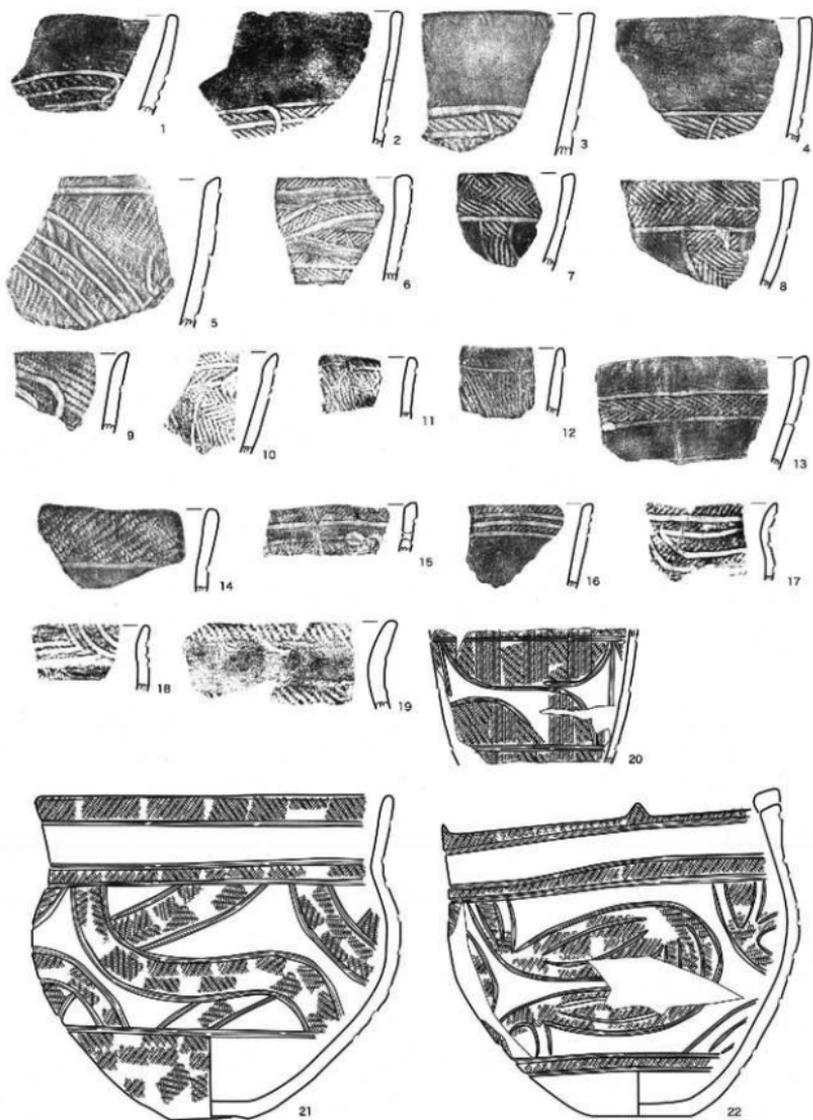
#### その他注口土器・台部資料(第71図5～17)

・注口土器(第71図5～14)

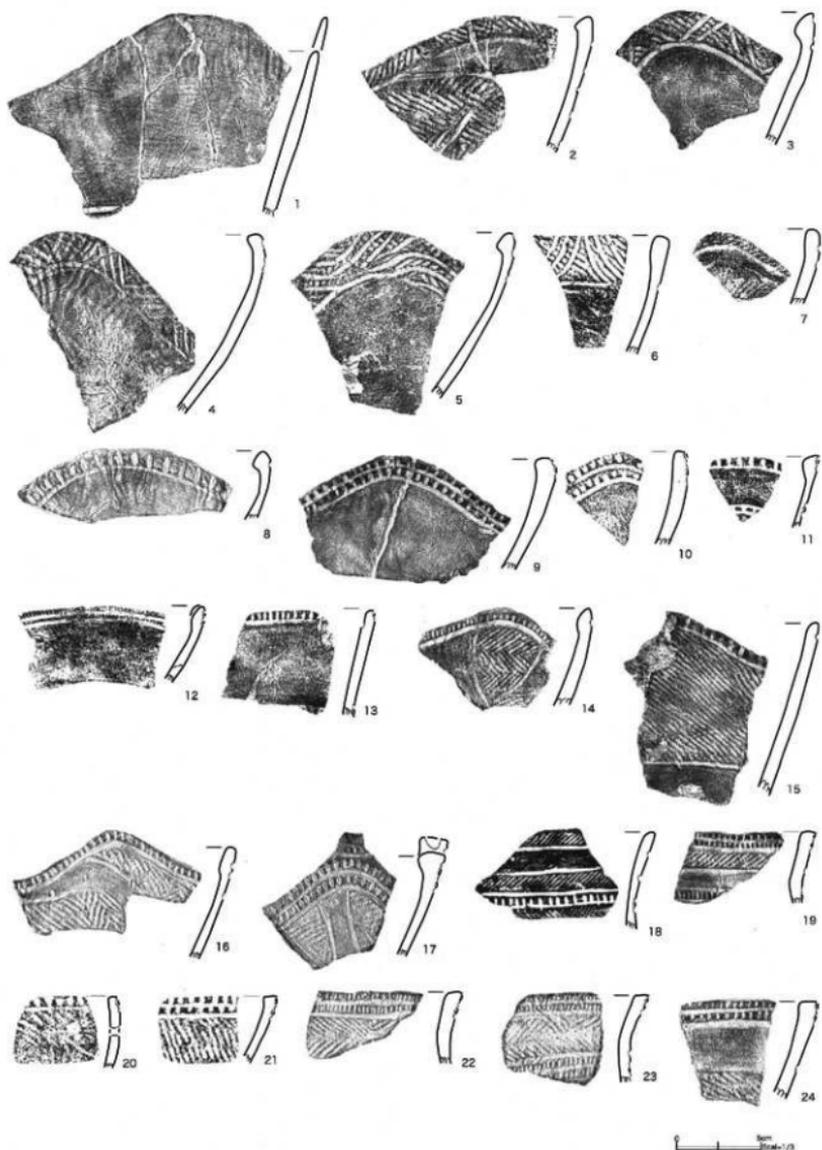
5は球形となるもので、入組状文が施文される。6～9、11、12は内傾もしくは直立して立ちあがる口縁部をもつもので、6～9は浮彫状の入組三叉文や平行沈線間刻み目が施される。11は平行沈線



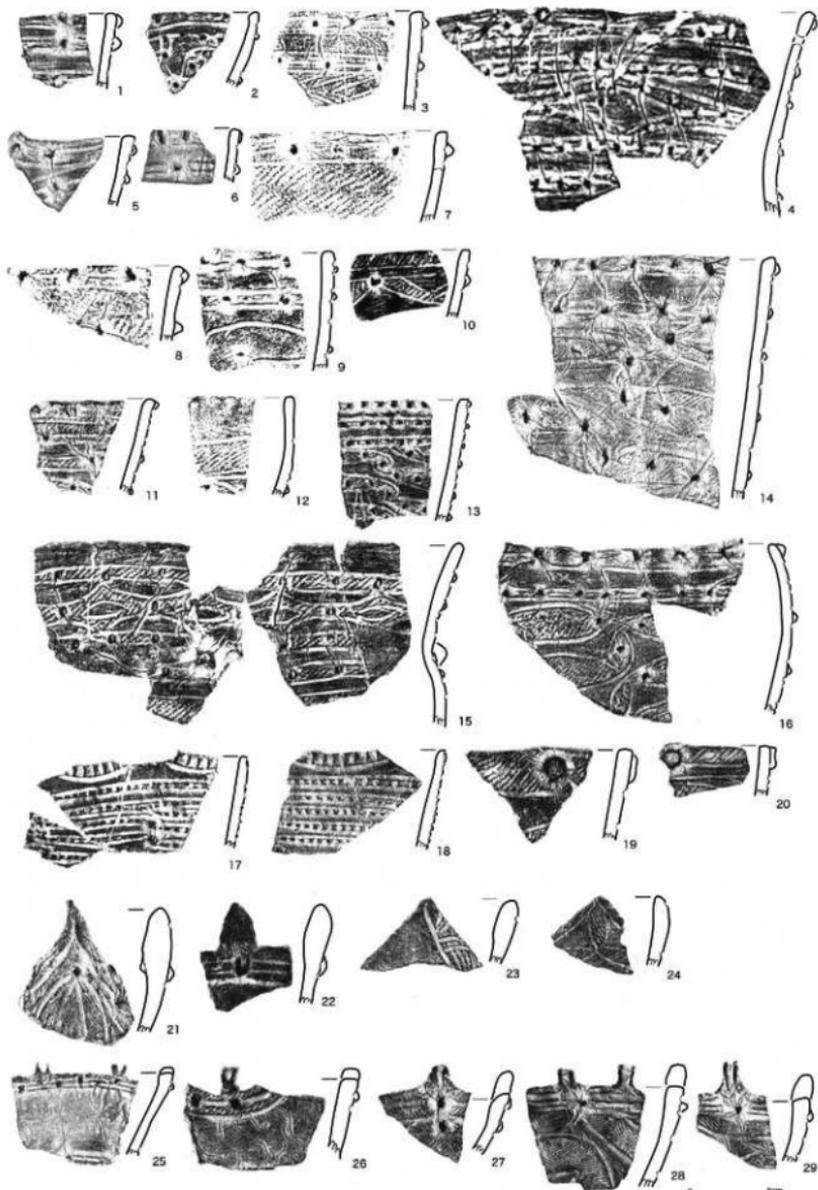
第61圖 遺物包含層3層出土土器1



第62図 遺物包含層3層出土土器2

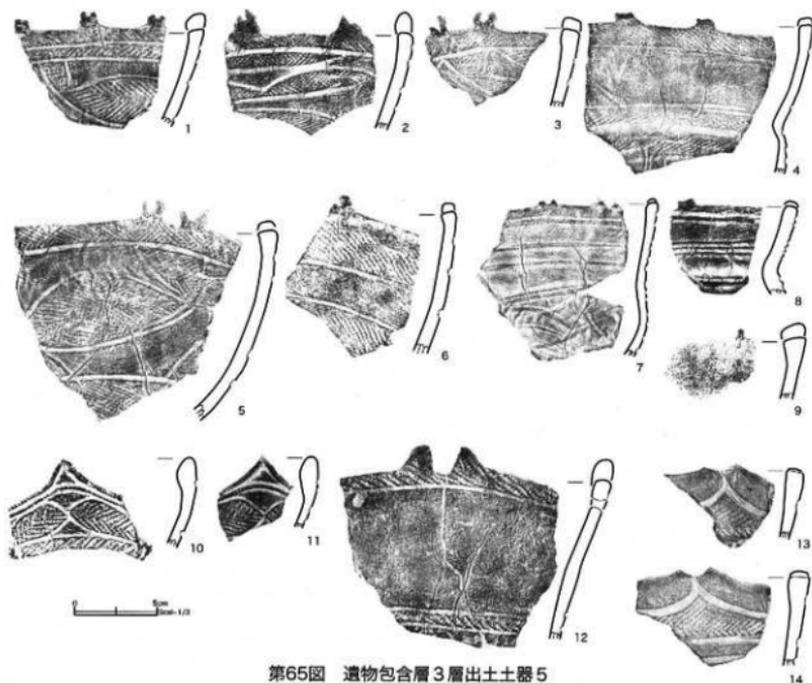


第63圖 遺物包含層3層出土土器3



第64図 遺物包含層3層出土土器4

0 1 cm  
Scale 1/2



第65図 遺物包含層3層出土土器5

が1条巡るほかは無文となる。12は三叉文とC字文の組み合わせによる雲形文が展開する。10は胴部資料で屈曲部分にB突起、上半・下半には雲形文が施文される。13~14は注口部資料で、沈線区画内に縄文が施文され、粘土粒貼付が見られる。

・台部破片(第71図16、17) 16は浮彫状の四角文とC字文の組み合わせにより施文される。17は平行沈線区画内に縄文が施文される。

・その他(第71図15) 台部に玉抱三叉文、算盤玉状の胴上半に浮彫状の三叉文と四角文の組み合わせによる文様が展開する。台付鉢?形土器と考えられるがはっきりしない。

#### 粗製の深鉢形・鉢形土器(第72、73図)

・地紋のみ施文される深鉢形土器(第72図1~10)

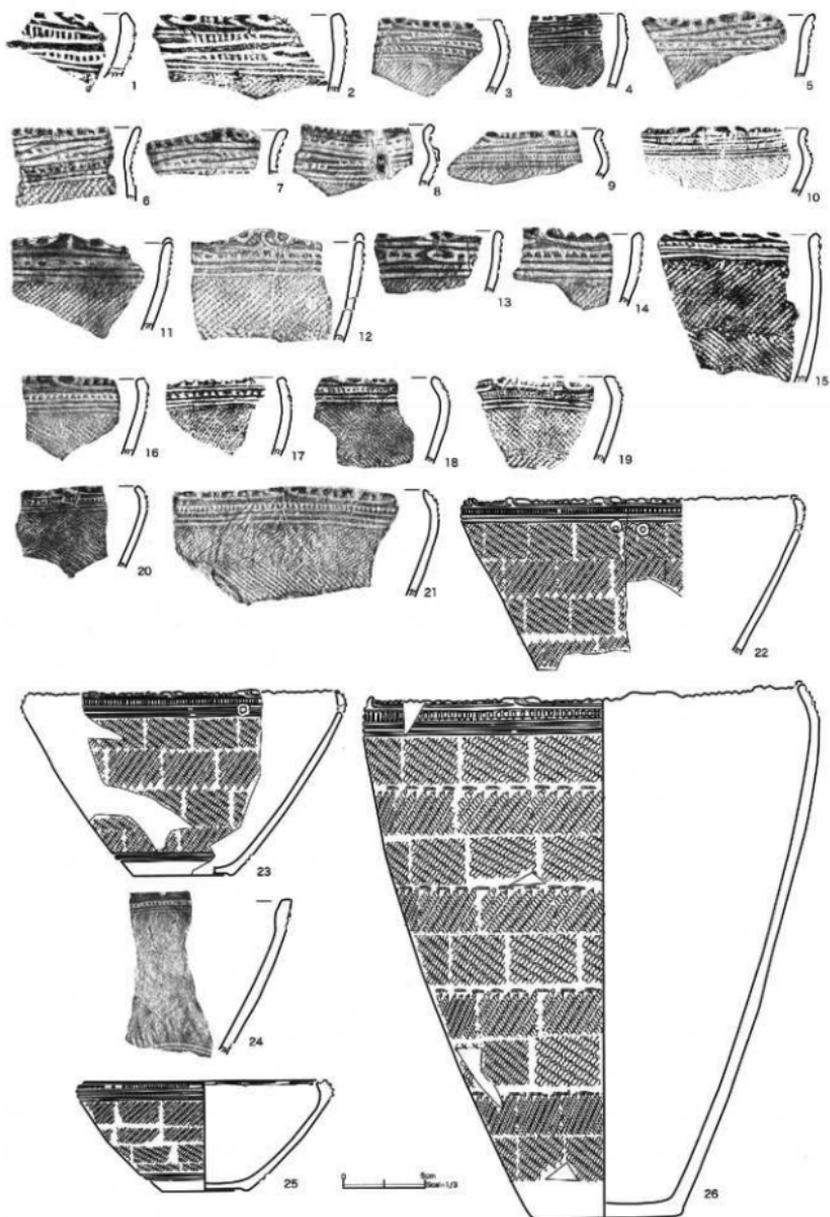
1のように直線的に外傾して立ち上がるもの、9のように内湾するもの、10のように口縁部下で外反するものがある。

・櫛歯状・竹管状工具による痕跡のみとなる深鉢形土器(第73図1~10)

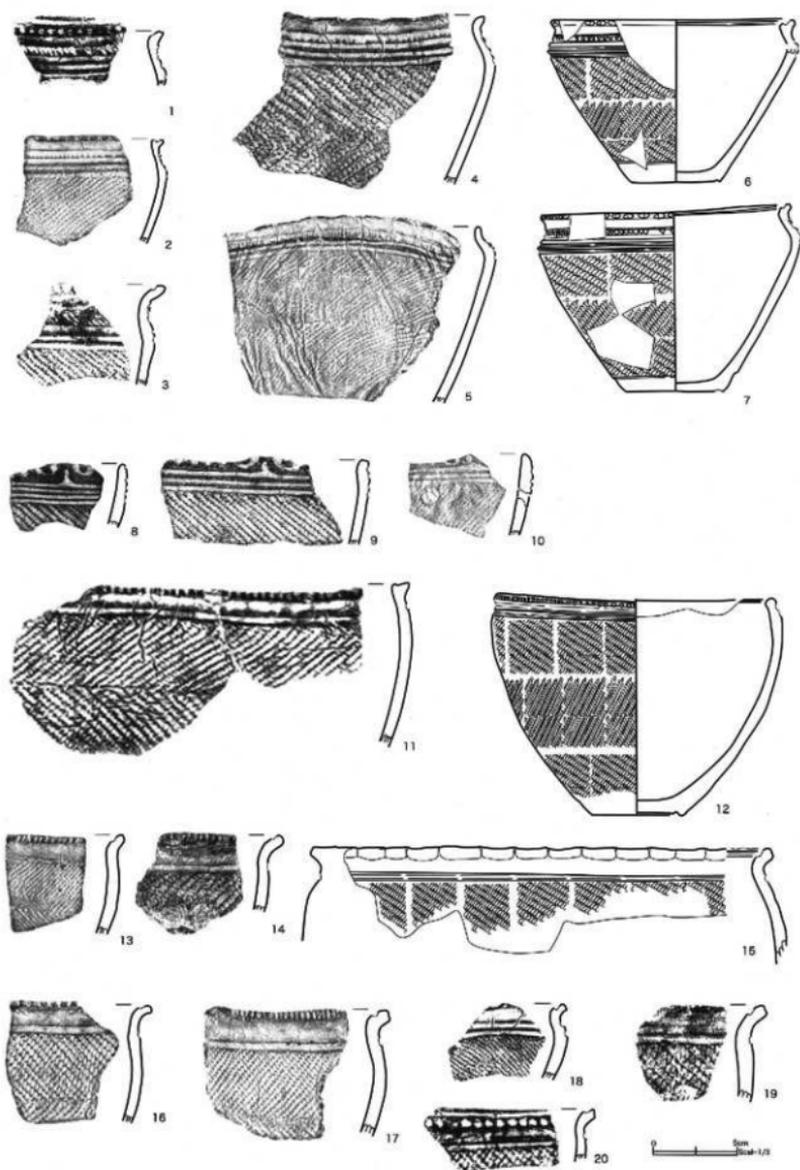
10ははるく内湾して立ちあがるもので、痕跡が連鎖状となる。

・無文の深鉢形土器(第73図11~15)

・鉢形土器(第72図11~14) 11、12は胴上部で屈折するもの、13、14は外傾して立ちあがるもので、いずれも地紋のみ施文される。13は縦位施文となる。



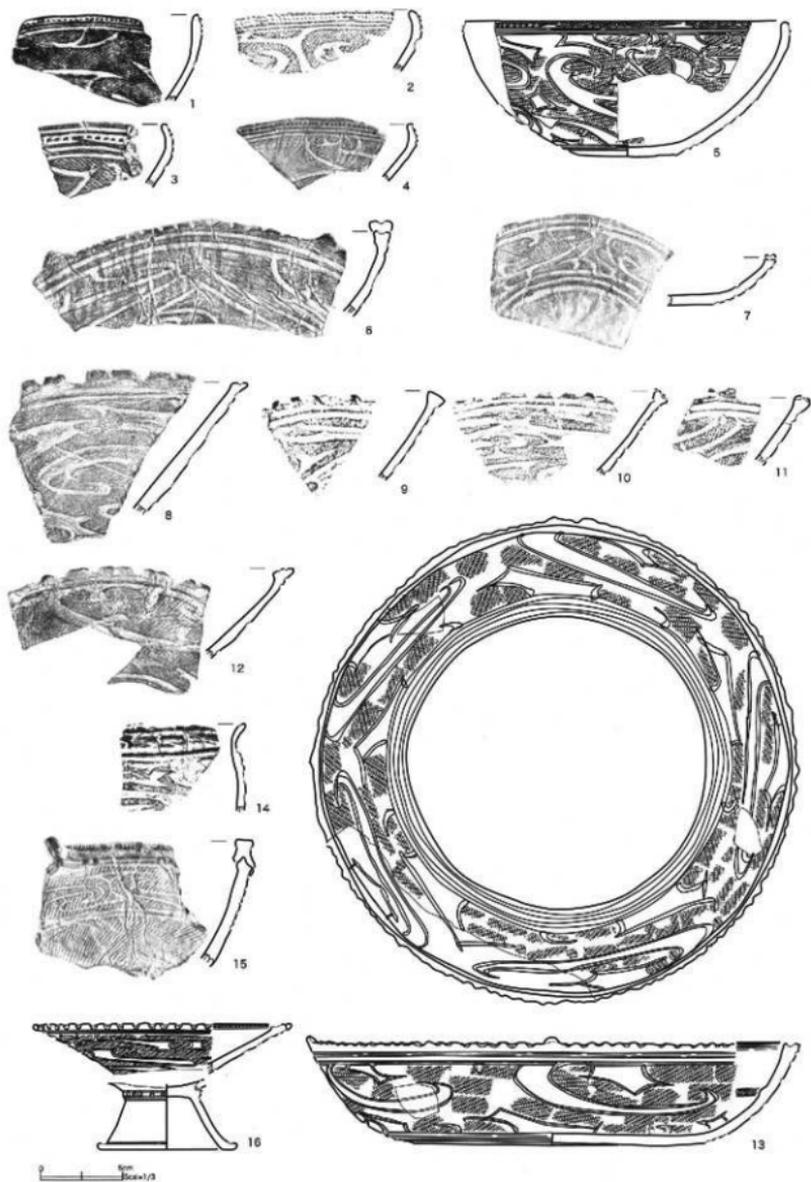
第66図 遺物包含層3層出土土器6



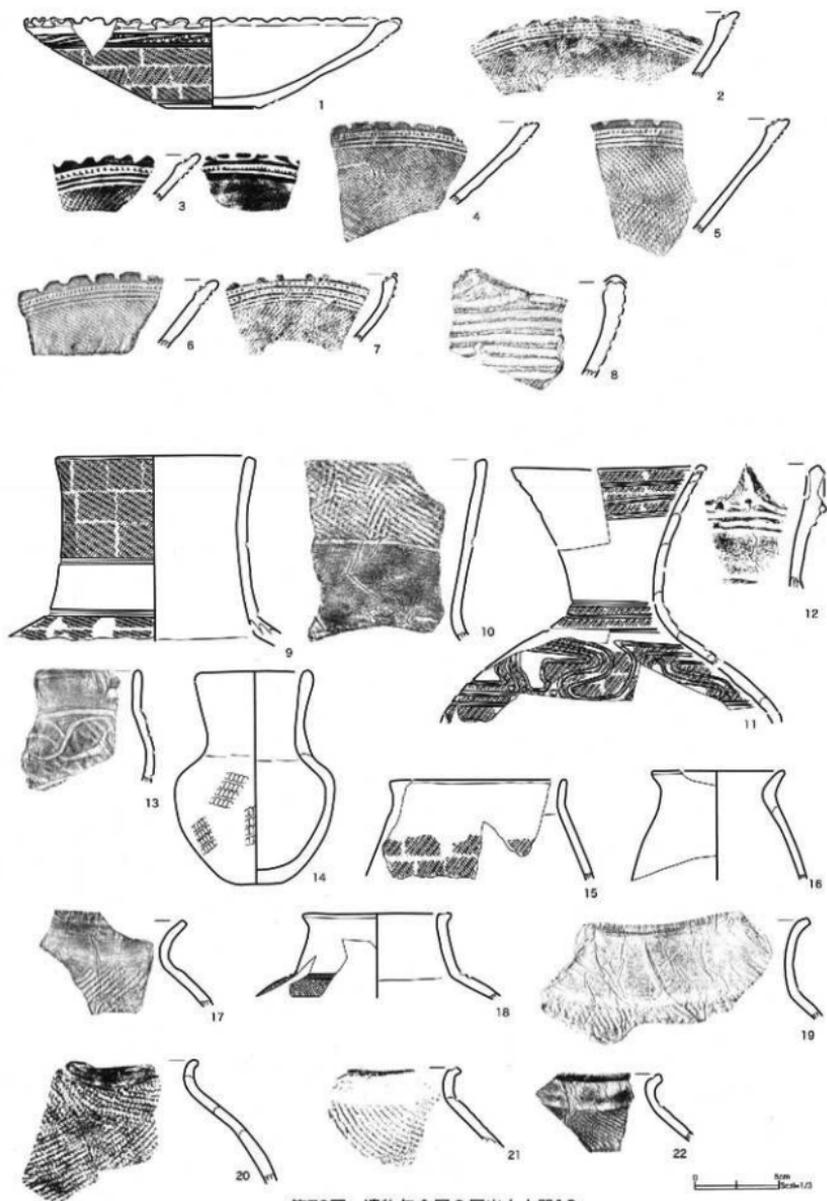
第67图 遗物包含層3層出土土器7



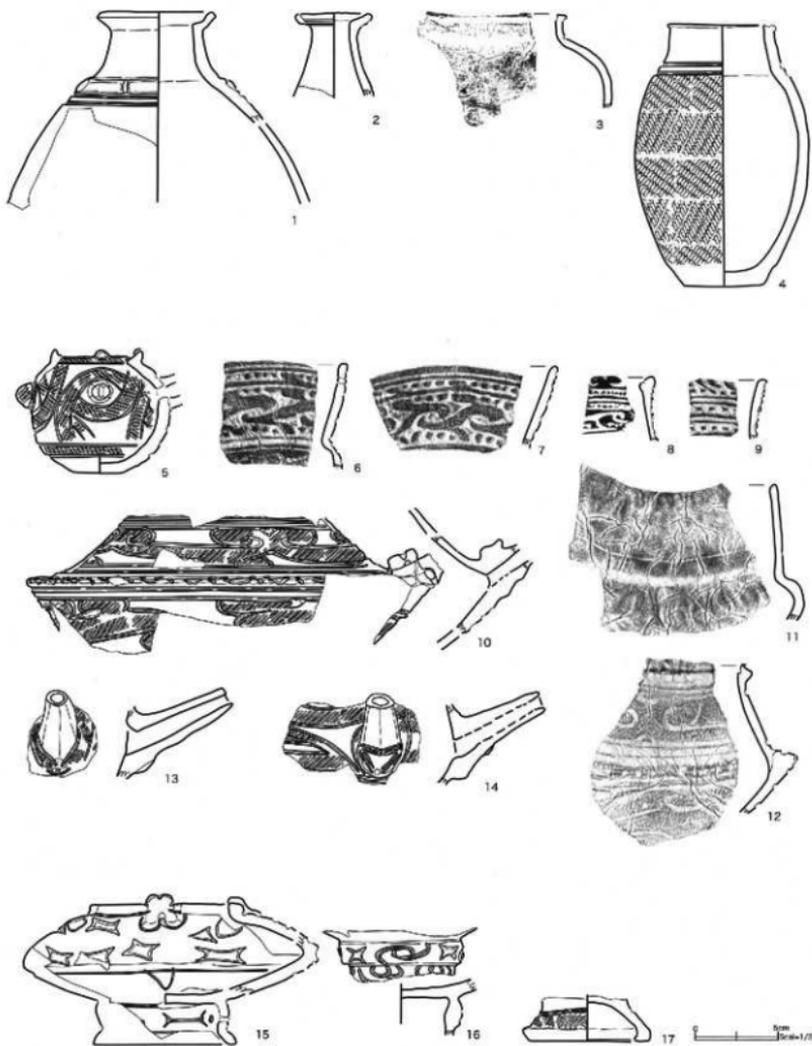
第68图 遺物包含層3層出土土器8



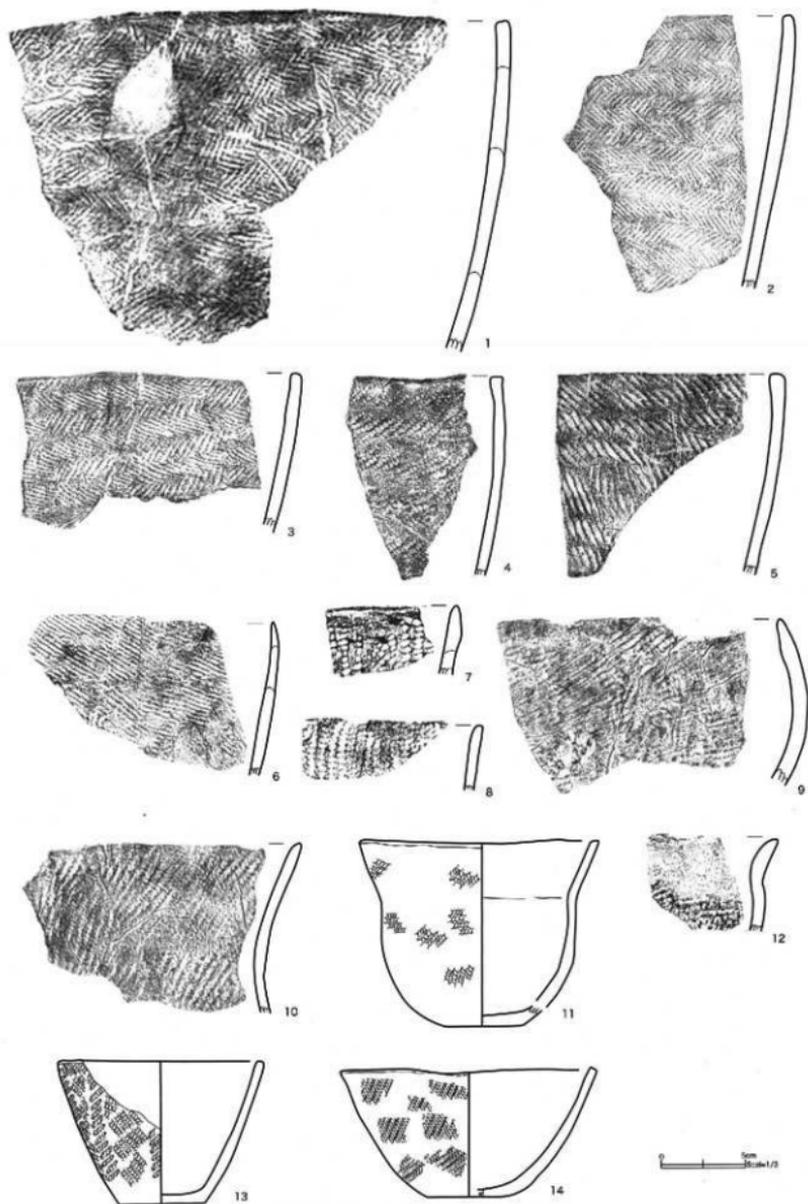
第69圖 遺物包含層3層出土土器9



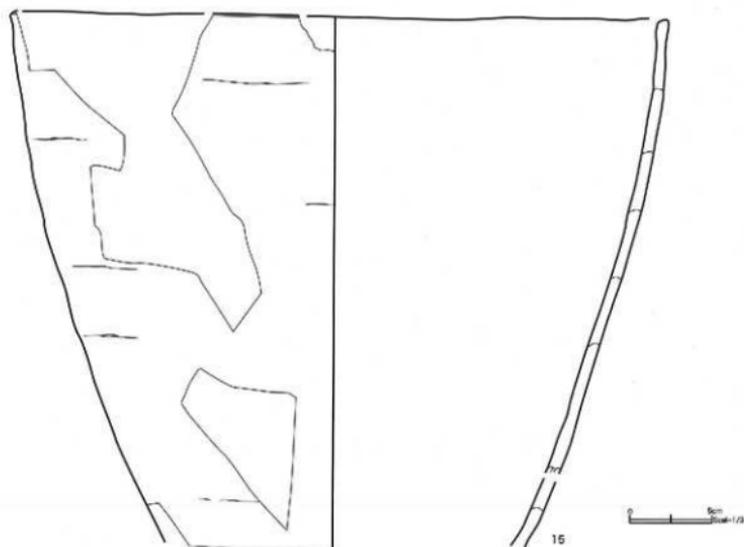
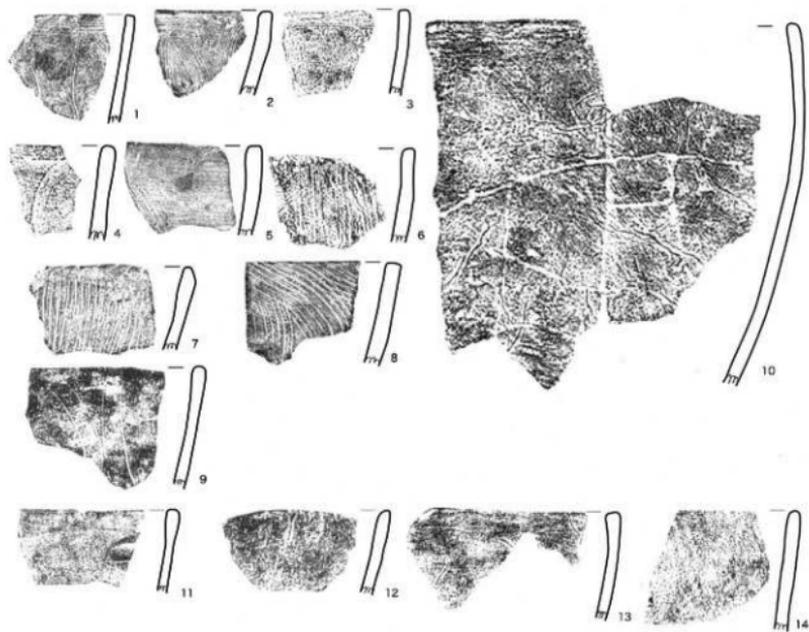
第70図 遺物包含層3層出土土器10



第71圖 遺物包含層3層出土土器11



第72図 遺物包含層3層出土土器12



第73図 遺物包含層3層出土土器13

## 【遺物包含層4層出土土器】

遺物包含層最下層となる層で、黒色砂質シルトで構成され下面が漸移層となる。層内は4A～4G層の7層に細別される。うち4B層は調査1区において大別遺物包含層で精査をおこなった層である。

遺物包含層分布区域のほぼ全域を覆う形で堆積し、全体的に分布する4B・4D層と、分布域の西側で堆積する4E・4F層、壱状のカクラン北側で確認された4G層の3ヶ所を中心に堆積する(第10、41図)。4A・4C層は4B層内の部分堆積層である。各層間の重複関係は特に確認できなかった。また、この遺物包含層4層上面で竪穴住居跡をはじめ遺構の多くを確認している。

遺物包含層4層からは、主に4D層で遺物が多く出土しているが、遺物包含層1～3層に比べると遺物の包含量は極端に少なく小片となる。出土した縄文土器は、主に精製の深鉢形・鉢形土器(第74図～第76図8)、粗製の深鉢形・鉢形土器(第76図9～17)がある。

### 深鉢形・鉢形土器(第74図～第76図8)

- ・粘土紐貼付等による隆帯や粘土粒貼付、刺突、盲孔等を施すもの(第74図1～15)

粘土紐貼付により横位・弧状の隆帯をつくるもの(1、2)、隆帯や粘土粒上等に刺突・盲孔を施すもの(3～7、9～11)、主に刺突や盲孔によって施文されるもの(8、12～15)がある。2は内面にも隆帯が巡る。10は内面の粘土粒貼付上にも盲孔が施される。

- ・円文や渦巻状・S字状の沈線文が施されるもの(第74図16～18)

16は円文と方形区画沈線内に縄文が施文される。17は連鎖状沈文、18は渦巻沈文が施文される。

- ・口縁部等の沈線区画内部に主に充填・磨消によって縄文施文するもの。またさらに沈線文(平行沈線や反転する平行沈線)を施文するもの(第74図19～第75図2、9)

いずれも小破片のためよくわからないものが多い。第74図20、21は楕円状の沈線区画、第74図25は平行沈線区画となる。第75図1は反転する平行沈線区画内に縄文とともに刻み目が施される。第75図2は弧状の沈線区画である。人組帯状文もしくは弧状連結文となると考えられる。

- ・口縁部等の沈線区画内部に刻み目を充填するもの(第75図3～8、10、11、18)

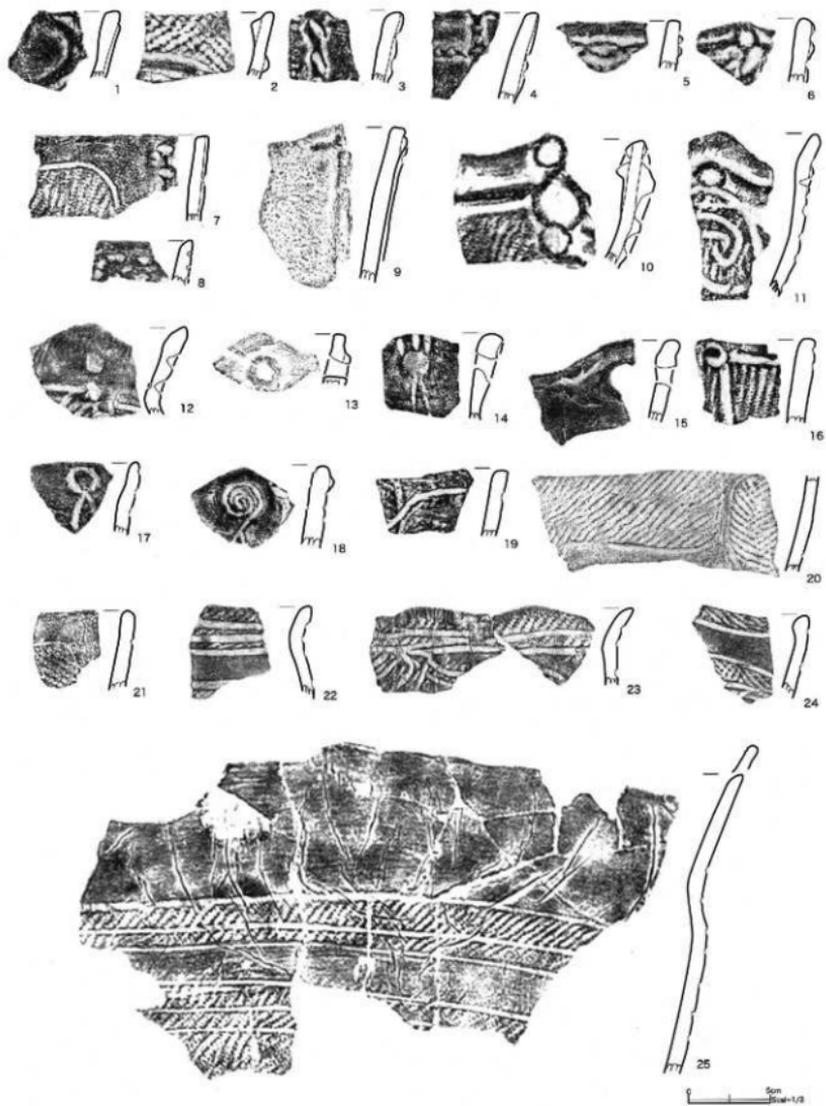
いずれも小破片のためよくわからないものが多いが、平坦口縁となるもの(3～6)と波状・山形口縁となるもの(第75図7～8、10～11)があり、刻み目下部が無文となるものと縄文施文がなされるものがある。18は直線的な人組帯状文の区画内部に刻み目を施し粘土粒貼付するものである。

- ・粘土粒貼付を施すもの(第75図12～18)

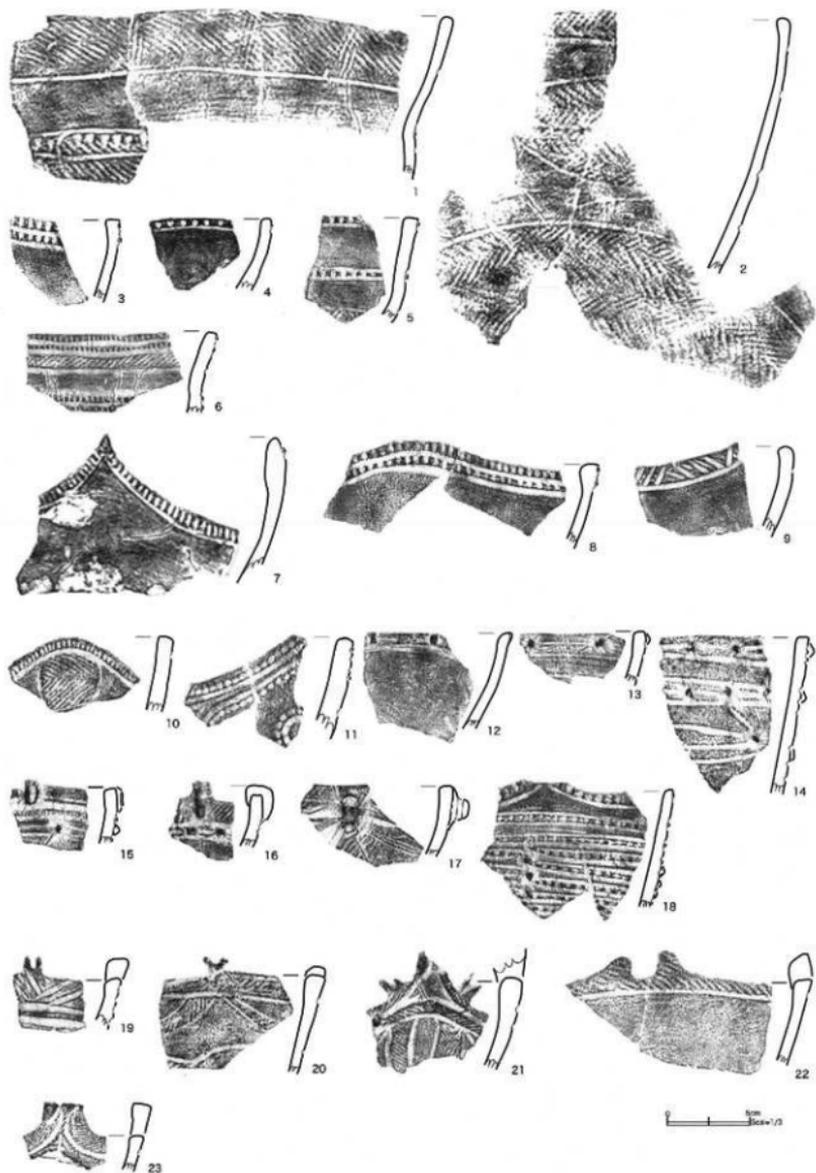
12～14は沈線文上に貼付が見られる。15は平行沈線区画内に細かい刻み目が施される。16は沈線区画内に縄文が施文されるもので粘土粒が突起状となる。17は大きな粘土粒貼付で穿孔がなされる。

- ・山形突起をもつもの(第75図19～23)

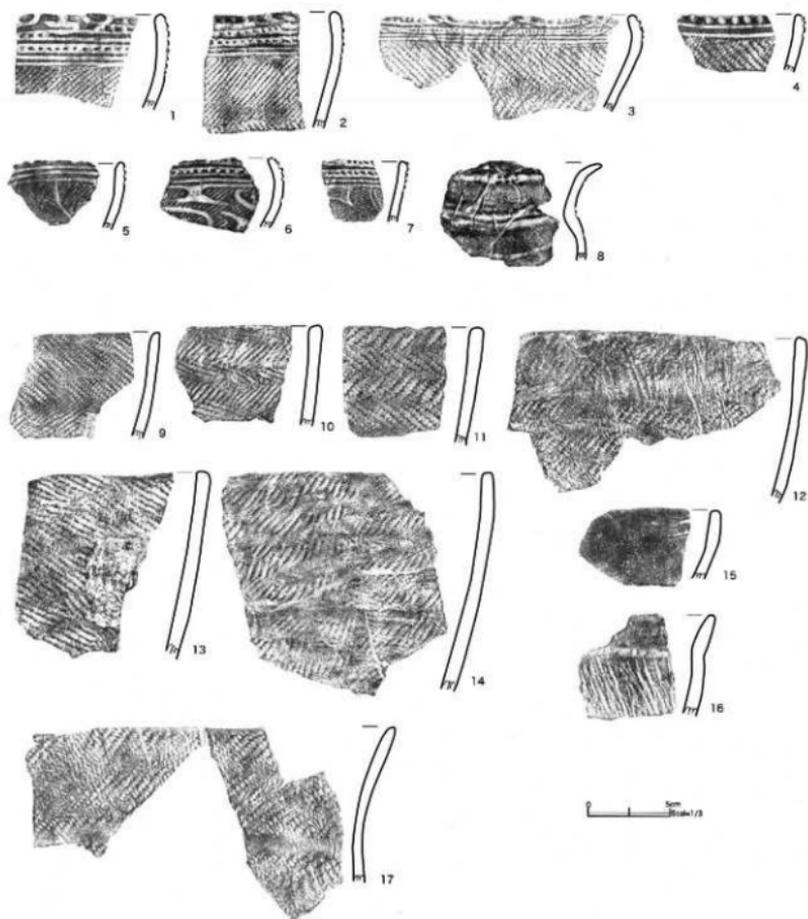
19～21は沈線等によって突起頂部を2分するものである。22は二個対で突起を形成する。23は突起部から左右に弧状沈線がのびる。



第74圖 遺物包含層4層出土土器1



第75圖 遺物包含層4層出土土器2



第76図 遺物包含層4層出土土器3

・口～胴上部もしくは口～頸部間で平行沈線区画を施し、区画上部が文様帯・下部が地紋施文となるもの(第76図1～4)

1～3は、平行沈線間に刻み目を施すものである。小片のため不明であるが、1は羊歯状文となると考えられる。4は平行沈線のみ巡る。

・雲形文が施文されるもの(第76図5～7) 口縁部付近で内湾する浅鉢形土器と考えられる。

・その他(第76図8) 平行沈線のみ巡る。胴部上半で屈曲したのち外反して立ちあがる口頸部となる。

## 粗製の深鉢形・鉢形土器(第76図9～17)

- ・地紋のみ施文される深鉢形土器(第76図9～14、17)

17は残存下部で屈曲し、外反するもので、屈曲部は無文となる。

- ・鉢形土器(第76図15～16)

15は無文となる。16は胴部上半で屈曲をもつもので燃糸文Lが施文される。

## 【焼土出土遺物】

調査2区の遺物包含層内で検出された焼土14ヶ所について、範囲と層位の上下関係を記録化し、個別に遺物の取りあげを行った(第41、42図)。いずれの焼土も明赤褐～赤褐色シルトが20～30cmほどにまとまり、厚さ5cmほどで堆積する。石皿跡のような遺構の可能性も考えられたが、特定に至らなかった。検出した焼土は主に遺物包含層3層上面～3層中のものと、遺物包含層4層上面で確認したもの、掘状のカクラン堆積土下で確認したものの3種類に区分することができる(第5表)。焼土内から出土した遺物はほとんどが小片である。残存状況の良好な資料32点について図化した。縄文土器、円盤状土製品がある。

## 遺物包含層3層上面～3層中検出の焼土出土遺物(第77図1～17)

1～6、16、17は焼土8、7～9は焼土12、10～15は焼土13より出土したものである。1は平行沈線間に刻み目が施される。4は円文が施文、7は粘土粒貼付がされる。10は粘土隆帯と盲孔により複雑な形状の口縁部となる。13は二分される山形突起と粘土粒貼付がみられる。16、17は円盤状土製品である。

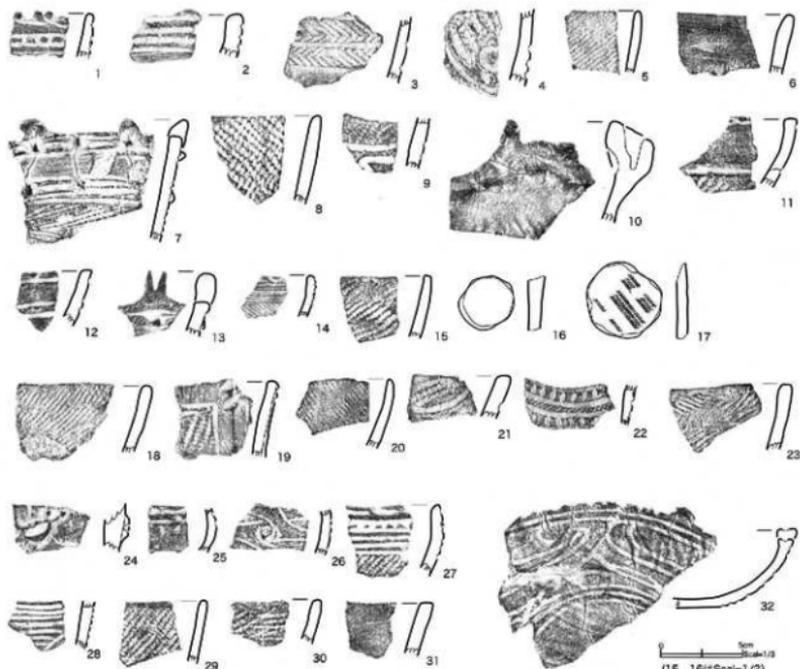
## 遺物包含層4層上面検出の焼土出土遺物(第77図18～32)

18～20は焼土1、21～23は焼土9、24～32は焼土10より出土したものである。焼土10は上面を掘状カクランの堆積土で覆われる。19は縦位隆帯上に刺突がみられ、方形沈線区画内部を縄文RLで充填する。22は沈線区画内に刻み目が施される。24は隆帯上に刺突を施す。26は入組三叉文?または入組帯状文?となる沈線文が施文される。27は口縁下部を平行沈線区画し胴部が縄文施文となるもので、平行沈線間に刻み目が施される。32は平滑な雲形文が施文されるもので内湾して立ち上がる皿形土器である。

遺物包含層4焼土状況

名称	検出区域	検出層位	出土遺物(第77図)
焼土1	調査2区	3C-4層下、4D層上	18～20
焼土2	調査2区	3C-1層下、3C-4層上	
焼土3	調査2区	3C-1層下、3C-2層上	
焼土4	調査2区	3C-2層下、3C-3層上	
焼土5	調査2区	3C層下、4D層上	
焼土6	調査2区	3D層下、4D層上	
焼土7	調査2区	3D層下、4D層上	
焼土8	調査2区	2C層下、3D層上	1～6、16、17
焼土9	調査2区	3D層下、4D層上	21～23
焼土10	調査2区	掘状覆土堆積土下、4D層上面	24～32
焼土11	調査2区	掘状覆土堆積土下、3F層上面	
焼土12	調査2区	3C-1層下、3F層上面	7～9
焼土13	調査2区	3G-1層下、3F層上面	10～15
焼土14	調査2区	2D層下、3F層上	

第5表 遺物包含層焼土検出状況



遺物包含層内焼土 出土遺物概表

図版番号	山土地区・層位	口徑	高さ	器高	外面	内面	備考	写真収載
77-1	焼土B層焼土	—	—	(△2.8)	突出面行下り横走肌線。平行花線間隔不目	ミナホ		
77-2	焼土B層焼土	—	—	(△3.6)	平行花線	ミナホ		
77-3	焼土B層焼土	—	—	(△4.2)	平行花線区画内羽状肌文 (R, LR)	ミナホ		
77-4	焼土B層焼土	—	—	(△4.9)	沈線文, RL	ミナホ		
77-5	焼土B層焼土	—	—	(△3.7)	LR	ミナホ		
77-6	焼土B層焼土	—	—	(△3.6)	ミナホ?	ミナホ		
77-7	焼土12層焼土	—	—	(△7.4)	沈線文 (3条1組)・粘土粒粘付	ミナホ		
77-8	焼土12層焼土	—	—	(△5.6)	RL	ミナホ		
77-9	焼土12層焼土	—	—	(△3.1)	沈線文, LR	ミナホ		
77-10	焼土13層焼土	—	—	(△5.6)	ミナホ?	ミナホ		
77-11	焼土13層焼土	—	—	(△4.6)	平行花線区画内LR	ミナホ		
77-12	焼土13層焼土	—	—	(△3.6)	平行花線	ミナホ		
77-13	焼土13層焼土	—	—	(△4.0)	山形突起 (二分)・LR, 平行花線, LR	ミナホ		
77-14	焼土13層焼土	—	—	(△2.5)	平行花線間隔不目, RL	ミナホ		
77-15	焼土13層焼土	—	—	(△3.9)	LR	ミナホ		
77-16	焼土1層焼土	径3.4×横4.4×厚1.2×重2g			まめつ	まめつ	円盤状土製品	
77-17	焼土B層焼土	径4.7×横4.6×厚0.7×重0.8g			LR	まめつ	円盤状土製品	
77-18	焼土1層焼土	—	—	(△4.4)	LR	ミナホ		
77-19	焼土1層焼土	—	—	(△4.6)	腹底粘土粒粘付。沈線区画内花線RL	ミナホ?		
77-20	焼土1層焼土	—	—	(△4.4)	RL	ナギ		
77-21	焼土B層焼土	—	—	(△2.9)	沈線文, LR	ミナホ?		
77-22	焼土B層焼土	—	—	(△2.6)	平行花線間隔不目, LR	ミナホ		
77-23	焼土B層焼土	—	—	(△4.1)	RL?	ナギ		
77-24	焼土10層焼土	—	—	(△2.7)	粘土粘付上表面	ミナホ		
77-25	焼土10層焼土	—	—	(△2.7)	平行花線	ミナホ		
77-26	焼土10層焼土	—	—	(△2.7)	人組2文字? UR 人組漢字文?	ミナホ		
77-27	焼土10層焼土	—	—	(△4.4)	行下り横走肌線。平行花線間隔不目, LR	ミナホ		
77-28	焼土10層焼土	—	—	(△3.6)	沈線	ミナホ		
77-29	焼土10層焼土	—	—	(△3.6)	LR	ミナホ		
77-30	焼土10層焼土	—	—	(△3.8)	LR	ナギ		
77-31	焼土10層焼土	—	—	(△3.3)	ミナホ?	ミナホ		
77-32	焼土10層焼土	—	—	(△4.8)	平行花線形文, LR	ミナホ		

第77図 遺物包含層内焼土出土遺物

## 【遺物包含層出土土製品】

遺物包含層から出土した土製品には、土偶23点、土玉状土製品1点、冠状土製品1点、スタンプ形土製品4点、土製耳飾2点、土錘1点、円盤状土製品636点、その他不明な土製品、小型・袖珍土器、香炉形土器などの異形土器がある。円盤状土製品を除くと、いずれも遺物包含層1～3層より出土したもので、遺物包含層4層中からは出土していない。

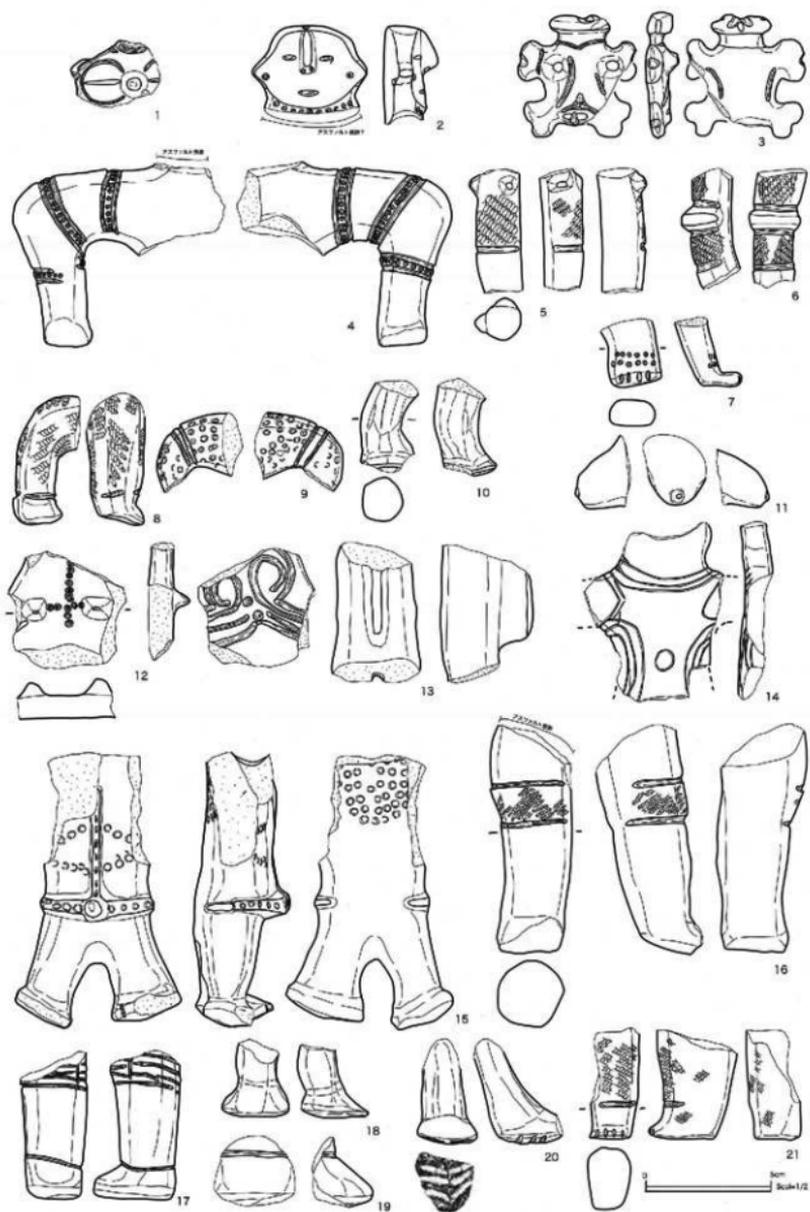
### 土偶(第78図1～第79図3)

土偶の部位別に掲載した。第78図1～3は顔部のあるもの、第78図4～10は腕部、第78図11～15は胸部もしくは体部、第78図16～第79図3は足部の資料である。うち板状の土偶となるものは第78図3、12、14の3点である。いずれの資料も部分的なもので完形の資料はない。

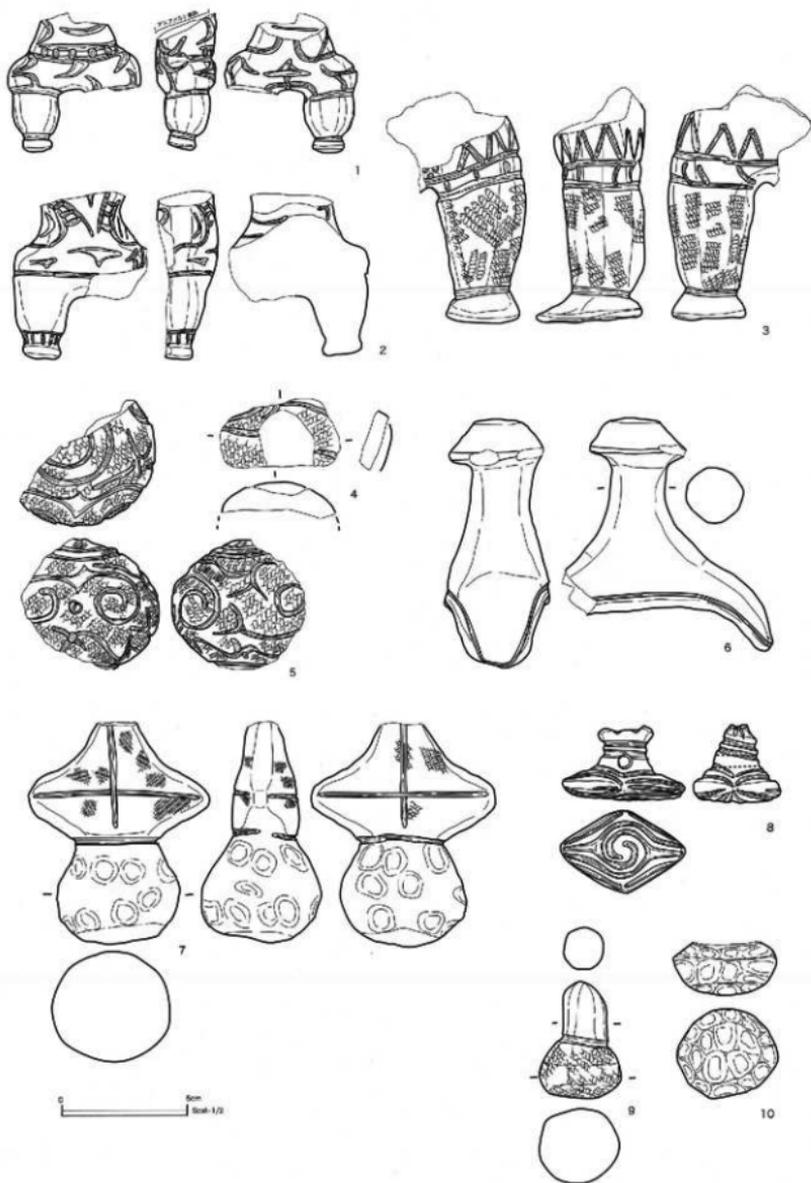
第78図1は遮光器土偶の顔部と考えられるもので中空となる。第78図2は頸部の破損部にアスファルト様の痕跡が見られる。また両耳部分が穿孔されており、頭部の頂点に1ヶ所刺突が施される。第78図3はX字形土偶となるもので胸部を粘土粒貼付し、三叉文状の陰刻文が施される。正中線は見受けられない。第78図4は沈線区画内に刺突が施されるもので、頸部の破損部にアスファルト様の痕跡が見られる。第78図5は肩に粘土粒、6は肘に粘土紐貼付がなされる。第78図7は手首部分に細かい刺突が施され、刻み目により指の表現が見られる。第78図8は手首部分に沈線区画が施される。第78図9は肘上部分に2条の沈線が巡り、その他は竹管状の工具による刺突が施される。第78図10はミガキにより無文となる。第78図11は乳房を表現したものとみられ、実物的で小さな粘土粒貼付により乳首が表現される。第78図12は板状となるもので、前面に粘土粒貼付による胸部の表現と十字形の刺突が背面に弧状?の沈線と刺突が施される。第78図13は無文となるが、体部中央に縦位隆帯が高く見られる。第78図14は破損が著しく不明であるが、細かい沈線により円文や弧文が施される。第78図15は腰部と体部中央に粘土紐貼付がみられ、その上部などに刺突が施される。第78図16は沈線区画内に縄文が施文されるもので破損部にアスファルト様の痕跡が見られる。第78図17は平行沈線区画内を縦位沈線を施すものである。第78図18はミガキにより無文となる。第78図19はつま先もしくは指先?の資料と考えられるもので、沈線が1条巡る。第78図20は下部にV字状となる沈線が施文される。スタンプ状土製品の可能性も考えられる。第78図21は刻み目により指の表現が見られる。第79図1、2は主に沈線のみで施文となるもので沈線間に刻み目や三叉文が見られ、ミガキにより研磨される。特に1は破損部でアスファルト様の痕跡がみられ、内部に細長い空洞部分がある。第79図3は沈線区画内に縄文が施されるもので、足の付け根部分で山形状の沈線が巡る。

### 土玉状土製品(第79図4、5)

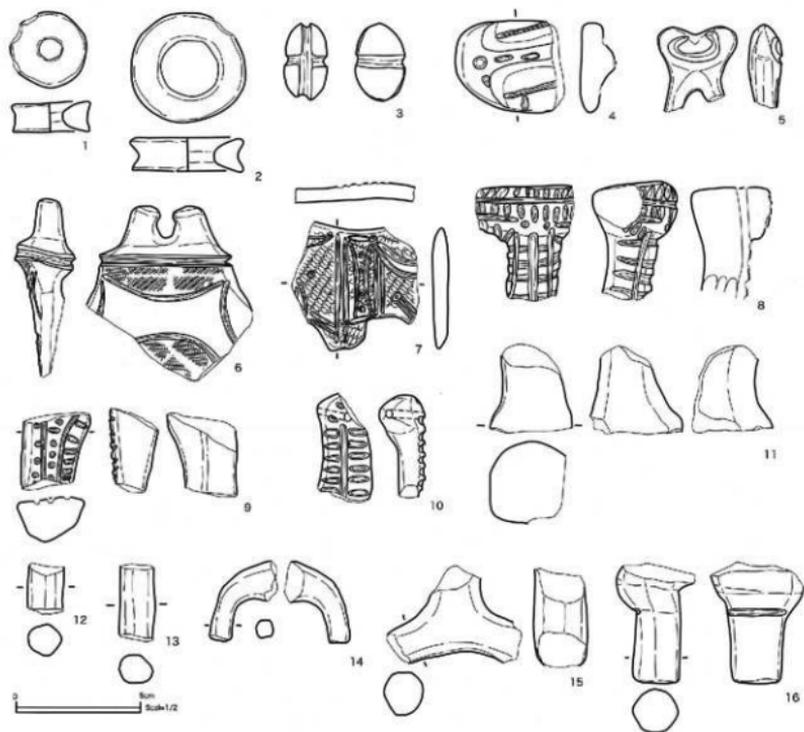
第79図4、5は、同一資料と考えられるが接合しない。全面に縄文施文され、三叉文・C字文により顔状の表現が見られる。頂部と考えられる部分に角状の穿孔の痕跡がみられ、中実となる。



第78圖 遺物包含層出土製品 1



第79圖 遺物包含層出土製品2



第80図 遺物包含層出土土製品3

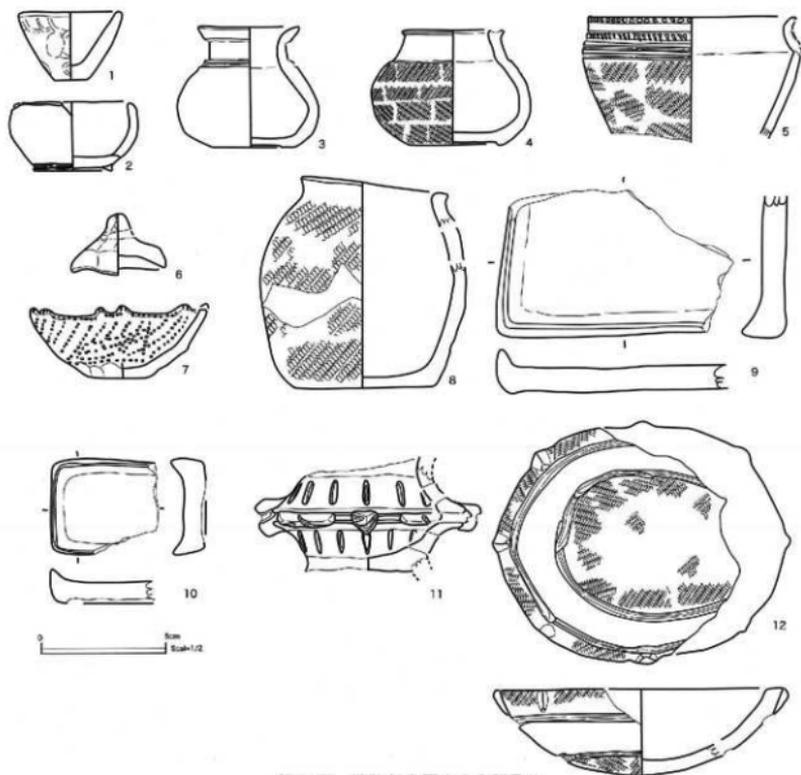
冠状土製品(第79図6) 簡素なつくりで沈線が1条めぐるだけで、ナデによって調整されている。

スタンプ状土製品(第79図7~10)

7は人形となるもので、上半に縄文施文の後十字状沈線が施され、下部は指押圧痕跡が見られる。8はつまみ部分に穿孔がなされ、底面は菱形となる。つまみ頂部は刻み目が充填され、下面は人組三叉状の沈線文が施文される。9はつまみ部無文、下部縄文施文となるもので括れ部分に沈線区画がなされる。10は指押圧の痕跡のみとなるもので、つまみ部分を欠損している。

土製耳飾(第80図1、2) ともに環状となるもので、ミガキによる調整のみで無文となる。

土鍾(第80図3) 楕円状となるもので、縦位と横位に沈線が巡る。



第81図 遺物包含層出土土製品4

#### 不明な土製品(第80図4～16)

種別・部位など不明な土製品である。4は隆帯をもち刺突や沈線が施される。5は欠損部が二股に分かれるものでC字状の沈線が見られる。6は弧線区画内に縄文が施文されるもので、土器の突起部分とも考えられる。7は左右上下非対称的な板状の形状となるもので、沈線区画内に細かい粘土粒貼付と刺突が施される。8～10は沈線・刻み目により施文され、穿孔がみられる。11、15、16は支脚状の土製品とも考えられるが、不明である。12、13は棒状となる。14は弧状となる。

#### 小型・袖珍土器、その他の異形土器(第81図)

1～8は小型・袖珍土器である。1、2、7は鉢形土器、3、4は壺形土器、5、8は深鉢形土器となる。6は蓋状の形となる。3の内面には赤彩痕跡がみられた。9、10は角皿状となるもので、9は大形、10は小形となる。11は香炉形土器と考えられる。12は丸底の浅鉢形となるもので、片口形土器のようなものであったと考えられる。

## 円盤状土製品(第82図)

上器の破片で、円形となり縁部が摩滅するもの、円状に弧を描いて破損しているものを円盤状土製品として抽出し図化・計測を行った。遺物包含層からの出土は636点を数える(第6表)。

平均で27~35mmの大きさ、10~20g前後のものとなる。破損や表面のまめつしているものがほとんどであり、文様を有するものもほとんどが沈線が巡るものとなる。本書ではこのうち、1A・2A・3B層出土資料のうち残存状況の良い78点について掲載した。

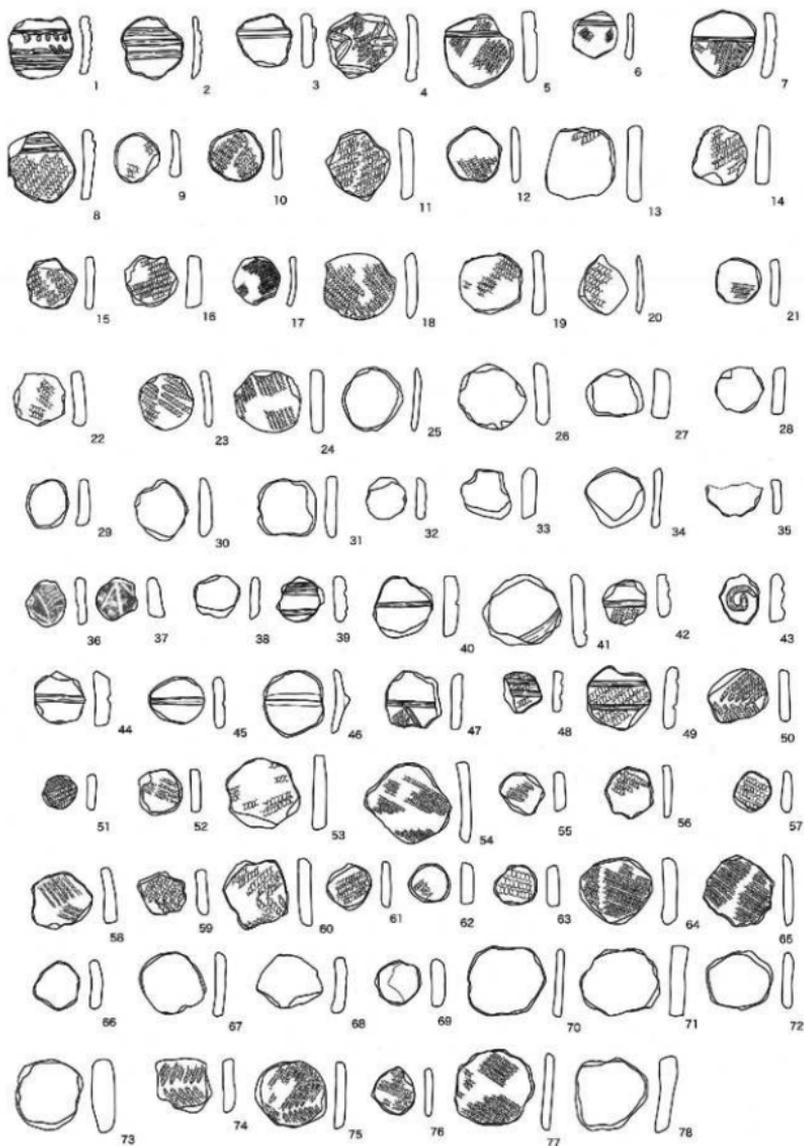
1~38は、包含層1A層からの出土である。1~8は、沈線、刺突、粘土紐貼付けなどにより文様が施文されるが、いずれも小さな資料のため文様構成等不明である。9~23は地紋のみ施文される。LR、RL、羽状縄文、RL3r?、燃糸文(L?)が見られる。24~38は、無文となるもので、殆どが摩滅により調整等不明である。36、37には木葉痕が見られる。

39~73は、包含層2A層からの出土である。39~49は、平行沈線、渦巻文、粘土紐貼付けによって施文がなされる。いずれも小さな資料のため文様構成等不明である。50~65は地紋のみ施文される。LR、RL、羽状縄文、燃糸文Lが見られる。66~73は、無文となるもので、殆どが摩滅により調整等不明である。

74~78は、包含層3B層からの出土である。74、75は羽状縄文、76、77はRL縄文が施文される。78は摩滅により調整等不明である。

出土地区・層位	地紋のみのもの	沈線など文様があるもの	地紋・文様がないまたは摩滅しているもの	合計
1A	61	22	44	127
1B	15	7	14	36
1C	3	1	0	4
1D-1	5	3	9	17
1D-3	1	1	0	2
1E	7	1	2	10
2A	42	15	32	89
2B	21	11	11	43
2C	2	0	1	3
2D	27	7	15	49
2E	4	3	5	12
3B	30	13	29	72
3C-1	10	2	2	14
3C-2	1	1	2	4
3C-4	3	0	0	3
3D-1	3	0	0	3
3D-3	10	2	5	17
3D-4	1	1	3	5
3E	4	0	3	7
3F	16	3	12	31
3G-1	16	5	13	34
3G-3	2	3	2	7
3H	1	1	6	8
4B	5	0	2	7
4D	15	0	17	32
合計	305	102	229	636

第6表 円盤状土製品出土集計表



第82図 遺物包含層出土土製品5



## 【遺物包含層出土石器・石製品】

遺物包含層から出土した石器には、石鏃、尖頭器、石錐、石匙、篋状石器、不定形石器、微細剥離のみられる剥片、剥片、石核、石斧、礫石器(磨石、敲石、凹石、石皿)、浮子、玉砥石、石錘があり、石製品には円盤状石製品、石棒、石刀状石製品、その他の磨製石製品、玉類、ミニチュア形石製品、岩偶、岩版がある。本書では簡易な二次加工のみとなる不定形石器、微細剥離のみられる剥片、石核を除き、図化した資料のうち残存状況の良好なものを掲載した。

### 石鏃(第83図)

尖頭部をもち、偏平で左右対称的な返りをもつものを石鏃とした。基部の形状別の出土量は、平坦な基部となるもの2点、凹状のもの14点、有茎のもの84点、尖茎のもの5点、欠損などにより不明なもの3点で、有茎のものがほとんどとなる。ほとんどの石鏃の尖頭部や基部が欠けた状態にある。

- ・基部が平坦となるもの(1) 側縁部や基部が若干丸みを帯び、基部に対して側縁部がやや長い。
- ・基部が凹状のもの(2~8)

凹部の挟りが浅いもの(2~4、8)、やや深いもの(5、6)、特に深いもの(7)がある。2、5は基部の幅に対して側縁部の長さがほぼ同じとなり、8は側縁部の長さが2倍以上に長くなる。7は、丸みを帯びた側縁部をもつ。

- ・有茎のもの(9~26)

基部~基部にかけて角度をつけてつくられるもの(9、10、17、18)、なだらかとなるもの(11~16、19~23)、基部の幅が狭く棒状にちかくなるもの(24~26)がある。16~17は小型のもので、22は尖頭部がやや丸みを帯びる。

- ・尖茎のもの(27~28) 基部の幅が殆どなく棒状となるものである。棒状の石鏃かもしれない。

### 尖頭器(第84図1~10)

尖頭部をつくり出し、三角形を基調とする左右対称的な形となるもので、石鏃に比べて大形・厚みのあるものを尖頭器とした。基部の形状別の出土量は、基部がやや丸みを帯びるが平坦なもの9点、尖った形や凸状となるもの10点、特殊なもの1点、欠損などにより不明なもの6点である。

- ・基部がやや丸みを帯びるが平坦なもの(1~3)

いずれも側縁部がやや外湾する。3は尖頭部と基部との軸が傾き、斜めとなる。

- ・尖った形や凸状となるもの(4~8)

全体的に丸みを帯びるもの(4)、木葉状となるもの(5、6)、小さな凸状の基部をもつもの(7、8)がある。

- ・不明なもの(9) 側縁部が外湾し、丸みを帯びる。基部を欠損しており形状を特定できなかった。
- ・特殊なもの(10) 凹基部と側縁部の間に挟りをもつもので、挟り部分にアスファルト様の黒色付着物がみられる。

### 石錐(第84図11~22)

細長く棒状の尖頭部とつまみ部をもち、石鏃や尖頭器以外のものを石錐とした。つまみ部の上下に尖頭部をもつもの8点、一方にのみ尖頭部をもつもの17点、不明なもの4点が出土している。

・つまみ部の上下に尖頭部をもつもの(11~14)

やや幅広いつまみ部の幅をもつもの(12、13)、ほとんど棒状となるもの(11、14)がある。

・一方にのみ尖頭部をもつもの(15~20)

つまみ部と身部の境が屈曲し明瞭なもの(15~17)、不明瞭なもの(18~20)がある。

・不明なもの(21、22)ともに尖頭部の資料である。つまみ部を欠損しており分類できなかった。

### 石匙(第85図1~6)

つくりだされたつまみ部をもち、刃部と思われる縁部をもつものを石匙とした。つまみ部を上とした場合、身部が横長となるもの5点、身部が縦長となるもの6点、不明なもの4点が出土している。

・横長となるもの(1~3)

基本的につまみ部の軸線と刃部の交わる角度が鋭角となるもので、主に1辺に刃部が形成される。

・縦長となるもの(4~6)

基本的につまみ部の軸線と刃部の角度がほぼ平行となるものである。4は1辺に刃部をもつもので、つまみ部の軸線と刃部の角度が若干なめとなる。5は2辺に刃部をもつが先端部分を欠損している。6は2辺に刃部をもつもので、側縁部が外湾し先端部が尖る。

### 筒状石器(第85図7)

1点のみ確認できた。刃先端部のみ残存するものでよくわからないが、先端部は丸みを帯びており側辺が直線的であり開かないものと考えられる。

### 不定形石器(第85図8~13)

剥片を用いて二次加工を施すもので、側縁部のほぼ全体に加工が見られるもの(8、9)、部分的に加工がなされるもの(10、11)がある。出土数の計測をしていないが多数出土しており、ほとんどが11のように1辺にのみ加工が施されるものとなる。12、13は不定形石器のうち特殊な形状となるもので、12は残存部分がC字状、13は3ツ又状となる。

### 石斧(第86図~87図)

21点出土している。総べての石斧で刃部や基部などで破損しており完形のものはない。小形のもの(第86図1~5)と大形のもの(第86図6~第87図4)とに分けられる。それぞれに側縁部がハ字状になるもの(第86図1~4、6~9)と断面が丸みを帯びてあまり開かないもの(第86図5、第87図1~4)が見られる。第87図5は敲打痕跡や二次加工が見られるもので、石斧の未製品?と考えられる。

#### 礫石器(磨石、敲石、凹石、石皿)(第88図～第89図4、第90図)

基本的に加工を施さない円礫で、主に使用痕の認められるものを礫石器とした。使用痕跡の形態から磨石、敲石、凹石があり、1つの石材で複数の痕跡を有するものが多い。各使用痕の形態別出土量は磨石23点、敲石5点、凹石4点、磨+凹石10点、磨+敲石4点、敲+凹石2点、磨+敲+凹石4点である。うち磨石には小形のもの(第88図1～4)と大形のもの(第88図5～6)があり、断面が扁平なもの、丸いもの、平面形が楕円状となるものがある。

第90図は、大形で重量がある凹石で、石皿と考えられるものである。掲載したのもも含め3点出土している。

浮子(第89図5～7) 3点出土している。いずれも多孔質の軽石製のもので、5、6には穿孔がみられ、扁平な四角形となる。7は残存状況が良くなく、不明である。

玉砥石(第89図8) 1点出土している。やや中粒に近い細粒の砂岩で、幅5～7mmの断面U字形となる筋が5条、二方向にみられる。

石錘(第89図9～11) 9、10は錘状の円礫で使用痕が認められないが、形状から石錘?となるのではないかと考えられる。11は扁平な礫に沈線様の凹みが1条巡るもので石錘として分類した。

#### 円盤状石製品(第89図12～14)

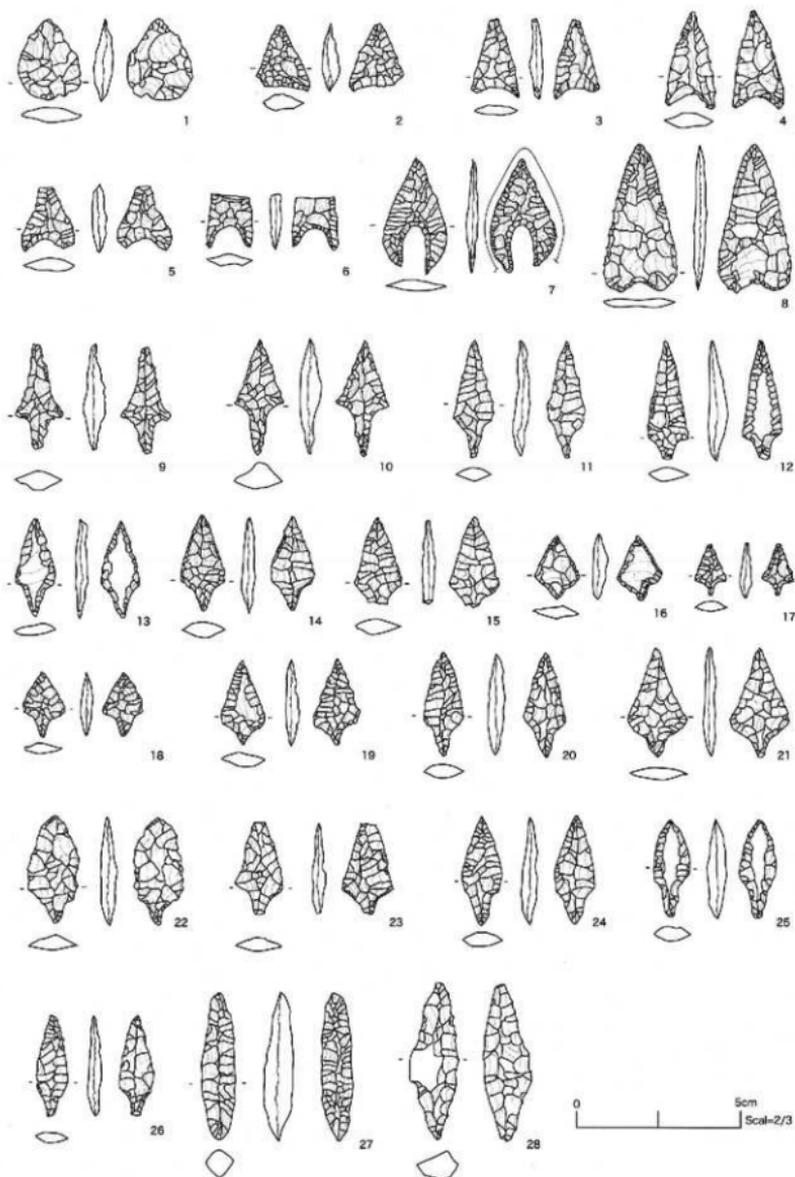
扁平で丸い石材で、礫石器などに区分できなかったものである。12、13はほぼ自然石で加工痕跡などが特に認められないものであるが、遺物包含層中に含まれる自然礫とは形状を異にするものである。14は側縁部に二次加工の痕跡がみられる。いずれも使用痕等は特に確認できなかった。

#### 石棒(第91～92図)

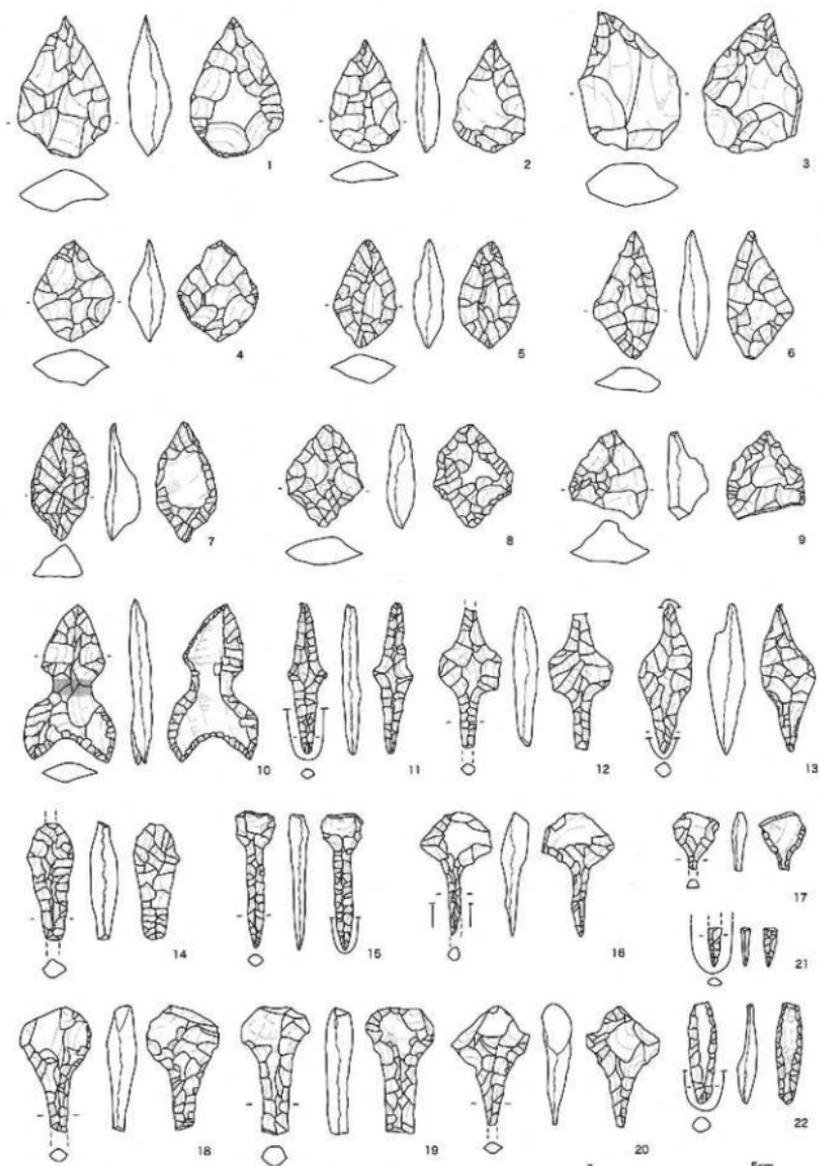
頭部に括れを有するものや断面円形となる棒状の石製品を石棒とした。11点出土している。敲打痕跡や擦痕がみられる。第91図4は細長い棒状となり沈線区画内に敲打痕跡が残る。その他掲載した資料は頭部分の資料で、括れが1段のもの(第91図1、第92図1、3)と2段になるもの(第91図2、3、第92図2、4)がある。

石刃状石製品(第93図1～3) 扁平な磨製石器で、断面が刀状となるものである。いずれも残存部分が少なく全体の様子が不明である。

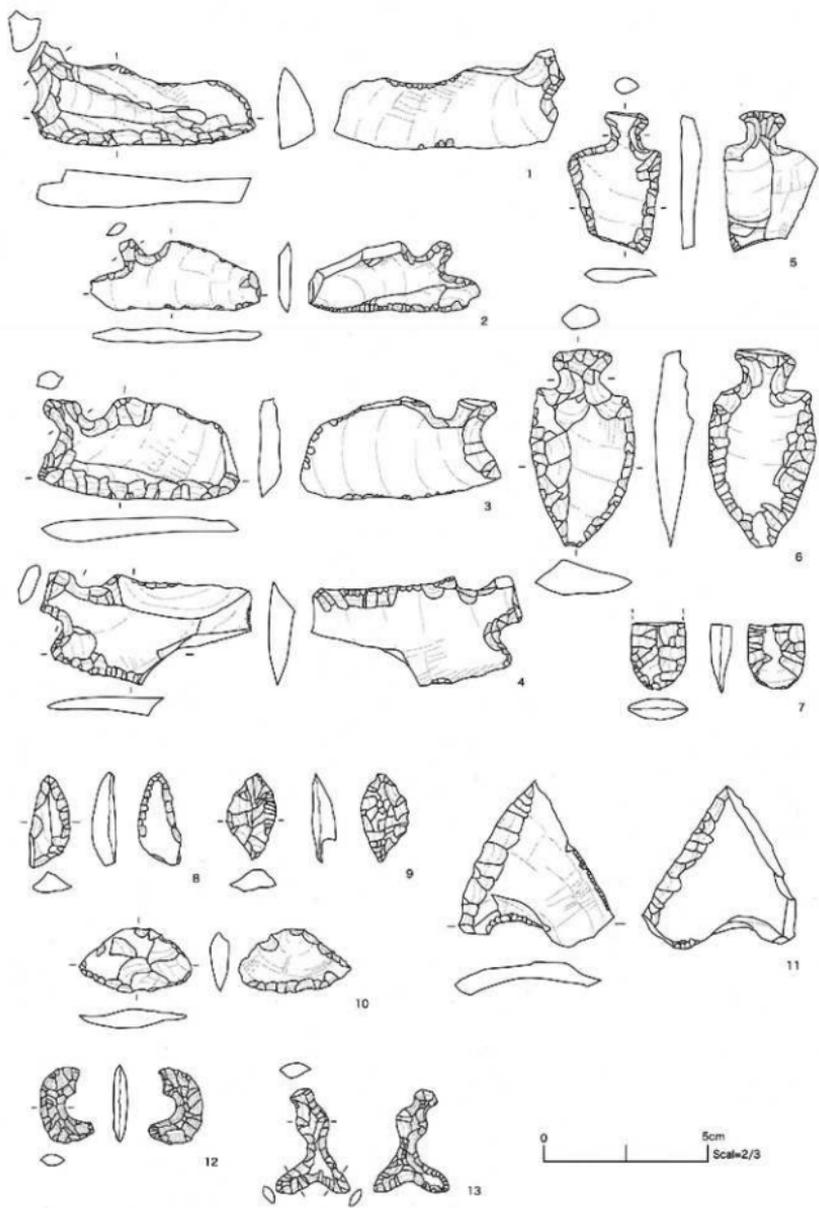
その他の磨製石器(第93図4～5) 4は棒状となるもので尖頭部を持つ。刺突具かと思われる。5は沈線が1条巡るもので、不整な石棒かと思われる。



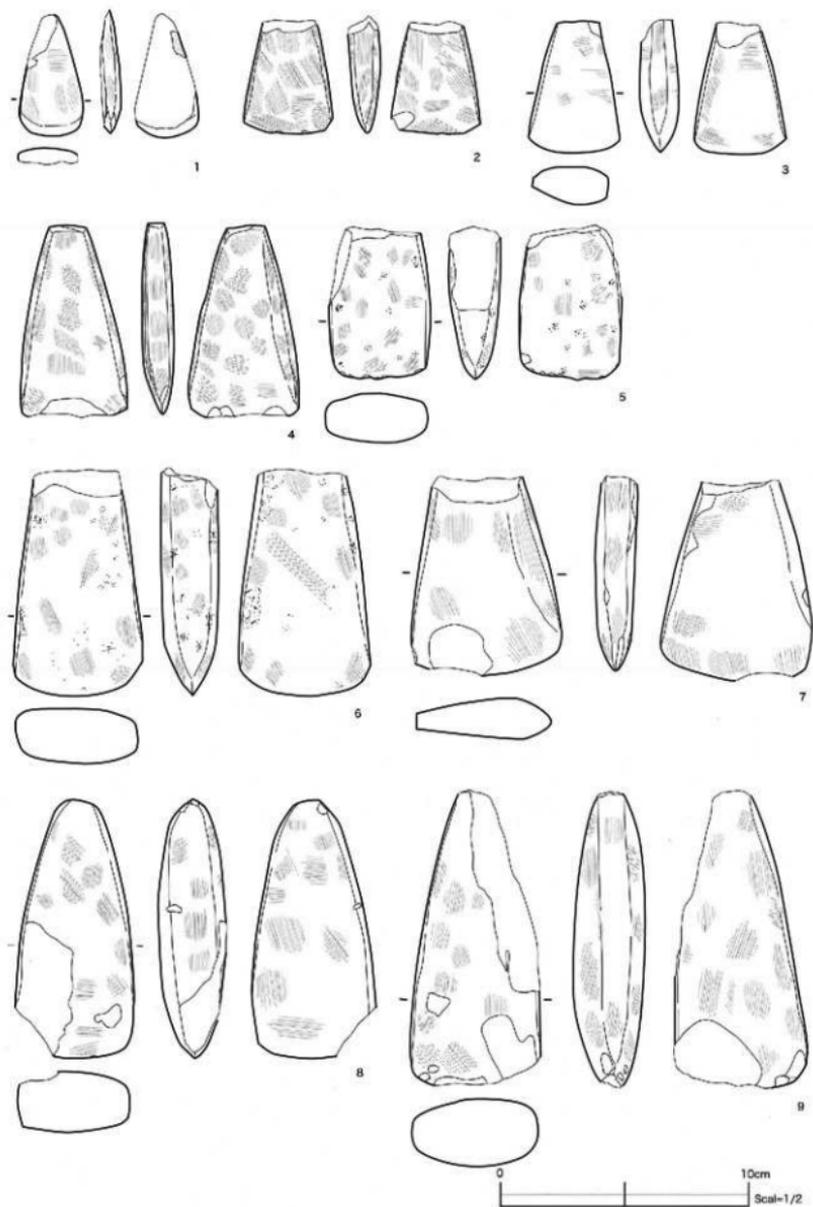
第83図 遺物包含層出土石器・石製品1



第84圖 遺物包含層出土石器・石製品 2



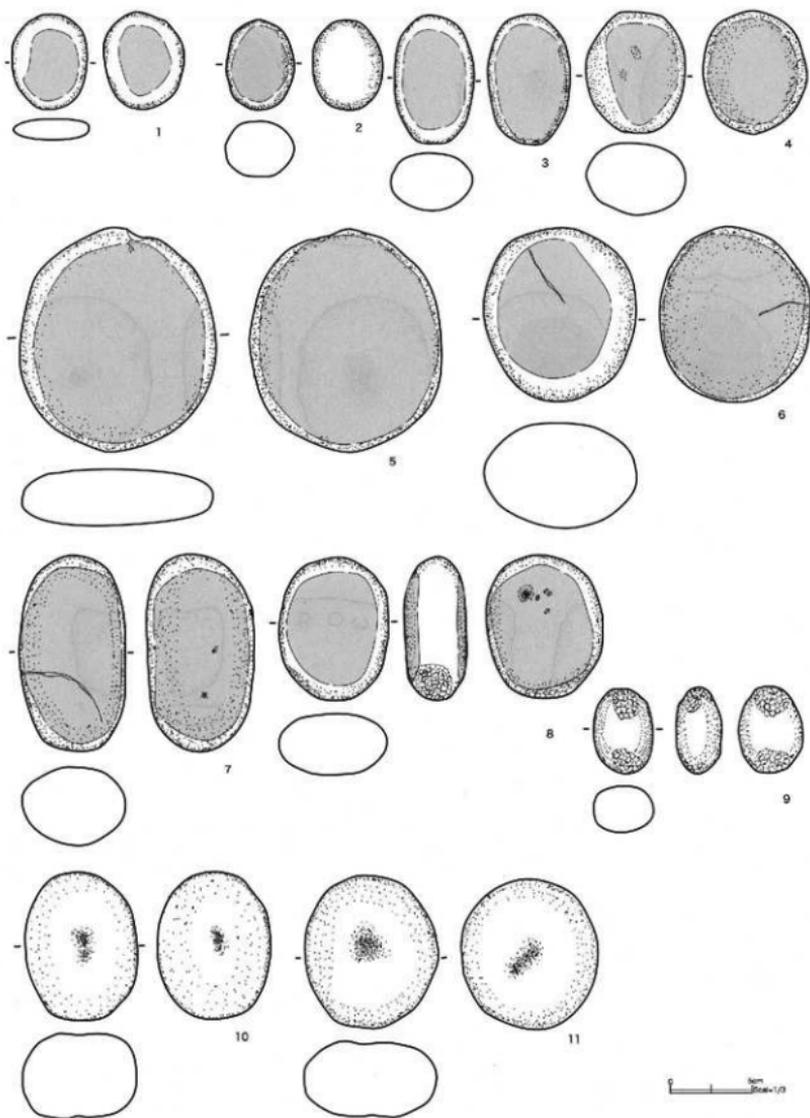
第85図 遺物包含層出土石器・石製品 3



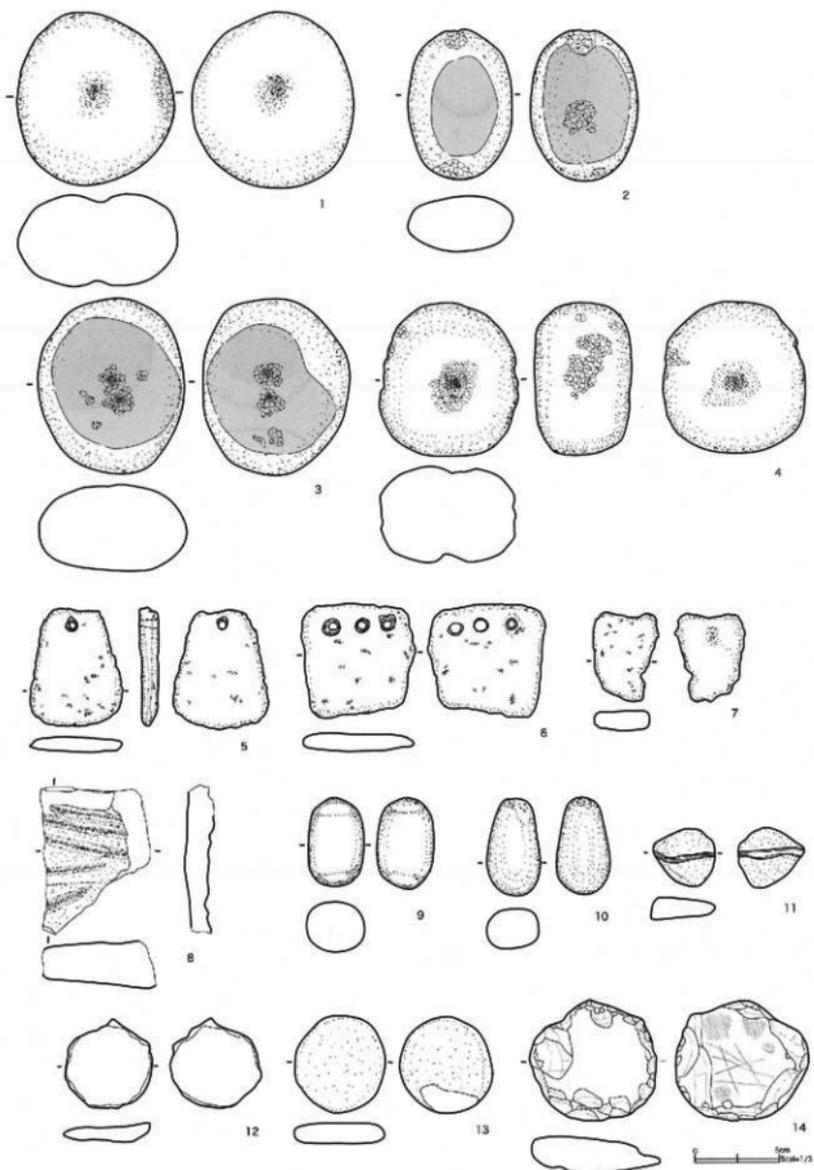
第86図 遺物包含層出土石器・石製品4



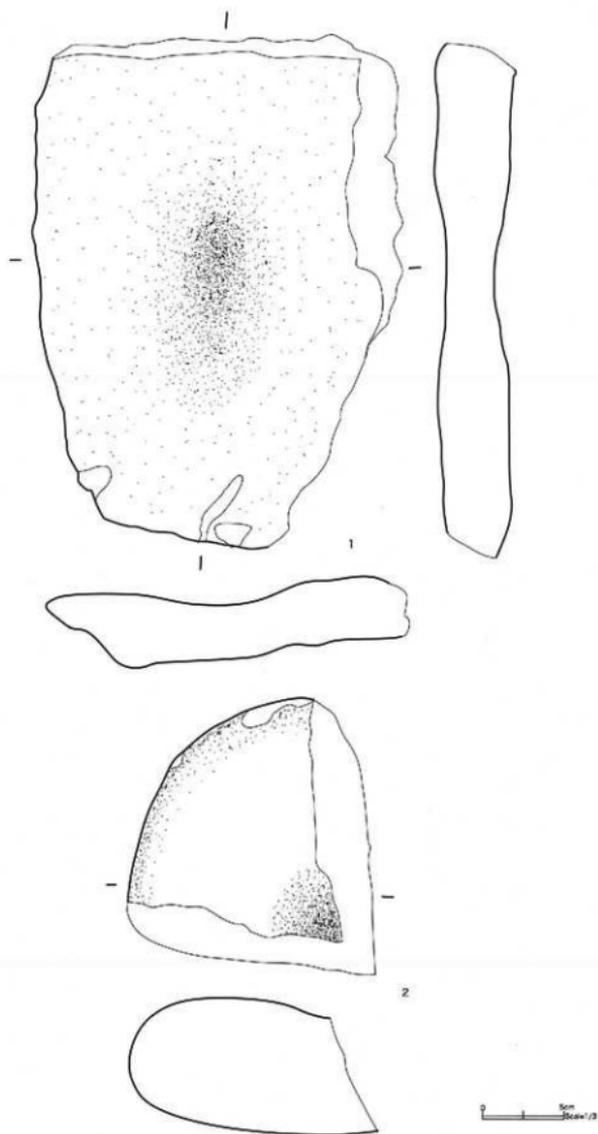
第87圖 遺物包含層出土石器・石製品 5



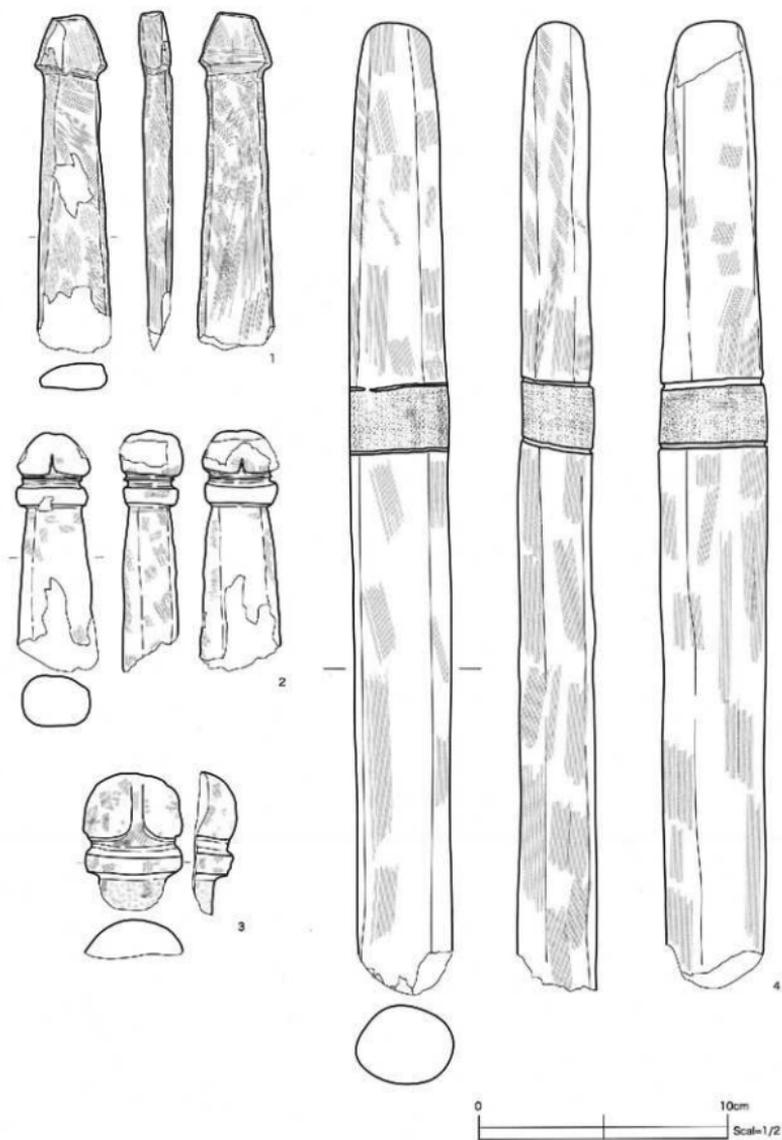
第88図 遺物包含層出土石器・石製品6



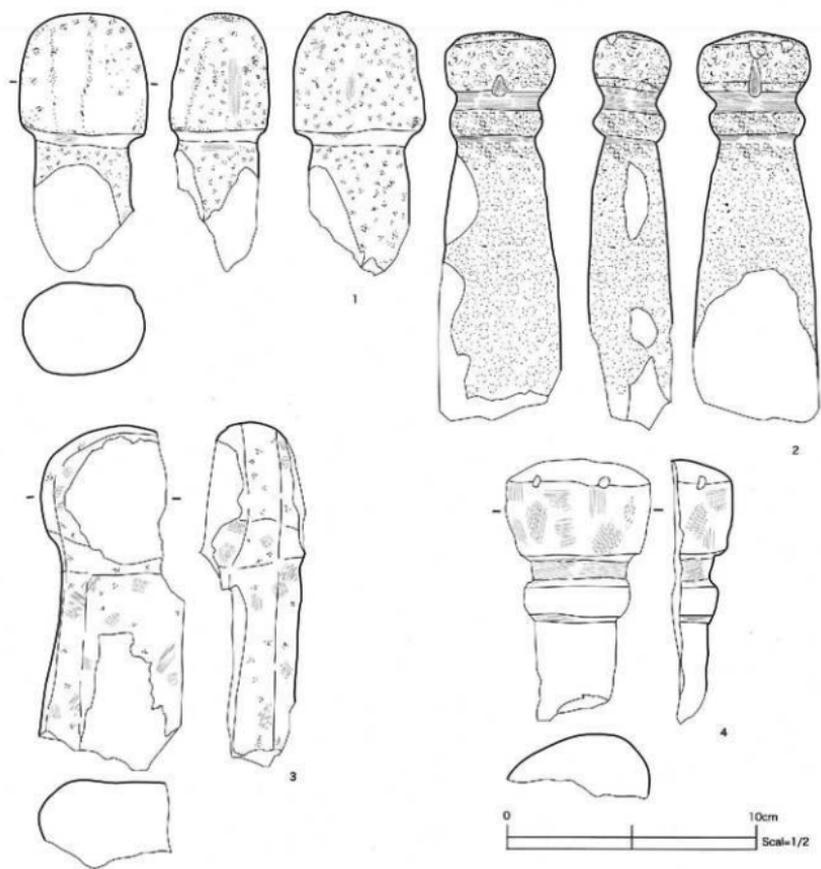
第89図 遺物包含層出土石器・石製品 7



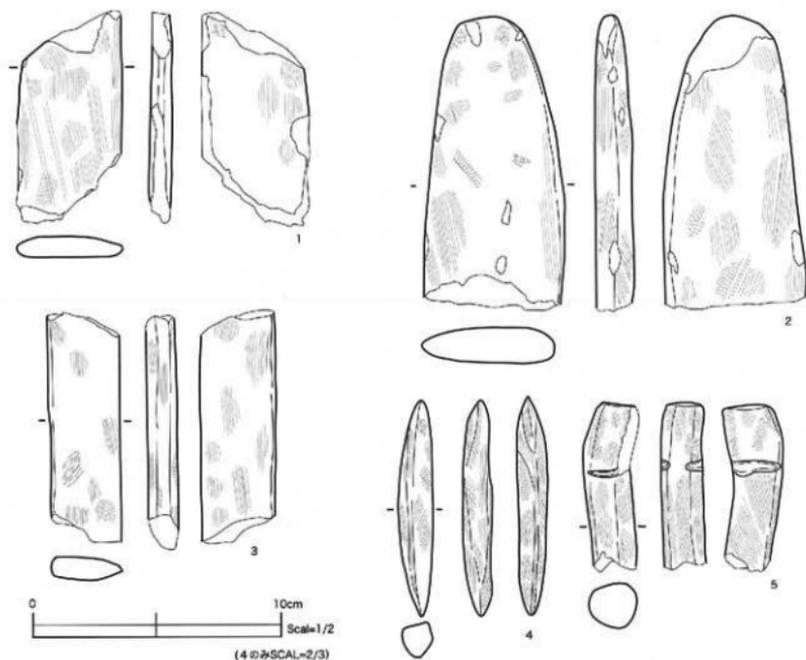
第90図 遺物包含層出土石器・石製品8



第91図 遺物包含層出土石器・石製品9



第92図 遺物包含層出土石器・石製品10



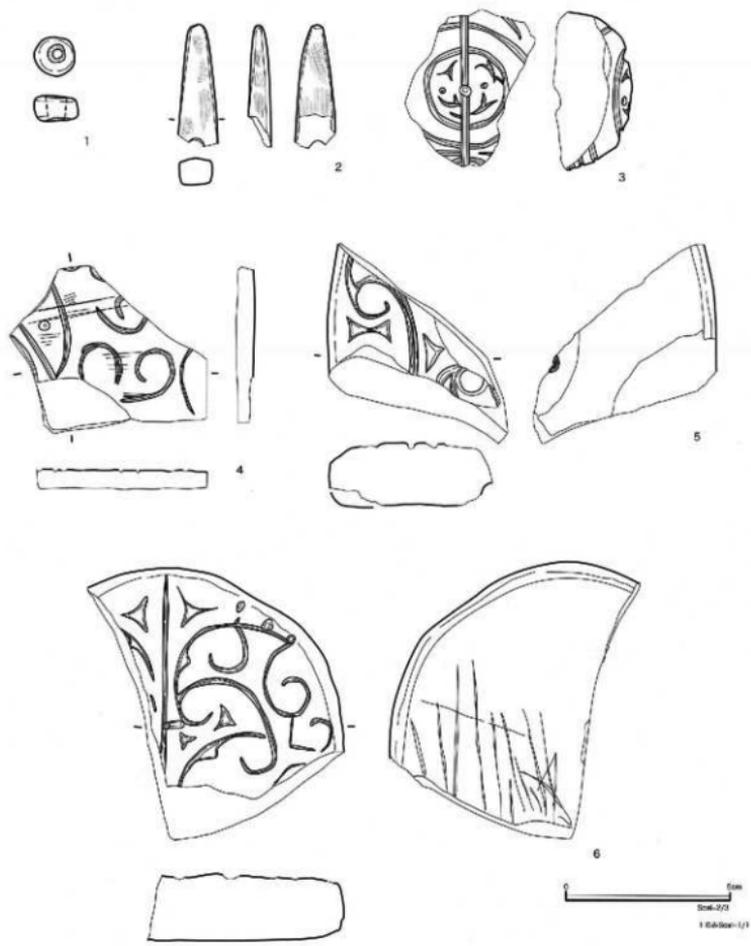
第93図 遺物包含層出土石器・石製品11

玉(第94図1) 小形のもので、1点のみ出土している。

ミニチュア形石器(第94図2) 小形の石斧状となるもので、破損部分で穿孔が見られる。実用としては機能しないと考えられ、それ以外の装飾的な機能性が高い製品と考えられる。

岩偶(第94図3) 凝灰岩製で円形となるもので、頂点と考えられる部分の刺突部分を中心として正中線と円文が施され、円文内部に三叉文が刻まれる。石材などから岩偶の頭部片ではないかと考えられる。

岩版(第94図4～6) いずれも凝灰岩製のものである。4は破損が著しく全体の形が推定できないが板状となるもので、細い沈線でC字文や弧文が刻まれる。5、6は文様や形態・厚みなどから同一個体と考えられるが接合しない。大形で厚みをもち円形となるもので、三叉文とC字文の組み合わせによる文様が刻まれる。6には正中線が見られ、また裏面に擦痕がある。



第94図 遺物包含層出土石器・石製品12

## 第6章 考察

### 1. 遺物について

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器がほとんどとなり、土器の特徴などから縄文時代後期～晩期の土器と位置付けられるが、検出した遺構に確実に伴う資料はなく、遺構や遺構堆積土の上部が遺物包含層で覆われることから、流れ込み等の状況も多いと考えられる。遺物包含層にもまとまった出土遺物はなく一括性に乏しい。以上の調査結果を踏まえた上で、出土した縄文土器を中心に分類を試みることにする。

#### 【出土土器の分類と位置付け】

出土した縄文土器には、文様をもつ精製土器(深鉢形・鉢形土器、浅鉢形・皿形土器、壺形土器、注口土器、その他の不明なものや台部資料)と文様のない粗製土器(深鉢形土器、鉢形土器)がある。土器はほとんどが小片で、内容の広範な資料であるので、遺物包含層出土土器で用いた文様や突起などの特徴的な属性の大まかな分類を整理し、近隣の調査例から同様の属性をもつ類型を求めてみるようになる。

#### 深鉢形・鉢形土器

A) 粘土紐貼付等による隆帯や粘土粒貼付、刺突、盲孔等を施すもの 器形には、把手状や注口状となり複雑な形態の口縁部となるもの(第61図1、2など)、横位隆帯部分などで外傾した胴部が屈曲・屈折するもの(第61図9、第74図11など)、直線的もしくはやや内湾して外傾し立ちあがるもの(第61図6、第74図7など)がある。文様構成には、粘土紐貼付により横位・弧状の隆帯をつくるもの(第61図6など)、隆帯や粘土粒上等に刺突・盲孔を施すもの(第61図14など)、主に刺突や盲孔によって施文されるもの(第61図29など)がある。本資料の類型となるものには、蔵王町二屋敷遺跡出土土器(加藤：1984)、大和町金取遺跡出土土器(小野寺：1980)、石巻市南境貝塚出土土器(後藤：1974)、仙台市六反田遺跡出土土器(佐藤：1987)などがあり、主に後期前葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

B) 円文や渦巻状・S字状の沈線文が施されるもの 少数しか出土しておらず小破片のため不明であるが、直線的もしくはやや内湾して外傾し立ちあがるもの(第53図16)、やや外反するもの(第61図35)がある。文様構成には、円文(第61図34など)、「の」字状の円文や渦巻文(第61図33など)、リボン状の文様が垂下する連鎖沈文(第53図17など)、S字状沈文(第61図35など)が見られる。本資料の類型となるものには、蔵王町二屋敷遺跡出土土器(加藤：1984)、石巻市南境貝塚出土土器(後藤：1974)、仙台市六反田遺跡出土土器(佐藤：1987)などがあり、主に後期前葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

C) 口縁部等の沈線区画内部に主に充填・磨消によって縄文施文するもの。またさらに沈線文(平行沈線や反転する平行沈線)を施文するもの ほとんどが口縁部付近の部分的な資料で、器形や文様構成が不明瞭なものが多い。胴上部が内湾してすばまり、頸部で強く屈曲して外傾する長い口頸部をもつもの(第29図1)、外傾して立ち上がった胴部が上半でかるく内湾したのち、かるく屈曲しほぼ直立もしくは外傾して立ち上がる長い口頸部をもつもの(第62図21、第74図25など)、内湾しながら外傾するも

の(第53図30、第75図2など)、小形で短い口縁部下でかるく屈折するもの(第53図28、第62図17など)がある。口縁部形態には平坦な口縁部となるものと、大きな波状もしくは山形の口縁部をもつものが見られる。文様構成も小破片のため不明なものが多いが、特徴的なものとして、平行沈線を用いて区画するもの(第44図14、第74図25など)、楕円文などにより区画するもの(第29図1、第74図21など)、波状口縁などの口縁部形態に沿って沈線区画するもの(第54図2など)(さらにその内部に斜位沈線や弧状沈線が加えられるもの(第63図3など)もある)、平行沈線間に縦位沈線や蛇行する縦位沈線を用いて反転する平行沈線をつくるもの(第53図30など)、入組状文などを施文するもの(第53図29、第62図21、22など)がある。沈線区画内にはRL、LR、羽状縄文が多く見られ、沈線区画に沿って充填施文するものが多い。その他、第11図1は入組状の沈線区画内に格子状の沈線文が施される。

大きな波状口縁部に沿って沈線区画内に縄文を充填するもの(第54図2など)や、楕円や弧状の沈線区画(第29図1など)、反転する平行沈線(第53図30など)は、河南町宝ヶ峯遺跡(志間・桑月：1991)、気仙沼市田柄貝塚第Ⅲ群土器(手塚ほか：1986)、仙台市伊古田遺跡包含層出土土器(渡部：1995)、仙台市王ノ壇遺跡Ⅱ・Ⅲ段階縄文土器(小川・高橋：2000)などに類似する器形や文様構成が認められ、主に後期中葉頃に位置付けられる土器と考えられるが、小破片のものは不明な点が多く、後期中葉のなかでもその前後を含めた若干広い時期幅をもつものと思われる。

また、入組状文などを施文するもの(第53図29、第62図21、22など)は、粘土粒貼付が見られず、比較的幅の広い弧状連結文などによって構成される。気仙沼市田柄貝塚田柄貝塚Ⅳ群土器(手塚ほか：1986)、「西の浜式」として知られている丸森町清水遺跡出土土器などに類似する器形や文様をもつ土器が認められ、主に後期中葉末～後葉初め頃に位置付けられる土器と考えられる。

**D)口縁部等の沈線区画内部に刻み目を充填するもの** 小破片が多く器形の不明なものが多い。人形で外傾して立ち上がり、口縁部付近でかるく内湾もしくはそのまま外傾して波状口縁や山形口縁となるもの(第54図8、第75図7など)、平坦口縁でかるく内湾しながら外傾して立ち上がるもの(第44図38、第54図15など)、平坦口縁部下などでかるく屈曲するもの(第44図39、第75図6など)がある。口縁部形態に沿って沈線区画した内部に充填するものが多い。刻み目下部は、ミガキにより無文となるものと沈線区画内部に縄文が施文されるものがあるが、小破片のため縄文帯の文様構成が不明である。外反する口縁部をもち頸部?に刻み目が施されるもの(第20図13など)や、刻み目というより竹管状工具で連続刺突がなされるもの(第44図37、第75図11など)も見られる。

河南町宝ヶ峯遺跡(志間・桑月：1991)、気仙沼市田柄貝塚第Ⅲ群土器(手塚ほか：1986)、仙台市王ノ壇遺跡Ⅳ段階縄文土器(小川・高橋：2000)などに類例が求められ、主に後期中葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

**E)粘土粒貼付を施すもの** 小破片が多く器形の不明なものが多い。直線的に開いて外傾するもの(第64図14など)、胴上半でかるく膨らんで内湾した後屈曲し、口頸部が外反ぎみに開いて立ち上がるもの(第64図15)、内湾して立ち上がるもの(第64図16)がある。粘土粒には手柄の小さな突起状となるものが大半であるが、大形の粘土粒やその粒上に穿孔がみられるもの(第64図15、第75図17など)もある。その他、大きく扁平なボタン状の粘土粒貼付がされるもの(第64図19など)が見られた。

文様構成には、2～3条1組の平行沈線や弧状沈線文のみで描かれるもの(第64図4など)、入組帯状文や弧状連結文などの沈線区画内に縄文が施文されるもの(第64図14など)がある。その他、第75図18は横長に連続した入組状文間に刻み目が施される。

大きくボタン状(第64図19など)となるものの類例は確認できなかったが、概ね後期中葉末から後葉はじめ頃のものとして推定される。その他は、気仙沼市田柄貝塚第Ⅳ～Ⅵ群土器(手塚ほか：1986)、松島町西ノ浜貝塚出土第2類土器(斎藤：1968)、鳴瀬町里浜貝塚風越地点出土土器(阿部・須田：1997)などに類例が求められ、主に後期後葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

F)山形突起をもつもの 基本的に前掲の沈線区画内に縄文を充填(磨消)施文するものうち、入組帯状文などを施すものや粘土粒貼付を施すものの口縁部に見られる。細長く弧を描いて大きな尖頭部をつくるもの(第55図1、第64図21など)、比較的小形の突起で突起頂部を短い沈線などにより頂部を二分するもの(第55図24など)が特徴的に見られ、この二種類の突起が組み合わせるもの(第55図16など)や大小を組み合わせるものもある。また、大きな尖頭部をつくる突起の下部は、沈線区画により三角文となるもの(第45図10など)や縦長の楕円状の沈線区画(第45図12、第55図3など)が施文されるものが多い。これらの突起をもつ土器は、気仙沼市田柄貝塚第Ⅳ～Ⅵ群土器(手塚ほか：1986)、松島町西ノ浜貝塚出土第1類土器(斎藤：1968)などに類例が求められ、主に後期後葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

その他の突起として、二個の突起が対となるもの(第65図12)、大形な突起で三つ又となるもの(第55図23)、ゆるやかにのびる突起下部で三角文が施文されるもの(第65図11、12)、「几」状となるもの(第75図23)、小さな二又となり弧状沈線が突起下部で連結するもの(第65図14など)、突起下部に三叉状の沈線が施されるもの(第45図24など)がある。

二個の突起が対となるものは口縁部に平行沈線区画がなされるもので後期中葉頃、ゆるやかにのびる突起下部で三角文が施文されるものは小破片のため詳細不明だが後期中葉～後葉頃、大形で三つ又となるものは粘土粒貼付がみられ後期後葉頃、「几」状となるものや小さな二又となり弧線が突起下部で連結するものは、気仙沼市田柄貝塚Ⅶ群土器(手塚ほか：1986)や沢上貝塚出土土器(関根：2002)に類例が見られ後期末～晩期初頭頃、突起下部に三叉状の沈線が施されるものは主に晩期と推定される土器と考えられるが、いずれも少数しか確認されず、不明な部分が多い。

G)口へ胴上部もしくは口へ頸部間で平行沈線区画を施し、区画上部が文様帯・下部が地紋施文となるもの いずれも底部から外傾・かるく内湾して立ちあがり、平行沈線区画上部の文様帯付近で器形が変化するもので、ほとんどそのまま外傾して立ちあがるもの(第56図1など)、内湾するもの(かるいものからきつく内湾するものまでである)(第56図2など)、屈曲・屈折して口縁部が外反・外傾するもの(第56図12)がある。沈線区画内の文様構成は、羊歯状文となるもの、細い沈線で直線的な羊歯状文となるもの、平行沈線間に刻み目を施すもの(太い沈線で刻まれるものから細い筋状となるものがある)、平行沈線のみもしくは小突起下に縦位の短い沈線がついて三叉沈線が施文されるもののが特徴的に見られる。第56図13などは幅広い口頸部となるもので、浮彫状の羊歯状文となる。

小突起下に三叉沈線(第66図11など)描かれるものは口尻町中沢目貝塚第Ⅱ群土器に類似した土器が

あり、晩期前葉の大洞BC式頃に位置付けられる土器と考えられる。浮彫状の羊歯状文が施文されるもの(第56図13など)、玉抱三叉文状の文様(第56図15)や平行沈線区画内に「の」字状の文様が施されるもの(第66図13など)も晩期前葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

その他の羊歯状文や直線的な羊歯状文が施文されるもの(第66図1、5など)は、気仙沼市山柄貝塚IX群土器(手塚ほか：1986)や大和町摺萩遺跡第IV期土器(阿部ほか：1994)に類例が求められ、概ね大洞BC式を中心とするものと考えられる。平行沈線間に刻み目をもつもの(第66図26、第67図6など)は同じく摺萩遺跡第IV～VI期土器(阿部ほか：1994)に類例が求められ、晩期前葉～中葉の大洞BC～C<sub>2</sub>式頃に位置付けられる土器と考えられる。平行沈線のみとなるもの(第56図35、第67図12など)は、概ね晩期前葉以降に属する土器と考えられるが、それ以上は明確にできなかった。

H) その他の深鉢形土器 第45図26、第57図6～9、第76図8がある。第45図26はきつく外反するもので入組状文が、第57図8は長い口頸部が外反して無文に、9は屈折して立ちあがる口頸部に浮彫状の縄文帯が、第76図8は屈折して長く外傾する頸部が口縁部でさらに屈曲するもので平行沈線が施文される。文様や器形から、第45図26、第57図6、9は後期に、第57図8、第76図8は晩期に位置付けられる土器と推定されるが、小片のため詳細不明である。

#### 浅鉢形・皿形土器

A) 沈線区画内部に入組文などの沈線文・縄文施文・刻み目等を施すもの 主に浅鉢形土器がみられる。外傾またははるか内湾し、開きながら口縁部が立ちあがるもの(第15図7、第68図1など)、胴部上半でかるく屈曲したのち長い口頸部が外傾して開くもの(第68図7など)、胴部上半で屈折し口縁部が立ちあがるもの(第68図4など)がある。文様構成には弧線連結文や入組状文(第68図1、第68図7など)、反転する平行沈線文などが施文されるもの(第47図14など)、斜線多重沈線を施文するもの(第68図3など)、沈線区画内に刻み目(連続刺突?)を施すもの(第47図12など)、粘土粒貼付けをするもの(第68図8など)がある。その他、第23図9は台付の浅鉢形土器と考えられるもので、沈線区画内に刻み目が巡るものである。

反転する平行沈線文、沈線区画内に刻み目(連続刺突?)を施すものは、深鉢形土器Cと同様に後期中葉頃に位置付けられる土器と考えられる。弧線連結文や入組状文、粘土粒貼付が見られる土器は深鉢形土器C・Eと同様に後期後葉頃に位置付けられる土器と考えられる。第68図3、第23図9は、宝ヶ峯遺跡(志間・桑月：1991)に同様の器種の出土例があり後期中葉に位置付けられる土器と考えられる。

B) 三叉文・羊歯状文などが施文されるもの 浅鉢形土器と皿形土器がみられる。浅鉢形土器には、胴部で屈折するもの(第47図23など)、口縁部で屈折するもの(第57図20)、わずかに内湾しながらも外傾して立ちあがるもの(第68図17など)、胴部上半に括れをもつもの(第68図19など)がある。皿形土器には、直線的に大きく開き口縁部付近で軽く内湾するもの(第47図20など)、内湾して立ち上がるもの(第68図10)、浅く外反して開くもの(第68図16)がある。文様構成はいずれも浮彫状となるものであるが、平行沈線と入組三叉文や玉抱三叉文などを組み合わせただけの比較的簡素なもの(第68図10～16など)と、入組三叉文と羊歯状文や平行沈線間刻み目などを組み合わせた装飾性に富んだもの(第68図17～20など)が見られる。

比較的簡素なものは大和町摺萩遺跡第Ⅲ期土器(阿部ほか：1994)に、裝飾性に富んだものは大和町摺萩遺跡第Ⅳ期土器(阿部ほか：1994)に類例が求められ、晩期初頭～前葉の大洞B～BC式頃に位置付けられる土器と考えられる。

C) 壺形文が施文されるもの 浅鉢形土器と皿形土器がみられる。浅鉢形土器には、口縁部付近で内湾するもの(第69図5など)、I～頸部で屈折するもの(第48図8など)、かるく内湾もしくは外傾しながら開くもの(第48図9、10など)がある。皿形土器にはかるく内湾もしくは外傾しながら開くもの(第69図13など)、直線的もしくは外反して大きく開くもの(第49図1など)、台付浅皿形となるもの(第69図16)がある。

いずれもC字文などを配した雲形文が施文され、特に直線的もしくは外反して大きく皿形土器は半球形状となる。大和町摺萩遺跡第Ⅴ～Ⅵ期土器(阿部ほか：1994)に類例が求められ、主に晩期中葉の大洞C<sub>1</sub>～C<sub>2</sub>式頃に位置付けられる土器と考えられる。

D) 口縁下部に平行沈線もしくは平行沈線間刻み目を施し下部が縄文施文となるもの 胴部が外傾して開き口縁部下で内湾するもの(第66図25)、外傾して大きく開くもので浅い皿形となるもの(第70図1～7など)がある。平行沈線間の文様帯はせまく、細い沈線で施文されるものが多い平行沈線間に刻み目が充填されるもの(第49図2など)と、直線的な羊歯状文が施文されるもの(第70図1)がある。特に平行沈線間に刻み目を施文するものは、外傾して大きく開くもので浅い皿形となるものに見られ、口縁部内面にも平行沈線間刻み目を施すものが多い。

大和町摺萩遺跡第Ⅴ期土器(阿部ほか：1994)に類例が求められ、主に晩期中葉の大洞C<sub>1</sub>式頃に位置付けられる土器と考えられる。

E) 浮線槽門文や工字文が施文されるもの 胴部上半で屈曲して内傾・内湾したのち、頸部でさらに屈曲して短く外傾する口縁部をもつもの(第57図18、第58図15など)、直線的に外傾し口縁部付近でかるく内湾するもの(第49図9など)がある。

いずれも沈線を用いて工字文や浮線槽門文が施文されるものである。第49図9は変形工字文?となる。第57図18などは縄文Rにより、入組み状の磨消縄文が施文され、ほぼ鉢形土器に近い器形となる。

大和町摺萩遺跡第Ⅶ期土器(阿部ほか：1994)や金剛寺貝塚出土遺物(小井川：1980)に類例が求められ、主に晩期中葉～後葉の大洞C<sub>2</sub>～A式頃に位置付けられる土器と考えられる。

#### 壺形土器

A) 沈線区画内部に縄文施文や刺突、粘土粒貼付の施されるもの 広口の壺形土器で頸～胴部で屈折し長く直立する頸部をもち、沈線区画内に縄文が施文されるもの(第70図9など)と、細長の外反する頸部をもつもの(第33図4、第70図11、12)がある。第33図4、第70図11は、胴部上半に磨消縄文による文様が施文される。第70図12は山形突起と粘土粒貼付がみられる。その他、第58図21は球形の胴部上半に沈線区画が施文されるものであるが、詳細は不明である。

この広口の壺形土器は気仙沼市田柄貝塚第Ⅲ群土器(手塚ほか：1986)などに類例が求められ、後期中葉に位置付けられると考えられる。また細長の外反する頸部をもつものは第70図12が後期後葉に属すると考えられ、第33図4、第70図11は、石巻市南境貝塚出土C群土器(後藤：1974)、河南町宝ヶ峯遺跡出土土器(志間・桑月：1991)、岩手県平泉町新山権現社遺跡出土Ⅱ群a類土器(鈴木：2001)による)に器形や文様

の類似性が見られ、主に後期前葉末～中葉初め頃に位置付けられる土器と考えられる。

B)三叉状入組文が施文されるもの 第70図13の1点のみである。文様から主に晩期初頭～前葉頃に位置付けられる土器と考えられるが、小破片のため詳細不明である。

C)頸部の沈線区画内に浮彫状の刻み目や隆帯のみられるもの 直立した頸部が口縁部で屈折して外反するもの(第71図1)、頸～胴部に屈曲をもたずに内傾して立ちあがり口縁部で屈曲して外傾するもの(第58図20)がある。第71図1は器形から晩期中葉の大割C<sub>1</sub>式頃に位置付けられると考えられる。第58図20は、文様の施文方法から晩期前葉頃のものと考えられる。

D)雲形文が施されるもの 内傾して立ちあがった胴部が口頸部で屈折し、徳利形となるもの(第34図5)である。晩期中葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

E)口縁部無文、胴部縄文施文となるもの 大きく膨らむ胴部をもち、頸部が内傾して立ちあがるまたは短く外反するもの(第50図2など)、内傾・内湾する胴部が頸部で屈折して開くもの(第70図15など)細長の胴部となるもの(第71図4)がある。晩期中葉以降に位置付けられる土器と考えられる。

その他第70図14は、長く立ちあがる口頸部をもつ小形の壺形土器である。主に後期に位置付けられる土器と考えられるが詳細不明である。

F)口縁部に装飾が加えられるもの 内傾して立ちあがる頸部をもち、口縁部に沈線と刺突を施し突起を形成するもの(第50図1)で、胴部は欠損して不明である。口縁部装飾の状況から晩期後葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

G)無文のもの 広口の壺形土器で頸部が直立して立ち上がり、大きく膨らむ胴部が無文となるもの(第71図3)と、口頸部で屈折するもの(第70図16)、細口の壺形土器で強く外反して開く口縁部をもつもの(第58図19第71図2)がある。小破片のため不明であるが、主に晩期に位置付けられる土器と考えられる。

#### 注口土器

A)沈線区画内部に入組文などの沈線文・縄文施文がみられるもの 丸い球形となる器形となるもの(第58図22、第71図5)がみられる。注口部には細長く伸びるもの(第71図13、14)がみられる。粘土粒貼付が見られ、主に後期後葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

B)三叉文・羊歯状文などが施文されるもの 内湾ぎみに外傾して立ちあがるもの(第71図6など)、内傾して立ちあがるもの(第71図11など)がある。第71図11は沈線が1条巡るだけのものだが、第71図6と同様の器形となると思われる。大和町摺藪遺跡第Ⅲ～Ⅳ期土器(阿部ほか：1994)に類例が求められ、晩期初頭～前葉頃に位置付けられる土器と考えられる。

C)磨消縄文が施文されるもの 算盤玉状の器形となるもの(第71図10、12)がある。主に晩期中葉頃のものと考えられる。

#### その他の土器

沈線区画内に縄文施文されるものとして第50図13、第71図17の台部資料がある。三叉文などが施文されるものとして台部資料(第50図14、第58図26、第71図16)と台付鉢?形土器(第71図15)がある。前者の台部資料については所属時期が明確ではないが、後者の三叉文などが施文されるものは晩期初頭～前葉頃のものと考えられる。

## 粗製の深鉢形・鉢形土器

深鉢形土器には、地紋のみの施文となるもの、櫛歯状工具の痕跡があるもの、無文のものがある。地紋のみの施文となるものには、ほぼ外傾して立ちあがるもの(第36図1など)、内湾するもの(第72図9など)、かるく内湾して屈曲するもの(第59図6など)、体部中央よりやや上半で内湾したのち顔部でゆるやかに屈曲し外傾して立ち上がる長い顔部をもつもの(第28図1など)がある。地紋にはR、LR、RL、羽状縄文、LR3r、LRL、RLRがある。櫛歯状工具の痕跡があるものは、外傾もしくは内湾ぎみに外傾するもの(第73図10など)がある。半截竹管状工具によるものと5～10本程で1組となる工具と大きく2種類がみられる。小破片で良く判らないが弧線を描くものが多く、第73図10は連鎖状の痕跡となる。無文のものは外傾して開きながら立ちあがる(第73図15)。

鉢形土器には、地紋のみとなるもの、無文のものがある。地紋のみとなるものには、外傾して立ちあがるもの(第72図13など)、かるく内湾して立ちあがるもの(第72図14など)、屈曲をもつもの(第72図11など)がある。地紋にはLR、RL、羽状縄文、燃糸文Lがある。無文のものは、内湾して立ちあがるもの(第51図16)がある。

第28図1の深鉢形土器は、共伴して出土した資料として第29図1の深鉢形土器があり、第29図1の位置付けから、第28図1は後期中葉頃に位置付けられる土器と考えられるが、その他の粗製の深鉢形・鉢形土器は特に位置付けできなかった。

## 【縄文土器の位置付け】

今回の調査で出土した縄文土器は以上のように概観された。全体として縄文時代後期前葉から晩期後葉の土器が見られ、現在宮城県で主として使用されている編年では後期の南境式・宮戸1b式から晩期人洞A式頃に位置付けられる広範な時期の資料と考えることができる。

県内における当該期の土器編年には、主に後期の土器編年をはじめ、後～晩期にかけて類別を求めた資料にも細分化されるなど検討すべき要素があることが知られており、近年の資料増加に伴って該期資料の再検討が行われている。本来であればそれらを踏まえながら分類・位置付けを行うべきものであるが、本資料は小破片が多く、出土状態に良好なものが乏しいため、今回の調査では出土土器の概要を位置付けるのみで、資料提示という形に留めることとした。今後、これらの土器編年の整備や、さらに良好な資料の増加をまって検討していく必要がある。

本資料では、深鉢形・鉢形土器が多く見られるのに対し、壺形土器や注口土器が少数しか見られなかった。また、出土量を特に計測していないが、概ね後期中葉～後葉に位置付けられる土器、晩期前葉～中葉に位置付けられる土器の出土量が多く見られる。さらに検出した遺構と出土資料の内容について、後述の遺構の考察において検討することとしたい。

## 【土製品・石器・石製品の位置付け】

縄文土器の位置付けから土製品・石器・石製品についても、主に縄文時代後期前葉～晩期後葉の資料として位置付けられる。以下、簡単に特徴を概観する。各製品の分類についてはそれぞれの説明を参照していただきたい。

## 土製品

土製品には、土偶を中心として、土玉状土製品、冠状土製品、スタンプ状土製品、耳環、土鏃、袖珍土器、円盤状土製品などが出土している。

土偶には、沈線区画内に縄文施文するもの(第78図16など)、刺突を施すもの(第78図15など)など文様の特徴から後期に位置付けられると考えられるものと、遮光器土偶(第78図1)、X字形土偶(第78図3)、三叉文などを配する土偶(第79図1、2)など晩期前葉～中葉に位置付けられると考えられるものがあるが、小片のものなどは明確でない。土玉状土製品(第79図5)は、文様から晩期中葉頃に位置付けられると考えられる。上冠状土製品(第79図5)は沈線のみで簡素なもので、所属時期は不明である。スタンプ状土製品(第79図7～9)は主に後期に多く出土することが知られており、本遺跡出土資料も同様の時期に位置付けられると考えられる。耳飾・土鏃は文様をもたず所属時期は不明である。袖珍土器・小型土器など(第81図)には、深鉢形、鉢形、壺形土器、角皿形土製品、舌形土器、片口?形土器などがある。これらのうち器形や文様から、7、12は主に後期後葉頃に、3～5、11は主に晩期中葉頃に位置付けられると考えられる。

円盤状土製品(第82図)は数多く出土しており、1のように晩期に属する文様をもつ資料から、43の渦巻文や46の隆帯が施される後期に属すると考えられる資料があるが、大半はまめつや小破片により分類することができなかった。また、36～37のように底部片と考えられるものなども見られた。

## 石器

数多くの資料がみられたが、有葉石鏃の出土が非常に多く、組成にはかなりの片寄りがみられる。出土した剥片石器は破損品が殆どで小片が多く、包含層などからの取り上げ損ねや今回掲載しなかった資料の中に含まれてしまった可能性もあるが、特徴的な点としてあげることができる。石斧、礫石器などについても、破損品が多い。その他、肉眼鑑定のため不備な点もあるが石材には、剥片石器で頁岩質のものがほとんどを占め黒曜石が1点のみとなり、片寄りが見られた。また磨製石器や礫石器では砂岩や安山岩質のものが比較的普遍に見られた。

## 石製品

特徴的な石製品として、装飾品・岩偶・岩版(第14図9、第94図)の出土がある。岩版は、いずれも三叉文やC字文が展開するもので、原河英二氏の集成・分類(原河：2001)によれば、第94図4は沼津貝塚出土の岩版(Ⅲ-1類)に類似し大洞BC式に、第94図5、6は網場遺跡出土の岩版(AbⅣ-2類)に類似して大洞C<sub>1</sub>式に位置付けられる。また、第94図3は文様から晩期初頭～前葉のものと考えられる。

第14図10は、珍しい人面付装飾品と考えられるもので、デイサイト質凝灰岩を石材とし、逆三角形の顔で、腹部にT字文?・浮線槽凹文?状の沈線が見られる。頸部に穿孔が見られることから装飾品としての機能を有していたと考えられる。所属時期は不明である。その他、玉砥石と玉が同一層からの出土となり、興味深い。

## 2. 遺構について

### 【竪穴住居跡】

13棟の竪穴住居跡を検出した。標高18～20m前後で弧状にまとまって分布し、いずれも遺物包含層3層に覆われる形で、地山もしくは遺物包含層4層上面で確認している。

**堆積上の状況** 床面をほぼ直接遺物包含層で覆われるもの(SI-01,06)、自然堆積土の確認されるもの(SI-02,07,08,09,10,11,12,13)、人為堆積土の確認されるもの(SI-05)、堆積土がほとんど確認できないもの(SI-03,04)がある。しかし、自然堆積土と判断されるものほとんどが薄く、上層の遺物包含層によって大きく削平されていると考えられる。

**重複関係** 主に住居跡の関係を整理すると、以下のように5つのグループに分類することができ最大で3時期の変遷を確認することができる。堆積土の状況から、SI-05・06のようにある程度自然堆積が進んだ後に整地して重複するもの、SI-09・10のように自然堆積上に重複するものが認められ、同一場所で継続した住居の建て替えが行われた結果ではなく、どの程度となるか詳細不明だが一定期間の空白があった後、重複関係が築かれたものと考えられる。また、下記の変遷から、a、b、dが谷地形に沿って東西方向、c、eが斜面上部となる南方向への変遷となる。また、SI-01,06は、堆積土の状況などから検出した13棟の住居跡の最終期にほぼ同時に存続した住居跡であり、この二棟の住居跡の利用が終わった後、期間をほとんどおろかず遺物包含層1～3層の形成がはじまったと考えられる。

- |                      |                |                |
|----------------------|----------------|----------------|
| a. SI-02→SI-01       | c. SI-08→SI-07 | e. SI-09→SI-10 |
| b. SI-03→SI-05→SI-06 | d. SI-09→SI-07 |                |

**平面形や規模などの状況** すべての住居跡において北半が失われている状況が確認され、基本的の上層の遺物包含層1～3層によって削平されているものと考えられる。円形を基調とするものが多いが、隅丸方形を基調とするもの(SI-02,08)、楕円形を基調とするもの(SI-07,09,13)がある。残存状況にもよるが長軸で約3～4m以上となり、楕円形を基調とするものは、谷地形に合わせるように東西方向が長軸方向となる。また、前述の重複関係を併せると、a、cにより隅丸方形を基調とするもの→円形・楕円形を基調とするものに変遷すると考えられる。

**壁の状況** 概ね地山面を壁面として外傾して立ちあがるもので、残存状況に良好なものが少なく20～40cmほどとなる。残存状況の比較的良好なSI-05では壁高60cmを計測した。

**床面の状況** 地山面を床面とするものが多いが、SI-05,06,07,08,09,12,13では遺物包含層4層上面や漸移層の分布範囲と重なる部分でその上面を床面としており、SI-05,06,09で部分的にふみ締まりや整地、貼床が見られた。特にSI-06では、SI-05との重複部分でも整地層を確認している。このことから、遺物包含層4層堆積後に住居跡群がつくられたものと考えられる。また、各住居跡の床面は概ね平坦であるが、谷地形の影響を受けているのか東西方向よりも南北方向に傾斜するものとなる。

**炉の状況** 確認できなかったSI-01,03,04,05,10を除き、SI-06で確認した石添え炉とその他は焼土面もしくは赤変する地床炉となる。ほとんどが住居跡中央と推定される部分で検出しており、円形または楕円形を基調とするものである。SI-06の石添え炉で若干の掘り込みが確認され、地床炉となるものは主に平坦な床面上で確認した。また、SI-08では焼土下面に白色粘土層がみられ、SI-07では焼土面の周

囲で貼り床範囲が確認されることから、これらの粘土や貼り床は炉を補強する機能にあった可能性が考えられる。

**柱穴の状況** SI-01,02,03,04,05,12で主に壁柱列が見られ、SI-07,08,09,11,13で柱穴が見られた。壁柱列は、径10cm程度の円形となるもので、ある程度まばらに間隔をおきながら壁面下の床面に並んでおり、柱穴は住居跡中央部の炉と住居跡の壁面の間、もしくは壁面近くに並んでいる。柱穴は、十分な残存状況といえるものは少なくいずれも浅いもので、SI-08では円形の柱穴が等間隔に並ぶ状況を確認した。またSI-11では柱穴が住居跡中央に1基だけ見られた。主に円形を基調とする住居跡には壁柱列が多く見られ、楕円形を基調とする住居跡に柱穴が多く見られる。

**周溝の状況** SI-04,05,13で壁面下に周溝が巡ることを確認した。いずれも部分的なもので浅く、残存状況の良いものはないが、SI-13で見られた地山を山状にして残す溝状の施設は、特徴的といえる。  
**その他・住居跡に附属する施設** SI-06のpit1があるが、どのような性格のものなのかまでは特定できなかった。

**出土遺物** 自然堆積土の確認される住居跡(SI-02,07,08,09,10,11,12,13)とSI-06炉内出土遺物、その他住居跡pit出土遺物が主として住居跡に関連性をもつ遺物と見られるが、床面直上など直接住居跡に伴う良好な資料はなく、ほとんどが堆積土中からの出土で小破片となる。前述の出土遺物の位置付けから、全体として概ね後期中葉～後葉の資料に後期前葉や晩期の資料が混在するような傾向が伺える。また、上層の遺物包含層の状況をふまえる(後述)と、住居跡堆積土中の後期前葉や晩期の資料は上層からの混入の可能性が高いと考えられる。しかし、後期の特定の時期の資料で占められるという状況にはなく重複関係にある住居跡間の資料でも特定の傾向を示す状況にないため、それ以上は区分しえない。こうしたことから、検出した住居跡群の所属時期は、概ね縄文時代後期を中心とするものと大きくとらえておきたい。

**住居跡の状況のまとめ** 遺物包含層4層が堆積した後に、4層南端域を中心に谷地状の地形に沿った形で住居域が形成される。住居跡は一定の空白期間を経ながらも最大3時期の重複関係を築き、結果として13棟の住居跡がつくられている。これらの住居跡がつくられた時代は概ね縄文時代後期を中心とするものと考えられる。尚、重複関係となるものは東西方向もしくは南の斜面上面へと変遷している。住居の形態では隅丸方形を基調とするものから楕円形や円形を基調とするものへと変化する様子が伺える。住居跡中央付近に地床炉が設置されるものが多い。住居の構造には、主として壁柱列が確認されたものと柱穴をもつものがある。床面は地山面を基本とするが、包含層上面や古い住居跡堆積土上面も床面としている。こうした場所に貼床などが部分的に残存する住居跡も見られた。SI-01,06が、本調査で検出した最終期の住居跡として位置付けることができ、この二棟の住居跡の利用が終わった後、期間をほとんどおかず再度遺物包含層の形成(1～3層)がはじまり、各住居跡の北半が削平され失われたものと考えられる。

県内で、該期における住居跡の検出例は田尻町中沢目貝塚や大和町摺杖遺跡などが知られている(菅原：2001)が、類例に乏しく本調査で検出した住居跡群と関連づけることは難しい。近県では、福島県相馬郡飯館村山辺沢遺跡(玉川：1984)に斜面上に重なりあう住居形態の類例が認められ好例となる。

また、金子昭彦氏によって、該期の住居跡検出の難しさと時期同定の困難さが指摘(金子：2001)されており、木調査で検出した住居跡も同様の状況であることが伺える。また、包含層分布域の東側などは緩斜面の良好な丘陵地となるのにも関わらず、遺構の存在がまったく確認されないことも大きな特徴としてあげられる。今後、良好な検出例をまっけて検討していく必要がある。

#### **【土壌・ビット・その他の遺構】**

大きく、遺物包含層3層下や竪穴住居跡で検出した土壌・ビット・SX-01・SX-02と、遺物包含層中で検出した石囲炉・SK-26、その他のSX-01に分けられるが、残存状況に良好なものが多くなく、分布などにもまばらで不明な点が多く、内容・性格など十分な検討を加えることは難しい。

遺物包含層3層下での遺構出土遺物については、出土遺物が細片であるが、調査2区の遺物包含層4層下で検出したビット出土遺物(第37図11～21)に後期前半と考えられる資料が多く含まれる状況にあり、SK-12の堆積土中で後期中葉に位置付けられる土器(第29図1)が一括して出土している。包含層4層上面や住居跡付近で確認された土壌・ビット出土遺物では、住居跡出土遺物と同じような内容となる。

遺物包含層中で検出した遺構やSX-01については、竪穴住居跡や遺物包含層3層下での遺構よりも、層序の関係から新しく、遺物包含層1～3層の形成過程でも包含層内で何らかの活動があったことが伺えるが、出土遺物が細片で、遺構上下間の遺物包含層の状況を見ると不明な点が多く、十分な確認ができなかった。

#### **【遺物包含層】**

大別して4層の遺物包含層が確認された。各層の出土遺物と前述の土器の位置付けの内容を照らし合わせてみると、暗・黒褐色～黒色シルトで構成される遺物包含層1～3層では、各層で確認された総べての時期の土器が出土しており、各層間でも資料の新旧関係や特定の傾向を比較・検討することは難しいと考えられる(ただ後期中葉～後葉、晩期前葉～中葉の資料が主に多く出土する傾向に伺える)。竪穴住居跡群の下面となり黒色砂質シルトで構成される遺物包含層4層では、後期の資料が大半となり晩期の資料が混入した状況に伺える(ただ後期の特定の時期の資料で占められる状況にはない)。また、出土遺物は3層で接合関係がみられる資料が若干多いものの、小片がほとんどで層内にまばらに散布する状況にあり、特定の遺物が廃棄されたような出土状態が見られなく、層内に礫を含むことが多い。こうしたことから各層とも基本的に二次堆積により形成された包含層と考えられる。しかし、層中には石囲炉のような遺構も見られ、どのような経過・状況により二次堆積が生じたのかなどについては、不明瞭な点も残る。

以上から、遺物包含層は、縄文時代後期～晩期の遺物を含んで二次堆積した遺物包含層1～3層と、後期の遺物を中心に二次堆積した遺物包含層4層の大きく2つに区分できると考えられる。

遺物包含層内の焼上については、二次堆積と考えられる包含層中にありながら、不整な円形や楕円形に比較的まとまって検出されるものであるが、石囲炉のような遺構としての確認にまで至らず、出土遺物も特定の遺物が占めるものでもないため十分な検討を加えることは難しい。

#### **【検出遺構の変遷】**

前述までの検討をまとめると、主に今回の調査区域西半の谷地状となる斜面で、主に縄文時代後期に捨て場(遺物包含層4層)がつくられ、二次堆積により堆積した後、その南端域の斜面に居住域が形

成され、重複しながら計13棟の竪穴住居跡がつくられた。(住居跡北側で検出したピットや土壘もこの頃と思われるが不明な点が多い。)住居域としての利用が終わると、ほとんど期間をおかず再度捨て場となり遺物包含層1～3層の形成が始まる。この包含層1～3層は、主に縄文時代後期～晩期に二次堆積して形成されたもので、かつ下面の住居跡北半を削平して形成している。(住居跡堆積土出土遺物や包含層4層出土遺物にみられる晩期の資料はこの際に混入した可能性を考えたい。また、包含層間に見られる石囲い炉などから、包含層1～3層が形成される中でも周囲で人々の何らかの活動があったことが伺える。)というように本調査で検出した遺構の変遷が大きくとらえられる。しかし、二次堆積が生じた状況をはじめ、遺物包含層を形成した集落の存在など、不明な部分も多く残り、遺跡の十分な位置付けができるような認識に至ることができなかった。今後、隣接区域の調査などによって、さらに検討していくことが望まれる。

## 第7章 まとめ

ツナギの沢貝塚は、宮城県遠田郡涌谷町小里字大平に所在し、涌谷町は宮城県北部にある遠田郡に位置する。遺跡は、東西に連なる鳶岳丘陵北斜面の麓で標高約16～23mの谷地状となる地形部分に立地している。遺跡の北側には旧鹿飼沼が広がり、旧鹿飼沼の北側で東西に連なる長根丘陵上には国史跡長根貝塚が立地し、本遺跡近隣にも縄文時代の遺跡が多く立地する。現在、鹿飼沼のあった地帯は美田が広がり、丘陵部は山林となっている。

- 1 調査の結果、竪穴住居跡13棟、土壘26基、多数のピット、石囲い、その他性格不明遺構・遺物包含層1ヶ所を検出した。
- 2 検出した竪穴住居跡などの遺構は、主に遺物包含層分布区域内にのみ立地しており、残存状況が良好とは言えないが、遺構が立地する環境を考えると貴重な事例といえる。また、今回調査した区域の北側をはじめ隣接区域にも遺跡が広がる可能性が高いと考えられる。
- 3 遺物には縄文土器をはじめとして、土製品、石製品などがあり、多量で豊富な内容をもつもので、石製人面付装飾品や岩版など希少な資料がある。時期は縄文時代後期～晩期に属する資料と考えられる。
- 4 今回の調査によって、近隣に在する同時期の遺跡群との関連や集落の内容を考える上で、貴重な手がかりを得ることができた。

参考・引用文献

- 相原淳一ほか 2001 『第1回研究会 発表要旨 縄文時代集落研究の現段階』縄文時代文化研究会
- 安孫子昭二 1994 『磨石土器(新地式)』『縄文文化の研究4 縄文土器Ⅱ』雄山閣出版株式会社 PP.143-156
- 阿部博志ほか 1994 『櫻萩遺跡』宮城県文化財調査報告書第132集
- 阿部博志・藤沼邦彦ほか 1996 『上例シンポジウム5 宮城大会 東北・北海道の上例Ⅱ-亀ヶ岡文化の土偶- シンポジウム 発表要旨』土偶とその情報研究会
- 阿部博志・須田良平 1997 『浜浜貝塚x -宮城県鳴瀬町宮戸島浜貝塚風越地点の調査-』東北歴史資料館資料集43
- 伊東信雄 1969 『埋蔵文化財緊急発掘調査概報 一長根貝塚-』宮城県文化財調査報告書第19集
- 岩手県立博物館 1995 『縄文発信 -じょうもん発信展』関連事業報告-『岩手県立博物館調査研究報告書第11冊』
- 小川淳一・高橋綾子 2000 『仙台市王ノ塚遺跡 -都市計画道路「川内・輝生線」関連遺跡-発掘調査報告書Ⅰ』仙台市文化財調査報告書第249集
- 小野寺祥一郎 1980 『金取遺跡』宮城県文化財調査報告書第70集
- 加藤進男 1984 『二塚遺跡』『東北自動車道遺跡調査報告書IX』宮城県文化財調査報告書第99集
- 金子昭彦 2001 『亀ヶ岡文化の住居構造』『日本考古学協会2001年度盛岡大会研究発表資料集 亀ヶ岡文化-集落とその実態-晩期遺構集Ⅰ(研究発表要旨・青森県・岩手県)』日本考古学協会2001年度盛岡大会実行委員会 PP.67-72
- 木村純一 1977 『小里物語』
- 興野義一 1958 『迫川流域の石器時代文化』『仙台郷土研究 18-3』 pp.20-30
- 興野義一 1959 『江合川流域の石器時代文化』『仙台郷土研究 19-3』 pp.7-23
- 興野義一 1984 『宮城県北部「藤沼」周辺の弥生式遺跡について』『契 第5号』弥生時代研究会 pp.40-45
- 小井川和夫 1980 『金剛寺貝塚』『金剛寺貝塚・宇賀崎貝塚・宇賀崎一号墳他』宮城県文化財調査報告書第67集
- 後藤静彦 1974 『縄文後期宮戸Ⅰb式周辺の吟味 -南境貝塚出土の土器をもととして』『東北の考古・歴史論集』平重道先生還暦記念会編 pp.79-110
- 斎藤良治 1968 『陸前地方縄文文化後期後半の上層編年について -宮戸台團貝塚及び西ノ浜貝塚出土の土器を中心として-』『仙台湾周辺の考古学的研究』宮城教育大学歴史研究会編 pp.54-67
- 佐藤 洋 1987 『六反田遺跡Ⅱ 名取川下流域の縄文時代後期・律令時代集落跡』仙台市文化財調査報告書第102集
- 志間泰治・桑月群 1991 『貫ヶ峯』財団法人斎藤静恵会
- 菅原弘樹ほか 2001 『亀ヶ岡文化の住居構造』『日本考古学協会2001年度盛岡大会研究発表資料集 亀ヶ岡文化-集落とその実態-晩期遺構集Ⅰ(研究発表要旨・青森県・岩手県)』日本考古学協会2001年度盛岡大会実行委員会 PP90-137
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣出版株式会社
- 須藤 隆 1984 『中沢貝塚 -縄文時代晩期貝塚の研究-』東北大学文学部考古学研究会
- 須藤 隆・関根進人 1996 『亀ヶ岡式土器成立過程の研究』『考古学の方法 第1号』東北大学文学部考古学研究会会報 pp.18-21
- 須藤隆・富岡直人 1999 『特論 仙台湾における貝塚の研究』『仙台市史 通史編Ⅰ 原始』 pp.418-433
- 関根進人 2002 『沢Ⅰ貝塚出土晩期縄文土器の再検討』『宮城考古学 第4号』 pp.1-27
- 玉川 一郎 1984 『山辺沢 -福島県飯館村における縄文時代後・晩期集落跡の調査-』飯館村文化財調査報告書第5集

- 手塚 均ほか 1986 『田嶋貝塚 I・II』宮城県文化財調査報告書第111集
- 東北学院大学考古学研究所 1987 『寛岳丘陵考古分布調査』
- 東北歴史資料館 1996 『東北地方の土偶』
- 原河英二 2001 「東北地方における岩版・土版に関する一試案」『仙台市富沢遺跡保存館研究報告4』 PP.63-96
- 林 謙作 1984 「宮城県下の縄文期貝塚群」『宮城の研究 第1巻 考古学篇』pp.110-172
- 福山宗志 1998 「ツナギの沢貝塚 -平成9年度県道河南築館線道路改良工事に伴う調査概報-」涌谷町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 福山宗志 2002 「第Ⅱ章地理的環境と歴史的環境」『涌谷町内の古建築調査 -涌谷の侍住宅と周辺の民家-』涌谷町文化財調査報告書第5集
- 藤沼邦彦ほか 1986 『亙理町畑中貝塚 -黒森沢砂防流路工事関連調査報告書-』宮城県文化財調査報告書第115集
- 藤沼邦彦・小井川和夫 1989 『宮城県の貝塚』東北歴史資料館資料集25
- 網 要照 1968 「陸前宮戸島に於ける縄文後期末遺物の研究 -台閣出土の土器についての一考察-」『仙台湾周辺の考古学的研究』宮城教育大学歴史研究会編 pp.68-82
- 松本秀明 1984 「沖積平野の形成過程からみた過去一万年間の海岸線変化」『宮城の研究 第1巻 考古学篇』pp.8-52
- 松本秀明 1998 「宮城県の沖積平野の形成過程」『考古学の方法 第2号』東北大学文学部考古学研究会会報 pp.16-18
- 松本秀明 1999 「第二章 縄文時代 第一節 - 海岸線と地形の変化」『仙台市史 通史編1 原始』pp.116-122
- 宮城県 1954 「遼田郡小甲村風上記御用書出」『宮城県史25(資料篇3)』 pp.772-778
- 宮城県企画部土地対策課 1989 「土地分類基本調査 涌谷」
- 宮城県女川町教育委員会 1993 『尾田峠貝塚発掘調査報告書』女川町文化財調査報告書第1集
- 古岡恭平ほか 1996 「下ノ内浦・山口遺跡 -仙台市高速度関係遺跡調査報告書V-」仙台市文化財調査報告書第207集
- 涌谷町 1965 「涌谷町史 上」
- 渡部 紀 1995 『伊古田遺跡 -仙台市高速度関係遺跡調査報告書Ⅲ-』仙台市文化財調査報告書第193集

遺物包含層 出土遺物類表 (土器1)

層位番号	層位	器種	口徑	底径	高さ	外面	内面	備考	写真図録
44-1	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	粘土地胎付	土器中		
44-2	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.2)	夾灰・刷灰	土器中		
44-3	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	粘土胎、帯の粘り付付・LR	土器		55-2
44-4	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	土器中	土器中		
44-5	1C	深鉢・鉢	-	-	(△6.8)	粘土地胎付土器	土器		55-3
44-6	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	粘土地胎付土器、沈積区画、RL?	土器中		
44-7	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	粘土地胎付土器、沈積区画、RL	土器中		
44-8	1B	深鉢・鉢	-	-	(△3.3)	粘土地胎付土器	土器中		
44-9	1B	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	粘土地胎付土器、沈積区画、RL	土器中		
44-10	1A	深鉢・鉢	-	-	(△3.8)	粘土地胎付、刷灰、黄緑?	土器		
44-11	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.7)	沈積区画内RL	土器中		
44-12	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	平行沈積区画、羽状織文 (LR・RL)	土器中		
44-13	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	平行沈積区画、RL	土器中		
44-14	1D	深鉢・鉢	-	-	(△12.0)	平行沈積区画、羽状織文 (LR・RL、縦方向)	土器中		55-4
44-15	1D	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	沈積区画内RL	土器中		
44-16	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	沈積区画内RL	土器中		
44-17	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	沈積区画内RL	土器中		
44-18	1C	深鉢・鉢	-	-	(△7.8)	旋輪半行交織、RL	土器中		55-5
44-19	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	旋輪半行交織?・LR	土器中		
44-20	1D	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	旋輪半行交織?・LR	土器中		
44-21	1D	深鉢・鉢	-	-	(△4.2)	旋輪半行交織?・RL?	土器中		
44-22	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.4)	旋輪半行交織?・RL?	土器中		
44-23	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	RL→沈積区画	土器中		
44-24	1A	深鉢・鉢	-	-	(△8.0)	沈積区画、RL3r	土器中		
44-25	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	平行沈積区画内、磨面羽状織文 (LR、RL) 縦重	土器中		
44-26	1E	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	平行沈積区画、LR	土器中		
44-27	1C	深鉢・鉢	-	-	(△6.6)	平行沈積区画、RL	土器中		
44-28	1E	深鉢・鉢	-	-	(△3.5)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中		
44-29	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中		
44-30	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中		
44-31	1C	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中		
44-32	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中		
44-33	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中		
44-34	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中		
44-35	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	赤い土器中		
44-36	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	口縁部沈積区画内部分品、土器中	土器中?		
44-37	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	口縁部沈積区画内竹葉状紋、土器中	土器中		
44-38	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	口縁部沈積区画内部分品、磨面羽状織文 (LR・RL)	土器中		55-6
44-39	1E	深鉢・鉢	-	-	(△4.4)	口縁部沈積区画内部分品、RL	土器中		
44-40	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.2)	口縁部沈積区画内部分品、刷、沈積	土器中		
45-1	1D	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	平行沈積区画上粘土地胎付	土器中		
45-2	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	沈積 (2番1層) 上粘土地胎付	土器中	群孔	
45-3	1C	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	沈積上、粘土地胎付	土器中		
45-4	1C	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	平行沈積区画上粘土地胎付	土器中		
45-5	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.4)	平行沈積 (3番1層) 上粘土地胎付	土器中		
45-6	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	沈積区画内羽状織文 (LR、RL) 縦重	土器中		
45-7	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	入層等状文? 内充層羽状織文 (LR、RL)	土器中		群孔
45-8	1E	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	山形突起、沈積区画内充層RL	土器中		
45-9	1E	深鉢・鉢	-	-	(△6.6)	山形突起、入層等状文内充層RL	土器中		55-7
45-10	1B	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	山形突起、沈積区画内充層RL	土器中		
45-11	1B	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	山形突起、沈積区画内充層RL	土器中		
45-12	1A	深鉢・鉢	-	-	(△11.7)	山形突起、平行沈積・横内文 (入層等状文?) 内充	土器中		
45-13	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	山形突起 (二分)、沈積区画内充層RL	赤い土器中		55-8
45-14	1C	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	山形突起 (二分)、沈積区画内羽状織文 (LR、RL)	土器中		
45-15	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	山形突起 (二分)、沈積区画内羽状織文 (LR、RL) 縦重	土器中		
45-16	1E	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	山形突起 (二分)、沈積区画内充層RL	土器		
45-17	1E	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	山形突起 (二分)、沈積区画内充層RL	土器		
45-18	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	山形突起、平行沈積区画内	土器中		
45-19	1D	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	山形突起、平行沈積	土器中		
45-20	1A	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	山形突起、平行沈積、LR?	土器?		
45-21	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	山形突起、沈積区画内部分品	土器?		
45-22	1A	深鉢・鉢	-	-	(△3.7)	山形突起、平行沈積区画内	土器中		
45-23	1B	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	突起、三叉状沈積	三叉状沈積、土器中		
45-24	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	山形突起、三叉状沈積、平行沈積区画内RL	三叉状沈積、黒砂土		55-9
45-25	1E	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	山形突起、三叉状沈積、平行沈積区画内RL	三叉状沈積、土器中		
45-26	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	平行沈積区画内、入層等状文?	土器中?		55-10
45-27	1E	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	磨面?の半等状文、平行沈積区画、LR	土器中		
45-28	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	右下隅縁部充文、磨面?の半等状文、平行沈積区画、RL	土器中?		

遺物発見書 出土遺物類表 (土器 2)

図番番号	部位	形状	口径	底径	器高	外周	内容	備考	写真図版
45-29	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	右下縁縁線点状文、半線状文	土片		
45-30	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	突起部右下縁縁線点状文、裏縁半線状文、平行文線区画、RL	土片		
45-31	1E	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	縁線の半線状文、平行文線区画、LR	土片		
45-32	1B	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	縁線の半線状文、平行文線区画、LR	土片		
45-33	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	突起部右下縁縁線点状文、裏縁半線状文、平行文線区画、LR	土片		
45-34	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	突起部右下縁縁線点状文、裏縁半線状文、平行文線区画、RL	土片		55-11
45-35	1C	深鉢・鉢	-	-	(△3.0)	突起部右下縁縁線点状文、裏縁半線状文、平行文線区画、RL	土片		
45-36	1A	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	突起部右下縁縁線点状文、裏縁半線状文、平行文線区画、RL	土片		
46-1	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.8)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-2	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-3	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、LR	土片		
46-4	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-5	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、LR	土片		
46-6	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-7	1A	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-8	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-9	1B	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-10	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.2)	平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-11	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.2)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、LR	土片		
46-12	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、LR	土片		
46-13	1B	深鉢・鉢	-	-	(△7.1)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		55-12
46-14	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	平行文線区画帯形部、LR	土片		
46-15	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-16	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-17	1B	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、LR	土片		
46-18	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-19	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-20	1D	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-21	1E	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-22	1E	深鉢・鉢	-	-	(△6.7)	平行文線区画帯形部、LR	土片		
46-23	1E	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-24	1C	深鉢・鉢	-	-	(△7.7)	平行文線区画帯形部、RL	土片		
46-25	1E	深鉢・鉢	-	-	(△7.3)	突起部、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-26	1B	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	突起部、平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		55-13
46-27	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	平行文線区画帯形部、羽状線文(LR・RL)	土片		55-14
46-28	1C	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画、RL	土片		
46-29	1C	深鉢・鉢	-	-	(△7.2)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画、羽状線文(LR・RL)	土片		
46-30	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画、RL	赤い土片		
46-31	1B	深鉢・鉢	-	-	(△6.5)	突起部右下縁縁線点状文、平行文線区画、RL	土片		55-15
46-32	1E	深鉢・鉢	-	-	(△7.9)	平行文線区画、羽状線文(LR・RL)	土片		
47-1	1A	深鉢・鉢	-	-	(△11.3)	羽状線文(LR・RL)	土片		55-16
47-2	1E	深鉢・鉢	29.2	-	△12.0	平行文線、羽状線文(LR・RL)	土片、赤い土片		
47-3	1D	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	平行文線、RL	土片		55-17
47-4	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	平行文線、RL	土片		
47-5	1E	深鉢・鉢	-	-	(△8.0)	平行文線、羽状線文(LR・RL)	土片		
47-6	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.2)	平行文線、RL	土片		
47-7	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.2)	平行文線、RL	土片		
47-8	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	平行文線、LR	土片		
47-9	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.6)	平行文線、RL	土片		
47-10	1A	浅鉢・皿	-	-	(△6.0)	縁状線文、網目?	土片、土片?		
47-11	1E	浅鉢・皿	-	-	(△5.7)	縁状線文、網目、羽状線文(LR・RL)	土片		
47-12	1E	浅鉢・皿	-	-	(△2.9)	縁状線区内実、RL	土片		55-18
47-13	1C	浅鉢・皿	-	-	(△4.7)	縁状線文、RL?	土片		
47-14	1A	浅鉢・皿	-	-	(△5.9)	縁状線平行文線、LR	土片		
47-15	1A	浅鉢・皿	-	-	(△5.1)	小山形突起、平行文線、土片	土片、土片?		
47-16	1A	浅鉢・皿	-	-	(△4.2)	小山形突起、平行文線区内実、LR	土片		
47-17	1B	浅鉢・皿	-	-	(△4.6)	浅線区画内、半線竹管状縁線状文、LR	土片		
47-18	1E	浅鉢・皿	-	-	(△3.2)	粘土貼付、粘土貼付内実、LR	土片		
47-19	1C	浅鉢・皿	-	-	(△4.3)	人型線状文?	土片		
47-20	1C	浅鉢・皿	21.0	-	△3.4	五稜三叉文、平行文線	土片		55-20
47-21	1C	浅鉢・皿	-	-	(△3.8)	五稜三叉文、平行文線	土片		
47-22	1A	浅鉢・皿	-	-	(△3.8)	厚肉片型半線縁状線で縁線、RL	土片		55-21
47-23	1C	浅鉢・皿	-	-	(△5.6)	五稜三叉文、粘土貼付上実	土片		55-22
47-24	1E	浅鉢・皿	-	-	(△2.2)	五稜三叉文、半線状文	土片		
47-25	1D	浅鉢・皿	-	-	(△3.5)	半線状文、LR	土片		
47-26	1D	浅鉢・皿	-	-	(△3.3)	半線状文?	土片		
47-27	1D	浅鉢・皿	-	-	(△3.6)	五稜三叉文?	土片		
47-28	1A	浅鉢・皿	-	-	(△7.3)	浅線区画内、竹管状工具による削痕	土片		

遺物包含層 出土遺物観察表 (土器3)

図録番号	層位	器種	口径	底径	器高	外径	内面	備考	写真図版
48-1	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△6.1)	平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文 (LR)	土器片		
48-2	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△5.2)	平行洗鉢類鉢身, 蓋形文 (LR)	土器片		炭化物付着
48-3	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△4.4)	平行洗鉢類鉢身, 蓋形文 (LR)	土器片		
48-4	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△3.9)	平行洗鉢類鉢身, 蓋形文 (LR)	土器片		
48-5	1C	洗鉢・蓋	-	-	(△4.5)	平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文 (LR)	土器片		
48-6	1E	洗鉢・蓋	-	-	(△4.9)	平行洗鉢, 蓋形文 (LR)	ナブ?		
48-7	1D	洗鉢・蓋	-	-	(△3.7)	工字状洗鉢, 粘土粒點付, 横内文? 蓋洗鉢蓋文LR	土器片		
48-8	1E	洗鉢・蓋	-	-	(△9.0)	平行洗鉢, 平行洗鉢蓋文, 洗鉢LR	土器片		55-23
48-9	1C	洗鉢・蓋	-	-	(△5.4)	平行洗鉢蓋文, LR	土器片		55-24
48-10	1D	洗鉢・蓋	-	-	(△5.7)	平行洗鉢蓋文, LR	土器片		
48-11	1C	洗鉢・蓋	-	-	(△8.2)	半角形の古蓋形文, LR	土器片		
48-12	1D	洗鉢・蓋	22.7	15.0	3.7	半角形の古蓋形文, 洗鉢LR	土器片		
48-13	1A	洗鉢・蓋	17.6	5.4	4.4	唇縁, 蓋形文, LR	土器片		55-25
48-14	1B	洗鉢・蓋	-	-	(△4.7)	唇縁, 蓋形文, LR	土器片		
48-15	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△4.1)	平行洗鉢類鉢身, 半角形の古蓋形文?, LR	土器片		
48-16	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△5.7)	唇縁, 半角形の古蓋形文, 洗鉢LR	土器片		
48-17	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△3.6)	半角形の古蓋形文, 洗鉢LR	土器片		
48-18	1B	洗鉢・蓋	-	-	(△5.4)	唇縁, 半角形の古蓋形文, 洗鉢LR	土器片		
48-19	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△5.9)	唇縁, 半角形の古蓋形文, 洗鉢LR	土器片, 粘土粒點付上類土器片		
48-20	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△5.3)	唇縁, 半角形の古蓋形文, 半角形の古蓋形文, 洗鉢LR	土器片		
49-1	1A	洗鉢・蓋	31.2	16.4	6.8	唇縁, 半角形の古蓋形文, 洗鉢LR	土器片		55-26
49-2	1C	洗鉢・蓋	22.0	-	△7.1	平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文, RL	平行洗鉢類鉢身, 土器片		破損部研砕孔
49-3	1C	洗鉢・蓋	-	-	(△6.4)	平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文, 唇縁文 (LR, RL)	平行洗鉢類鉢身, 土器片		
49-4	1B	洗鉢・蓋	-	-	(△6.3)	平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文, 唇縁文 (LR, RL)	平行洗鉢類鉢身, 土器片		
49-5	1C	洗鉢・蓋	-	-	(△3.2)	平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文, LR	平行洗鉢類鉢身, 土器片		
49-6	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△3.3)	平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文, RL	平行洗鉢類鉢身, 土器片		
49-7	1A	洗鉢・蓋	-	-	(△4.4)	唇縁?, 平行洗鉢類鉢身, 平行洗鉢蓋文, 蓋形文? RL	口縁部鉢身, 土器片		
49-8	1C	洗鉢・蓋	-	-	(△5.5)	平行洗鉢蓋文, LR	土器片		
49-9	1E	洗鉢・蓋	-	-	(△6.8)	三叉状唇縁, 工字状文 (蓋形工字文?)	口縁内洗鉢, 土器片		55-28
50-1	1E	蓋	6.2	-	△4.2	口縁部洗鉢・鉢身, 土器片	土器片		55-29
50-2	1A	蓋	6.0	-	△3.7	RL	土器片		
50-3	1A	蓋	-	-	(△5.5)	唇一削部洗鉢蓋文, LR	土器片		
50-4	1C	蓋	-	-	(△5.2)	唇一削部洗鉢蓋文, RL	土器片		
50-5	1D	蓋	-	-	(△5.4)	唇一削部洗鉢蓋文, RL	土器片		
50-6	1A	蓋	-	-	(△7.5)	唇一削部洗鉢蓋文, 唇縁文 (LR, RL)	片名い土器片		
50-7	1A	蓋	-	-	(△4.8)	LR	土器片		
50-8	1E	蓋	11.8	-	△5.7	唇一削部洗鉢蓋文, RL	土器片		
50-9	1E	蓋	5.4	-	△6.5	唇一削部洗鉢蓋文, LR	土器片		55-30
50-10	1A	注口	-	-	(△2.5)	平行洗鉢区蓋内口	土器片		
50-11	1A	注口	-	-	(△3.3)	平行洗鉢	不明		
50-12	1E	注口	-	-	(△2.9)	唇縁状洗鉢	ナブ		
50-13	1A	-	-	-	(△5.3)	平行洗鉢, LR	土器片		
50-14	1C	-	-	-	(△3.7)	五文文, 蓋縁文	土器片		55-31
51-1	1A	深鉢・鉢	-	-	(△10.2)	唇状縁文 (LR, RL) 縁末?	土器片		
51-2	1A	深鉢・鉢	-	-	(△10.9)	唇状縁文 (LR, RL)	ハケム縁かきい土器片		
51-3	1D	深鉢・鉢	-	-	(△17.5)	唇状縁文 (LR, RL)	土器片		
51-4	1C	深鉢・鉢	-	-	(△8.4)	唇状縁文 (LR, RL)	土器片		
51-5	1A	深鉢・鉢	-	-	(△8.1)	唇状縁文 (LR, RL)	土器片		
51-6	1E	深鉢・鉢	-	-	(△6.4)	唇状縁文 (LR, RL) による蓋形文	土器片		穿孔
51-7	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.1)	LR??	土器片		
51-8	1A	深鉢・鉢	-	-	(△10.1)	LR?L?	土器片		
51-9	1A	深鉢・鉢	-	-	(△8.2)	LR	土器片		
51-10	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.6)	RL	土器片		
51-11	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.8)	RL?	土器片		
51-12	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	RL?	土器片?		穿孔
51-13	1A	深鉢・鉢	-	-	(△6.4)	RL	土器片		
51-14	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	LR	土器片		
51-15	1A	深鉢・鉢	-	-	(△7.2)	LR?	土器片		
51-16	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	土器片	土器片		
51-17	1A	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	土器片	土器片		穿孔
51-18	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	ナブ	ナブ		
51-19	1C	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	唇縁状洗鉢 (4年1編)	土器片		
51-20	1E	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	唇縁状洗鉢 (8年1編)	ナブ		
51-21	1E	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	唇縁状洗鉢 (10年1編)	土器片		
51-22	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	LR	土器片		
51-23	1A	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	土器片?	蓋口?		
51-24	1D	洗鉢	(16.9)	3.4	10.0	唇状縁文 (LR, RL), 下唇縁付	土器片		56-1

建築物含壁 出土遺物観察表 (土組4)

調査番号	層位	遺物	口徑	底径	高さ	外周	内周	備考	写真画像
53-1	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	粘土粘付、褐色粘土粘付上刺突	土片		56-2
53-2	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.2)	粘土粘付	土片		
53-3	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△3.7)	粘土粘付、丸?	土片		
53-4	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	平行沈積土に穿孔2ヶ所(直径3mm)	土片		
53-5	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	突起?、粘土粘、磁器付上刺突	ナブ、粘土粘付上刺突		
53-6	2E	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	粘土粘付付後突起、溝巻文	ナブ		
53-7	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	磁器、面状溝巻、突起、刺突、穿孔	横い土片		
53-8	2D	深鉢・鉢	-	-	(△9.7)	把手状突起、沈積、刺突、穿孔	ナブ		56-3
53-9	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.2)	粘土粘付付後突起、丸?	土片		
53-10	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	粘土粘付上刺突、沈積区画、丸	土片		
53-11	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	粘土粘付上刺突、平行沈積	土片		
53-12	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	粘土粘付上刺突、丸	ナブ		
53-13	2B	深鉢・鉢	-	-	(△1.7)	磁器沈積、刺突、丸?	土片		
53-14	2C	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	粘土粘付付後突起、沈積区画、丸	ナブ		
53-15	2B	深鉢・鉢	-	-	(△10.4)	粘土粘付付、磁器沈積刺突、丸	土片		56-4
53-16	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	磁器、斜行沈積(2巻1巻)	土片		
53-17	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	磁器沈積、粗丸	土片		
53-18	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	溝巻や沈積文	ナブ→土片		溝状口縁
53-19	2E	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	沈積区画(磁器沈積文?)内突起	土片		
53-20	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	沈積区画内突起	土片		
53-21	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	磁器文(丸、丸)→平行沈積刺突	不明		
53-22	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	沈積区画内丸	土片		
53-23	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	平行沈積区画内丸	土片		
53-24	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△7.9)	丸→沈積区画内土片	土片		
53-25	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	平行沈積区画内突起付沈積文(丸、丸)	土片		
53-26	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△7.9)	沈積区画内突起付沈積文(丸、丸)	土片		
53-27	2D	深鉢・鉢	-	-	(△7.7)	山形突起(二分)、平行沈積区画内丸、丸	土片		穿孔
53-28	2C	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	沈積区画、丸	土片		
53-29	2D	深鉢・鉢	-	-	(△10.5)	人形突起、溝巻付沈積文(丸、丸)磁器	土片		56-6
53-30	2D	深鉢・鉢	25.6	-	(△14.0)	LR→平行沈積→磁器、磁器付沈積文で磁器平行沈積を形成	土片		56-7
54-1	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	土片	土片		
54-2	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△8.7)	磁器沈積区画内突起	土片		
54-3	2D	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	磁器沈積区画内突起	土片		56-5
54-4	2D	深鉢・鉢	-	-	(△7.8)	磁器沈積区画内突起	土片		
54-5	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△7.2)	突起、磁器沈積区画内突起	土片		
54-6	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	磁器沈積区画内丸→平行沈積(2巻1巻)	土片		
54-7	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	磁器平行沈積刺突、土片	土片		
54-8	2D	深鉢・鉢	-	-	(△14.5)	磁器沈積区画内部分、磁器平行沈積区画内丸、部分	土片		56-9
54-9	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△7.9)	磁器沈積区画内部分、土片	土片		56-8
54-10	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	磁器沈積区画内部分、土片	土片		
54-11	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△3.7)	磁器沈積区画内部分、土片	土片		
54-12	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	磁器沈積区画内部分、土片	土片		
54-13	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△7.5)	磁器沈積区画内部分、土片	横い土片		
54-14	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	磁器沈積区画内部分、土片	不明		
54-15	2E	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	磁器沈積区画内部分、沈積区画内丸	土片		
54-16	2E	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	磁器沈積区画内部分、沈積区画内丸	土片		
54-17	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	磁器沈積区画内部分、沈積区画内丸、丸	不明		
54-18	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	磁器沈積区画内部分	土片		
54-19	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	磁器沈積区画内部分、磁器文(丸、丸)	土片		
54-20	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	平行沈積刺突、磁器付沈積文(丸、丸)	土片		
54-21	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.2)	平行沈積(3巻1巻)、粘土粘付	土片		
54-22	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	平行沈積、粘土粘付	土片		
54-23	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	平行沈積、粘土粘付	土片		
54-24	2D	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	平行沈積(3巻1巻)、粘土粘付	土片		56-10
54-25	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	平行沈積、粘土粘付	土片		
54-26	2E	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	沈積区画内突起、粘土粘付	土片		
54-27	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	人形突起文? (丸)、粘土粘付	横い土片		
54-28	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△4.4)	磁器沈積文? (丸)、粘土粘付付	土片		
54-29	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	人形突起文? (丸)、粘土粘付	土片		
54-30	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	沈積区画内丸、粘土粘付	土片		
54-31	2D	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	沈積区画内丸、粘土粘付上刺突	土片		
54-32	2D	深鉢・鉢	-	-	(△7.9)	人形突起文(丸)、粘土粘付	土片		
54-33	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	人形突起文(丸)、粘土粘付上刺突	土片		56-11
55-1	2A3	深鉢・鉢	-	-	(△7.9)	山形突起、沈積区画内丸、粘土粘付	土片		口縁突起
55-2	2B	深鉢・鉢	-	-	(△3.8)	山形突起(外周磁器付)、平行沈積区画内丸	土片		
55-3	2D	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	山形突起、刺突文、斜行沈積	土片		
55-4	2D	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	山形突起、沈積区画内突起	土片		
55-5	2D	深鉢・鉢	-	-	(△6.9)	山形口縁、沈積区画内丸、竹製工具による刻痕(下→)	土片		56-12

進物包含書 出土遺物類表 (土器 5)

編號	種別	口徑	底徑	體高	外高	内高	備考	写真位置
55-6	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	山形口鉢。沈埋区画内跡小呂		
55-7	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	山形突起 (二分)。平行沈埋。粘土製胎付		
55-8	2D	深鉢・鉢	-	-	(△6.8)	山形突起 (二分)。沈埋区画内L。粘土製胎付		
55-9	2E	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	山形突起 (二分)。沈埋区画内L。粘土製胎付		
55-10	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	山形突起 (二分)。入埋草状文 (L/R)。粘土製胎付		
55-11	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	山形突起 (二分)。平行沈埋 (3高1継)。粘土製胎付		
55-12	2C	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	山形突起 (二分)。入埋草状文 (L/R)		
55-13	2D	深鉢・鉢	-	-	(△10.5)	山形突起 (二分)。入埋草状文 (L/R)		
55-14	2D	深鉢・鉢	-	-	(△11.2)	山形突起 (二分)。入埋草状文 (L/R)		
55-15	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	山形突起 (二分)。沈埋区画内L		56-13
55-16	2B	深鉢・鉢	-	-	(△8.6)	山形突起 (二分)。沈埋区画 (焼付文?) 内L		56-14
55-17	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	山形突起 (二分)。入埋草状文 (L/R)		56-15
55-18	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	山形突起 (二分)。沈埋区画内L		
55-19	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	山形突起 (二分)。平行沈埋区画内L		
55-20	2E	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	山形突起。突縁深鉢粘土胎付。沈埋区画内L		56-20
55-21	2B	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	山形突起 (突縁跡小呂)。平行沈埋区画内L		
55-22	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△3.2)	山形突起。平行沈埋区画内L。穿孔		
55-23	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△7.4)	山形突起 (大小、五分、二分)。沈埋区画内L。粘土製胎付		
55-24	2D	深鉢・鉢	-	-	(△19.0)	山形突起 (大小、二分)。入埋草状文 (L/R)		
56-1	2E	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-2	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△6.4)	草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-3	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	右下邊結線草履文。遺跡の草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-4	2D	深鉢・鉢	-	-	(△3.8)	遺跡の草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-5	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	遺跡の草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-6	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	遺跡の草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-7	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	遺跡の草履状文。平行沈埋区画。羽状文 (L/R、R/L)		
56-8	2C	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	遺跡の草履状文。平行沈埋区画。羽状文 (L/R、R/L)		
56-9	2B	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	遺跡の草履状文。平行沈埋区画。羽状文 (L/R、R/L)		
56-10	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	遺跡の草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-11	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	右下邊結線草履文。遺跡の草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-12	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△6.4)	平行沈埋区画小呂。遺跡の草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-13	2D	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	突起部有下邊結線草履文。中央部有草履状文。		56-16
56-14	2A4	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	平行沈埋区画小呂		
56-15	2E	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	口縁部有草履状文。遺跡の草履状文?		56-17
56-16	2E	深鉢・鉢	-	-	(△8.1)	平行沈埋区画内跡小呂。L/R		
56-17	2D	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	平行沈埋区画内跡小呂。L/R		
56-18	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	右下邊結線草履文。平行沈埋区画小呂。L/R		
56-19	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△5.2)	突起部有下邊結線草履文。平行沈埋区画小呂。L/R		
56-20	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	平行沈埋区画。L/R		
56-21	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	右下邊結線草履文。平行沈埋区画小呂。L/R		
56-22	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△7.6)	突起部有草履文。平行沈埋区画。羽状文 (L/R、R/L)		
56-23	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	突起部有下邊結線草履文。平行沈埋区画小呂。L/R		
56-24	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	突起部有下邊結線草履文。平行沈埋区画小呂。L/R		
56-25	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	突起部有下邊結線草履文。平行沈埋区画小呂。L/R		
56-26	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	突起部有下邊結線草履文。遺跡の草履状文。L/R		
56-27	2D	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	右下邊結線草履文。平行沈埋区画小呂。L/R		
56-28	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	平行沈埋区画小呂。L/R		
56-29	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.2)	平行沈埋区画小呂。L/R		
56-30	2D	深鉢・鉢	16.8	7.0	17.8	羽状文 (L/R、R/L) → 平行沈埋区画一部小呂		56-28
56-31	2A3	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	平行沈埋区画内跡小呂。L/R		
56-32	2B	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-33	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	草履状文。平行沈埋区画。L/R		56-18
56-34	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	草履状文。平行沈埋区画。L/R		
56-35	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△10.0)	平行沈埋区画。L/R		
57-1	2A3	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	平行沈埋。L/R		
57-2	2E	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	平行沈埋。L/R		
57-3	2E	深鉢・鉢	-	-	(△3.5)	平行沈埋。L/R		
57-4	2B	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	平行沈埋。L/R		
57-5	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	平行沈埋。羽状文 (L/R、R/L)		
57-6	2E	深鉢・鉢	-	-	(△2.6)	沈埋区画内L		
57-7	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	L/R。口縁部L		春形土器?
57-8	2A3	深鉢・鉢	-	-	(△6.6)	L/R		
57-9	2A2	深鉢・鉢	16.0	-	△6.7	沈埋区画内跡小呂 (浮動状)		57-19
57-10	2B	深鉢・鉢	-	-	(△3.7)	平行沈埋区画		
57-11	2D	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	入埋草状文 (L/R)		
57-12	2A1	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	網糸状。沈埋文		57-21
57-13	2B	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	沈埋区画内L (入埋草状文?)		57-22
57-14	2D	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	入埋草状文。光焼丸。L/R		

漢物台名簿 出土漢物類表 (土籍6)

編號	器名	口徑	底徑	器高	外周	内容	備考	写真図録
57-15	2D	洗鉢・皿	-	-	(△4.6)	煎餅平片状織文, LR		
57-16	2A3	洗鉢・皿	-	-	(△5.2)	煎餅縁織文?, 煎餅目		
57-17	2A3	洗鉢・皿	-	-	(△5.4)	煎餅状織文, 平片状織, 把手状粘土貼付		
57-18	2A2	洗鉢・皿	13.3	4.9	9.7	淨羅唐片文, 入羅状文 (L), 変化物付		56-27
57-19	2E	洗鉢・皿	-	-	(△5.9)	入羅三文文, 平片状織		
57-20	2D	洗鉢・皿	-	-	(△4.0)	五輪三文文, 平片状織		56-23
57-21	2D	洗鉢・皿	-	-	(△3.5)	五輪三文文, 平片状織		56-24
57-22	2A2	洗鉢・皿	-	-	(△6.1)	右下邊縁織成織文, 平片状織, 入羅三文文		
57-23	2D	洗鉢・皿	-	-	(△5.0)	入羅状文文, 平片状織, RL		56-25
57-24	2D	洗鉢・皿	-	-	(△3.2)	平片状縁織成目, 三文文 (淨羅唐)		
57-25	2A2	洗鉢・皿	-	-	(△3.8)	三文文, 縁土貼付上新羅 (淨羅唐)		
57-26	2A2	洗鉢・皿	-	-	(△4.3)	平片状縁織成内飾目, 半肉彫的立象形文 (L)		
57-27	2A2	洗鉢・皿	-	-	(△6.1)	平片状縁織成内飾目, 半肉彫的立象形文 (L)		
57-28	2B	洗鉢・皿	-	-	(△5.4)	平片状縁織成内飾目, 半肉彫的立象形文 (L)		
57-29	2A3	洗鉢・皿	-	-	(△13.9)	平片状縁織成内飾目, 半肉彫的立象形文 (L)		
58-1	2D	洗鉢・皿	-	-	(△3.3)	煎餅織, 平片状織, 雲形文・(三文文) (LR)		
58-2	2C	洗鉢・皿	-	-	(△4.2)	煎餅織, 平片状縁織成目, 半肉彫的立象形文 (L)		
58-3	2D	洗鉢・皿	-	-	(△3.9)	煎餅織, 平片状縁織成目, 半肉彫的立象形文 (L)		
58-4	2B	洗鉢・皿	-	-	(△4.9)	煎餅織, 平片状縁織成目, 半肉彫的立象形文 (L)		56-26
58-5	2A3	洗鉢・皿	-	-	(△7.0)	平片状織, 半肉彫的立象形文 (L)		
58-6	2A2	洗鉢・皿	-	-	(△8.5)	煎餅織, 平片状織, 半肉彫的立象形文 (L)		
58-7	2D	洗鉢・皿	-	-	(△4.5)	唐文文, 入羅唐文(L), 粘土貼付		
58-8	2B	洗鉢・皿	-	-	(△4.3)	平片状織, 粘土貼付部分を三文文中文織, 煎餅縁織成目LR		
58-9	2A4	洗鉢・皿	-	-	(△5.8)	煎餅織, 平片状縁織成目, 煎餅織文 (L, R, RL)		
58-10	2D	洗鉢・皿	8.4	4.2	7.3	平片状縁織成目 (100%煎餅), LR		56-29
58-11	2B	洗鉢・皿	-	-	(△4.6)	平片状縁織成目, LR		
58-12	2D	洗鉢・皿	-	-	(△4.4)	山形煎餅 (2個付), 淨羅唐片文, 洗鉢織		
58-13	2B	洗鉢・皿	-	-	(△1.8)	淨羅唐片文, 洗鉢織成目LR		
58-14	2B	洗鉢・皿	-	-	(△4.0)	三文字?		
58-15	2A2	洗鉢・皿	-	-	(△8.3)	大小煎餅, 淨羅唐片文, 平片状織, LR		56-30
58-16	2A4	洗鉢・皿	-	-	(△5.5)	唐		
58-17	2D	洗鉢・皿	-	-	(△6.1)	煎餅織文 (L, R, RL)		
58-18	2A4	洗鉢・皿	-	-	(△3.5)	煎餅織, 平片状織		
58-19	2A4	洗鉢・皿	5.4	-	△1.8	平片状織		
58-20	2A4	洗鉢・皿	-	-	(△7.9)	唐-煎餅唐片状織, 煎餅目		
58-21	2A	洗鉢・皿	-	3.4	△7.0	平片状織, 煎餅・縁片状織文, LR		56-31
58-22	2D	洗鉢・皿	-	-	(△4.3)	入羅唐文? (煎餅織), 煎餅		56-32
58-23	2A4	洗鉢・皿	-	-	(△3.7)	平片状縁織成目, 煎餅織の入羅三文文?		
58-24	2A4	洗鉢・皿	-	-	(△4.0)	三文文?, 平片状縁織成目		
58-25	2C	洗鉢・皿	-	-	(△2.5)	三文文?, 平片状縁織成目		
58-26	2D	洗鉢・皿	-	-	(△5.6)	煎餅織成目, 五輪三文文 (五輪三三三文文部分比濃少)		56-33
59-1	2D	深鉢・鉢	-	-	(△8.8)	上平足片, 煎餅織文 (L, R, RL)		
59-2	2D	深鉢・鉢	-	-	(△7.6)	煎餅織文 (L, R, RL)		
59-3	2E	深鉢・鉢	-	-	(△9.1)	煎餅織文 (L, R, RL)		
59-4	2A5	深鉢・鉢	-	-	(△11.6)	丸?		
59-5	2E	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	丸?		
59-6	2A2	深鉢・鉢	-	-	(△6.8)	丸 (煎餅)		
59-7	2A5	深鉢・鉢	-	-	(△11.1)	丸 (煎餅)		
59-8	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	煎餅状工具による痕跡 (4年? 1個)		
59-9	2D	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	煎餅状工具による痕跡 (6年? 1個)		
59-10	2A5	深鉢・鉢	-	-	(△11.2)	煎餅状工具による痕跡		
59-11	2A5	深鉢・鉢	-	-	(△13.1)	煎餅状工具による痕跡 (8年? 1個)		
59-12	2E	深鉢・鉢	-	-	(△6.7)	ナ?		
59-13	2A5	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	丸 (煎餅)		
59-14	2D	深鉢・鉢	14.0	5.2	10.0	丸? → 三片半 (上?下?)		56-34
59-15	2D	深鉢・鉢	22.0	7.0	25.0	煎餅織文 (L, R, RL, 上・下高文)		56-35
61-1	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△6.6)	進口・唐様把手・縁土貼付付, 煎餅文・煎餅, LR		57-1
61-2	3H	深鉢・鉢	-	-	(△8.4)	進口・唐様把手・三片半		
61-3	3E	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	粘土貼付, 洗鉢織成目, RL		
61-4	3A	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	粘土貼付, 洗鉢織成目, LR?		
61-5	3F	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	粘土貼付, RL?		
61-6	3A	深鉢・鉢	-	-	(△8.5)	粘土貼付, 洗鉢織成目, RL		
61-7	3C-4	深鉢・鉢	-	-	(△9.8)	粘土貼付, 洗鉢織成目, 煎餅丸? → ?		57-2
61-8	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	粘土貼付, 煎餅状痕跡?		
61-9	3E	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	粘土貼付, 唐文, RL		
61-10	3G-3	深鉢・鉢	-	-	(△8.3)	縁土貼付土竹管状物, 洗鉢		57-3
61-11	3C-2	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	粘土貼付 (5年?), 唐丸, 煎餅		
61-12	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△6.9)	粘土貼付, 丸 (煎餅), 洗鉢織成目		

遺物を含む出土遺物調査表(土器7)

調査番号	層位	器種	口径	底径	器高	外観	内面	備考	写真掲載
61-13	3H	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	粘土製刷付、LR、沈積底面	土片半		
61-14	3E	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	粘土製、刷付、割突、RL	土片半		
61-15	3E	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	陶片残片、貫孔	ナブ		
61-16	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△3.7)	溝巻状、黄白粘土刷付、溝巻状底面、割突	土片半		
61-17	3E	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	溝巻状、黄白粘土刷付、溝巻状底面、割突	土片半		
61-18	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	粘土製、刷付、割突、RL	土片半		
61-19	3A	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	粘土製刷付、ナブ?	土片半、ナブ		
61-20	3H	深鉢・鉢	-	-	(△3.8)	粘土製刷付上割突	土片半		
61-21	3E	深鉢・鉢	-	-	(△3.8)	粘土製刷付上割突、RL	土片半		
61-22	3E	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	粘土製刷付上割突、沈積底面内RL	ナブ		
61-23	3G-3	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	貫孔	土片半		
61-24	3E	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	粘土製刷付上割突	土片半		
61-25	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	粘土製刷付→溝巻状底面、R?	土片半		
61-26	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	粘土製刷付→割突、貫孔、LR(刷付)	不明		
61-27	3A	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	粘土製刷付、貫孔、刷付、LR	土片半		
61-28	3D-4	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	沈積底面、刷付割突、溝巻状底面、RL	土片半		
61-29	3F	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	厚孔	厚孔、土片半		
61-30	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△2.8)	割突→黄白粘土刷付(8条)	ナブ		57-4
61-31	3D-4	深鉢・鉢	-	-	(△5.1)	割突	土片半		
61-32	3A	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	溝巻状底面、LR	不明		
61-33	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△3.6)	溝巻状底面	ナブ		
61-34	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	内面、沈積底面	刷付底面、土片半		57-5
61-35	3C-2	深鉢・鉢	-	-	(△6.8)	S字状底面	土片半		57-6
62-1	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	刷付刷付沈積底面、RL	土片半		57-7
62-2	3A	深鉢・鉢	-	-	(△8.2)	刷付刷付沈積底面、刷付底面(RL、LR)	土片半		
62-3	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△8.7)	刷付刷付沈積底面?、RL	土片半		
62-4	3H	深鉢・鉢	-	-	(△7.6)	刷付刷付沈積底面?、RL	土片半		
62-5	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△9.3)	沈積底面内LR	土片半		
62-6	3E	深鉢・鉢	-	-	(△6.5)	沈積底面(人型刷付文?)内充底(RL、RL)	土片半		
62-7	3F	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	沈積底面(人型刷付文?)内充底(RL、RL)	土片半		
62-8	3F	深鉢・鉢	-	-	(△6.6)	沈積底面(人型刷付文?)内充底(RL、RL)	土片半		
62-9	3F	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	沈積底面、RL	土片半		
62-10	3A	深鉢・鉢	-	-	(△6.3)	沈積底面内充底(RL、RL)	土片半		
62-11	3A	深鉢・鉢	-	-	(△3.8)	沈積底面、RL	土片半		
62-12	3C-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	刷付文下→沈積底面	土片半		
62-13	3F	深鉢・鉢	-	-	(△6.9)	平行沈積底面内刷付底面(RL、RL) 継ぎ	土片半		
62-14	3D-1	深鉢・鉢	-	-	(△5.2)	平行沈積底面内LR	ナブ?		
62-15	3F	深鉢・鉢	-	-	(△3.2)	平行沈積底面内LR	土片半		厚孔
62-16	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	LR→平行沈積底面	土片半		
62-17	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	沈積底面(人型刷付文?)内充底LR	土片半		
62-18	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△3.8)	沈積底面	土片半		
62-19	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△5.3)	RL(刷付)→溝巻状底面、土片半	土片半		
62-20	3H	深鉢・鉢	-	-	(△8.3)	RL(刷付→刷付)→刷付底面、刷付底面→溝巻状底面	土片半		57-8
62-21	3F	深鉢・鉢	22.5	5.0	19.8	人型刷付沈積底面→LR(多方向充底)→沈積底面→溝巻状底面	土片半		57-9
62-22	3D-3	深鉢・鉢	20.4	6.0	20.0	凸形刷付、人型刷付沈積底面→刷付底面→内刷付沈積底面、刷付底面	土片半		57-10
63-1	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△11.9)	土片半、沈積底面	土片半		
63-2	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△7.4)	口縁部沈積底面、沈積底面内充底RL、土片半	土片半		
63-3	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△7.1)	口縁部沈積底面内充底RL、斜性沈積(2条1組)、土片半	土片半		
63-4	3H	深鉢・鉢	-	-	(△11.1)	口縁部沈積底面内充底RL、斜性沈積(3条1組)、土片半	土片半		
63-5	3F	深鉢・鉢	-	-	(△10.2)	口縁部沈積底面内充底RL、斜性沈積(3条1組)、土片半	土片半		57-11
63-6	3A	深鉢・鉢	-	-	(△7.2)	口縁部沈積底面内充底RL?、斜性沈積(3条1組)、土片半	土片半		
63-7	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	口縁部沈積底面内充底RL、土片半	不明		
63-8	3C-3	深鉢・鉢	-	-	(△4.1)	口縁部沈積底面内刷付底面、土片半	土片半		57-12
63-9	3H	深鉢・鉢	-	-	(△6.5)	口縁部沈積底面内刷付底面、土片半	土片半		
63-10	3A	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	口縁部沈積底面内刷付底面、土片半	土片半		
63-11	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.2)	口縁部沈積底面内刷付底面、沈積底面内刷付底面、土片半	土片半		
63-12	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	口縁部沈積底面内刷付底面、土片半	不明		
63-13	3A	深鉢・鉢	-	-	(△6.6)	口縁部沈積底面内刷付底面、土片半	沈積、土片半		
63-14	3F	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	口縁部沈積底面内刷付底面、沈積底面内刷付底面(RL、RL)、土片半	土片半		57-13
63-15	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△10.5)	口縁部沈積底面内刷付底面、沈積底面内充底RL、土片半	土片半		
63-16	3C-4	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	口縁部沈積底面内刷付底面、沈積底面内充底RL、土片半	土片半		
63-17	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△7.6)	黄白粘土製刷付、口縁部沈積底面内刷付底面、沈積底面内充底RL、土片半	土片半		57-14
63-18	3A	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	平行沈積底面、刷付底面	土片半		
63-19	3F	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	平行沈積底面、刷付底面	土片半		
63-20	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	口縁部沈積底面内刷付底面、RL?	不明		厚孔
63-21	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	口縁部沈積底面内刷付底面、RL?	土片半		
63-22	3C-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	口縁部沈積底面内刷付底面、刷付底面(RL、LR)	ナブ?		
63-23	3C-1	深鉢・鉢	-	-	(△5.5)	沈積底面内刷付底面、刷付底面(RL、LR)	土片半		57-15

遺物名倉庫出土遺物種別表(土器8)

館蔵番号	種別	位置	口徑	底径	高さ	外蓋	内蓋	備考	写真掲載
63-24	3F	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	白磁土製区画内内別命。文様区画内孔。	区片		
64-1	3F	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	平行文様。粘土製胎付	区片		
64-2	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	右下入部破状文。粘土製胎付	区片?		
64-3	3A	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	文様文(2条1組)。粘土製胎付	区片		
64-4	3F	深鉢・鉢	-	-	(△11.5)	横線破綻文? (2条1組)。粘土製胎付	区片	穿孔	
64-5	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△4.4)	文様文(2条1組)。粘土製胎付	区片		
64-6	3D-1	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	文様文(2条1組)。粘土製胎付	区片		
64-7	3A	深鉢・鉢	-	-	(△6.1)	平行文様。粘土製胎付	区片		
64-8	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.6)	平行文様。粘土製胎付	区片		
64-9	3A	深鉢・鉢	-	-	(△7.5)	平行文様。器状文様区画内孔。粘土製胎付	区片		
64-10	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	横線破綻文? (1組)。粘土製胎付	区片		
64-11	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	平行文様区画内孔。粘土製胎付	かみいし片		
64-12	3A	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	文様区画内孔。粘土製胎付	区片		
64-13	3F	深鉢・鉢	-	-	(△7.7)	横線入破文(LR)。粘土製胎付	区片		
64-14	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△15.0)	横線入破文(LR)。粘土製胎付	かみいし片	57-16	
64-15	3F	深鉢・鉢	-	-	(△11.3)	横線破綻文(LR)。粘土製胎付	区片		
64-16	3F	深鉢・鉢	-	-	(△10.3)	右下入り横線入破文(LR)。粘土製胎付	区片		57-17
64-17	3F	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	横線入破文(断面)。粘土製胎付	区片		
64-18	3G-3	深鉢・鉢	-	-	(△5.9)	平行文様横線のみ	区片		
64-19	3F	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	文様区画内孔。右下入り粘土製胎付	区片		57-19
64-20	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△3.1)	文様区画内孔。右下入り粘土製胎付	区片		
64-21	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△7.2)	山形突起。横文? 区画内孔。	焼下り面粘土製胎付。ナデ		57-20
64-22	3F	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	山形突起。平行文様。粘土製胎付	焼下り面粘土製胎付。ナデ		
64-23	3H	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	山形突起。文様区画内孔。斜位文様(2条1組)	区片		
64-24	3G-3	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	山形突起。文様区画内孔。横線破綻文?	区片		
64-25	3D-4	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	山形突起(二分)。平行文様区画内孔。粘土製胎付	区片		
64-26	3F	深鉢・鉢	-	-	(△5.8)	山形突起(二分)。平行文様区画内孔。粘土製胎付	区片		
64-27	3G-2	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	山形突起(二分)。平行文様区画内孔。粘土製胎付	ナデ		
64-28	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△8.0)	山形突起(二分)。入部破状文? (LR)。粘土製胎付	区片		
64-29	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	山形突起(二分)。平行文様区画内孔。粘土製胎付	区片		57-21
65-1	3G-3	深鉢・鉢	-	-	(△7.0)	山形突起(二分)。入部破状文(横線区画内孔)。粘土製胎付	区片		
65-2	3F	深鉢・鉢	-	-	(△7.3)	山形突起(二分)。横線破綻文(横線区画内孔)。粘土製胎付	区片		
65-3	3E	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	山形突起(二分)。横線破綻文? (断面)。粘土製胎付	区片		
65-4	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△9.2)	山形突起(二分)。平行文様区画内孔。粘土製胎付	区片		
65-5	3F	深鉢・鉢	-	-	(△12.8)	山形突起(二分)。入部破状文(横線区画内孔)。粘土製胎付	区片		57-22
65-6	3A	深鉢・鉢	-	-	(△8.9)	山形突起(二分)。平行文様区画内孔。→区片	区片		
65-7	3E	深鉢・鉢	-	-	(△9.8)	山形突起(二分)。平行文様。入部破状文or横線破綻文?	区片		57-23
65-8	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△5.7)	山形突起(二分)。平行文様(2条、3条1組)	区片		
65-9	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△4.7)	山形突起。区片	区片		
65-10	3A-2	鉢?	-	-	(△5.6)	山形突起。三角文。文様区画内表面横線破綻文。丸。	区片		57-24
65-11	3F	鉢?	-	-	(△4.2)	山形突起。三角文。文様区画内表面横線破綻文。丸。	区片		
65-12	3F	深鉢・鉢	-	-	(△11.2)	山形突起(2面)。平行文様区画内孔。	区片		57-25
65-13	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△4.3)	山形突起? (2面)。横線破綻文。平行文様区画内表面横線破綻文(LR, 丸)。	区片		
65-14	3C-2	深鉢・鉢	-	-	(△6.0)	山形突起? (2面)。横線破綻文。平行文様区画内表面横線破綻文(LR, 丸)。	区片		57-26
66-1	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	横線破綻文。平行文様区画。	区片		穿孔部分で破損
66-2	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	横線破綻文。平行文様区画。LR	区片		
66-3	3D-4	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	右下横線破綻文。横線破綻文。平行文様区画。LR	区片		
66-4	3F	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	横線破綻文。平行文様区画。LR	区片		
66-5	3C-1	深鉢・鉢	-	-	(△3.9)	横線破綻文。平行文様区画。LR	区片		
66-6	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	横線破綻文。平行文様区画。LR	区片		57-27
66-7	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△2.9)	三角文突起。横線破綻文。	区片		
66-8	3C-2	深鉢・鉢	-	-	(△3.4)	横線破綻文。平行文様区画。LR	区片		
66-9	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△3.1)	右下横線破綻文。三角文。横線破綻文。平行文様区画内別命。LR	区片		
66-10	3A-2	深鉢・鉢	-	-	(△4.0)	三角文突起。横線破綻文。平行文様区画内別命。LR	区片		
66-11	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△5.6)	三角文突起。平行文様区画内別命。LR	区片		
66-12	3D-3	深鉢・鉢	-	-	(△6.2)	三角文突起。平行文様区画内別命。LR	区片		穿孔
66-13	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.8)	平行文様区画内別命。三角文突起のもの。LR	区片		57-29
66-14	3C-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.5)	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。LR	区片		
66-15	3A	深鉢・鉢	-	-	(△9.3)	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。器状破綻文(LR, 丸)。	区片		内蓋・蓋化動付着
66-16	3D-1	深鉢・鉢	-	-	(△5.0)	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。LR	区片		
66-17	3A	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	平行文様区画内別命。LR	区片		
66-18	3G-1	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	平行文様区画内別命。丸。	区片		
66-19	3A	深鉢・鉢	-	-	(△5.4)	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。器状破綻文(LR, 丸) 横蓋	区片		
66-20	3H	深鉢・鉢	-	-	(△4.9)	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。器状破綻文(LR, 丸)。	区片		
66-21	3D-1	深鉢・鉢	-	-	(△6.5)	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。器状破綻文(LR, 丸)。	区片		
66-22	3G-1	深鉢・鉢	20.0		△10.7	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。器状破綻文(LR, 丸)。	区片		横蓋部分穿孔
66-23	3G-1	深鉢・鉢	19.6	6.2	17.3	右下横線破綻文。平行文様区画内別命。器状破綻文(LR, 丸)。	区片		穿孔
66-24	3C-2	深鉢・鉢	-	-	(△9.7)	平行文様区画内別命。器状破綻文(LR, 丸)。	区片		

遺物包含層 出土遺物表 (土器)

図号番号	層位	種別	直径	底径	器高	外径	内容	備考	写真撮影
66-25	3G-1	深鉢・皿	14.4	5.2	6.7		平行沈積層内部分品。甕形。羽状縄文 (L,R,丸)	三叉沈積。土片+	57-31
66-26	3F	深鉢・皿	24.0	8.0	28.9		右下連続縄文。平行沈積層内部分品。羽状縄文 (R,丸) (L,R,丸)	土片+	57-32
67-1	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△3.1)		平行沈積層内部分品。丸。	平行沈積。土片+	
67-2	3C-1	深鉢・皿	-	-	(△6.4)		平行沈積層内部分品。LR	平行沈積。土片+	
67-3	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△6.1)		平行沈積層内部分品。丸。	平行沈積。土片+	
67-4	3G-1	深鉢・皿	-	-	(△10.5)		平行沈積層内部分品。羽状縄文 (L,R,丸)	土片+	
67-5	3D-3	深鉢・皿	-	-	(△10.8)		平行沈積層内部分品。LR	土片+。炭化物付着	
67-6	3A-2	深鉢・皿	14.5	5.4	9.8		平行沈積層内部分品。羽状縄文 (L,R,丸)	平行沈積。土片+	58-1
67-7	3A-2	深鉢・皿	15.2	5.8	10.9		平行沈積層内部分品。羽状縄文 (L,R,丸)	平行沈積。土片+。炭化物付着	58-2
67-8	3H	深鉢・皿	-	-	(△3.9)		三叉沈積。平行沈積層。丸。	土片+	
67-9	3F	深鉢・皿	-	-	(△5.2)		三叉沈積。平行沈積層。丸。	土片+	58-3
67-10	3D-3	深鉢・皿	-	-	(△4.5)		三叉沈積。平行沈積層。丸。	土片+	
67-11	3G-1	深鉢・皿	-	-	(△9.0)		第一級部層平行沈積。羽状縄文 (L,R,丸)	平行沈積。土片+	
67-12	3F	深鉢・皿	-	-	(△13.2)		第一級部層平行沈積。羽状縄文 (L,R,丸)	平行沈積。土片+	
67-13	3C-1	深鉢・皿	-	-	(△5.9)		第一級部層平行沈積。羽状縄文 (L,R,丸)	平行沈積。土片+	
67-14	3H	深鉢・皿	-	-	(△4.1)		第一級部層平行沈積。LR	平行沈積。土片+	
67-15	3G-3	深鉢・皿	27.4	-	△6.0		第一級部層平行沈積。丸。	平行沈積。土片+	
67-16	3D-3	深鉢・皿	-	-	(△7.2)		第一級部層平行沈積。羽状縄文 (L,R,丸)	平行沈積。土片+	
67-17	3D-4	深鉢・皿	-	-	(△7.6)		第一級部層平行沈積。羽状縄文 (L,R,丸)	平行沈積。土片+	
67-18	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△4.7)		第一級部層平行沈積。丸。	平行沈積。土片+	
67-19	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△6.0)		第一級部層平行沈積。丸。	平行沈積。土片+	
67-20	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△3.1)		第一級部層平行沈積。丸。	平行沈積。土片+	
68-1	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△9.5)		沈積層内部分品。LR	土片+	
68-2	3H	深鉢・皿	-	-	(△4.9)		入層部状文 (丸) (丸)	土片+	
68-3	3A-2	深鉢・皿	18.5	5.2	7.0		土片+。重新沈積	土片+	58-5
68-4	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△5.3)		準円状文。丸?	土片+	
68-5	3D-4	深鉢・皿	-	-	(△4.3)		入層部状文 (丸) (丸)	土片+	
68-6	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△4.1)		口一縁部 FS) 準円状文。LR	土片+	
68-7	3D-3	深鉢・皿	-	-	(△8.0)		口一縁部 FS) 準円状文。丸+?	土片+。炭化物付着	58-6
68-8	3F	深鉢・皿	-	-	(△5.4)		土片+。粘土層付着上沈積	土片+	
68-9	3C-1	深鉢・皿	-	-	(△5.0)		底部三叉文?。横仁連続する三叉文状文。平行沈積層	土片+	
68-10	3F	深鉢・皿	-	-	(△6.1)		浮遊体平行沈積層内三叉文?。LR	土片+	58-7
68-11	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△4.1)		浮遊体平行沈積層内三叉文状文	土片+	
68-12	3F	深鉢・皿	-	-	(△4.0)		浮遊体三叉文	土片+	
68-13	3F	深鉢・皿	-	-	(△3.4)		浮遊体三叉文。平行沈積層。丸。	土片+	
68-14	3D-3	深鉢・皿	-	-	(△4.0)		浮遊体三叉文。平行沈積層。LR	土片+	
68-15	3H	深鉢・皿	-	-	(△3.0)		平行沈積層内三叉文状文。後内文?	土片+	
68-16	3G-1	深鉢・皿	19.0	10.0	3.3		浮遊体三叉文。C字文の縁部を含む	土片+	58-10
68-17	3F	深鉢・皿	11.8	-	△5.8		浮遊体入層三叉文。器状文の縁部を含む。沈積層内羽状縄文 (丸。LR)	羽状土片+	
68-18	3H	深鉢・皿	-	-	(△3.4)		浮遊体三叉文。C字文の縁部を含む	土片+	
68-19	3G-1	深鉢・皿	17.2	4.4	7.7		浮遊体準器状文。器状文?。平行沈積層内LR	土片+	58-8
68-20	3D-3	深鉢・皿	-	-	(△8.8)		浮遊体平行沈積層内部分品。入層三叉文。器状文の縁部を含む。器状文 (丸)	浮遊体羽状文。土片+。炭化物付着	58-9
69-1	3A	深鉢・皿	-	-	(△5.5)		平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	土片+	
69-2	3A	深鉢・皿	-	-	(△3.7)		平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	土片+	
69-3	3F	深鉢・皿	-	-	(△3.4)		平行沈積層内部分品。準器状器状文 (LR)	土片+	
69-4	3C-4	深鉢・皿	-	-	(△4.2)		平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	土片+	
69-5	3H	深鉢・皿	19.4	6.0	8.4		平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	土片+	58-11
69-6	3G-1	深鉢・皿	-	-	(△5.7)		平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	かぶい土片+	
69-7	3D-3	深鉢・皿	-	-	(△3.1)		平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	かぶい土片+	
69-8	3C-1	深鉢・皿	-	-	(△10.2)		器状文。平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	かぶい土片+	
69-9	3A-3	深鉢・皿	-	-	(△6.0)		平行沈積層内部分品。準器状器状文 (LR)	土片+	
69-10	3A-3	深鉢・皿	-	-	(△4.9)		平行沈積層内部分品。準器状器状文 (LR)	土片+	
69-11	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△3.8)		器状文。平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	器状	口縁部突起
69-12	3C-1	深鉢・皿	-	-	(△5.9)		器状文。平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	器状	
69-13	3F	深鉢・皿	27.0	14.0	6.0		突。平行沈積層内部分品。器状文 (C字文。四角文。彫刻)	土片+。凸眼片	58-12
69-14	3A-2	深鉢・皿	-	-	(△5.2)		平行沈積層内部分品。器状文 (LR)	土片+	
69-15	3D-4	深鉢・皿	-	-	(△8.0)		突。平行沈積層。準器状器状文 (LR)。粘土層付着	平行沈積。土片+	
69-16上	3B	深鉢・皿	15.6	-	△3.1		平行沈積層。器状文 (LR)	平行沈積層部分品。土片+	
69-16下	3B	深鉢・皿	-	8.4	△4.0		平行沈積層部分品。土片+	土片+	
70-1	3D-3	深鉢・皿	22.6	5.4	5.5		突。器状の準器状文。羽状縄文 (LR, 丸)	土片+	58-13
70-2	3A-3	深鉢・皿	-	-	(△4.5)		平行沈積層部分品。LR	平行沈積層部分品。土片+	
70-3	3A-3	深鉢・皿	-	-	(△2.4)		平行沈積層部分品。LR	平行沈積層部分品。炭化物付着部分品。土片+	
70-4	3H	深鉢・皿	-	-	(△5.5)		平行沈積層部分品。丸。	平行沈積層部分品。土片+	
70-5	3F	深鉢・皿	-	-	(△7.0)		平行沈積層部分品。羽状縄文 (LR, LR)	平行沈積層部分品。土片+	
70-6	3C-1	深鉢・皿	-	-	(△5.0)		平行沈積層部分品。丸。	平行沈積層部分品。土片+	
70-7	3A-3	深鉢・皿	-	-	(△4.7)		平行沈積層部分品。LR	平行沈積層部分品。土片+	
70-8	3D-1	深鉢・皿	-	-	(△6.5)		準円状文。土片+	平行沈積。炭化物付着。土片+	58-14
70-9	3H	深鉢・皿	12.0	-	△11.0		LR一縁部。土片+	土片+	58-15

遺物台倉書 出土遺物表 (土器10)

器名番号	部位	器種	口径	底径	高さ	内容	内装	備考	写真掲載
70-10	3G-1	蓋	-	-	△10.6	褐色羽状焼文 (丸、丸) 一次線→土方巾	土方巾?		
70-11	3G-3	蓋	11.7	-	△15.7	丸→一次線、側面→土方巾	土方巾		58-18
70-12	3A-3	蓋	-	-	5.8	形突起、平行沈線、粘土粒貼付	雲形紋沈線、土方巾		
70-13	3D-3	蓋	-	-	△(6.9)	平行沈線、入組三文字	土方巾		穿孔部分で破損
70-14	3C-4	蓋	7.0	3.0	13.0	丸、線とんとまめつ	ナブ		58-16
70-15	3H	蓋	10.4	-	△(6.0)	線	ナブ		
70-16	3B	蓋	8.0	-	△6.8	まめつ	まめつ		
70-17	3D-3	蓋	-	-	△(5.4)	線	土方巾		
70-18	3G-1	蓋	8.8	-	△5.1	線→羽状平行沈線区画、丸	口縁部土方巾、胴部ナブ		
70-19	3C-1	蓋	-	-	△(6.0)	線→羽状平行沈線区画、丸	口縁部土方巾、胴部ナブ		
70-20	3A-3	蓋	-	-	△(7.2)	羽状焼文 (丸、丸)	口縁部土方巾、胴部ナブ		
70-21	3A-3	蓋	-	-	△(4.4)	線→羽状平行沈線区画、羽状焼文 (丸、丸)	口縁部土方巾、胴部ナブ		
70-22	3G-1	蓋	-	-	△(3.8)	線→羽状平行沈線区画、丸	口縁部土方巾、胴部ナブ		
71-1	3C-4	蓋	7.0	-	△11.7	浮線状平行沈線区画粘土粒貼付、平行沈線	土方巾		内外裏全面彫彫痕
71-2	3B	蓋	2.1	-	△5.1	平行沈線	土方巾		内外裏全面彫彫痕
71-3	3A-3	蓋	-	-	△(6.6)	平行沈線	土方巾		
71-4	3F	蓋	6.6	4.8	16.0	線→羽状平行沈線区画、羽状焼文 (丸、丸)	ナブ?		西面炭化付着
71-5	3D-3	注口	5.1	2.8	7.5	丸形突起 (丸)、粘土粒貼付 (四角型?)	ナブ		58-20
71-6	3H	注口	-	-	△(6.3)	浮線状入組三文字	土方巾		穿孔
71-7	3G-1	注口	-	-	△(4.9)	浮線状入組三文字、平行沈線彫込み	土方巾		
71-8	3A-3	注口	-	-	△(3.9)	浮線状入組三文字、平行沈線彫込み	土方巾		
71-9	3G-1	注口	-	-	△(3.5)	浮線状平行沈線彫込み	土方巾		
71-10	3G-1	注口	-	-	△(8.6)	羽状、平行沈線区画内部彫文 (丸形丸)	上部: 土方巾 中: 輪郭法、輪いナブ 下部: 土方巾		58-21
71-11	3F	注口	-	-	△(8.3)	平行沈線、土方巾	ナブ		
71-12	3D-4	注口	-	-	△(9.2)	平行沈線彫込み、雲形文 (丸、線文彫込み彫彫痕)	ナブ		
71-13	3G-1	注口	-	-	△(5.3)	沈線区画内丸、粘土粒貼付	-		
71-14	3F	注口	-	-	△(5.5)	沈線区画内丸、粘土粒貼付 (粘土粒上部に彫文)	-		
71-15	3C-1	台付鉢?	9.0	8.5	9.3	3段彫、浮線状三文字、四角文、扉形玉粒三文字内穿孔	ナブ		58-22
71-16	3G-1	-	-	-	△(8.4)	沈線区画内丸	土方巾?		
71-17	3F	-	-	7.0	△2.8	沈線区画内丸	ナブ		
72-1	3H	深鉢・鉢	-	-	△18.1)	羽状焼文 (丸、丸) 多方向焼文	土方巾?		
72-2	3D-3	深鉢・鉢	-	-	△16.7)	羽状焼文 (丸、丸)	ナブ		
72-3	3F	深鉢・鉢	-	-	△(9.9)	羽状焼文 (丸、丸) 多方向焼文	赤い土方巾		
72-4	3F	深鉢・鉢	-	-	△12.2)	線	赤い土方巾		
72-5	3H	深鉢・鉢	-	-	△12.3)	丸	赤い土方巾		
72-6	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(8.9)	丸?	土方巾		
72-7	3A-3	深鉢・鉢	-	-	△(4.3)	丸 (輪郭)	赤い土方巾		
72-8	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(3.8)	丸?	赤い土方巾		
72-9	3F	深鉢・鉢	-	-	△(10.3)	線	赤い土方巾		
72-10	3G-1	深鉢・鉢	-	-	△(10.4)	線	赤い土方巾		
72-11	3H	深鉢・鉢	14.4	4.8	11.3	線	土方巾		58-23
72-12	3A-3	深鉢・鉢	-	-	△(6.0)	線	土方巾?		
72-13	3F	深鉢・鉢	12.6	5	8.8	丸 (射台・横台焼文)	ナブ		58-24
72-14	3G-1	深鉢・鉢	15.6	5	7.8	丸→横台ナブ (下縁)	上: 土方巾 下: ナブ		
73-1	3F	深鉢・鉢	-	-	△(6.8)	磨痕状工具による磨跡 (11本1組)	土方巾		
73-2	3D-3	深鉢・鉢	-	-	△(5.2)	磨痕状工具による磨跡 (8本1組)	土方巾		
73-3	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(5.3)	磨痕状工具による磨跡 (6本1組)	土方巾		
73-4	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(5.8)	磨痕状工具による磨跡 (6本1組)	ナブ?		
73-5	3D-3	深鉢・鉢	-	-	△(5.5)	磨痕状工具による磨跡 (7本? 1組)	ナブ		
73-6	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(5.8)	磨痕状工具による磨跡 (10本? 1組)	土方巾		
73-7	3E	深鉢・鉢	-	-	△(5.1)	磨痕状	土方巾		
73-8	3D-3	深鉢・鉢	-	-	△(6.5)	磨痕状工具による磨跡 (6本1組)	土方巾		
73-9	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(7.9)	半磨付磨付工具による磨跡	土方巾		
73-10	3G-1	深鉢・鉢	-	-	△(20.0)	磨痕状工具による磨跡 (5本1組) 磨跡状となる器状磨跡	ナブ		
73-11	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(5.0)	土方巾	土方巾		
73-12	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(5.2)	ナブ? 土方巾	土方巾		
73-13	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(6.6)	土方巾	土方巾		
73-14	3A-4	深鉢・鉢	-	-	△(7.2)	磨痕	赤い土方巾		
73-15	3F	深鉢・鉢	36.0	-	△29.7)	後押圧→ナブ	ナブ		
74-1	4D	深鉢・鉢	-	-	△(4.0)	粘土粒貼付	土方巾		
74-2	4D	深鉢・鉢	-	-	△(3.8)	粘土粒貼付、丸	粘土粒貼付、土方巾		
74-3	4D	深鉢・鉢	-	-	△(4.3)	粘土粒貼付上彫文、丸	土方巾		
74-4	4D	深鉢・鉢	-	-	△(5.3)	粘土粒貼付上彫文	土方巾		59-1
74-5	4D	深鉢・鉢	-	-	△(3.1)	粘土粒貼付上彫文	土方巾		
74-6	4D	深鉢・鉢	-	-	△(3.9)	粘土粒貼付上彫文	ナブ		
74-7	4D	深鉢・鉢	-	-	△(5.0)	粘土粒貼付上彫文、文線区画内丸	土方巾		59-2
74-8	4D	深鉢・鉢	-	-	△(2.7)	粘土粒貼付上彫文、丸	土方巾		
74-9	4D	深鉢・鉢	-	-	△(9.6)	粘土粒貼付上彫文、穿孔、丸	まめつ		



遺物包含層 出土遺物表(土製品)

図版番号	層位	長さ	幅	厚さ	種類・部位	特徴	写真図番
78-1	1C	△2.8	△3.6	△0.7	縄文土器・腹部・首	沈瀬・刺突→かゝいナゲ→糸形縄	
78-2	3C-2	△4.0	△4.6	△1.6	土器・腹部	ナゲ→沈瀬・刺突(竹管状工具)・穿孔(縄目)	60-1
78-3	2A	5.0	4.8	0.9	文字形土器	外面・乳溝・沈瀬・三叉文状刻文・ナゲ 内面・沈瀬・ナゲ	60-3
78-4	1A	△7.5	△8.5	△3.0	土器・腹部(左足)	沈瀬期に竹管状工具による刺突。アスファルト接着痕	60-4
78-5	2A	5.0	2.1	2.1	土器・腹部?	L.R. 紐土器貼付	
78-6	1A	△5.0	△1.8	△2.0	土器・右腕?	L.R.・R.L.・腹帯・沈瀬・砂粒を含む	
78-7	3D-4	△2.6	△2.4	△1.2	土器・左腕	ナゲ→刺突・沈瀬・紐砂粒。アスファルト接着痕	
78-8	3A	△2.2	△2.7	2.3	土器・右腕?	ナゲ・沈瀬・R.L.・砂粒を含む	
78-9	3G-3	△2.2	—	△1.5	土器・腹部?	沈瀬。円形竹管状工具による刺突	
78-10	3D-1	△3.7	△2.4	△1.8	土器・右腕	ナゲ(ヘアリ?)。紐砂粒	
78-11	2A	△2.8	—	△2.2	土器・乳溝	腹帯。紐土器貼付	
78-12	1A	△4.8	△4.8	1.7	板状土器・腹部	竹管状工具による刺突。溝帯状文。腹部に紐土器貼付	60-5
78-13	3G-1	△5.7	3.2	△3.6	土器・腹部(腹)	腹帯による痕跡。ナゲ	
78-14	1A	△7.4	△5.3	△1.2	土器・腹部	ナゲ。紐かいた沈瀬	
78-15	3G-1	△11.2	4.6	3.9	土器・腹→足部	紐土器。板貼付。竹管状工具による刺突	60-7
78-16	1A	△9.3	—	2.7	土器・足部(右足)	沈瀬期直内系縄文器L.R.・アスファルト接着痕	
78-17	2A	△6.0	△2.7	△2.8	土器・足部(左足)	沈瀬・ミ方キ	
78-18	3B	△3.2	△2.7	△2.7	土器・足部	ナゲ	
78-19	3C-1	△2.9	△3.3	△2.4	土器・足部	ナゲ→沈瀬	
78-20	3F	4.3	2.5	1.5	土器・足部	ナゲ。下面に沈瀬	
78-21	2A	△4.4	—	1.9	土器・足部(左足)	L.R.・沈瀬	
79-1	3H	△5.2	△5.3	2.1	土器・腹部→足部	三叉状沈瀬?。磨削跡み	60-6
79-2	3D-3	△6.6	△5.4	△2.5	土器・腹部→足部	三叉状沈瀬?	60-8
79-3	1A	△9.5	△5.5	3.3	土器・足部(右足)	平行沈瀬。山形文(頂部に刺突)。前面・R.L.	
79-4	2B	(△3.0)	(△4.9)	—	玉装土器	L.R.→沈瀬	
79-5	2A	△5.3	—	3.5	玉装土器	L.R.・三叉文と心文の組み合わせ。頂部に穿孔	60-9
79-6	2A	9.7	△8.3	2.3	土器	沈瀬。ナゲ	60-10
79-7	1A	△9.1	—	4.8	スタンプ状土製品	上半部:L.R.→十字状沈瀬。下半部:指圧痕	60-11
79-8	1C	3.1	5.0	3.5	スタンプ状土製品	入部三叉状沈瀬文。穿孔	60-12
79-9	1C	4.9	3.2	1.6	スタンプ状土製品	沈瀬→R.L.・ナゲ(上部)	60-13
79-10	カクサ	△2.1	△4.1	△4.1	スタンプ状土製品?	磨削ミエ→ナゲ	
80-1	3F	外径3.0。内径1.0。厚1.2。10.7g			磁器	ミ方キ	
80-2	3G-1	外径4.4。内径2.2。厚1.4。21.1g			磁器	ミ方キ	60-15
80-3	1A	2.1	1.7	2.0	土器	ミ方キ。十字状沈瀬。10.3g	60-14
80-4	3C-2	△3.8	△4.3	1.4	不明	ナゲ→沈瀬。刺突	
80-5	1E	(△3.5)	—	△1.4	不明	心文?	
80-6	3G-1	(△7.3)	—	(△2.5)	不明・突起?	板状沈瀬+L.R.による痕跡	
80-7	3F	△5.0	△5.3	0.6	不明	R.L.→沈瀬→紐土器貼付(中心刺突)	60-17
80-8	1A	(△4.6)	(△4.0)	(△3.2)	不明	ミ方キ・沈瀬・刺突	60-16
80-9	2A	△3.0	—	2.0	不明	沈瀬。板状工具による刺突	
80-10	3G-1	△3.5	△2.2	△1.8	不明	ミ方キ・沈瀬・刺突	
80-11	3A	△3.6	—	△3.8	不明・土器変形?	ミ方キ	
80-12	1E	(△2.1)	—	(△1.3)	不明	ナゲによる痕跡	
80-13	3C-2	△3.2	△1.5	1.2	不明	ナゲ	
80-14	3D-1	△3.2	△2.7	△0.8	不明	ナゲ	
80-15	1A	△3.9	5.5	2.2	変形?	ミ方キ	
80-16	2A	△4.7	△4.1	△3.7	変形?	ミ方キ。磨いた沈瀬	
81-1	2A	口径3.8。底径1.4。高さ2.7			楕円土器(鉢)	板状文。ナゲ	
81-2	3B	口径4.5。底径3.1。高さ2.8			楕円土器(鉢)	ナゲ?	
81-3	3H	口径4.0。底径3.2。高さ4.9			楕円土器(甕)	ミ方キ。内面磨光	60-18
81-4	1D	口径3.0。底径3.6。高さ4.7			楕円土器(甕)	ミ方キ・L.R.・R.L.	60-19
81-5	3F	口径8.2。高さ△5.2			楕円土器(深鉢)	L.R.・R.L.・沈瀬・刺突	60-20
81-6	3F	口径5.0。底径3.7。高さ2.6			楕円土器(浅鉢)	磨削ミエ。穿孔	
81-7	2D	口径7.0。底径2.5。高さ2.9			楕円土器(鉢)	斜位溝刻文。板状文	60-21
81-8	3B	口径5.9。底径6.4。高さ8.7			楕円土器(深鉢)	L.R.・磨いたミ方キ	
81-9	3F	長軸△9.3。短軸△6.0。高さ1.8			角蓋状土製品	ミ方キ	60-22
81-10	3F	長軸△4.2。短軸△0.4。高さ1.4			角蓋状土製品	ナゲ	
81-11	2A	口径6.9。0。台径4.8。高さ△4.7			筒形土器	穿孔。B突起	60-23
81-12	3B	口径(12.0)。高さ3.5			筒形土器(片口?)	沈瀬直内系L.R. 紐土器貼付	60-24

通物包含 出土遺物観察表 (円盤状土器品)

図録番号	種 位	長×幅×厚(mm)	重さ (g)	特徴	写真図版
B2-1	1A	33×38×6	14.3	沈黙筒に削身者	60-25
B2-2	1A	38×37×6	9.8	平行沈黙3条	
B2-3	1A	31×32×9	10.5	粘土帯貼付付	
B2-4	1A	40×41×5	14.6	羽状縄文 (LR, RL)	
B2-5	1A	43×41×7	20.6	LR→沈黙	
B2-6	1A	28×26×4	6.7	LR?	
B2-7	1A	38×39×6	19.6	羽状縄文(LR, RL)結束	
B2-8	1A	44×40×8	14.3	沈黙、LR	
B2-9	1A	29×27×7	10.4	LR?	
B2-10	1A	30×32×6	12.3	LR?	
B2-11	1A	42×38×7	17.8	LR	
B2-12	1A	32×31×5	6.4	LR	
B2-13	1A	42×40×8	21.2	LR	
B2-14	1A	36×30×6	16.9	LR?	
B2-15	1A	32×30×5	7.2	LR	
B2-16	1A	32×31×9	13.8	LR	
B2-17	1A	30×28×3	6.4	LR	
B2-18	1A	40×42×7	14.3	羽状縄文(RL, LR)	
B2-19	1A	39×39×7	18.8	RL	
B2-20	1A	37×29×3	4.6	LR	
B2-21	1A	30×27×5	8.3	RL	
B2-22	1A	33×30×7	13.6	RL	
B2-23	1A	33×32×4	8.3	RL 3r?	
B2-24	1A	40×39×8	6.3	照糸文(L?)	
B2-25	1A	38×35×4	7.5	まめつ	
B2-26	1A	39×40×8	19.8	まめつ	
B2-27	1A	20×33×10	17.2	まめつ	
B2-28	1A	29×27×8	7.4	まめつ	
B2-29	1A	29×25×8	12.7	まめつ	
B2-30	1A	37×31×7	6.8	まめつ	
B2-31	1A	36×35×6	29.2	足弁手	
B2-32	1A	25×24×6	17.2	ナデ?	
B2-33	1A	32×28×9	9.8	まめつ	
B2-34	1A	40×36×5	13.2	まめつ	
B2-35	1A	20×34×5	6.7	不明	
B2-36	1A	28×24×6	6.1	木蓋痕	
B2-37	1A	25×25×9	8.8	木蓋痕	60-26
B2-38	1A	26×28×5	14.1	まめつ	
B2-39	2A	27×25×8	11.2	沈黙3条	
B2-40	2A	37×35×8	26.6	沈黙1条	
B2-41	2A	42×46×8	19.4	沈黙1条	
B2-42	2A	26×26×8	6.7	LR沈黙	
B2-43	2A	31×24×9	9.7	照糸文	
B2-44	2A	33×30×9	14.3	沈黙1条	
B2-45	2A	31×33×6	10.6	沈黙1条	
B2-46	2A	45×35×6	10.4	粘土帯貼付付	60-27
B2-47	2A	25×33×6	13.3	LR沈黙	
B2-48	2A	25×21×5	5.3	LR→沈黙2条	
B2-49	2A	37×38×7	18.3	LR→沈黙2条	60-28
B2-50	2A	31×35×6	9.8	羽状縄文(LR, RL)	
B2-51	2A	23×19×5	3.9	LR	
B2-52	2A	27×25×6	8.1	照糸文L	
B2-53	2A	45×43×8	23.4	LR	
B2-54	2A	50×48×7	21.1	RL?	
B2-55	2A	24×21×6	10.6	RL?	
B2-56	2A	33×28×5	11.3	RL	
B2-57	2A	24×23×6	10.9	RL	
B2-58	2A	45×35×8	14.8	LR?	
B2-59	2A	28×25×7	6.3	羽状縄文(LR, RL)	
B2-60	2A	30×38×7	20.2	羽状縄文(LR, RL)	
B2-61	2A	29×26×6	12.1	LR	
B2-62	2A	25×24×7	14.6	LR	
B2-63	2A	25×25×7	8.4	LR	
B2-64	2A	41×43×8	23.5	LR	
B2-65	2A	43×41×5	19.7	LR	
B2-66	2A	30×28×7	13.7	まめつ	
B2-67	2A	43×38×6	15.3	まめつ	
B2-68	2A	35×40×8	24.5	ナデ?	
B2-69	2A	28×28×9	8.6	まめつ	
B2-70	2A	43×41×5	20.8	足弁手	
B2-71	2A	45×47×10	33.4	まめつ	
B2-72	2A	37×40×6	13.8	まめつ	
B2-73	2A	45×39×12	26.9	まめつ	
B2-74	3B	33×33×6	14.3	羽状縄文(LR, RL)	
B2-75	3B	41×42×6	16.8	羽状縄文(LR, RL)	
B2-76	3B	31×25×4	7.8	LR	
B2-77	3B	48×47×5	14.1	RL	
B2-78	3B	48×44×10	29.7	まめつ	

遺物包含層 出土遺物群概表 (石器・石製品1)

図録番号	出土地区・層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	重量 (g)	備考	写真図版
83-1	3H	石鏃	2.5	1.9	0.5	黄岩	2.0		61-1
83-2	3F	石鏃	△2.0	1.2	0.5	黄岩	1.1		
83-3	2B	石鏃	△2.4	1.3	0.3	黄岩	0.8		
83-4	1A	石鏃	3.0	1.5	0.4	黄岩	1.3		61-2
83-5	3G-1	石鏃	△2.0	1.6	0.4	黄岩	0.8		
83-6	3F	石鏃	△1.7	1.4	0.3	黄岩	0.7		
83-7	2E	石鏃	3.5	1.8	0.3	黄岩	1.3		61-3
83-8	1B	石鏃	4.5	2.2	0.3	黄岩	3.2		61-4
83-9	3G-1	石鏃	3.0	1.1	0.6	黄岩	1.5		
83-10	1D-1	石鏃	3.5	1.5	0.7	黄岩	1.7		61-5
83-11	3F	石鏃	3.6	1.2	0.5	黄岩	1.4		61-6
83-12	3F	石鏃	3.7	1.3	0.4	黄岩	1.4		
83-13	4D	石鏃	3.0	1.2	0.4	黄岩	1.1		
83-14	2E	石鏃	3.0	1.4	0.6	黄岩	1.1		61-7
83-15	3G-1	石鏃	2.8	1.4	0.4	黄岩	1.5		
83-16	1E	石鏃	2.0	1.4	0.4	黄岩	0.6		
83-17	1D-1	石鏃	△1.6	1.0	0.3	黄岩	0.3		
83-18	1D-1	石鏃	2.0	△1.2	0.3	黄岩	0.6		
83-19	1D-1	石鏃	2.6	1.4	0.5	黄岩	1.1		
83-20	4D	石鏃	3.2	1.2	0.4	黄岩	1.4		
83-21	4D	石鏃	3.3	1.8	0.5	黄岩	1.5		
83-22	3G-1	石鏃	3.3	1.5	0.5	黄岩	2.1		
83-23	3G-1	石鏃	2.6	1.4	0.4	黄岩	1.3		
83-24	2D	石鏃	3.3	1.2	0.5	黄岩	1.6		61-8
83-25	4D	石鏃	3.0	1.1	0.5	黄岩	1.5		
83-26	3F	石鏃	3.1	1.0	0.4	黄岩	0.9		
83-27	3D-4	石鏃or石鏃?	4.5	1.9	0.8	黄岩	3.9		61-9
83-28	1A	石鏃or石鏃?	4.8	1.3	0.9	黄岩	5.2		
84-1	3H	尖頭鏃	4.4	2.7	1.3	黄岩	12.8		61-10
84-2	3G-3	尖頭鏃	3.4	2.0	0.7	黄岩	4.5		
84-3	1A	尖頭鏃	4.3	3.0	1.3	黄岩	16		
84-4	3H	尖頭鏃	3.1	2.9	1.1	黄岩	3.9		
84-5	3G-1	尖頭鏃	3.3	1.9	1.0	黄岩	4.2		61-11
84-6	3G-1	尖頭鏃	4.0	2.0	1.0	黄岩	4.8		
84-7	3H	尖頭鏃	3.7	1.7	1.0	黄岩	5.0		
84-8	3G-1	尖頭鏃	3.0	2.3	0.8	黄岩	4.7		
84-9	4D	尖頭鏃	△2.7	2.4	1.3	黄岩	5.7		
84-10	不明	尖頭鏃/橋脚	4.8	2.8	0.8	黄岩	5.8	橋脚部分にアスファルト痕跡	61-12
84-11	3G-1	石鏃	4.6	1.2	0.6	黄岩	2.1		61-13
84-12	2D	石鏃	△4.3	1.9	0.8	黄岩	3.5		
84-13	2E	石鏃	4.6	1.6	1.1	黄岩	5.8		61-15
84-14	4D	石鏃	△3.6	1.9	0.9	黄岩	4.0		
84-15	3G-1	石鏃	4.2	1.2	0.6	黄岩	1.5		61-14
84-16	2B	石鏃	△3.8	2.1	0.9	黄岩	3.1		
84-17	3G-1	石鏃	△1.8	△1.4	△0.5	黄岩	0.8		
84-18	3F	石鏃	△3.8	2.1	0.9	黄岩	5.5		
84-19	2B	石鏃	△3.9	2.1	0.8	黄岩	5.7		61-16
84-20	2D	石鏃	△3.7	△2.3	△0.9	黄岩	4.4		
84-21	3F	石鏃	△1.1	△0.4	△0.3	黄岩	0.1		
84-22	1D-1	石鏃	△3.1	△0.8	△0.8	黄岩	1.2		
85-1	2B	石鏃/橋脚	△2.2	△6.8	1.2	黄岩	23.1		61-17
85-2	4D	石鏃/橋脚	2.2	5.1	0.3	黄岩	4.7		
85-3	3G-1	石鏃/橋脚	3.2	6.2	0.9	黄岩	15.9		61-18
85-4	1D-1	石鏃/橋脚	3.1	6.3	0.8	黄岩	17.4		
85-5	3G-1	石鏃/橋脚	△4.4	2.9	0.6	黄岩	6.4		
85-6	4D	石鏃/橋脚	6.0	3.2	1.2	黄岩	19.7		61-19
85-7	3G-3	扇状石鏃?	△2.0	△1.7	△0.7	黄岩	2.4		61-20
85-8	3G-1	不整形石鏃	△2.8	△1.3	△0.8	黄岩	2.2		
85-9	3G-1	不整形石鏃	2.6	1.5	0.7	黄岩	2.1		
85-10	2A	不整形石鏃	2.0	3.3	0.6	黄岩	3.7		
85-11	3B	不整形石鏃	5.1	4.8	0.6	黄岩	13.0		61-21
85-12	3G-1	扇形石鏃	2.3	△1.7	0.4	黄岩	1.3		61-22
85-13	3G-3	扇形石鏃	△3.2	△2.2	△0.5	黄岩	1.7		61-23
86-1	1E	石斧	5.0	2.5	0.8	砂岩	10.1		
86-2	3B	石斧	4.6	3.7	1.2	片岩	36.5		
86-3	2D	石斧	△5.4	3.7	1.6	凝灰岩	41.3		
86-4	4B	石斧	7.5	4.5	1.3	雲山岩質凝灰岩	80.0		61-24
86-5	3H	石斧	6.2	4.1	2.2	凝灰岩	94.2		

遺物倉庫 出土遺物一覧表 (石器・石製品 2)

図録番号	出土地区・層位	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	石材	重量 (g)	備考	写真図録
85-6	3F	石斧	8.2	5.2	2.3	砂岩	181.4		
85-7	4D	石斧	△4.0	3.0	0.8	砂岩	15.8		
85-8	1A	石斧	10.6	△4.3	2.6	安山岩質凝灰岩	199.1		51-25
85-9	確認層	石斧	△12.1	△5.3	2.9	砂岩	243.8		
87-1	3D-3	石斧	△9.9	5.1	3.0	砂岩	252.0		
87-2	3D-3	石斧	△11.1	△5.0	2.5	砂岩	203.0		
87-3	3G-3	石斧	10.5	6.0	3.2	安山岩質凝灰岩	304.0		61-26
87-4	2A	石斧	10.7	6.1	2.7	安山岩質凝灰岩	390.0		
87-5	1A	石斧/未製品?	11.0	5.3	2.5	安山岩質凝灰岩	256.0		61-27
88-1	3C-3	鎌石	5.9	4.7	1.2	安山岩	41.7		
88-2	2B	鎌石	5.5	4.2	3.4	安山岩質閃綠岩?	111.4		
88-3	4D	鎌石	7.9	4.9	3.4	花崗岩質閃綠岩	193.8		
88-4	2B	鎌石	7.5	6.1	4.4	砂岩	287.0		61-28
88-5	1C	鎌石	12.2	10.5	3.2	安山岩	648.0		
88-6	3F	鎌石	10.6	9.2	6.5	安山岩	938.0		
88-7	3F	鎌石	11.9	6.3	5.2	閃綠岩	554.0		
88-8	1C	鎌・鉞石	8.8	6.8	3.5	花崗岩質閃綠岩	333.0		
88-9	2D	鉞石	5.3	2.8	2.8	砂岩	76.0		
88-10	3B	鉞石	6.6	6.9	5.2	砂岩	510.0		
88-11	2D	鉞石	9.2	8.2	4.5	砂岩	512.0		61-29
89-1	3B	鉞石	10.7	9.5	5.6	砂岩	920.0		
89-2	3F	鎌・鉞石	9.7	6.3	3.5	安山岩	288.0		
89-3	3H	鎌・鉞・砂石	10.8	8.8	5.3	安山岩	784.0		
89-4	4D	鉞・砂石	9.4	5.2	5.5	安山岩	706.0		61-30
89-5	2D	浮子	7.2	3.5	0.9	礫石	15.2		61-32
89-6	確認層	浮子	△6.9	△6.8	△1.3	礫石	33.2		61-33
89-7	3F	浮子	△5.2	△4.0	1.5	礫石	10.6		
89-8	2D	玉礫石	△9.0	△6.4	3.5	砂岩	169.3		61-34
89-9	3B	石鐮?	5.5	3.4	3.1	花崗岩質閃綠岩	105.0		61-35
89-10	3G-1	石鐮?	6.0	3.3	2.6	砂質凝灰岩	76.2		
89-11	2D	石鐮?	△3.6	3.8	1.2	砂岩	18.4		61-36
89-12	3B	円盤状石製品	5.5	5.2	1.0	不明	34.0		
89-13	1A	円盤状石製品	5.9	5.5	1.3	砂岩	78.0		
89-14	2A	円盤状石製品	7.3	7.8	2.1	砂質凝灰岩	181.5		61-37
90-1	表層	石皿	△31.5	21.6	4.5	安山岩	4190.0		61-31
90-2	3D-3	石皿	△16.2	△15.1	7.8	砂岩	2800.0		
91-1	確認層	石棒	△13.8	3.0	1.2	砂質凝灰岩	76.8		61-38
91-2	カタラン	石棒	△9.7	3.2	2.2	安山岩質凝灰岩	96.4		61-39
91-3	2B	石棒	(5.7)	4.0	1.4	砂質凝灰岩	35.7		
91-4	2B	石棒	35.8	3.8	2.8	砂質凝灰岩	625.0		
92-1	1E	石棒	(10.6)	5.0	3.8	安山岩質凝灰岩	247.0		
92-2	1A	石棒	15.6	5.0	3.3	安山岩?	348.5		61-40
92-3	3F	石棒	(14.0)	5.6	4.5	片岩	337.0		
92-4	確認層	石棒	△10.2	△5.8	△2.4	片岩	105.9		
93-1	3H	石刀?	△7.7	4.3	0.9	黏板岩	49.6		
93-2	1D-1	石刀?	(△11.3)	5.6	1.9	砂質凝灰岩	143.5		
93-3	1A	石刀?	9.2	2.9	1.2	砂質凝灰岩	44.0		61-41
93-4	1A	新発見?	6.6	1.0	0.9	頁岩	7.6		61-42
93-5	カタラン	不明/石棒?	△6.8	2.0	1.8	砂質凝灰岩	44.4		
94-1	2D	玉	0.6	0.9	0.8	デイサイト質凝灰岩	0.4		61-43
94-2	2A	球形石製品	3.8	1.2	0.8	デイサイト質凝灰岩	4.3		61-44
94-3	1A	球棒/球棒?	4.8	3.1	2.4	凝灰岩	21.0		61-45
94-4	2D	球棒	△5.0	△5.3	△0.6	凝灰岩	10.5		61-46
94-5	3D-3	球棒	(△6.1)	(△5.4)	△0.0	凝灰岩	43.5		61-47
94-6	2D	球棒	△8.4	△7.8	△2.0	凝灰岩	117.8		61-48

1. 調査区近景(南→北)



2. 住居跡検出状況(東→西)



3. SI-01,02検出状況(北→南)





4. SI-01セクション状況(東→西)



5. SI-02検出状況(北→南)

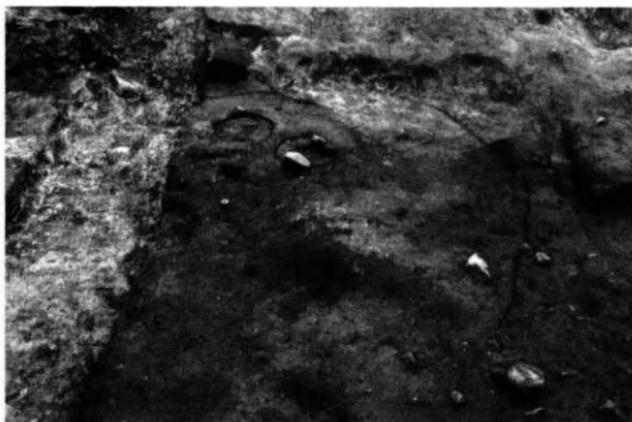


6. SI-02セクション状況  
(西南→東北)

7. SI-03,04検出状況(北→南)



8. SI-06検出状況(北→南)



9. SI-06石添炉検出状況  
(北西→南東)





10. SI-06セクション状況  
(東→西)



11. SI-05検出状況(北→南)



12. SI-07検出状況(北→南)

13. SI-07セクション状況  
(東→西)



14. SI-08検出状況(北→南)



15. SI-10,11検出状況(北→南)





16. SI-09,10セクション状況  
(西→東)

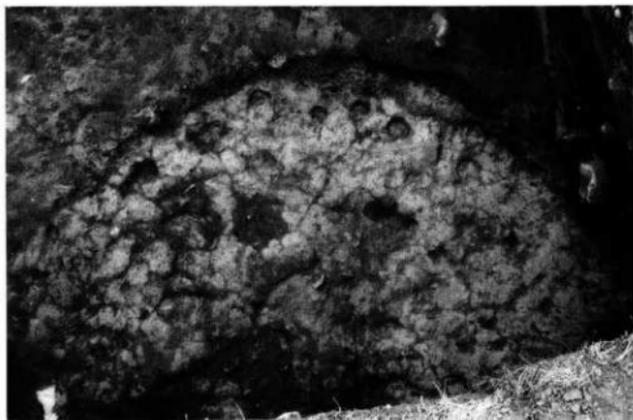


17. SI-08,09セクション状況  
(西→東)



18. SI-11検出状況(北→南)

19. SI-12検出状況(北→南)



20. SI-12セクション状況  
(東→西)

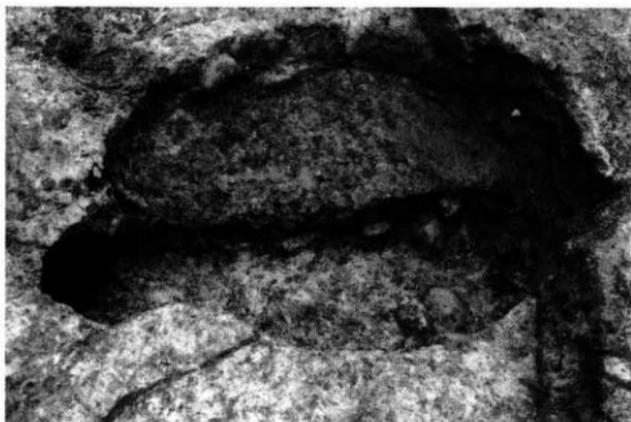


21. SI-13検出状況(東→西)





22. SI-13セクション状況(東→西)



23. SK-07検出状況(南→北)

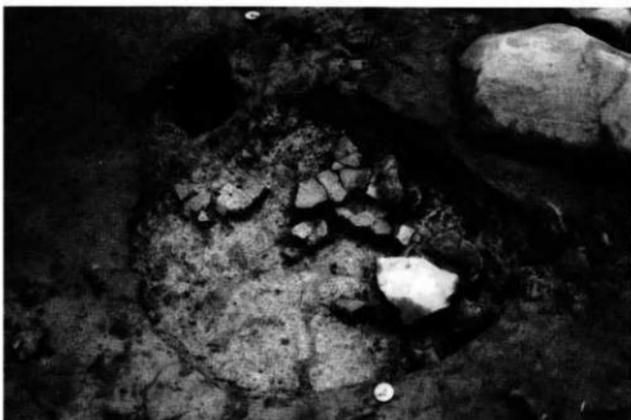


24. SK-12,13確認状況(南→北)

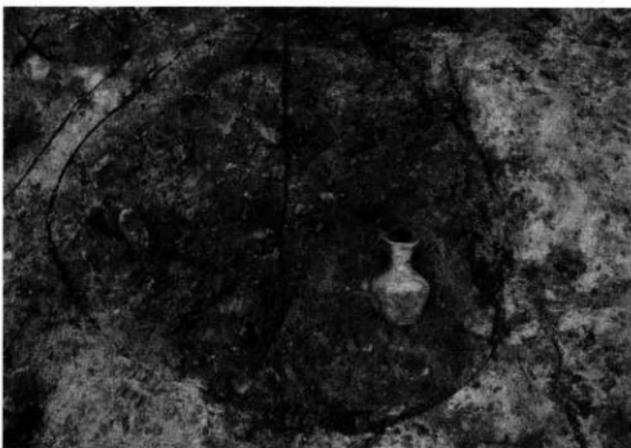
25. SK-12,13検出状況(北→南)



26. SK-12遺物出土状況(北→南)



27. SK-21遺物出土状況(北→南)





28. SK-21セクション状況  
(東→西)



29. 調査2区中央地区  
ピット確認状況(南→北)



30. 調査2区中央地区  
ピット検出状況(北→南)

31. 調査2区東地区ビット等  
確認状況(東→西)



32. 調査2区東地区ビット等  
検出状況(西→東)





33. 石囲炉検出状況(北→南)



34. 石囲炉検出状況(北→南)



35. 石囲炉セクション状況  
(東→西)

36. SX-01検出状況(南→北)



37. SX-01セクション状況  
(東北→南西)



38. SX-01焼土面セクション状況  
(西→東)





39. SX-03検出状況(北→南)



40. SX-03セクション状況  
(東→西)



41. SX-03セクション状況  
(東→西)

42. 調査1区遺物包含層  
確認状況(東南→西北)



43. 調査2区西地区遺物包含層  
確認状況(北→南)



44. 遺物包含層SPA-A' 状況  
(東南→西北)





45. 遺物包含層SPA-A' 状況  
(東南→西北)



46. 遺物包含層SPB-B' 状況  
(東→西)



47. 遺物包含層SPC-C' 状況  
(西→東)



48. 遺物包含層SPE-E' 状況  
(西→東)



49. 遺物包含層SPG-G' 状況  
(東→西)



50. 遺物包含層SPH-H' 状況  
(東北→西南)



51. 遺物包含層SPM-M' 狀況  
(東→西)



52. 遺物包含層遺物出土狀況  
(第78図4)



53. 遺物包含層遺物出土狀況  
(第80図3)

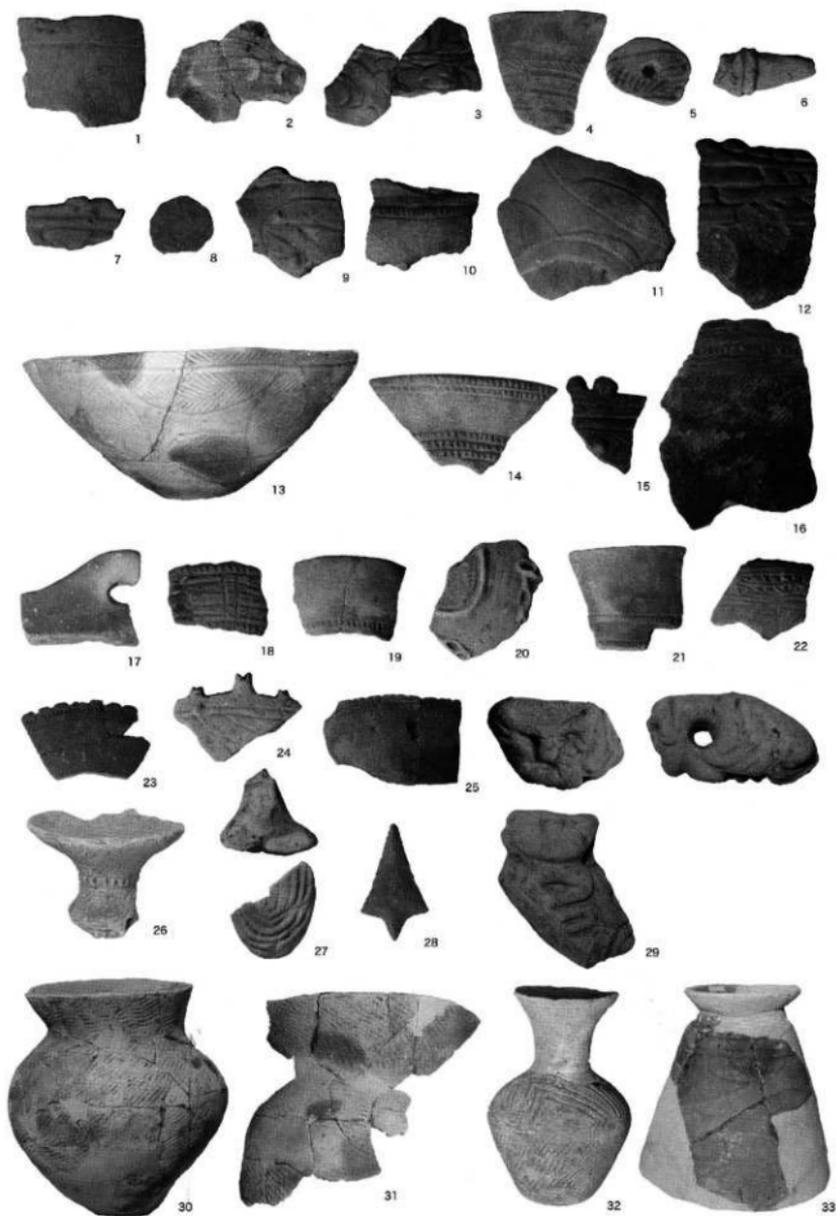


写真54 住居跡・土壌出土遺物写真

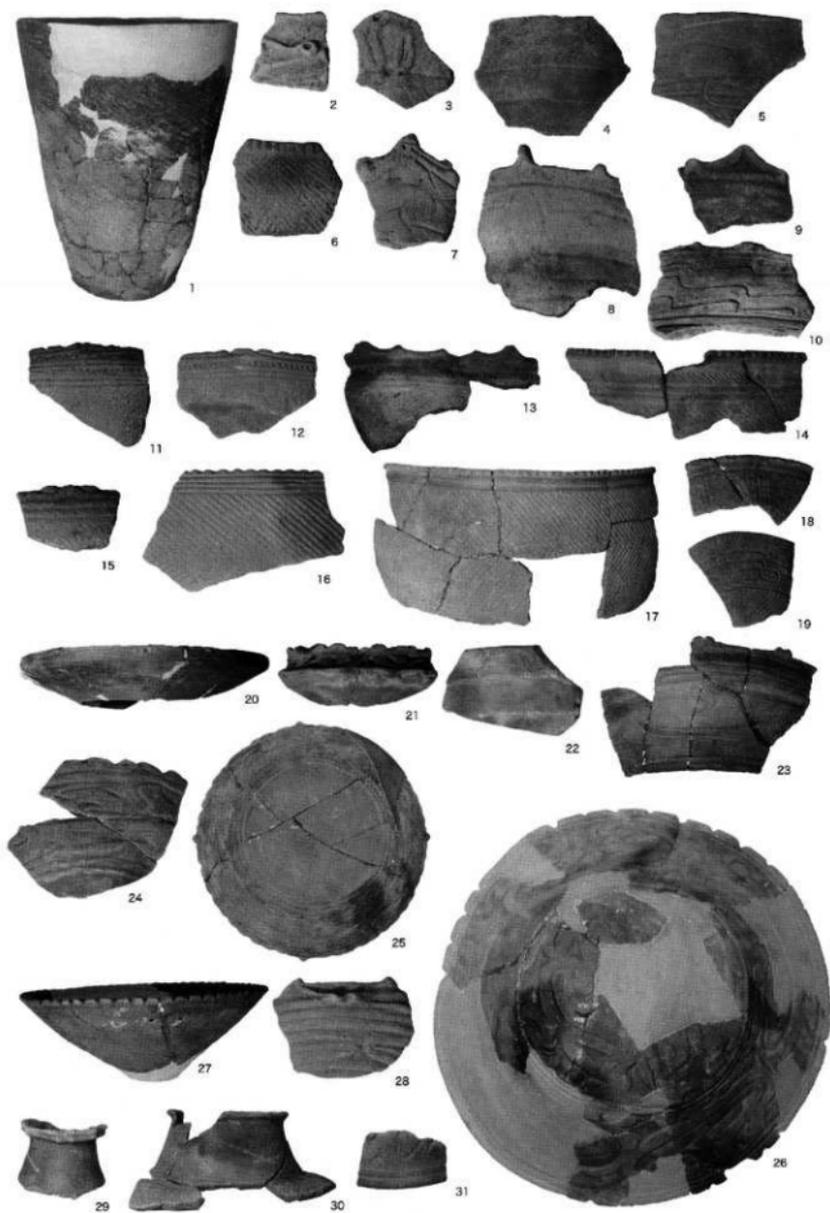


写真55 PIT・遺物包含層1層出土土器写真

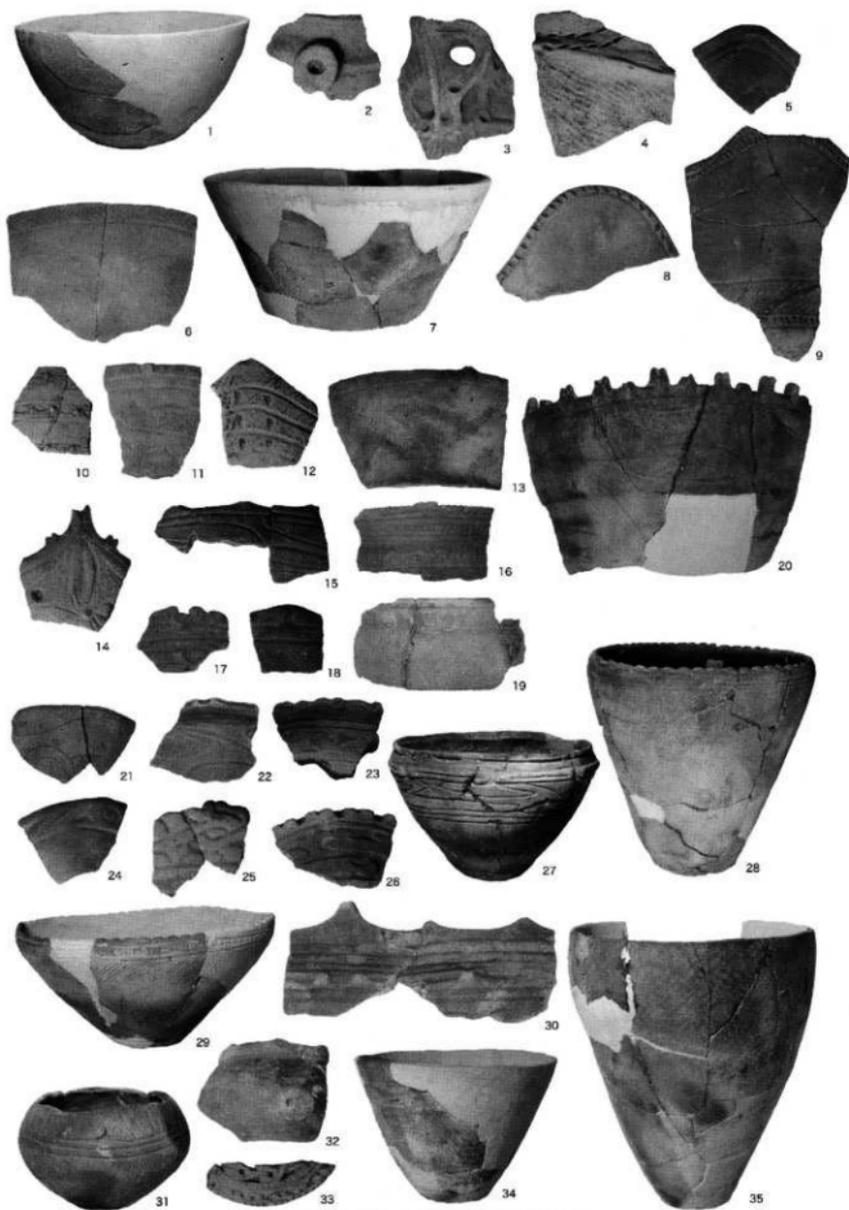


写真56 遺物包含層2層出土土器写真

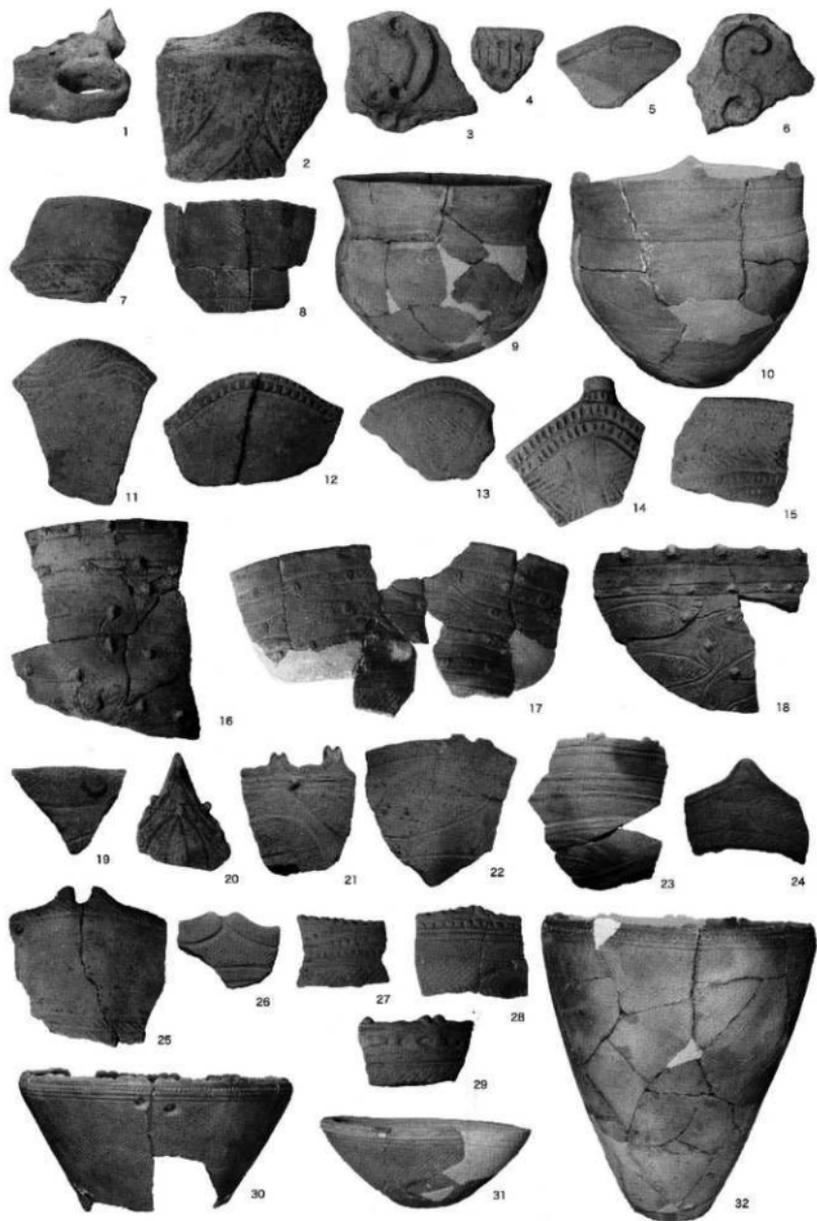


写真57 遺物包含層3層出土土器写真



写真58 遺物包含層3層出土土器写真



写真59 遺物包含層4層出土土器写真



写真60 遺物包含層出土土製品写真

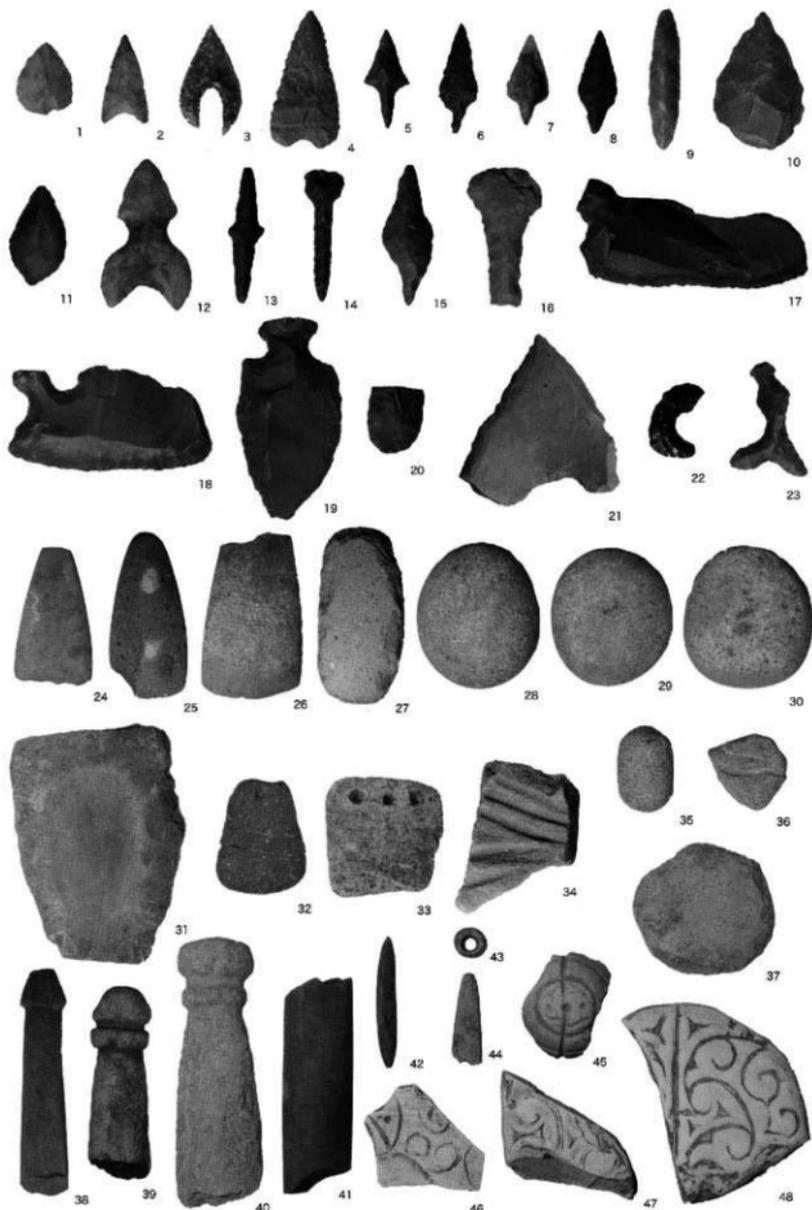


写真61 遺物包含層出土石製品写真

## 報告書抄録

ふりがな	つなぎのさわかいづか							
書名	ツナギの沢貝塚							
副書名	県道河南築館線道路改良工事に係るツナギの沢貝塚発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	涌谷町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	福山 宗志							
編集機関	涌谷町教育委員会							
所在地	宮城県遠田郡涌谷町字新町裏 153-2 TEL0229-43-3001							
発行年月日	西暦 2004年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査 期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
つなぎのさわ ツナギの沢 貝塚	宮城県遠田郡 涌谷町小皇字 大平地内	0420	37003	38° 35' 13"	141° 08' 35"	1999 0818 ～ 2002 0312	約 2,500 m <sup>2</sup>	道路改良 工事に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
ツナギの沢 貝塚	集落跡 遺物包含層	縄文時代 後期～晩期	竪穴住居跡、 土城、ピット、 遺物包含層など	縄文土器、土製品、 石器、石製品など		遺物包含層に覆われる竪穴住居跡13棟を検出した。		

---

---

涌谷町文化財調査報告書第6集

ツナギの沢貝塚

～県道河南築館線道路改良工事に係る

ツナギの沢貝塚発掘調査報告～

2004(平成16)年3月31日 印刷・発行

発行 宮城県涌谷町教育委員会

宮城県遠田郡涌谷町字新町裏153-2

印刷 株式会社石崎印刷

宮城県遠田郡涌谷町字六軒町裏76-22

---

---

